

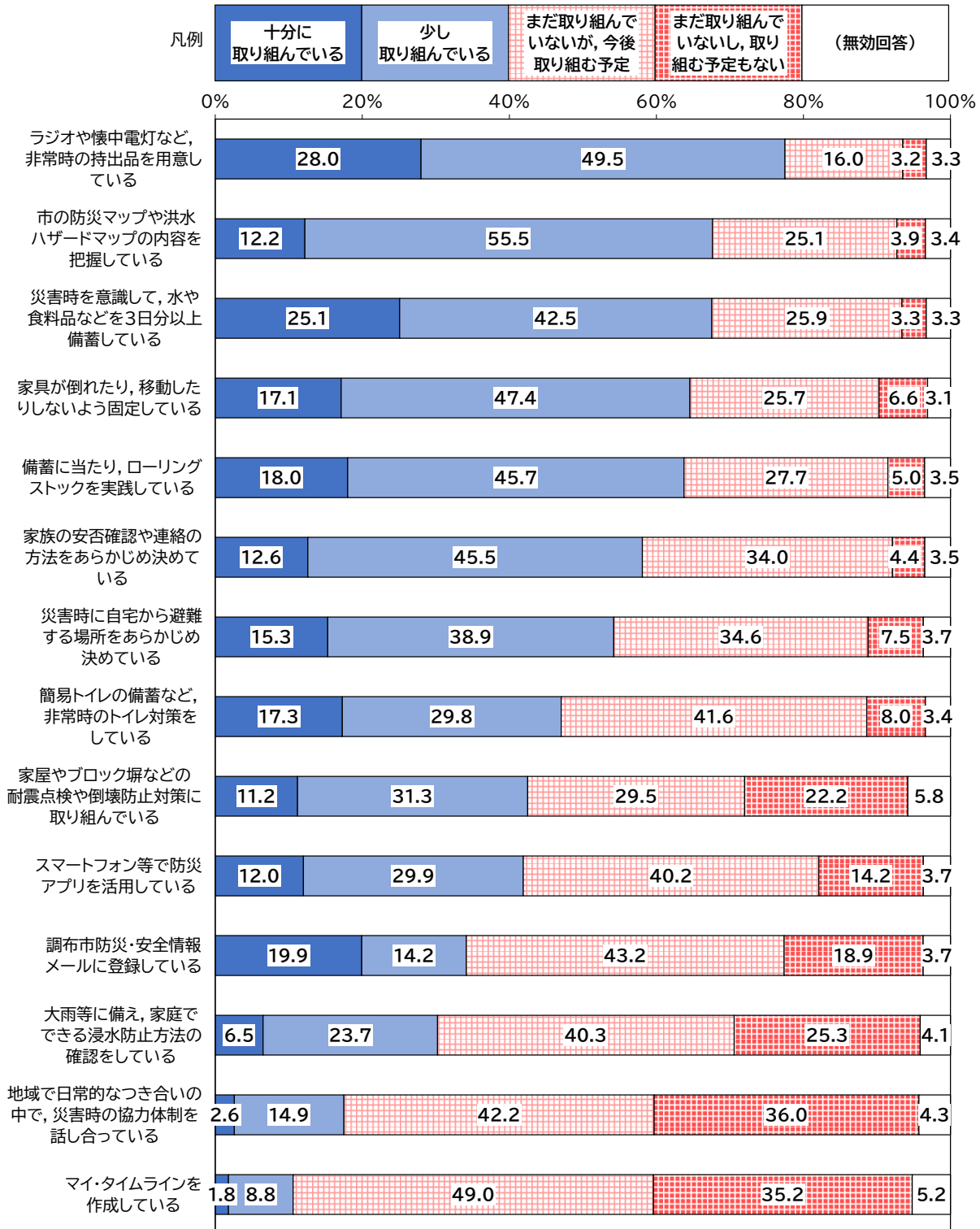
(4) 日ごろの意識や行動

【防災について】

問 18) あなたは、日ごろからどのような防災対策に取り組んでいますか。

<全体 (n=1,193) >

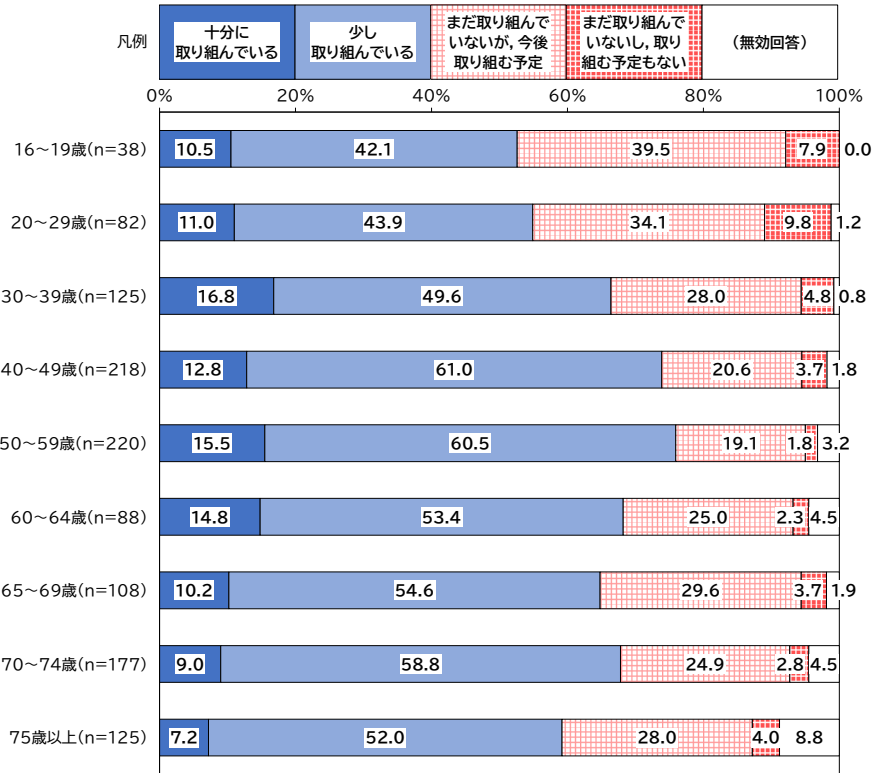
○「十分に取り組んでいる」と「少し取り組んでいる」の合計は、「ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している」が77.5%と最も高く、次いで、「市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している」の67.7%、「災害時を意識して、水や食料品などを3日以上備蓄している」の67.6%の順となっています。



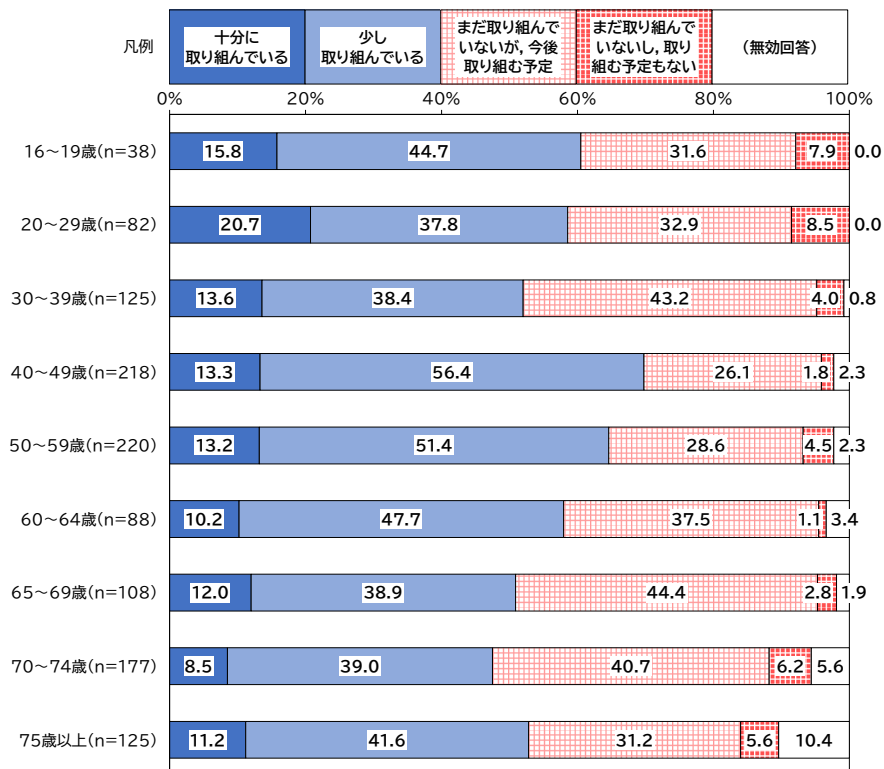
<年齢層別>

○「市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している」では40～59歳で、「十分に取り組んでいる」と「少し取り組んでいる」の合計が70%を、「スマートフォン等で防災アプリを活用している」では40～59歳で半数を、それぞれ超えて多くなっています。また、「調布市防災・安全情報メールに登録している」では、30～59歳が他の年齢層に比べ高くなっています。

1 市の防災マップや洪水ハザードマップの内容を把握している

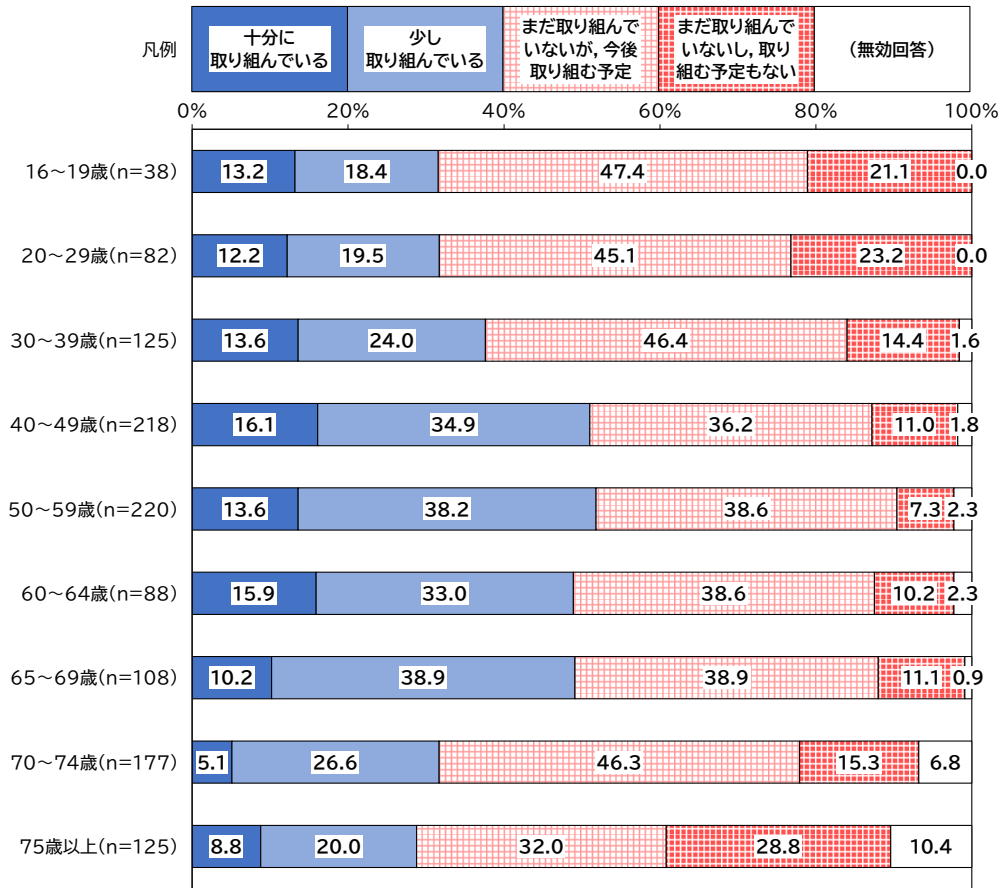


2 家族の安否確認や連絡の方法をあらかじめ決めている

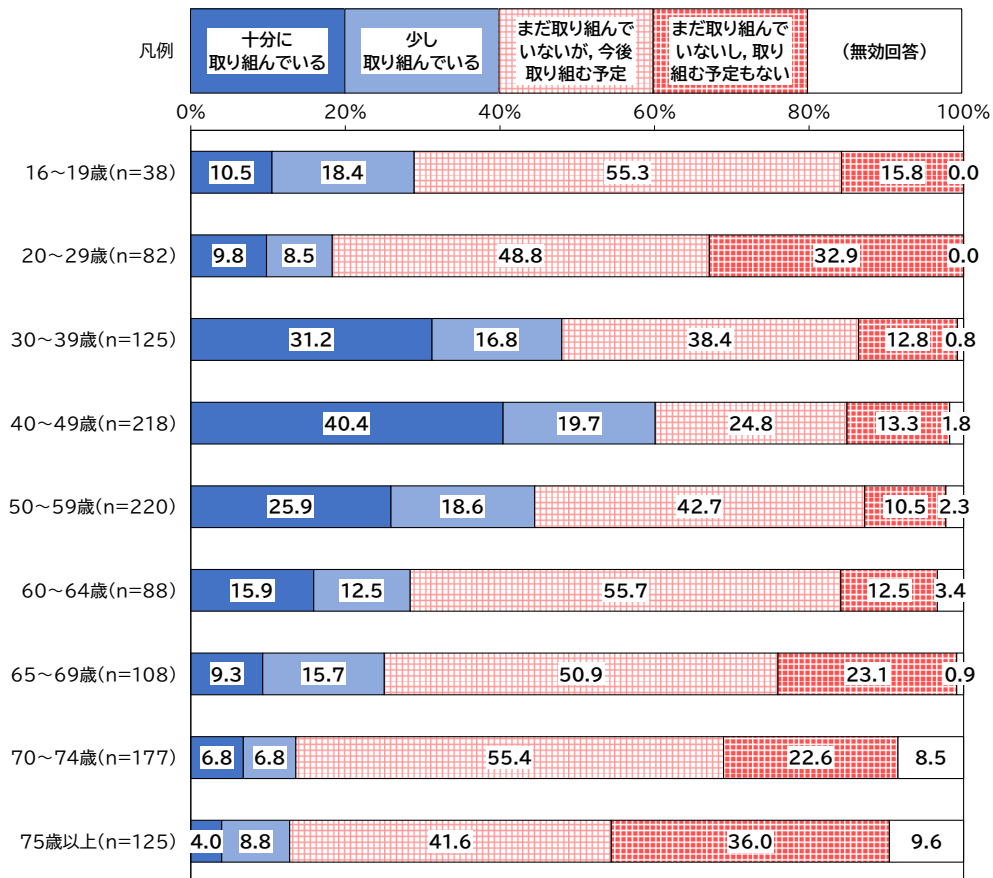


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

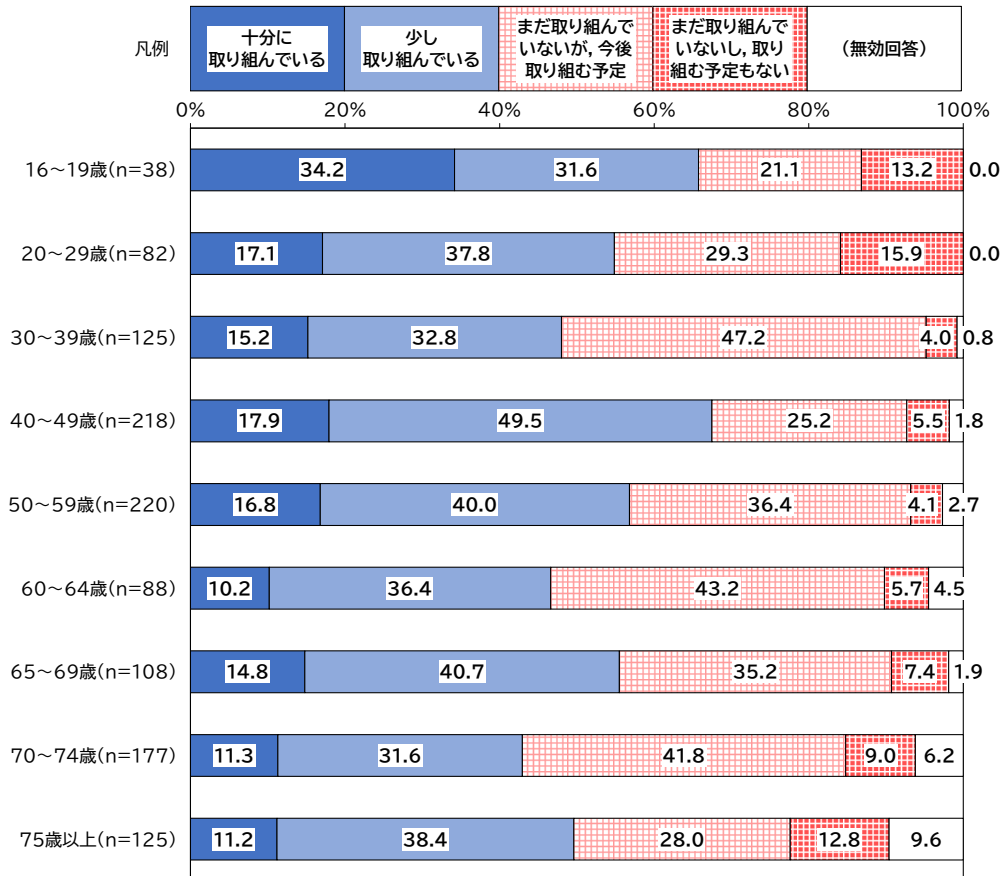
4 スマートフォン等で防災アプリを活用している



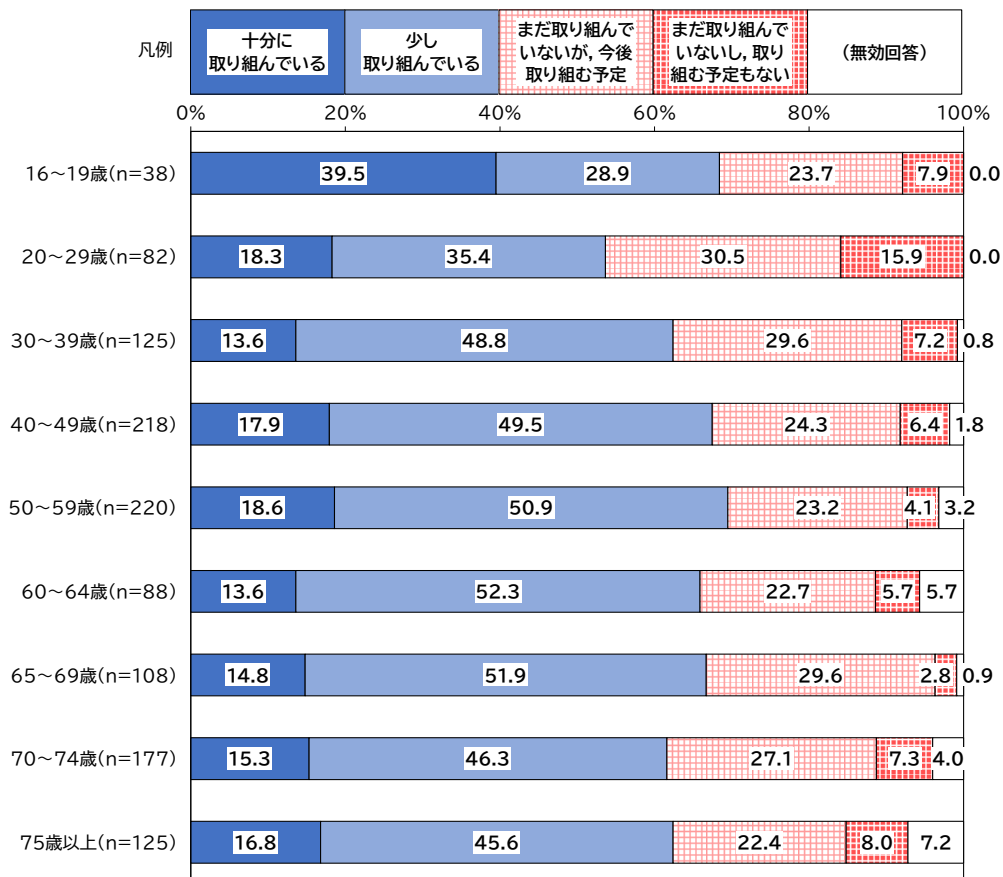
4 調布市防災・安全情報メールに登録している



5 災害時に自宅から避難する場所（避難所・自宅の上層階・親族や友人，知人宅）をあらかじめ決めている

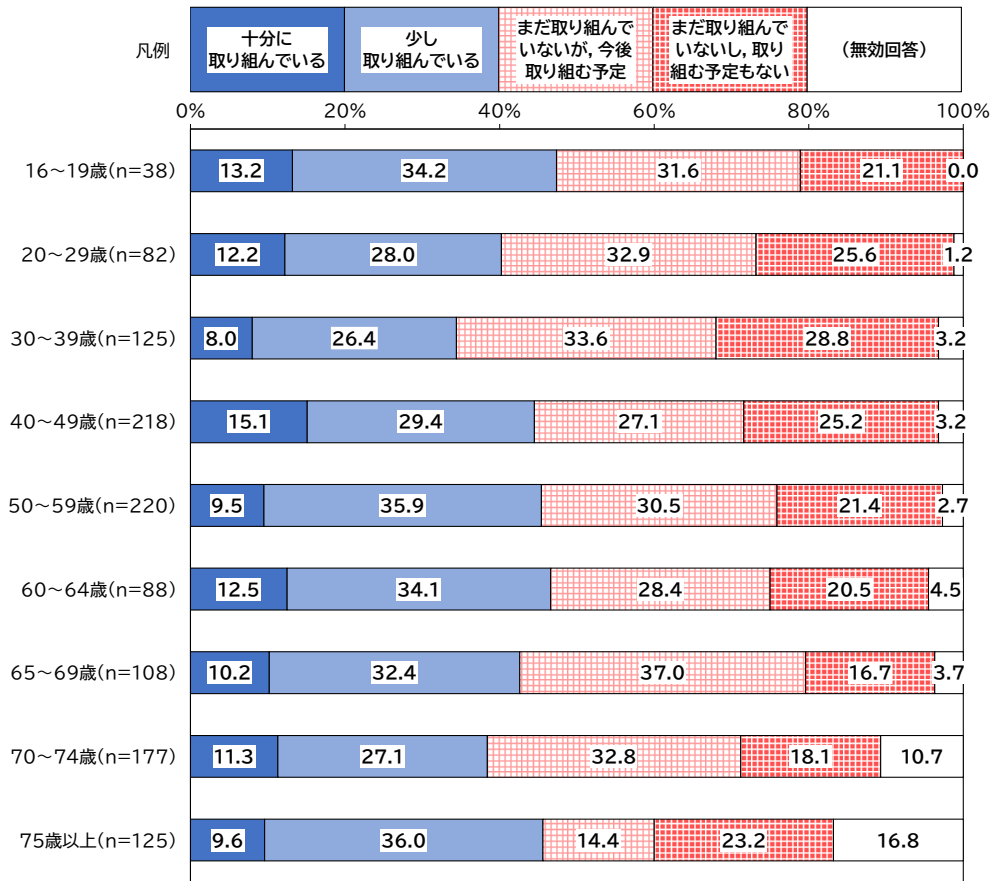


6 家具が倒れたり，移動したりしないよう固定している

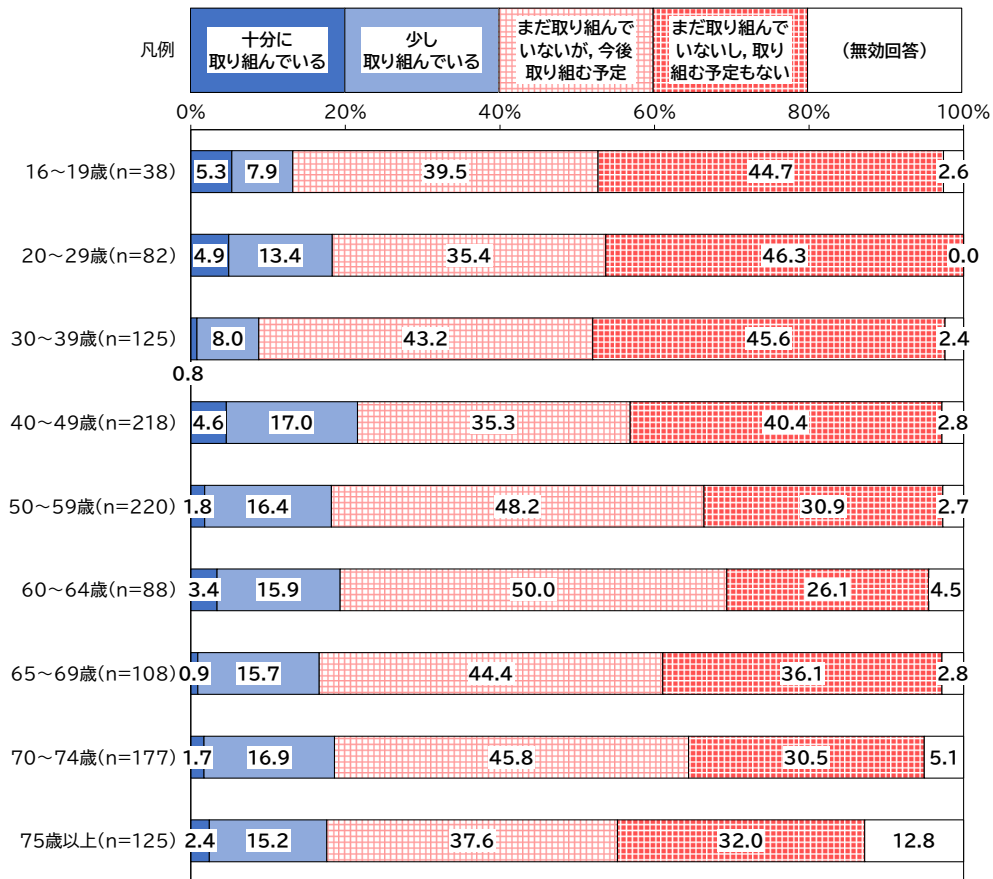


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

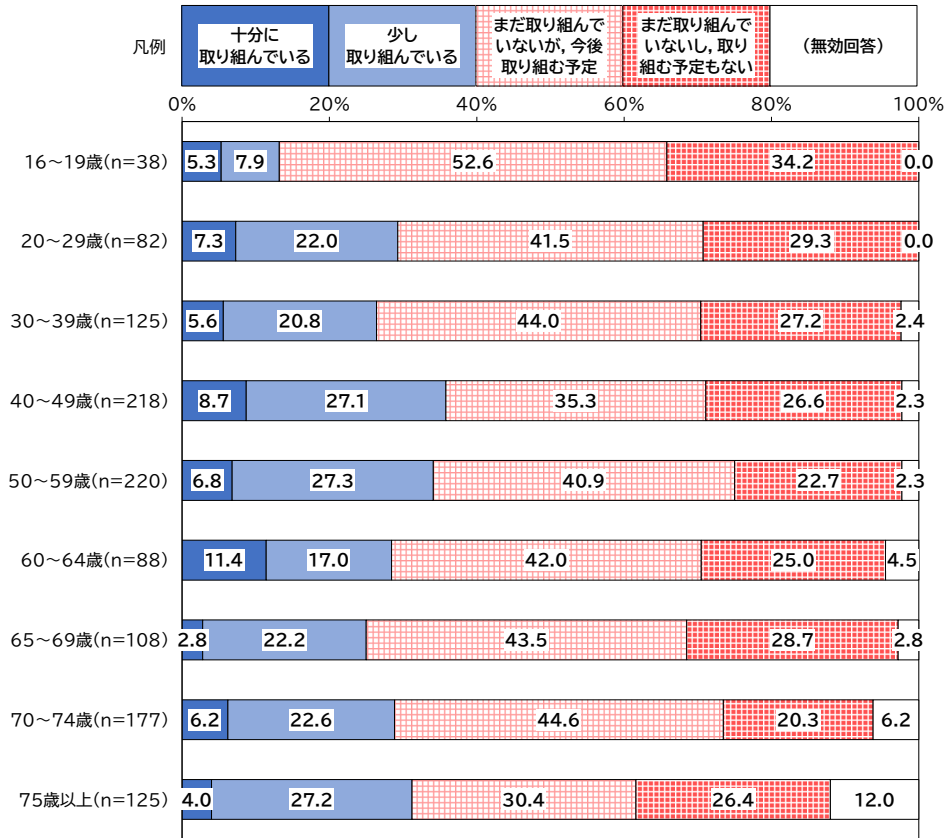
7 家屋やブロック塀などの耐震点検や倒壊防止対策に取り組んでいる



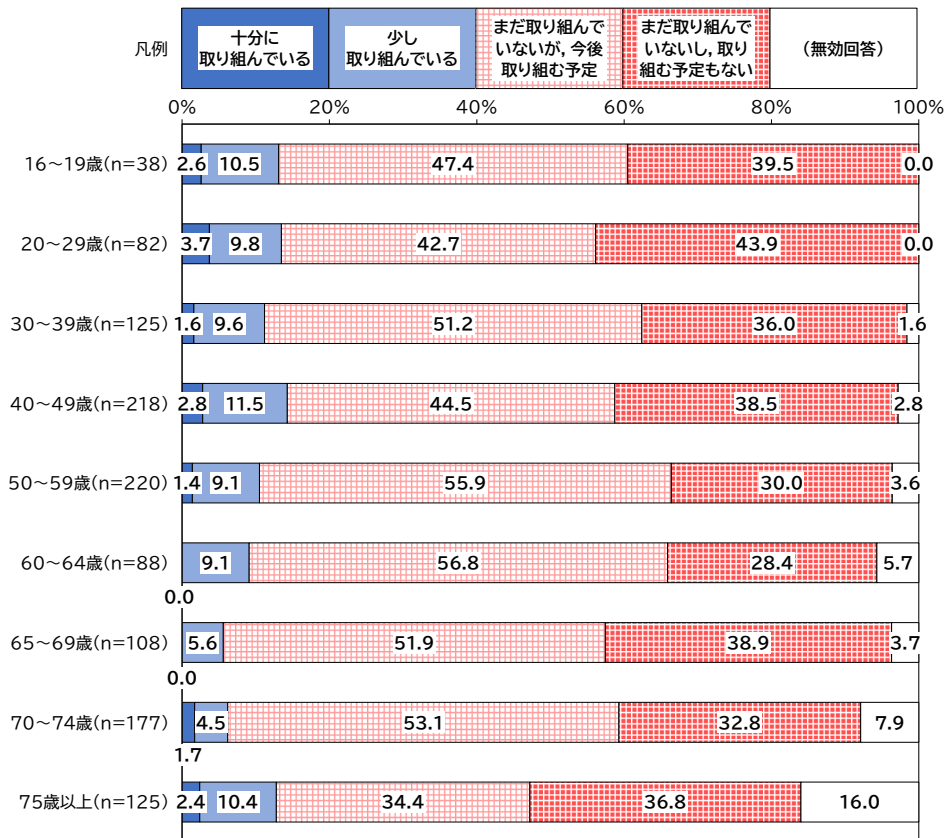
8 地域で日常的なつき合いの中で、災害時の協力体制を話し合っている



9 大雨等に備え、家庭でできる浸水防止方法の確認をしている



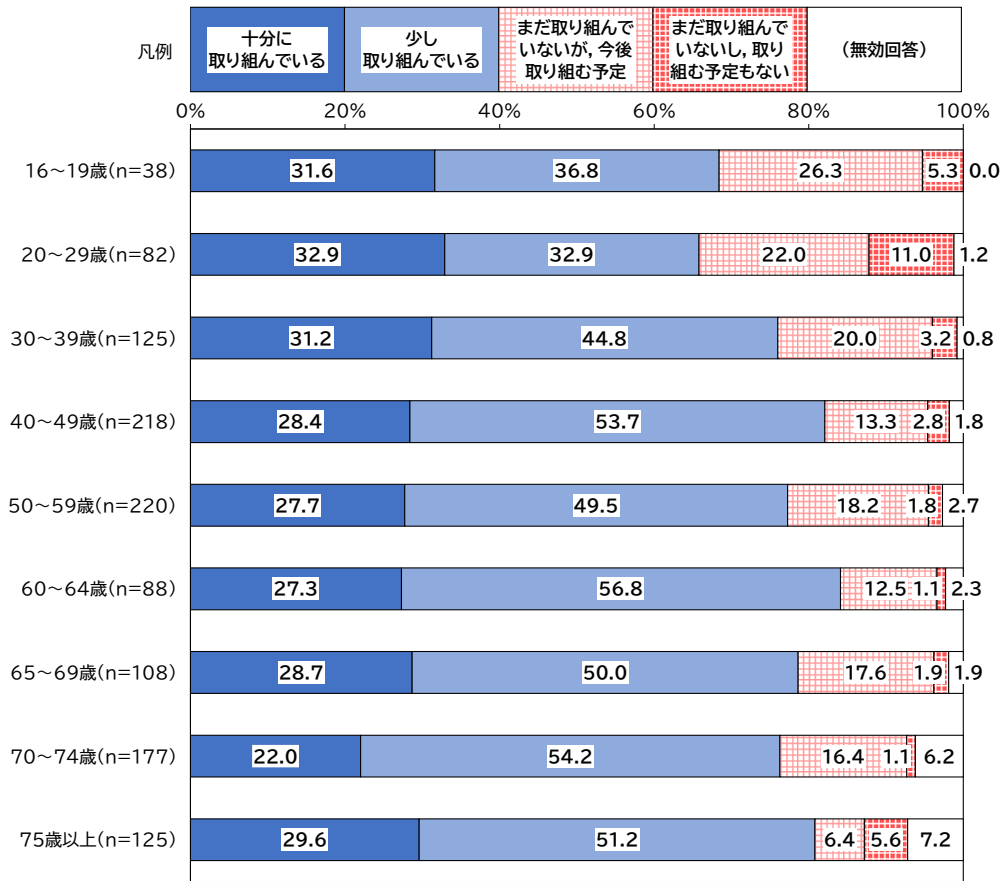
10 マイ・タイムライン※を作成している



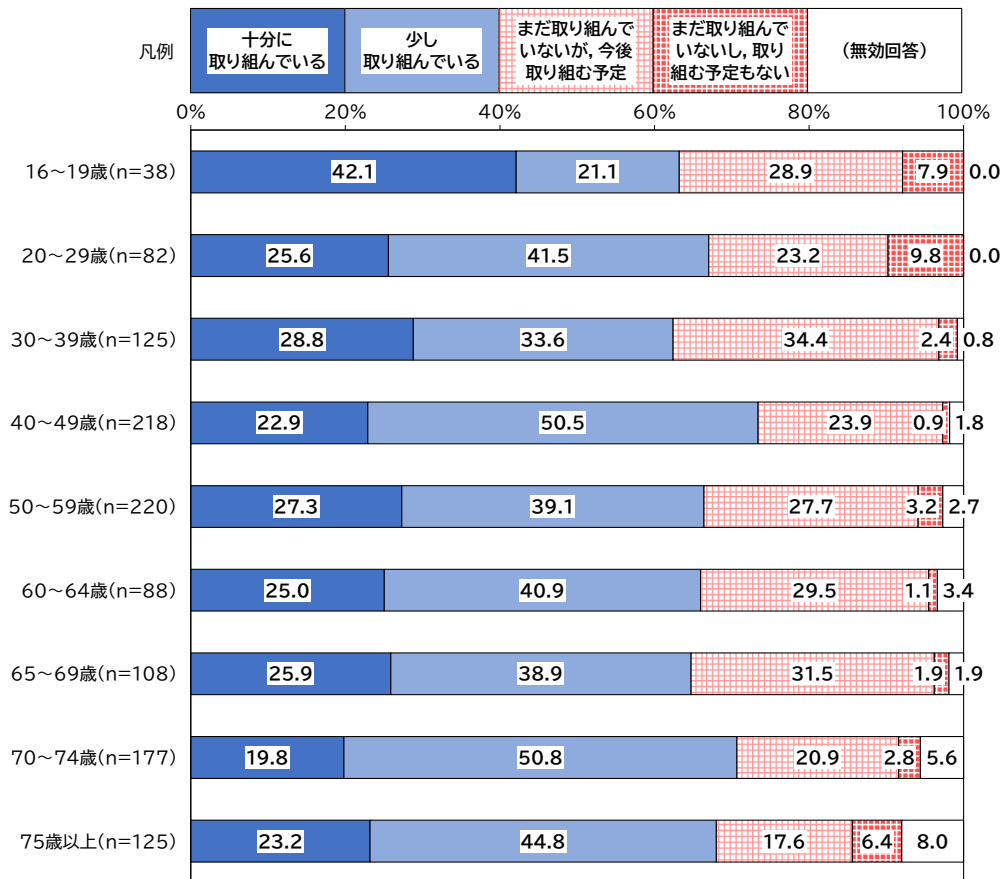
※マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起きるかもしれない災害に対し、一人一人の家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」、「誰が」、「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画のことです。

第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

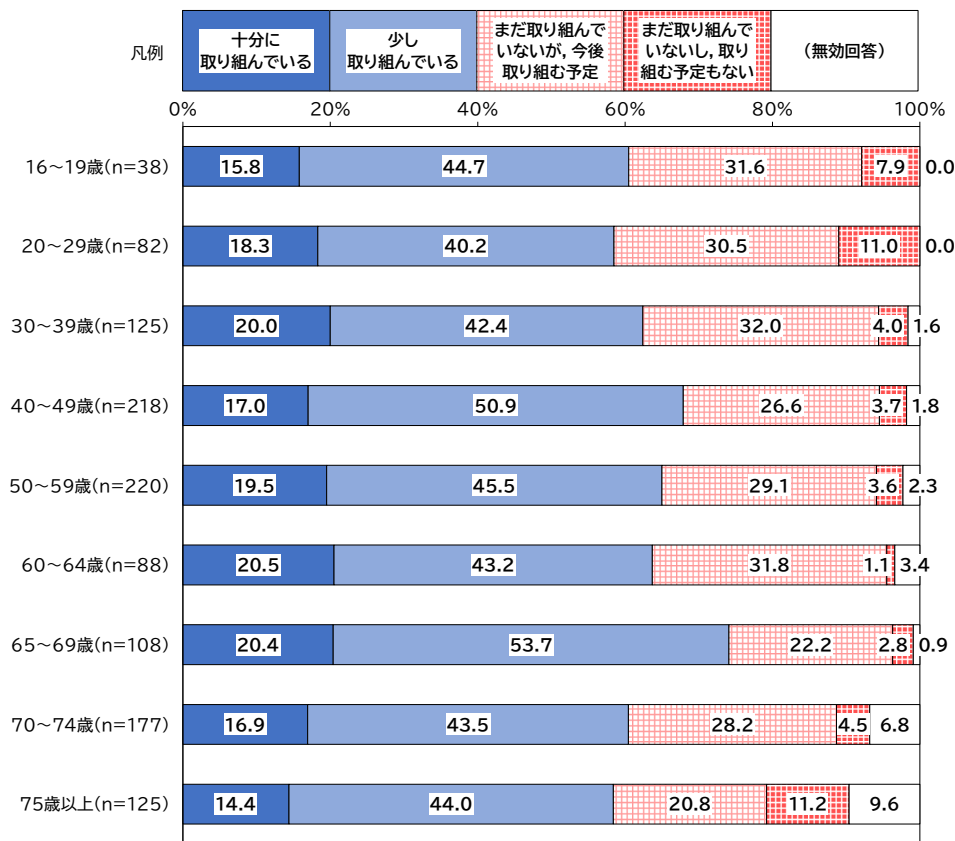
11 ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している



12 災害時を意識して、水や食料品などを3日以上備蓄している

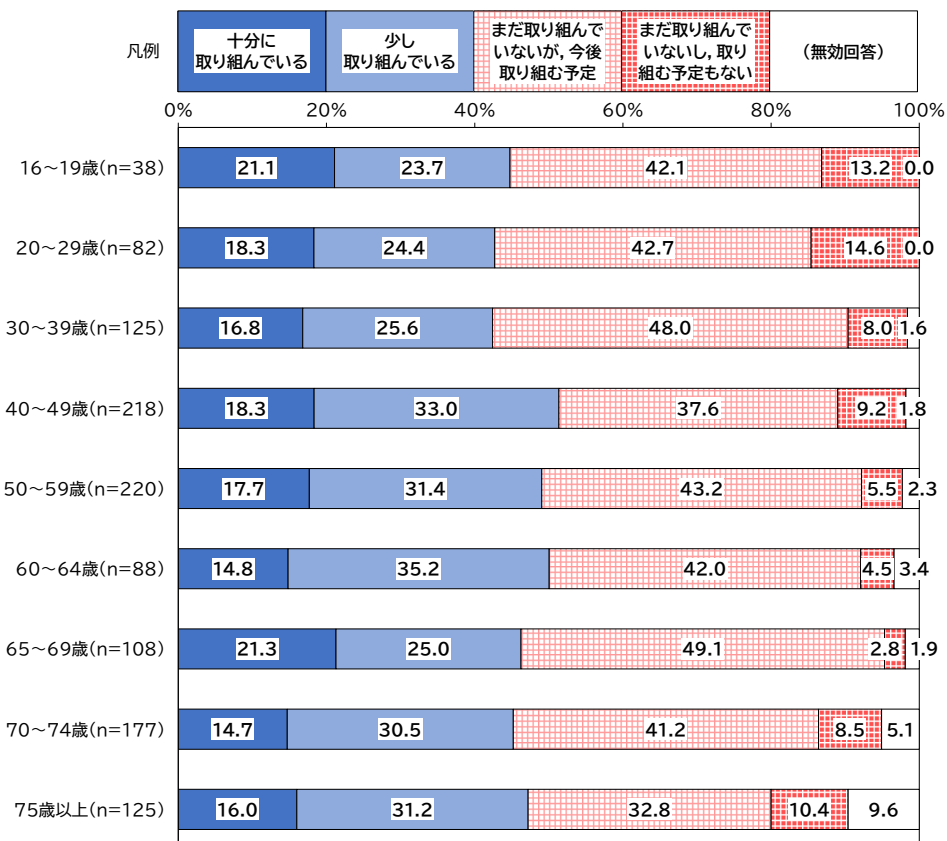


13 備蓄に当たり、ローリングストック※を実践している



※ローリングストックとは、普段から使っているものを常に少し多めに備えておき、消費したらその分を補充して、常に一定量の食品・日用品を備蓄することです。

14 簡易トイレの備蓄など、非常時のトイレ対策をしている



第3章 調査結果＜日ごろの意識や行動＞

＜自由記述＞主な意見を抜粋

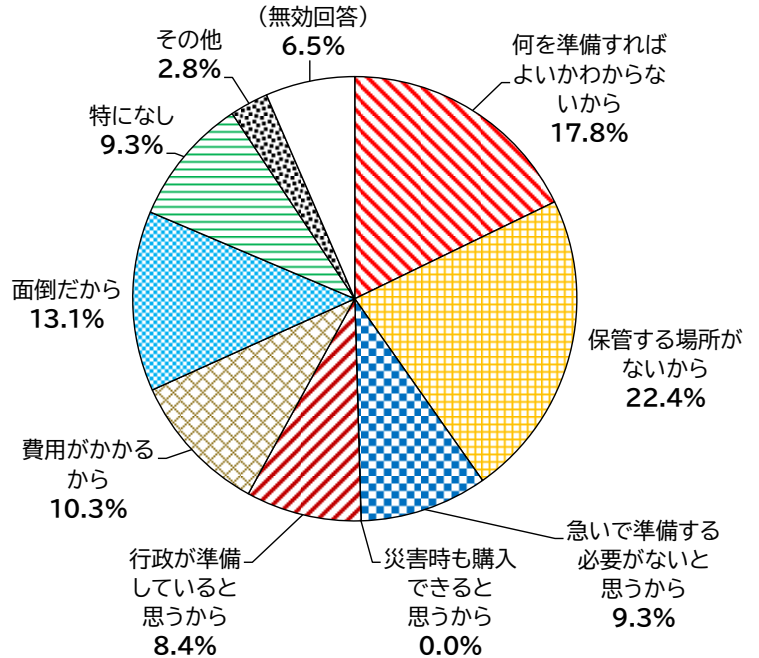
【図表 防災対策についてのご意見・ご提案】(54件)

- ・ガイドブックや持ち出し袋等の配布を行い、「こういうものを備えれば良い」「こうすれば良い」と知識や経験を受けることができると、より防災対策が身近に感じられると思う。
- ・ペットと避難する際の避難場所を増やして欲しいし、内容を明確に示して欲しい。
- ・備蓄倉庫の拡充が必要ではないかと思っています。マンションが増え、これまでの想定よりも避難民が増え、備蓄品が足りなくなるのではと心配しています。

問 18-1) 問 18 の「ラジオや懐中電灯など、非常時の持出品を用意している」「災害時を意識して、水や食料品などを3日以上備蓄している」「簡易トイレの備蓄など、非常時のトイレ対策をしている」について、「まだ取り組んでいないし、取り組む予定もない」と回答した主な理由をお聞かせください。

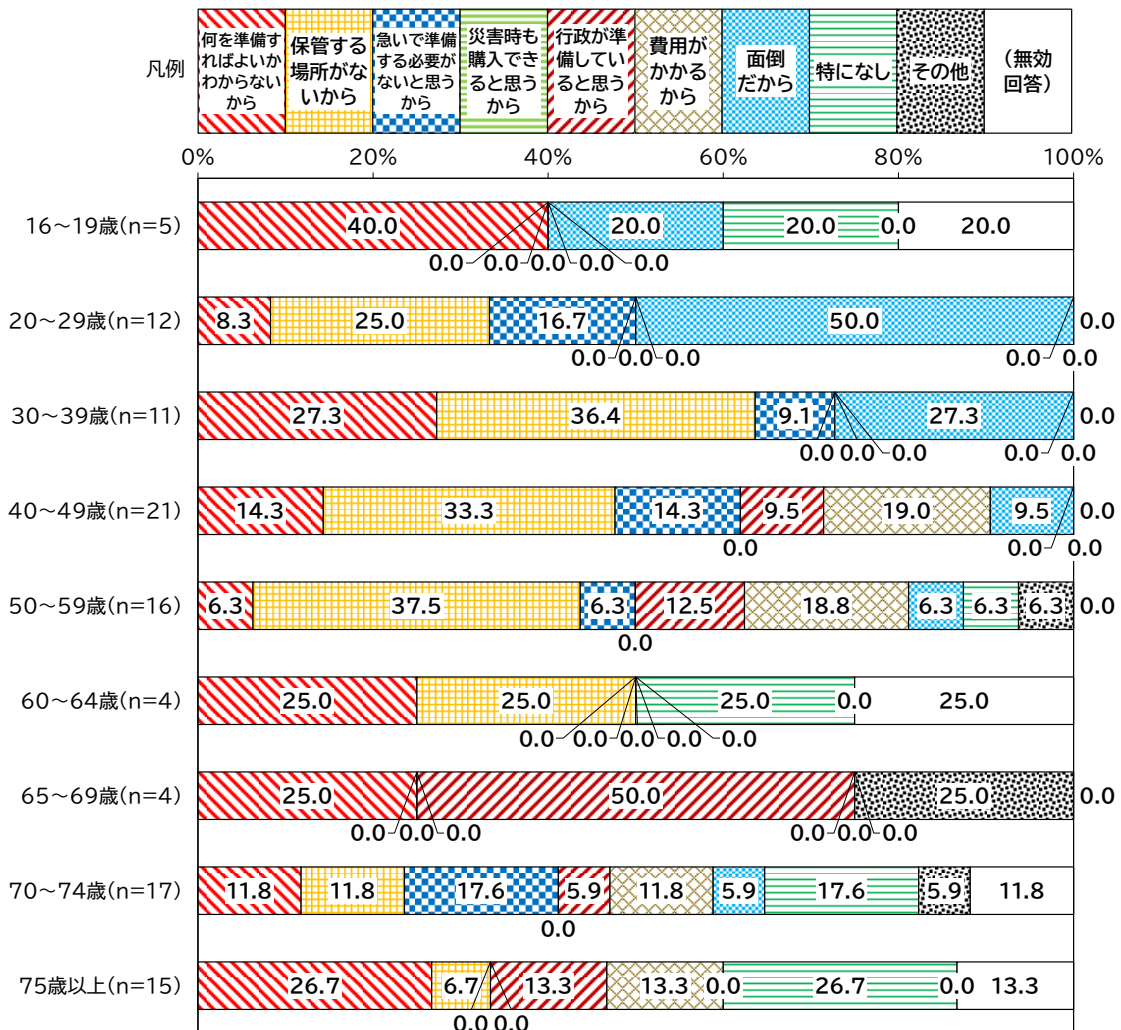
<全体 (n=107)>

○「保管する場所がないから」が22.4%で最も高く、次いで「何を準備すればよいかわからないから」の17.8%、「面倒だから」の13.1%の順となっています。



<年齢層別>

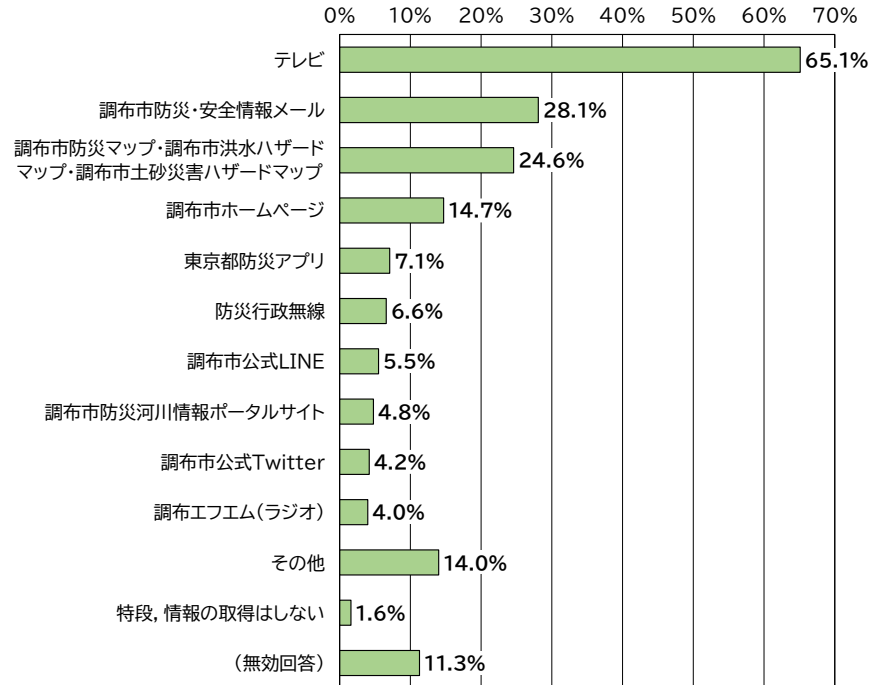
○20~29歳で「面倒だから」、65~69歳で「行政が準備していると思うから」が、他の年齢層に比べ高くなっています。



問19) あなたは台風や地震等の災害時にどのように情報を得ていますか。

<全体 (n=1,193) >

○「テレビ」が65.1%で最も高く、次いで「調布市防災・安全情報メール」の28.1%、「調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ」の24.6%の順となっています。



<年齢層別>

○すべての年齢層で「テレビ」が最も高く、これに次ぐものとしては30~59歳で「調布市防災・安全情報メール」、60歳以上は「調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ」の順となっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,193	38	82	125	218	220	88	108	177	125
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
テレビ	777	19	49	65	142	140	62	76	135	83
	65.1%	50.0%	59.8%	52.0%	65.1%	63.6%	70.5%	70.4%	76.3%	66.4%
調布市防災・安全情報メール	335	9	12	42	100	73	17	24	34	21
	28.1%	23.7%	14.6%	33.6%	45.9%	33.2%	19.3%	22.2%	19.2%	16.8%
調布市防災マップ・調布市洪水ハザードマップ・調布市土砂災害ハザードマップ	293	5	10	26	51	52	18	36	48	41
	24.6%	13.2%	12.2%	20.8%	23.4%	23.6%	20.5%	33.3%	27.1%	32.8%
調布市ホームページ	175	1	19	15	31	40	9	22	18	18
	14.7%	2.6%	23.2%	12.0%	14.2%	18.2%	10.2%	20.4%	10.2%	14.4%
東京都防災アプリ	85	2	3	7	15	13	12	10	15	7
	7.1%	5.3%	3.7%	5.6%	6.9%	5.9%	13.6%	9.3%	8.5%	5.6%
防災行政無線	79	2	2	6	6	14	4	11	17	17
	6.6%	5.3%	2.4%	4.8%	2.8%	6.4%	4.5%	10.2%	9.6%	13.6%
調布市公式LINE	66	1	1	8	14	14	5	8	9	5
	5.5%	2.6%	1.2%	6.4%	6.4%	6.4%	5.7%	7.4%	5.1%	4.0%
調布市防災河川情報ポータルサイト	57	0	2	9	17	12	4	1	4	8
	4.8%	0.0%	2.4%	7.2%	7.8%	5.5%	4.5%	0.9%	2.3%	6.4%
調布市公式Twitter	50	1	12	10	12	8	2	3	0	2
	4.2%	2.6%	14.6%	8.0%	5.5%	3.6%	2.3%	2.8%	0.0%	1.6%
調布エフエム(ラジオ)	48	0	1	2	2	4	6	7	14	11
	4.0%	0.0%	1.2%	1.6%	0.9%	1.8%	6.8%	6.5%	7.9%	8.8%
その他	167	12	21	23	35	33	12	11	16	4
	14.0%	31.6%	25.6%	18.4%	16.1%	15.0%	13.6%	10.2%	9.0%	3.2%
特段、情報の取得はしない	19	2	5	3	4	1	0	0	2	2
	1.6%	5.3%	6.1%	2.4%	1.8%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%	1.6%
(無効回答)	135	7	8	16	18	22	12	12	17	20
	11.3%	18.4%	9.8%	12.8%	8.3%	10.0%	13.6%	11.1%	9.6%	16.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

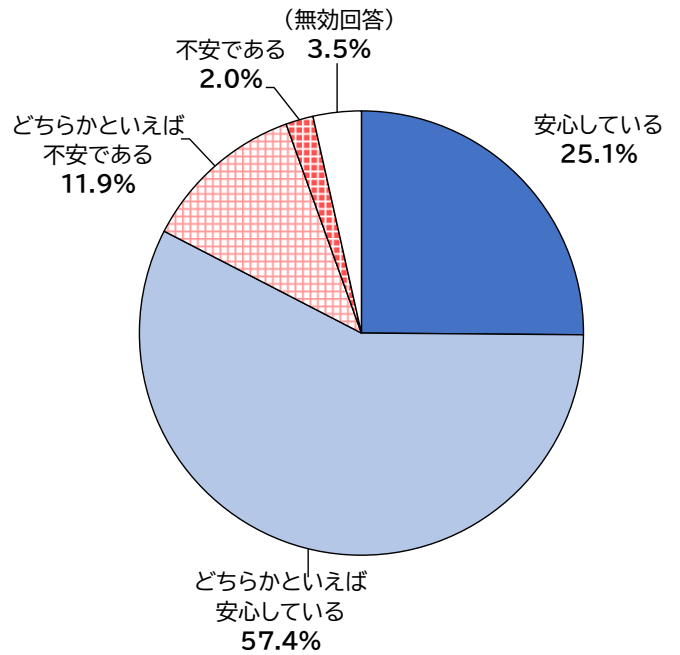
回答割合が2番目に高い：

【防犯対策について】

問20) あなたは、自分の住んでいる地域が治安の面で安心して暮らせる場所だと感じていますか。

<全体 (n=1,193) >

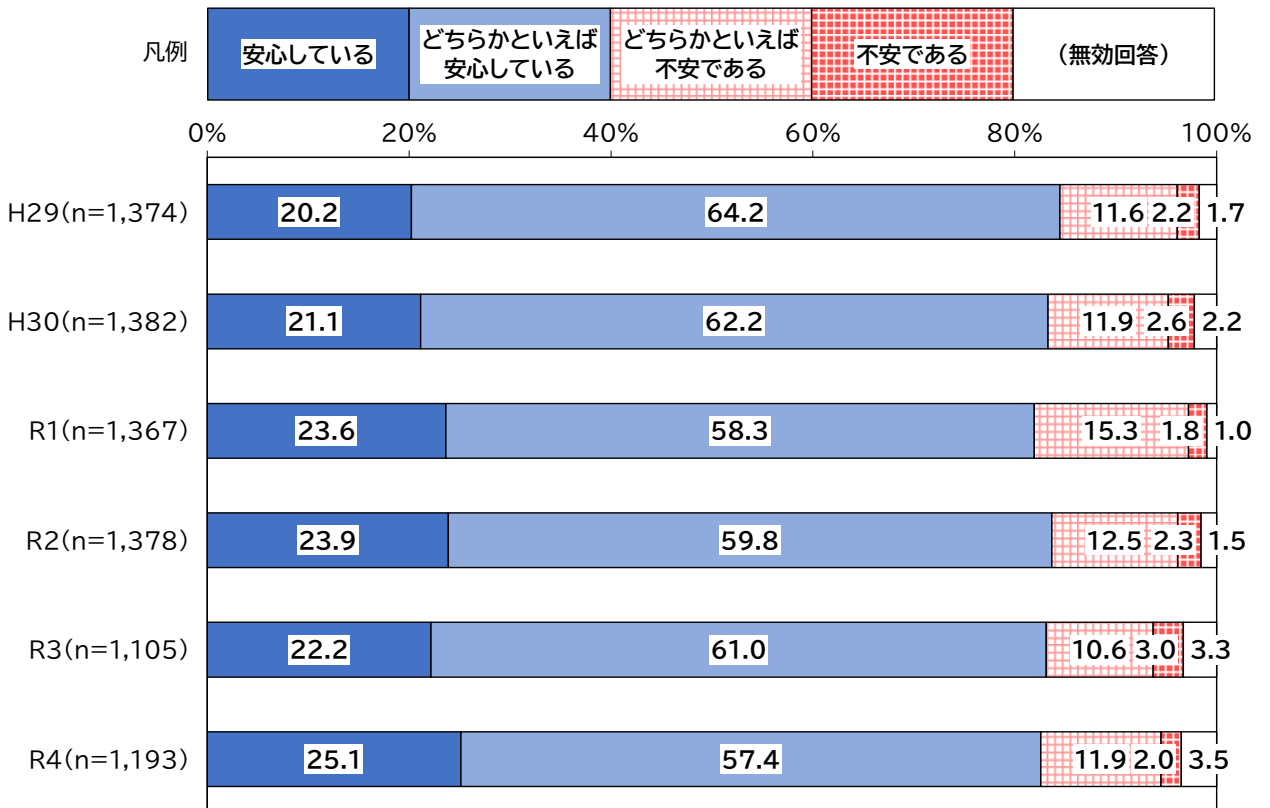
○「安心して暮らせる」は25.1%、「どちらかといえば安心して暮らせる」は57.4%であり、合計82.5%を占めています。



<経年比較>

○「安心して暮らせる」、「どちらかといえば安心して暮らせる」の合計(82.5%)は、令和3年度(83.2%)に比べ0.7ポイント減少しています。

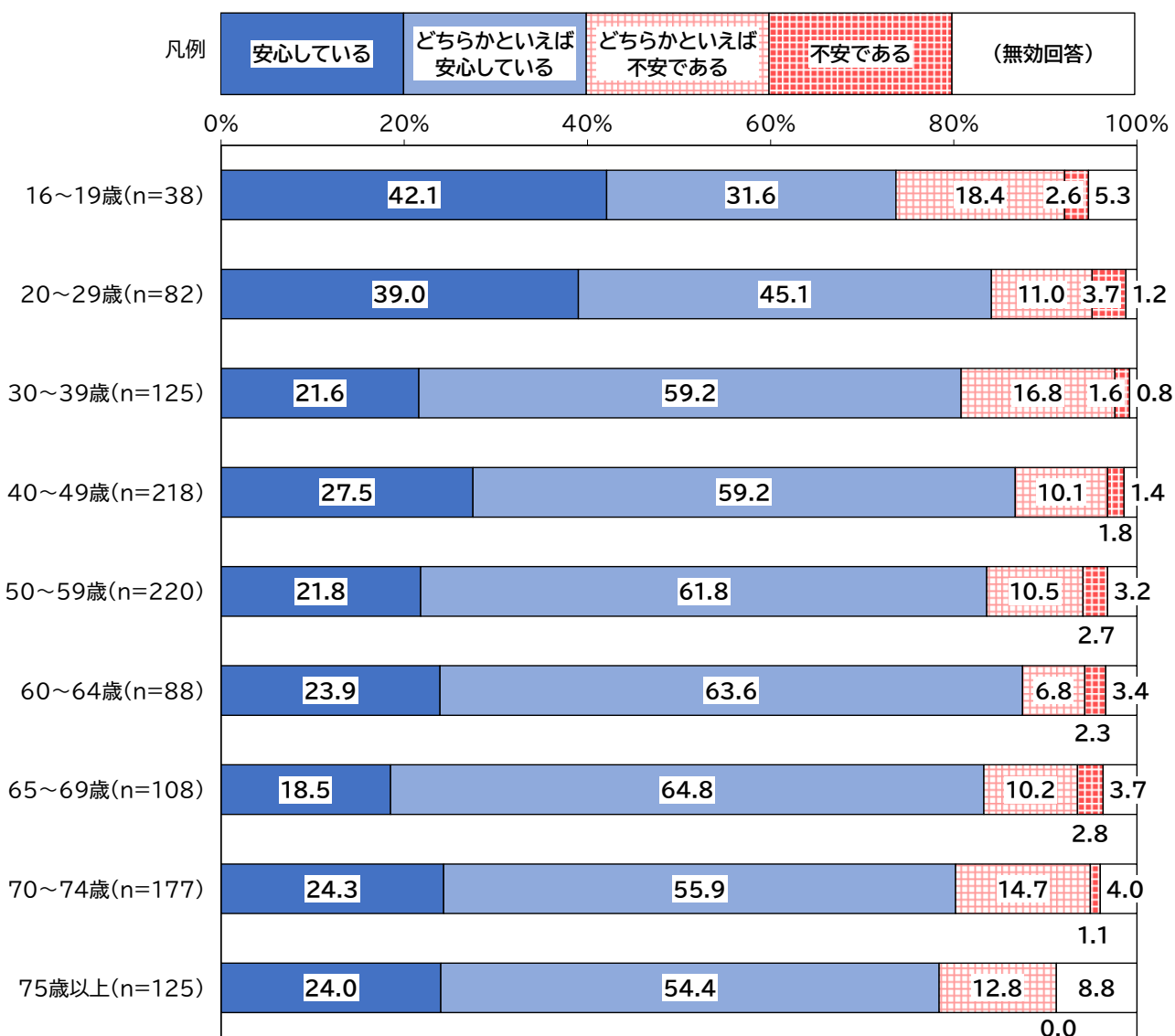
○「不安である」、「どちらかといえば不安である」の合計(13.9%)は、令和3年度(13.6%)に比べ0.3ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

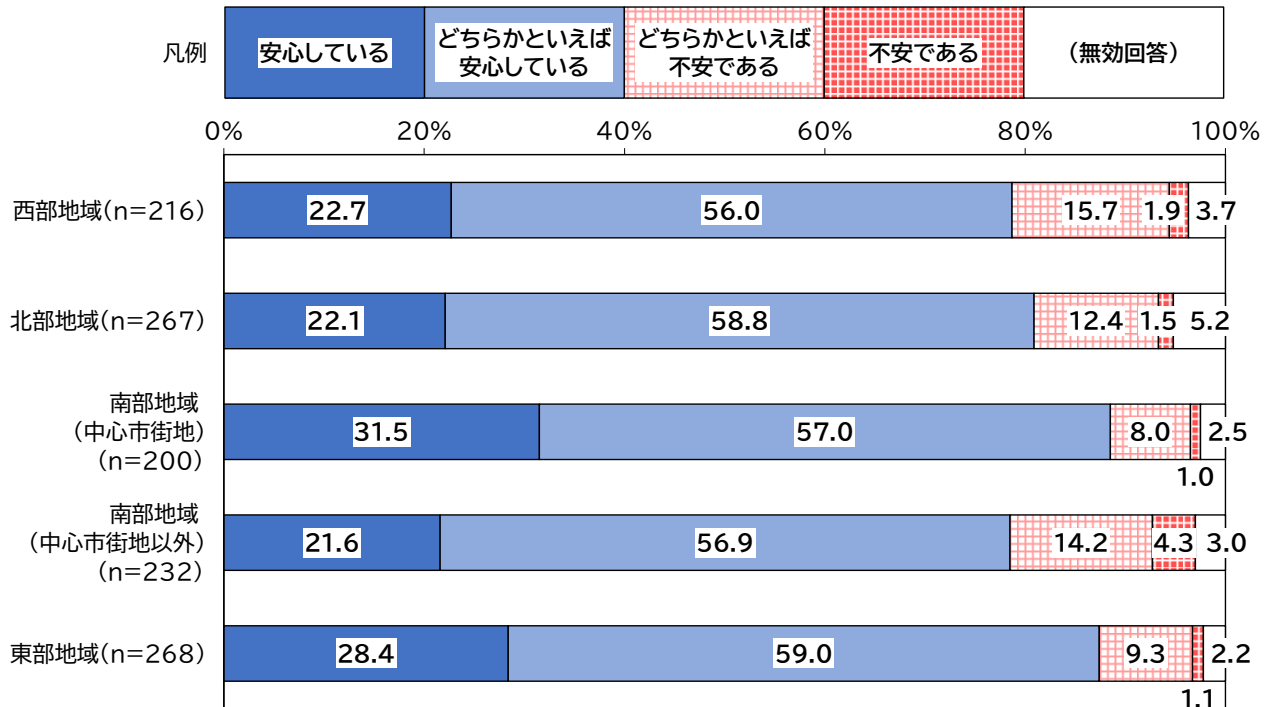
<年齢層別>

○16～19歳及び75歳以上を除いた年齢層で、「安心している」と「どちらかといえば安心している」の合計が80%以上を占めています。



<地域別>

- 北部地域、南部地域（中心市街地）及び東部地域層で、「安心している」と「どちらかといえば安心している」の合計が80%以上を占めています。
- 西部地域及び南部地域（中心市街地以外）で「どちらかといえば不安である」と「不安である」の合計が15%を超え、他の地域に比較して高くなっています。



<自由記述>主な意見を抜粋

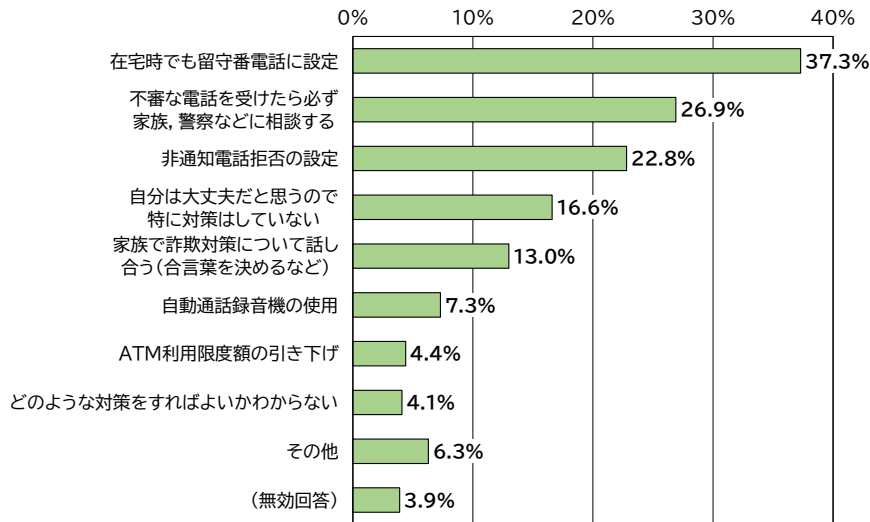
【図表 住んでいる地域が安心、または不安と感じる理由】(239件)

「安心している」「どちらかといえば安心している」	「どちらかといえば不安である」「不安である」
<ul style="list-style-type: none"> ・近くに交番がある。 ・警察や防災の人が近所をよく回ってくれている。 ・ご近所のネットワークが比較的しっかりある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに交番がない。 ・安心だと思っていたが、わいせつ事件が多いと安全情報メールを見て不安を感じている。 ・暗さと、人が隠れられる様な林が沢山ある為、学童等帰りがおそくなる子供達や大人達も不安がある。周辺地域において、不審者出没の情報が多い。

問 21) あなたは、特殊詐欺※被害防止のためにどのような対策をしていますか。

<全体 (n=1,193)>

○特殊詐欺への対策は、「在宅時でも留守番電話に設定」が37.3%で最も高く、次いで「不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談する」の26.9%、「非通知電話拒否の設定」の22.8%の順となっています。



※特殊詐欺とは、不特定の人に対して直接顔を合わせることなく、電話やメールなどを使い、嘘を言って信じこませ、犯人の銀行口座に現金を振り込ませたりする等、現金などをだまし取る犯罪のことです。

<年齢層別>

○特殊詐欺への対策は、40歳以上で「在宅時でも留守番電話に設定」、16~19歳で「不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談する」が最も高くなっており、20~29歳では「自分は大丈夫だと思うので特に対策はしていない」が最も高くなっています。また、30~39歳では、「不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談する」と「自分は大丈夫だと思うので特に対策はしていない」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,193	38	82	125	218	220	88	108	177	125
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
在宅時でも留守番電話に設定	445	6	19	12	63	96	44	65	85	53
	37.3%	15.8%	23.2%	9.6%	28.9%	43.6%	50.0%	60.2%	48.0%	42.4%
不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談する	321	16	21	32	45	58	25	27	53	41
	26.9%	42.1%	25.6%	25.6%	20.6%	26.4%	28.4%	25.0%	29.9%	32.8%
非通知電話拒否の設定	272	7	16	27	53	53	23	22	43	24
	22.8%	18.4%	19.5%	21.6%	24.3%	24.1%	26.1%	20.4%	24.3%	19.2%
自分は大丈夫だと思うので特に対策はしていない	198	5	25	32	50	37	10	10	17	12
	16.6%	13.2%	30.5%	25.6%	22.9%	16.8%	11.4%	9.3%	9.6%	9.6%
家族で詐欺対策について話し合う(合言葉を決めるなど)	155	2	9	11	27	31	11	10	23	29
	13.0%	5.3%	11.0%	8.8%	12.4%	14.1%	12.5%	9.3%	13.0%	23.2%
自動通話録音機(通話前に警告メッセージが流れ、通話内容を録音する機器)の使用	87	3	1	4	8	10	13	14	13	19
	7.3%	7.9%	1.2%	3.2%	3.7%	4.5%	14.8%	13.0%	7.3%	15.2%
ATM利用限度額の引き下げ	52	0	4	5	14	8	6	9	2	4
	4.4%	0.0%	4.9%	4.0%	6.4%	3.6%	6.8%	8.3%	1.1%	3.2%
どのような対策をすればよいかわからない	49	4	5	14	10	6	3	1	5	1
	4.1%	10.5%	6.1%	11.2%	4.6%	2.7%	3.4%	0.9%	2.8%	0.8%
その他	75	3	4	11	12	13	6	5	16	5
	6.3%	7.9%	4.9%	8.8%	5.5%	5.9%	6.8%	4.6%	9.0%	4.0%
(無効回答)	47	2	1	4	4	8	0	4	9	12
	3.9%	5.3%	1.2%	3.2%	1.8%	3.6%	0.0%	3.7%	5.1%	9.6%

(上段:実数(人), 下段:構成比)

回答割合が最も高い:



回答割合が2番目に高い:



<自由記述>主な意見を抜粋

【図表 防犯対策についてのご意見・ご提案】(46件)

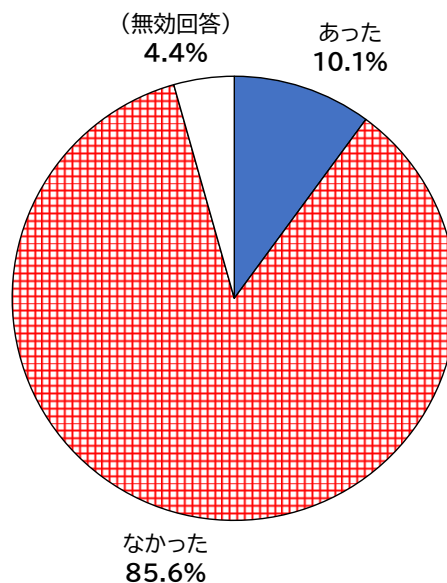
- ・ 固定電話を持たない。
- ・ 「自宅電話は出ない」を徹底すれば良いと思う。留守電対応第一にして、相手を調べてからかけ直すことで防犯になる。知人番号は知っているし、本当に用のある人は留守電に残す。
- ・ 不審なメールに対応しない。
- ・ 特殊詐欺内容の具体例の周知。
- ・ 外灯、監視カメラ等の設置。パトロール強化。

【各種相談について】

問 22) あなたは、この1年間に日常生活の中で、身に覚えのない請求や、しつこい勧誘など、消費生活に関するトラブルに巻き込まれそうになった経験がありますか。

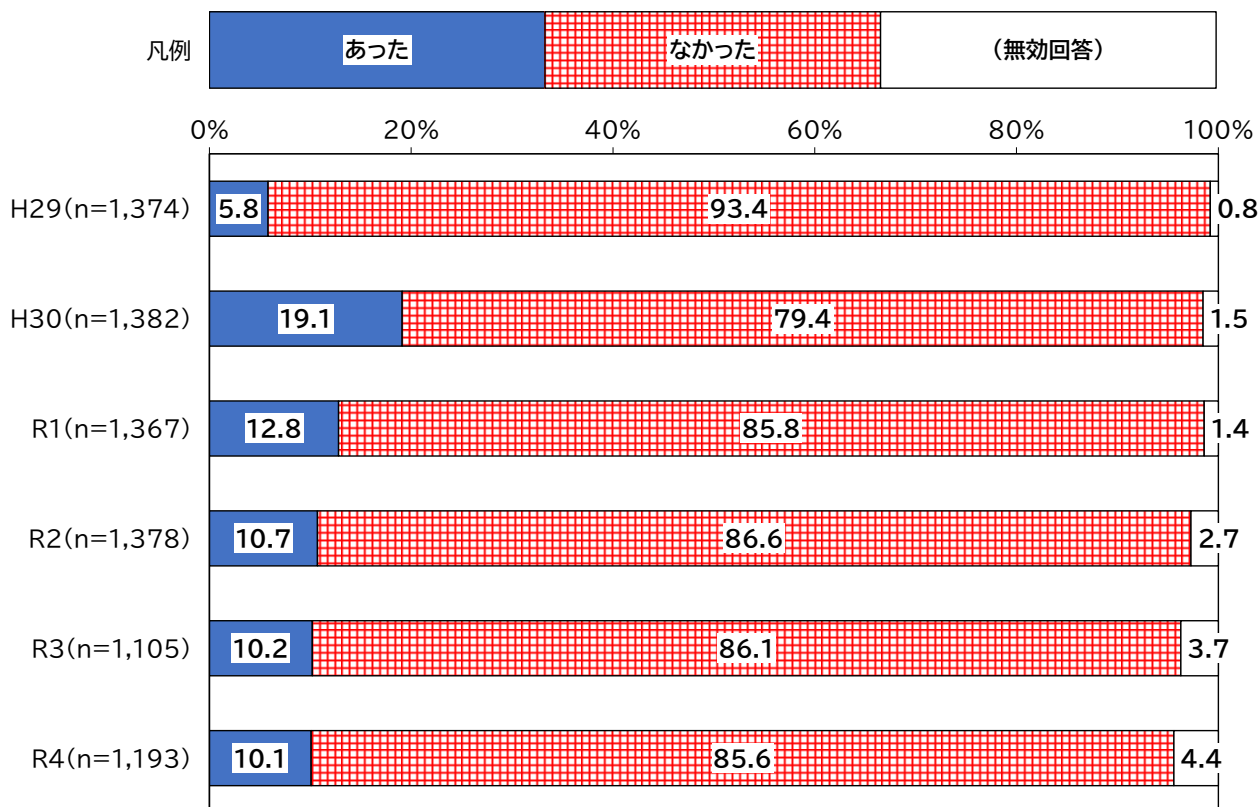
<全体 (n=1,193) >

○消費生活上のトラブルに巻き込まれそうになった経験が「あった」は10.1%、「なかった」は85.6%となっています。



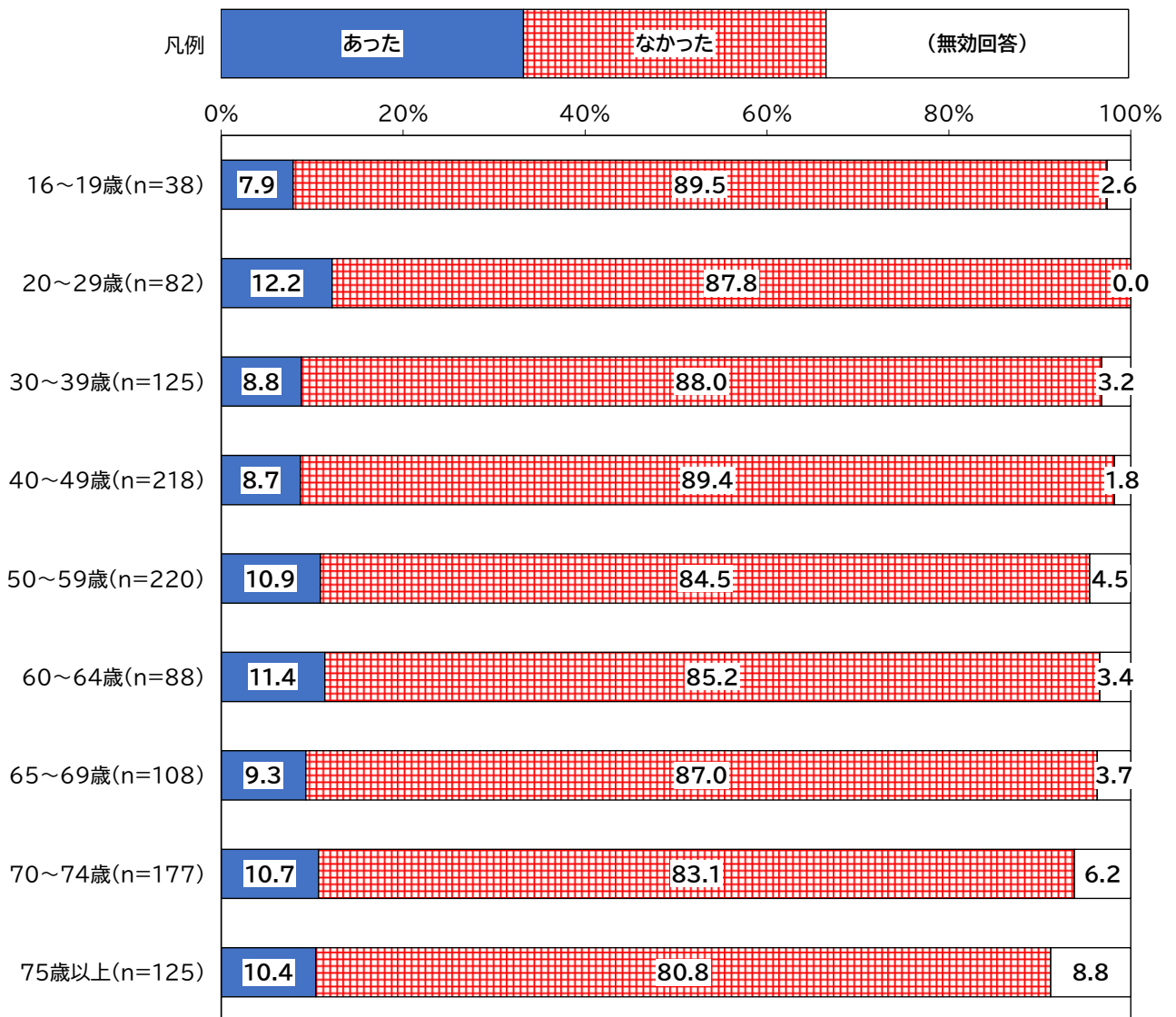
<経年比較>

○消費生活上のトラブルに「あった」は、平成30年度以降、減少傾向にあり、令和4年度(10.1%)は、令和3年度(10.2%)に比べ0.1ポイント減少しています。一方、「なかった」(85.6%)は、令和3年度(86.1%)に比べ、0.5ポイント減少しています。



<年齢層別>

○20～29歳及び60～64歳は、他の年齢層と比べて、消費生活上のトラブルに「あった」がやや高くなっています。

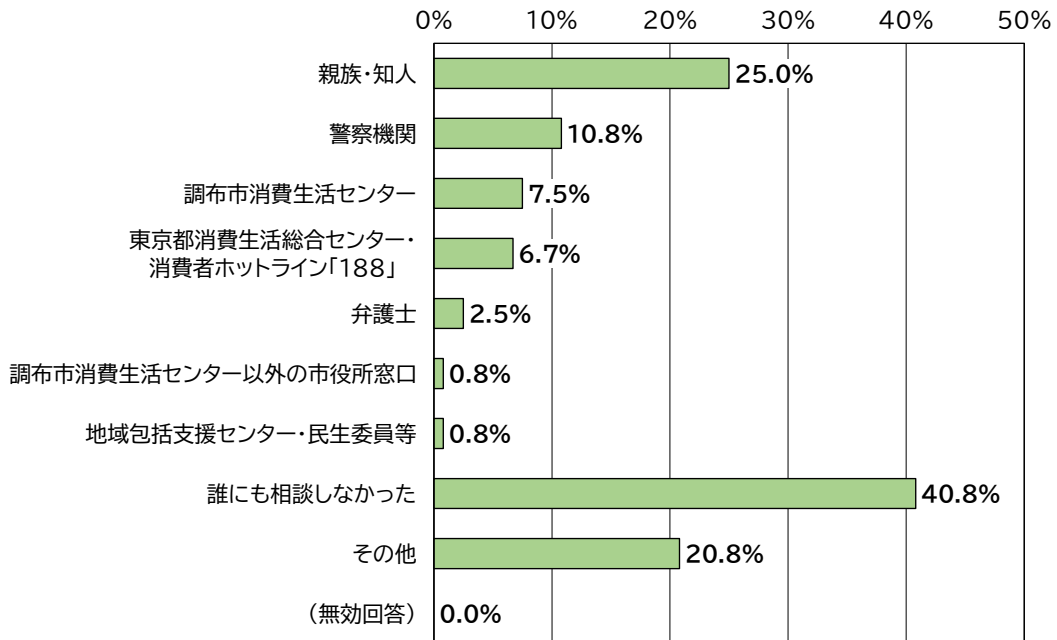


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 22-1) トラブルに巻き込まれそうになった際、どちらかへ相談しましたか。

<全体 (n=120)>

○相談相手としては「親族・知人」が25.0%で最も高く、次いで「警察機関」の10.8%の順となっています。ただし、「誰にも相談しなかった」は40.8%となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層においても、「誰にも相談しなかった」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	120	3	10	11	19	24	10	10	19	13
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
親族・知人	30	1	4	2	5	6	2	1	5	4
	25.0%	33.3%	40.0%	18.2%	26.3%	25.0%	20.0%	10.0%	26.3%	30.8%
警察機関	13	0	1	0	4	1	0	2	3	2
	10.8%	0.0%	10.0%	0.0%	21.1%	4.2%	0.0%	20.0%	15.8%	15.4%
調布市消費生活センター	9	0	0	0	1	3	1	0	4	0
	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	12.5%	10.0%	0.0%	21.1%	0.0%
東京都消費生活総合センター・消費者ホットライン「188」	8	0	1	0	3	1	1	0	1	1
	6.7%	0.0%	10.0%	0.0%	15.8%	4.2%	10.0%	0.0%	5.3%	7.7%
弁護士	3	0	0	1	1	0	1	0	0	0
	2.5%	0.0%	0.0%	9.1%	5.3%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
調布市消費生活センター以外の市役所窓口	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域包括支援センター・民生委員等	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
誰にも相談しなかった	49	2	5	6	6	7	3	7	7	5
	40.8%	66.7%	50.0%	54.5%	31.6%	29.2%	30.0%	70.0%	36.8%	38.5%
その他	25	0	1	2	4	6	4	2	3	3
	20.8%	0.0%	10.0%	18.2%	21.1%	25.0%	40.0%	20.0%	15.8%	23.1%
(無効回答)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



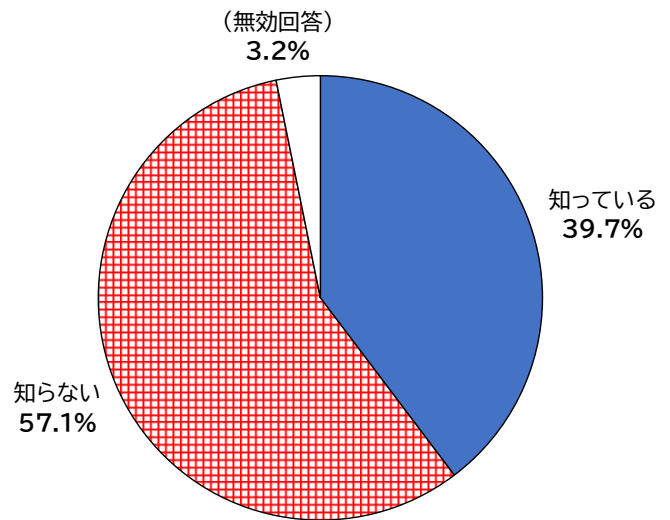
【地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉について】

問23) あなたは、地域福祉や高齢者福祉に関する次の相談窓口を知っていますか。

地域包括支援センター

<全体 (n=1,193) >

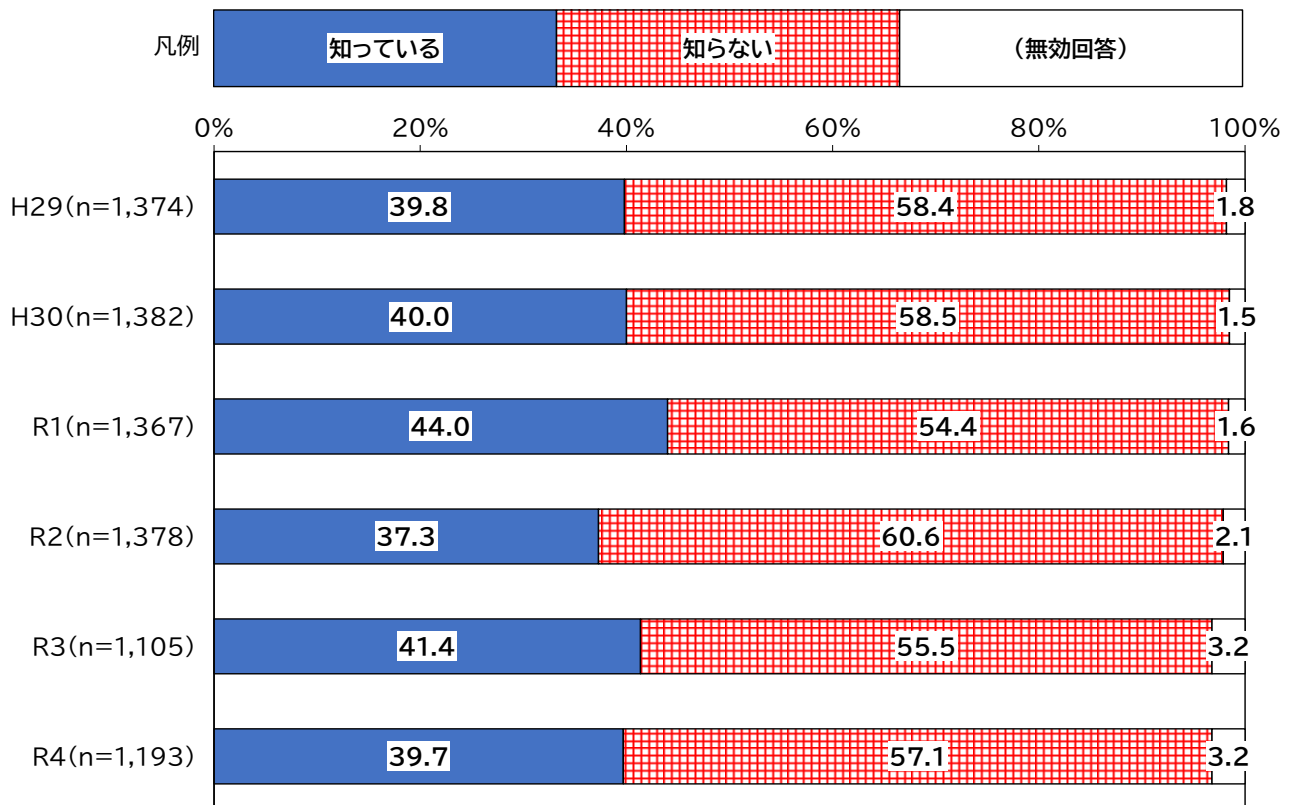
○「知っている」は39.7%、「知らない」は57.1%であり、後者が前者を17.4ポイント上回っています。



※地域包括支援センターは、市内8箇所・サブセンター2箇所では高齢者に関するさまざまな相談のほか、介護予防ケアマネジメント業務、成年後見制度の利用手続や高齢者虐待に関する相談などの権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務などを行っています。

<経年比較>

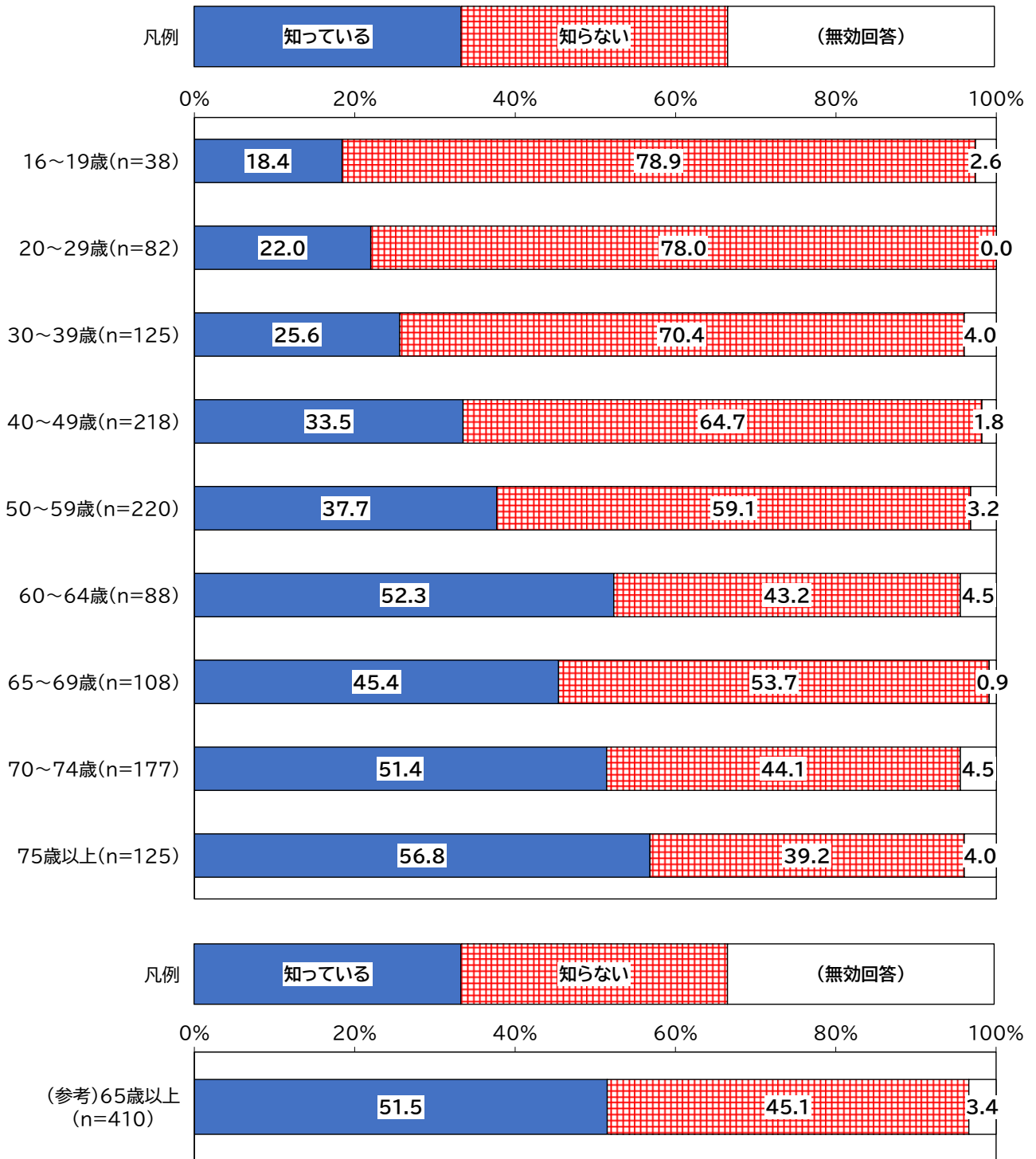
○「知っている」(39.7%)は、令和3年度(41.4%)に比べ1.7ポイント減少しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

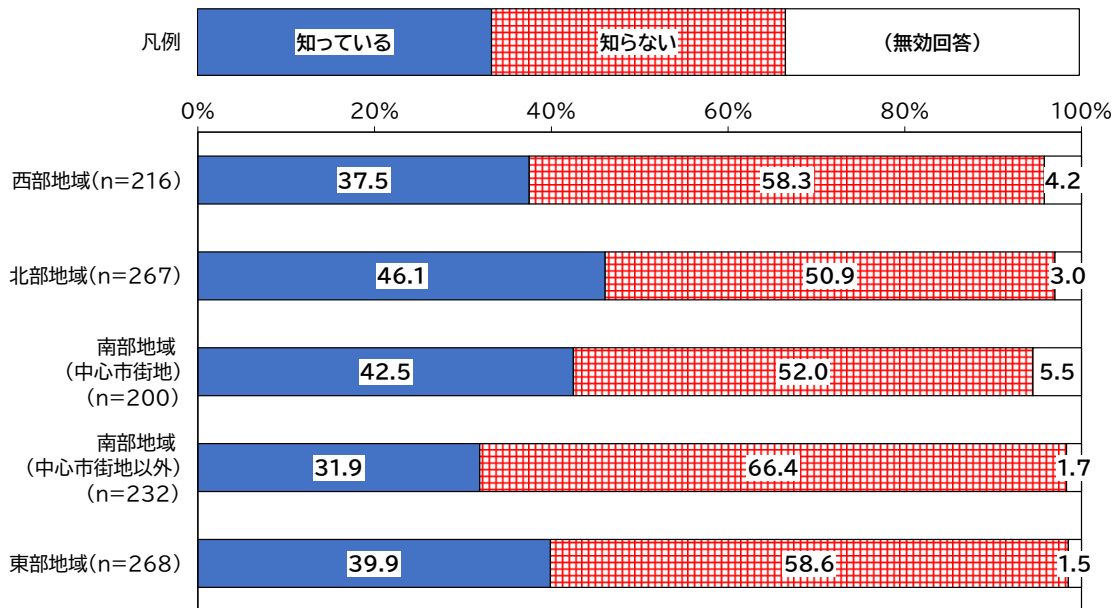
<年齢層別>

○「知っている」はおおむね年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60歳以上では40%を超えています。



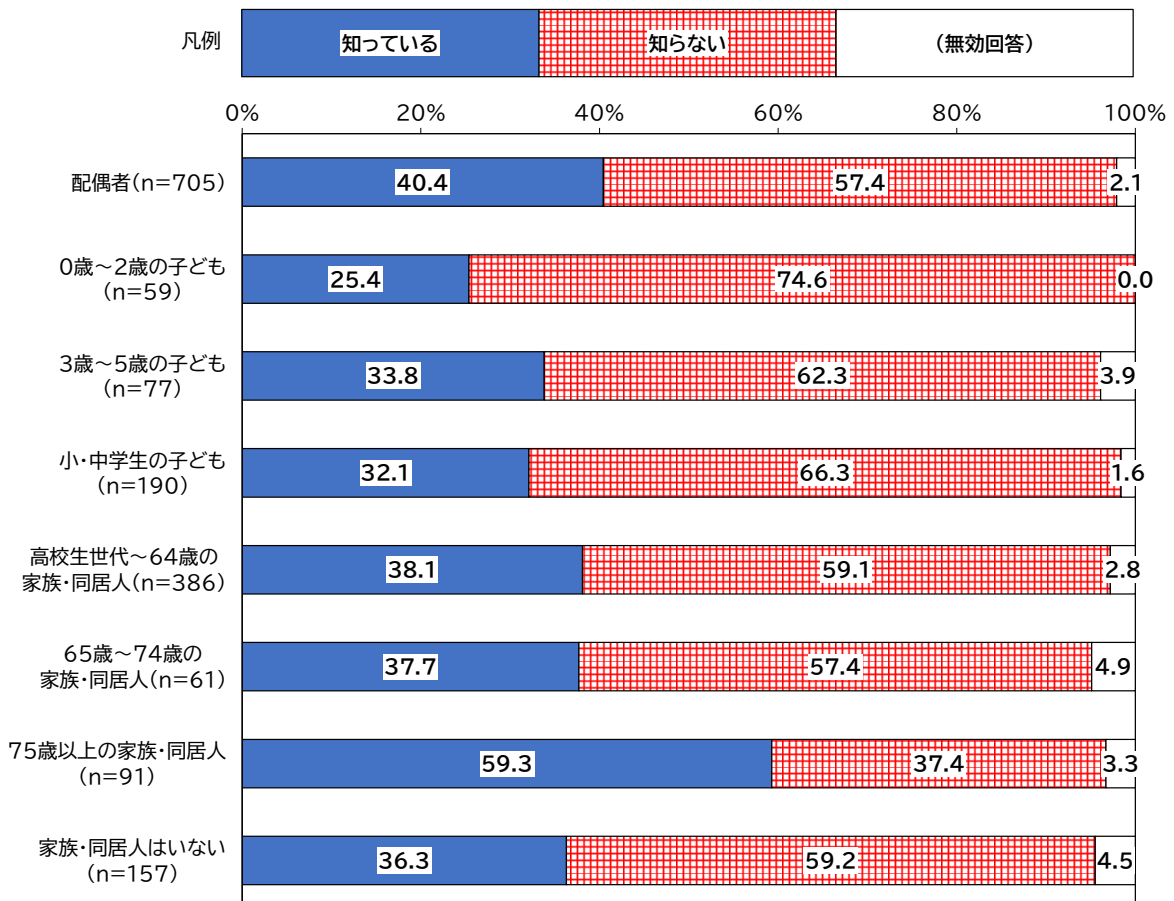
<地域別>

○いずれの地域でも「知っている」は30%を超えています、「西部地域」及び「南部地域（中心市街地以外）」で、他の地域と比較してやや低くなっています。



<同居人別>

○「75歳以上の家族・同居人」で「知っている」が約60%に達している一方、「0歳～2歳の子ども」で「知っている」が他の年齢層と比較してやや低くなっています。

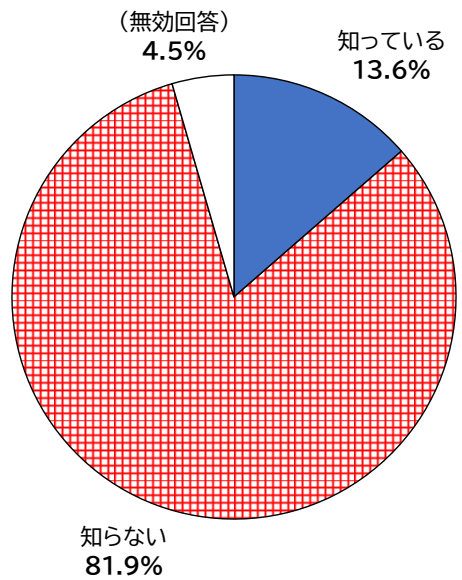


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

地域福祉コーディネーター

<全体 (n=1,193) >

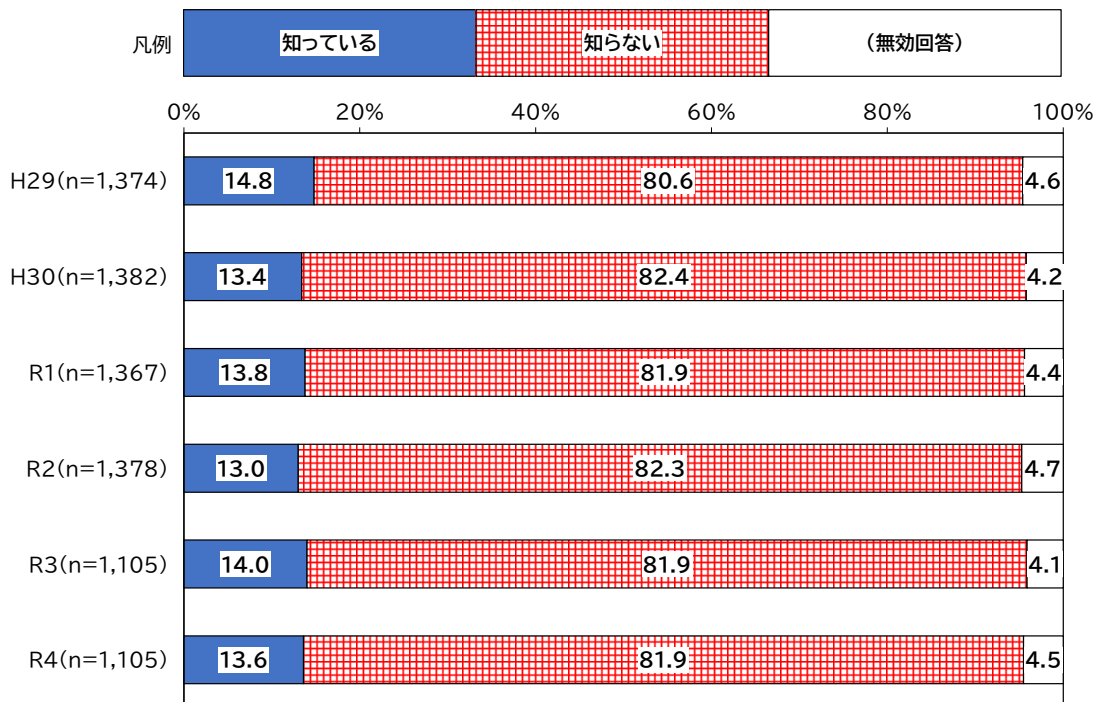
○「知っている」は13.6%であり、「知らない」の81.9%を大きく下回っています。



※地域福祉コーディネーターは、市内を8つに分けた福祉圏域にそれぞれ1人を配置し、既存の公的な福祉サービスだけでは十分な対応ができない方、制度の狭間で困っている方などに対し、地域の生活課題の解決に向けた相談・支援を行っています。

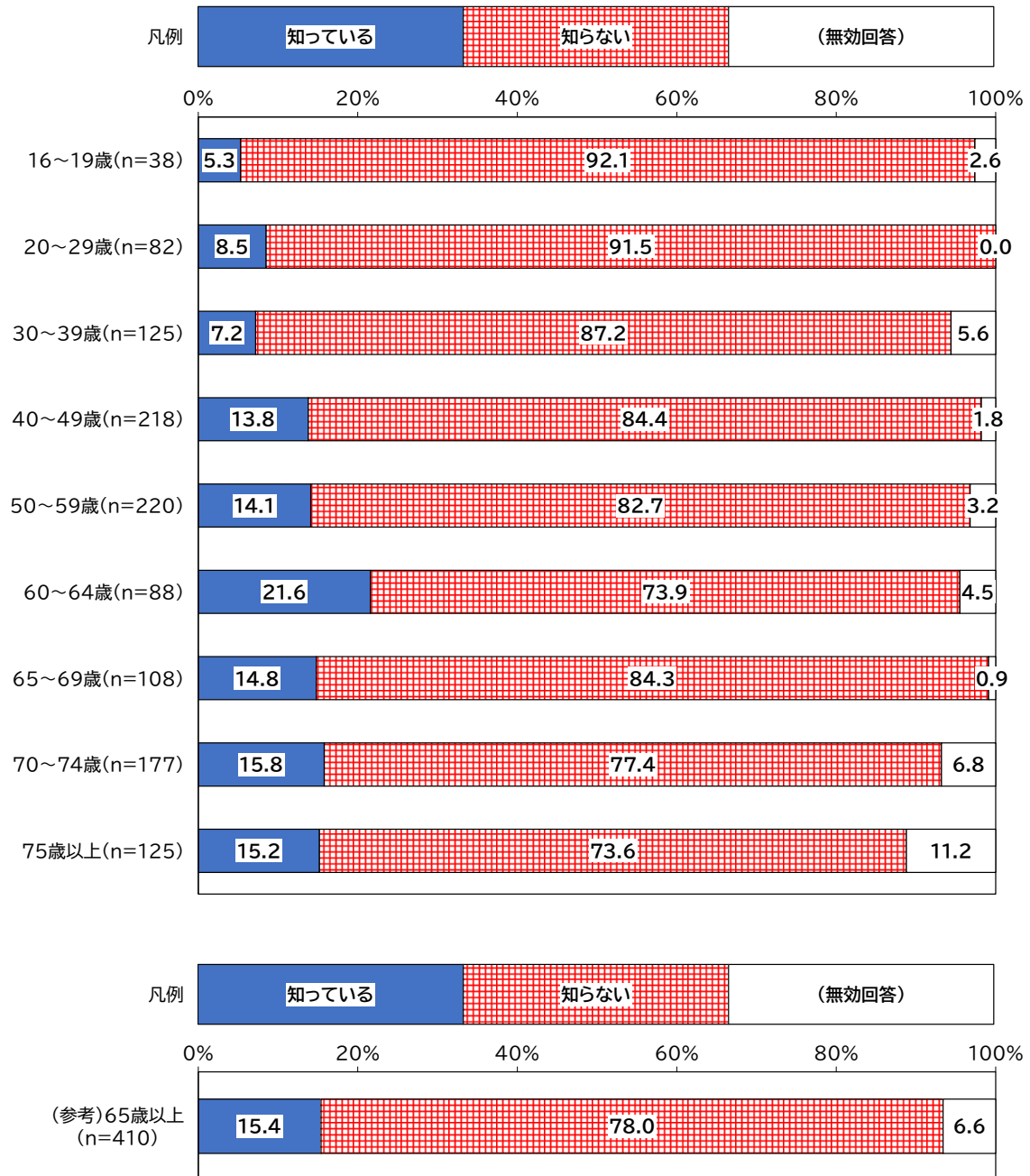
<経年比較>

○「知っている」は、平成29年度の14.8%から増減を繰り返しながら推移し、令和4年度では13.6%となっています。



<年齢層別>

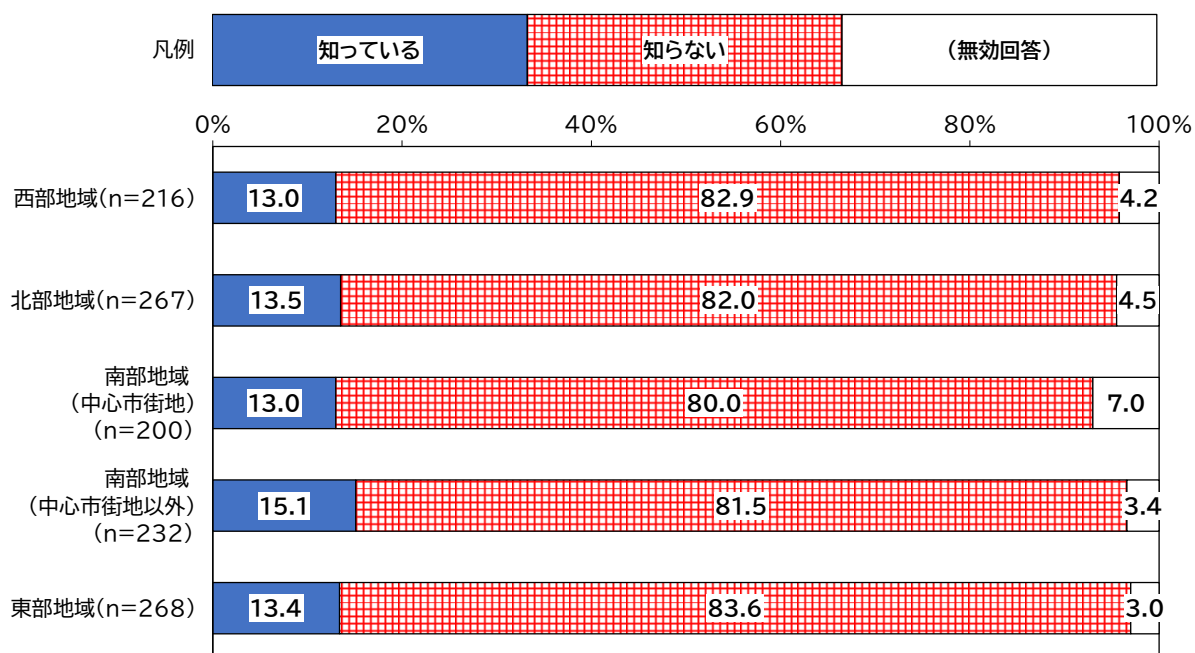
○「知っている」は、60～64歳で20%を超えています。その他の年齢層では10%台にとどまっております。「知らない」がおおむね80%台に上っています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

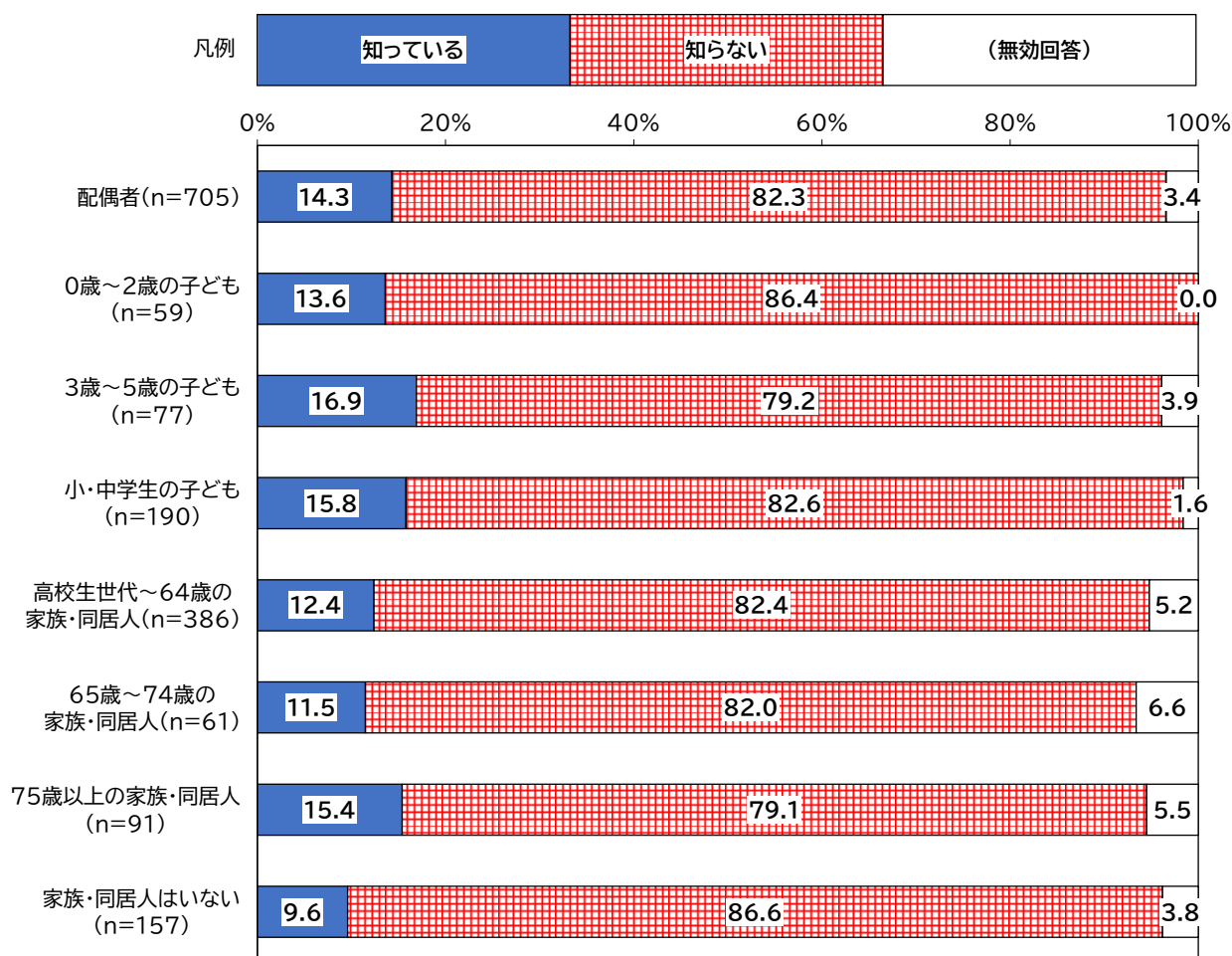
<地域別>

○いずれの地域でも「知っている」は10%台にとどまっており、「知らない」がおおむね80%台に上っています。



<同居人別>

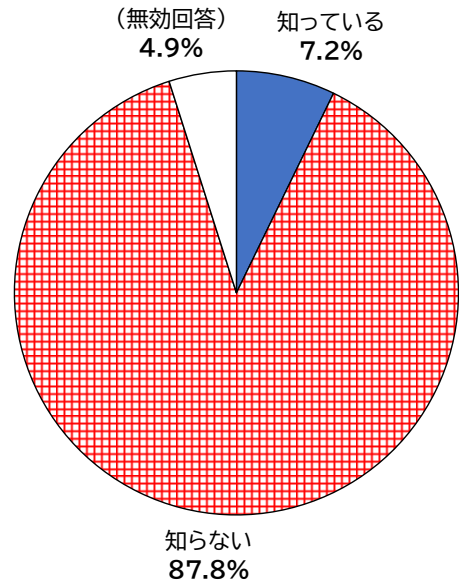
○同居人がいずれの場合でも、「知っている」は20%を下回っています。



地域支え合い推進員

<全体 (n=1,193)>

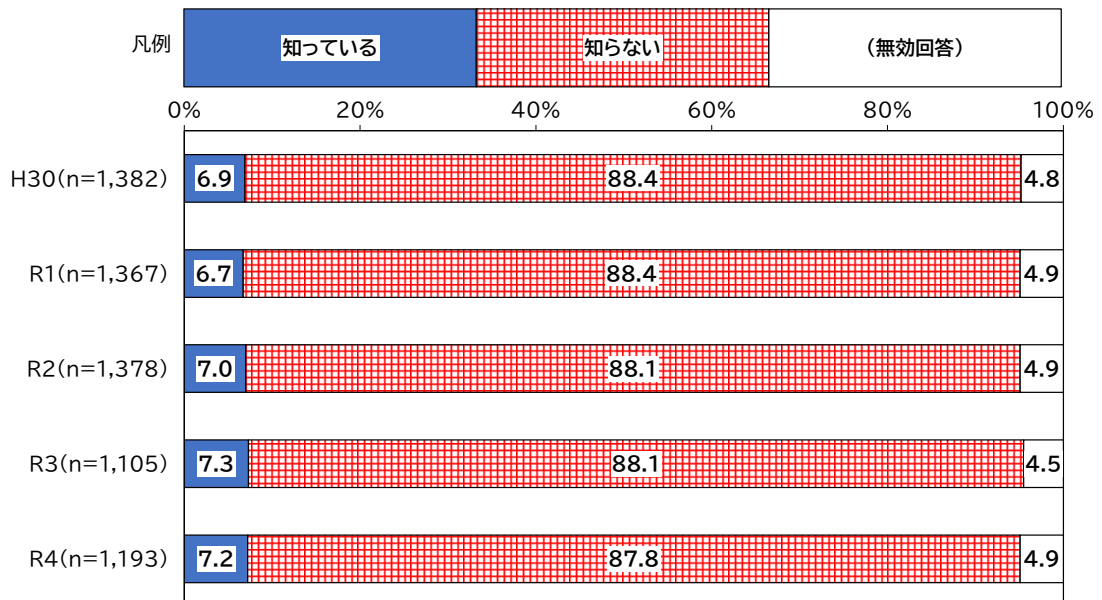
○「知っている」は 7.2%、「知らない」は 87.8%であり、後者が前者を大きく上回っています。



※地域支え合い推進員は、市全域を活動エリアとする推進員に加え、市内を8つに分けた福祉圏域に段階的に配置を進めています。介護予防や交流を目的とした活動に関する相談等に応じるなど、高齢者等が地域の中で安全・安心に暮らしていけるよう、生活支援・介護予防サービスの充実や強化に取り組んでいます。

<経年比較>

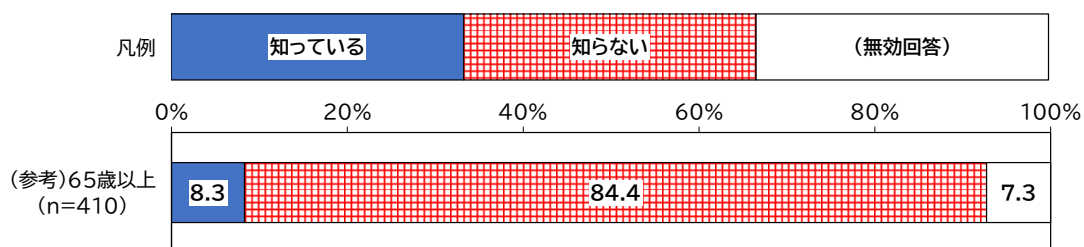
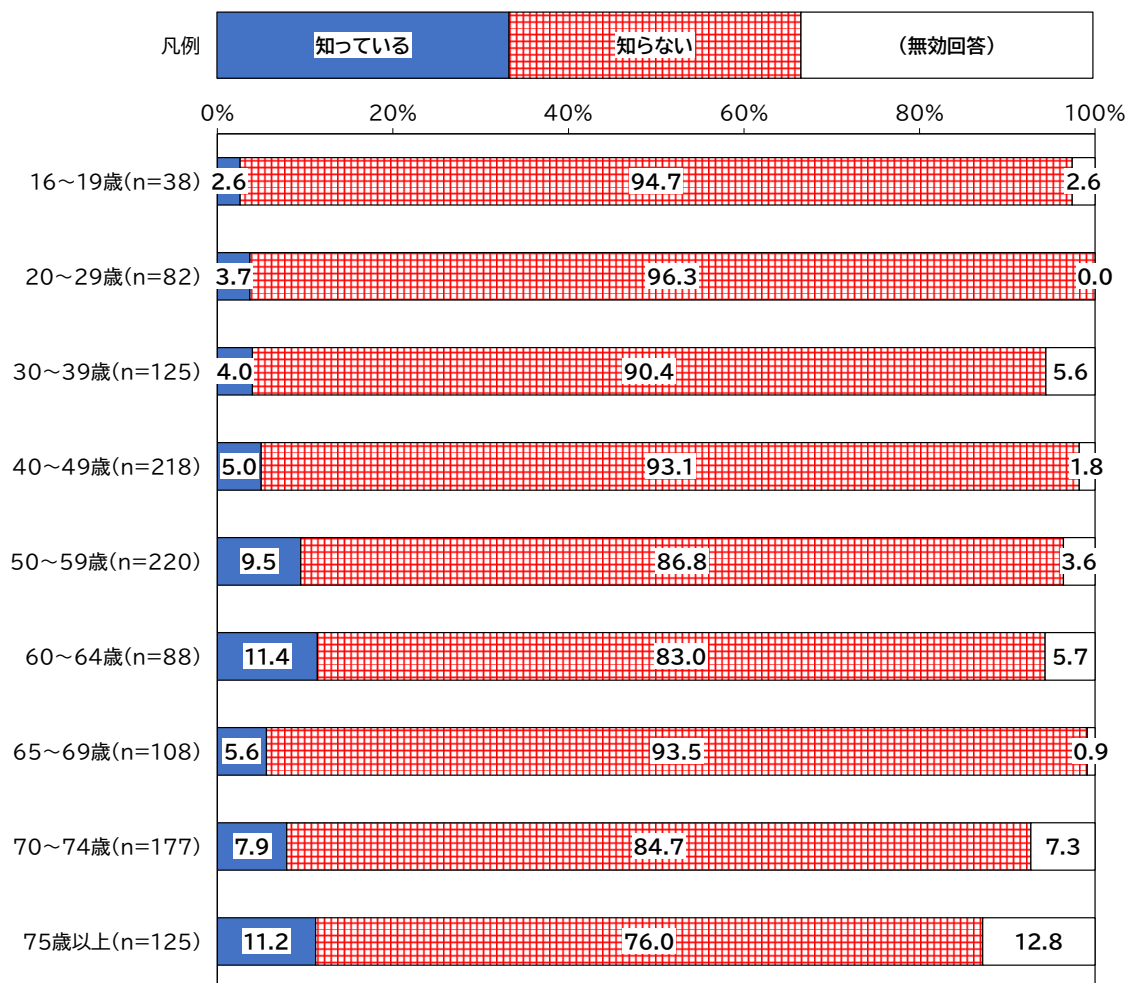
○「知っている」は、平成30年度の6.9%から増減を繰り返しながら推移し、令和4年度では7.2%となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

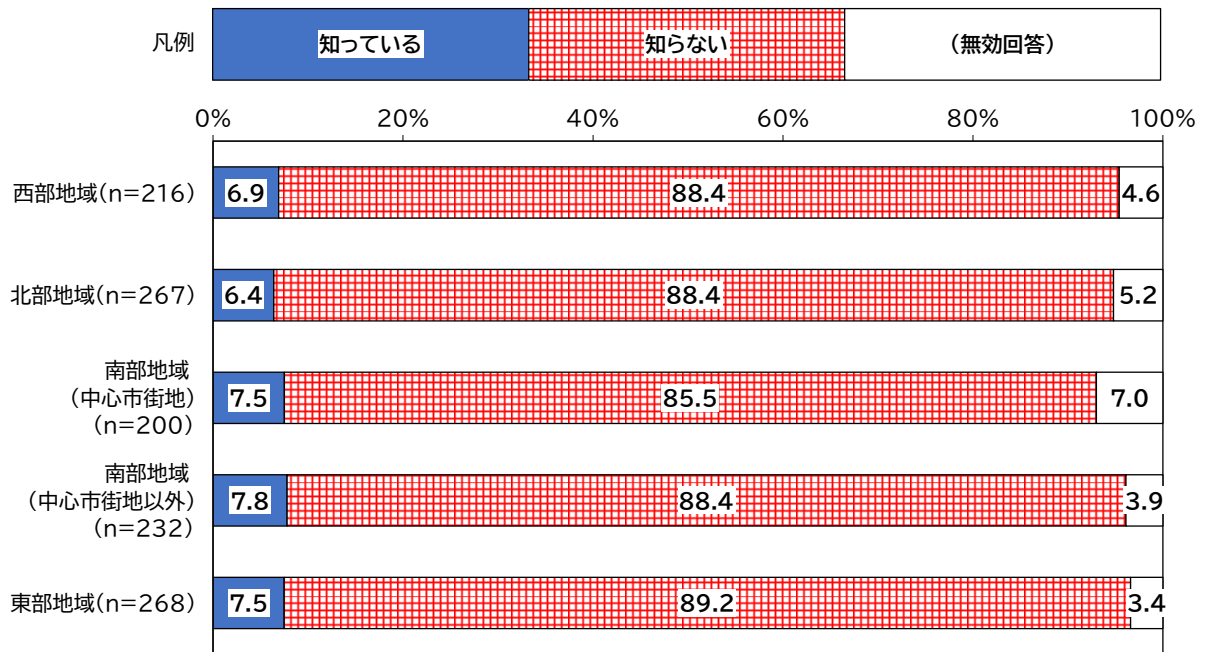
<年齢層別>

○「知っている」は最も高い60～64歳でも11.4%にとどまっており、40代以下及び65～69歳で「知らない」が90%を超えています。



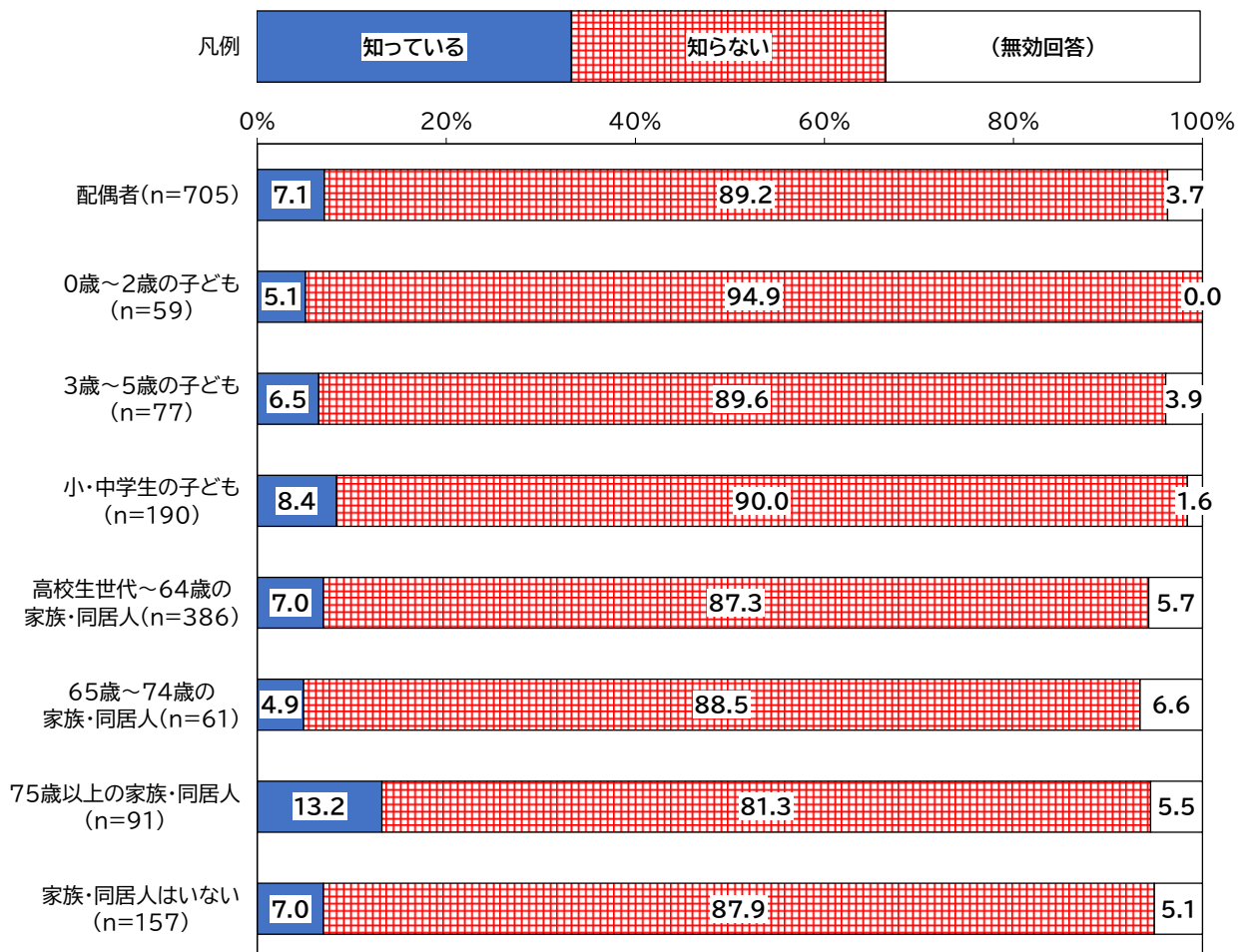
<地域別>

○いずれの地域でも「知っている」は10%未満であり、「知らない」が90%弱に上っています。



<同居人別>

○「75歳以上の家族・同居人」を除き、「知っている」は10%を下回っています。



第3章 調査結果＜日ごろの意識や行動＞

＜自由記述＞主な意見を抜粋

【図表 地域福祉，高齢者・障害者福祉についてのご意見・ご提案】（32件）

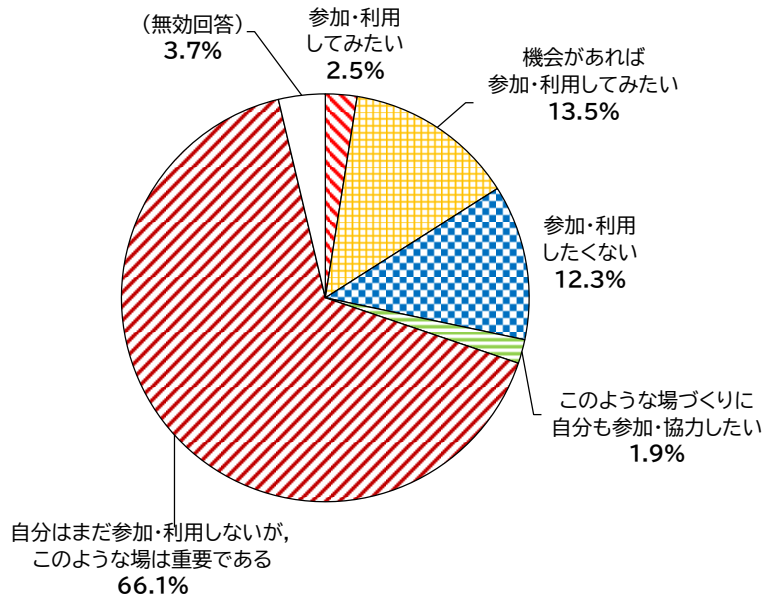
- ・ 地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員など知っている方が少ないと思うので、もう少し周知できるようにして欲しい。
- ・ 障害者の作業所の増設。高校卒業後の余暇活動の場の確保（放課後等デイサービスのよ
うな場所）こういう場所がないと、親は働くことができません。所得制限のため、手当
が受けられていないため、本人に残せるお金等、心配です。

問24) あなたは、地域における交流の場(「ひだまりサロン※」など)についてどのように感じますか。

<全体 (n=1,193)>

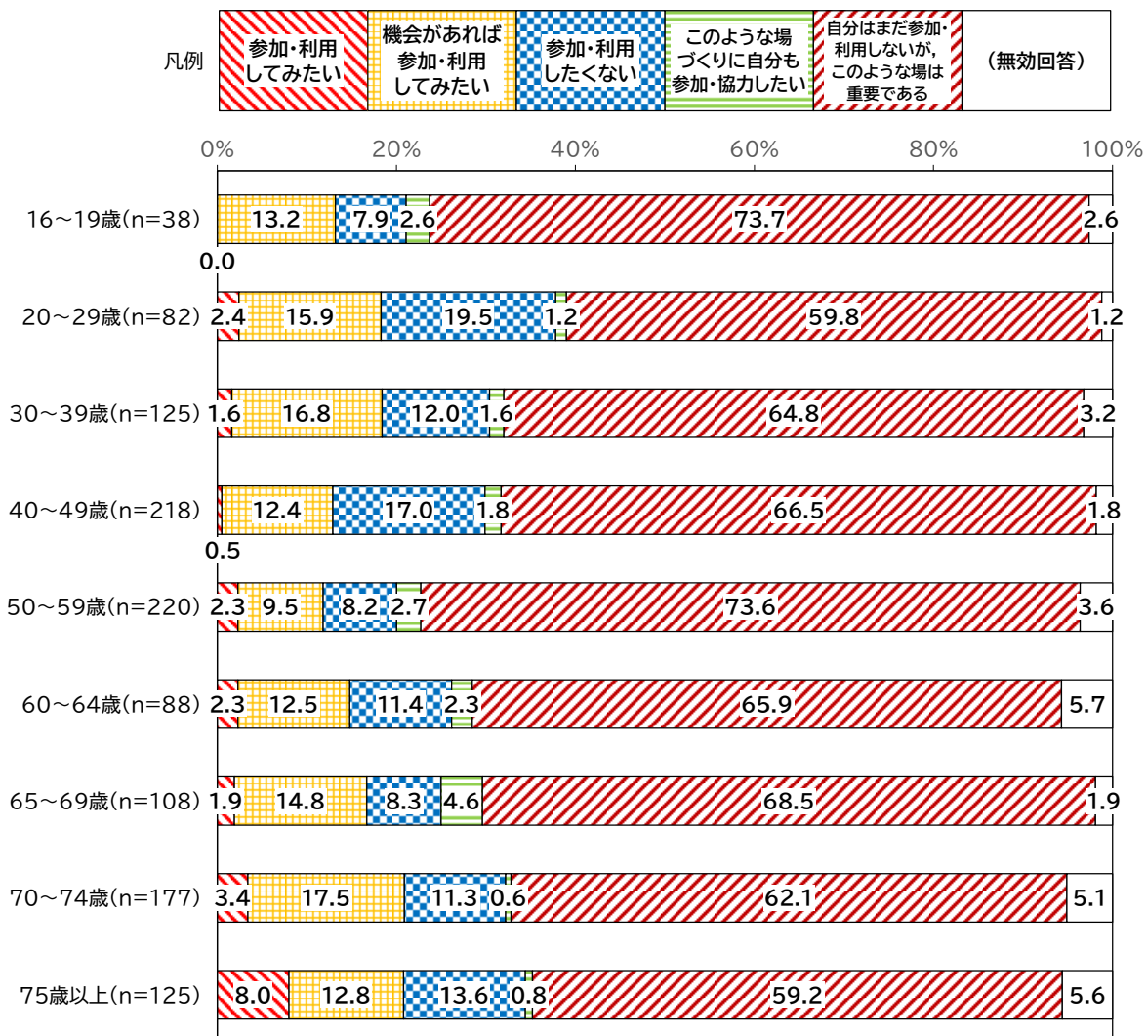
○「自分はまだ参加・利用しないが、このような場は重要である」が66.1%で最も高く、次いで「機会があれば参加・利用してみたい」の13.5%、「参加・利用したくない」の12.3%の順となっています。

※「ひだまりサロン」とは、市民が主体となり、自宅や公共施設等のスペースを活用して、ご近所同士など市民が気軽に集い、お茶やお食事をしながら、おしゃべりや趣味活動などを行う場です。市内にはひだまりサロン(令和4年1月1日現在98箇所)をはじめとした様々な交流活動の場があります。



<年齢層別>

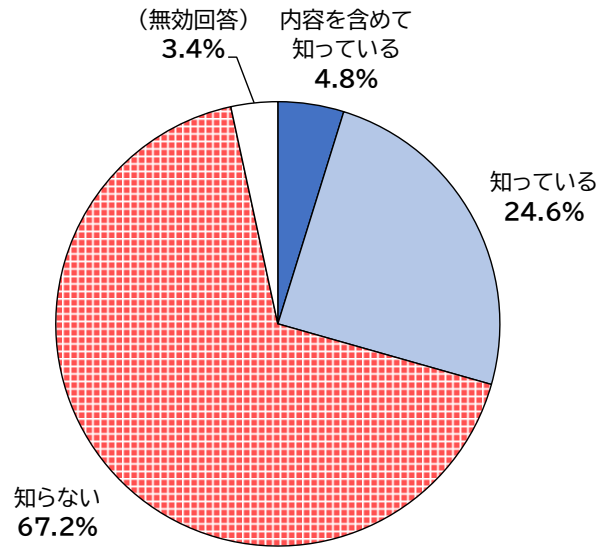
○「参加・利用してみたい」と「機会があれば参加・利用してみたい」の合計は、70~74歳が20.9%で最も高く、次いで75歳以上の20.8%となっています。



問25) あなたは、「障害者差別解消法※」を知っていますか。

<全体 (n=1,193)>

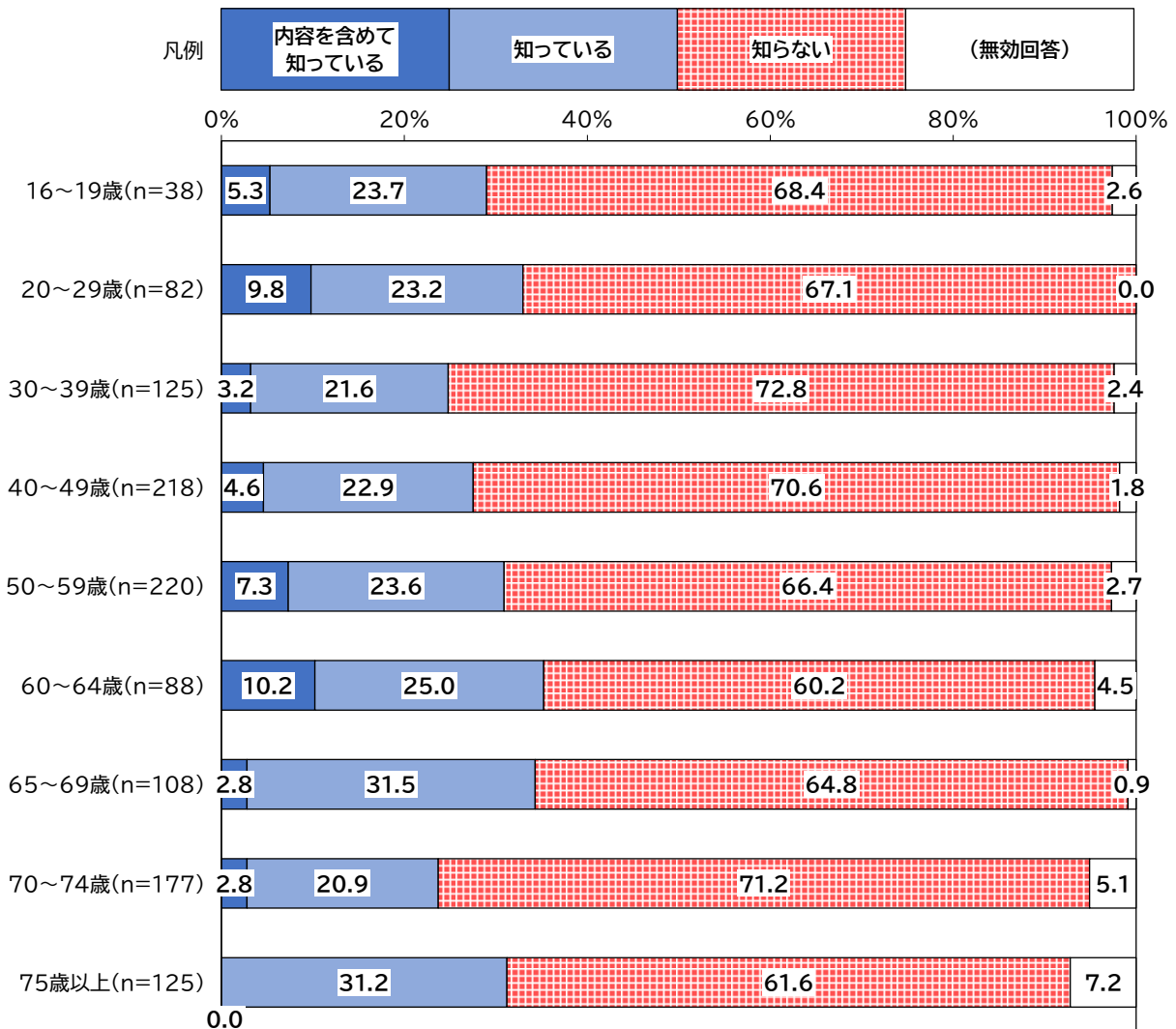
○「内容を含めて知っている」は4.8%、「知っている」は24.6%であり、合計で29.4%となっています。



※障害のある方への差別をなくすことで、障害のある方もない方も共に生きる社会（共生社会）を目指すため、国は、平成28年4月に「障害者差別解消法」を施行しました。この中で、差別とは「不当な差別的取扱いをすること」「合理的配慮をしないこと」とされています。

<年齢層別>

○60～64歳が、「内容を含めて知っている」、「知っている」の合計が35.2%で最も高く、次いで65～69歳の34.3%、20～29歳の33.0%の順となっています。

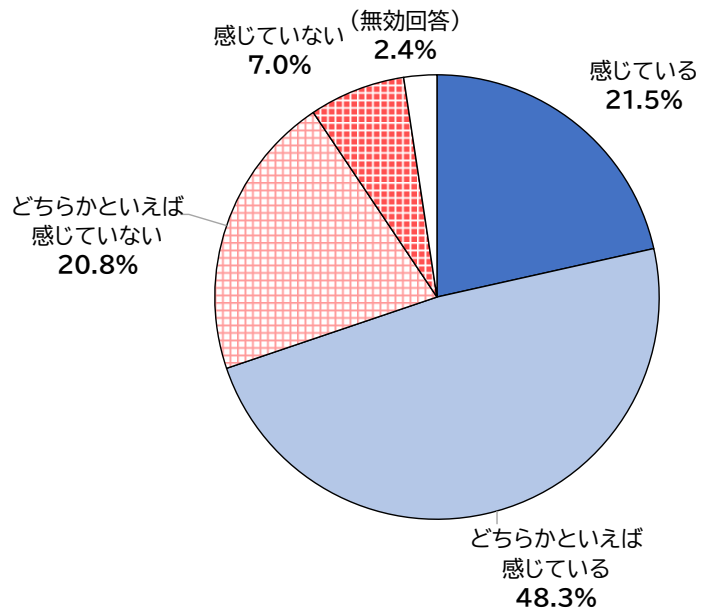


【健康づくりについて】

問 26) あなたは、心身ともに健康だと感じていますか。

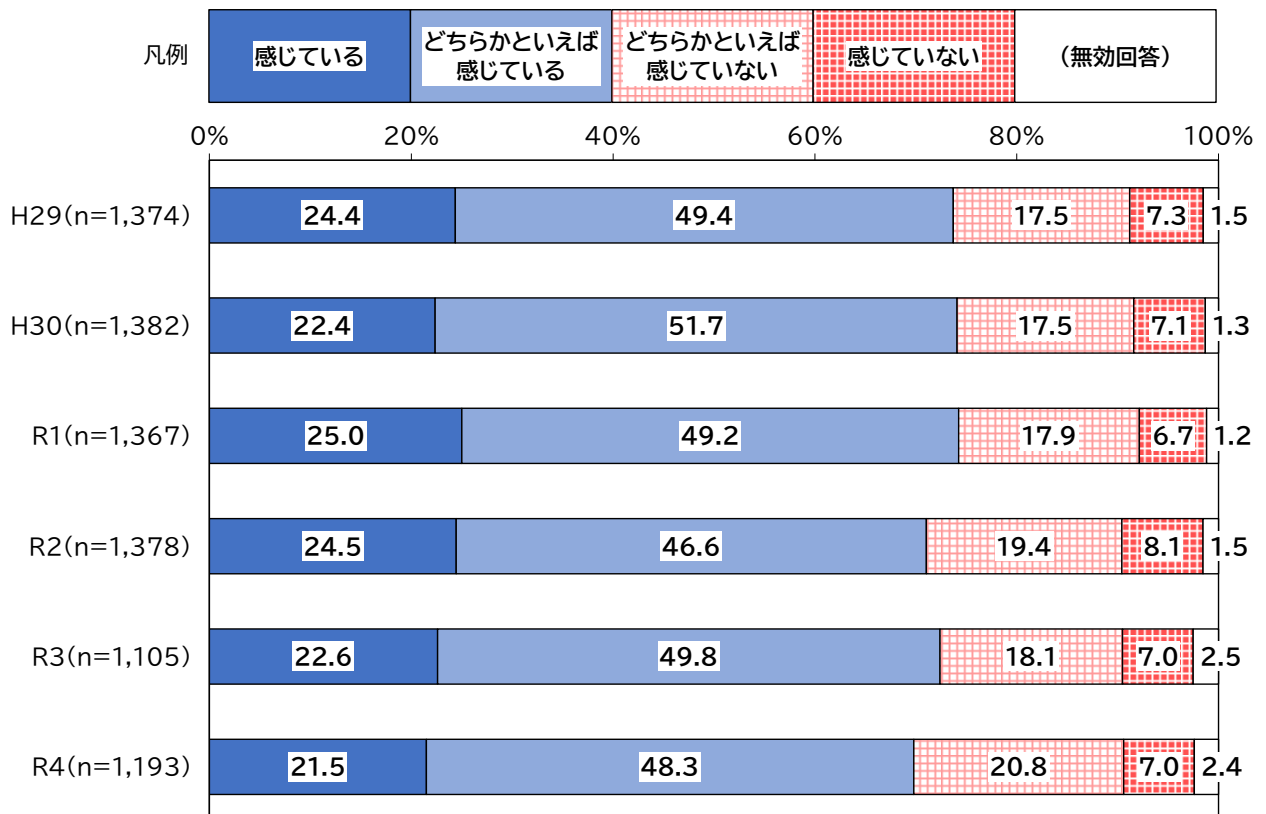
<全体 (n=1,193) >

- 心身ともに健康だと「感じている」は 21.5%、「どちらかといえば感じている」は 48.3%であり、合計で 69.8%を占めています。
- 一方、「感じていない」と「どちらかといえば感じていない」の合計は 27.8%となっています。



<経年比較>

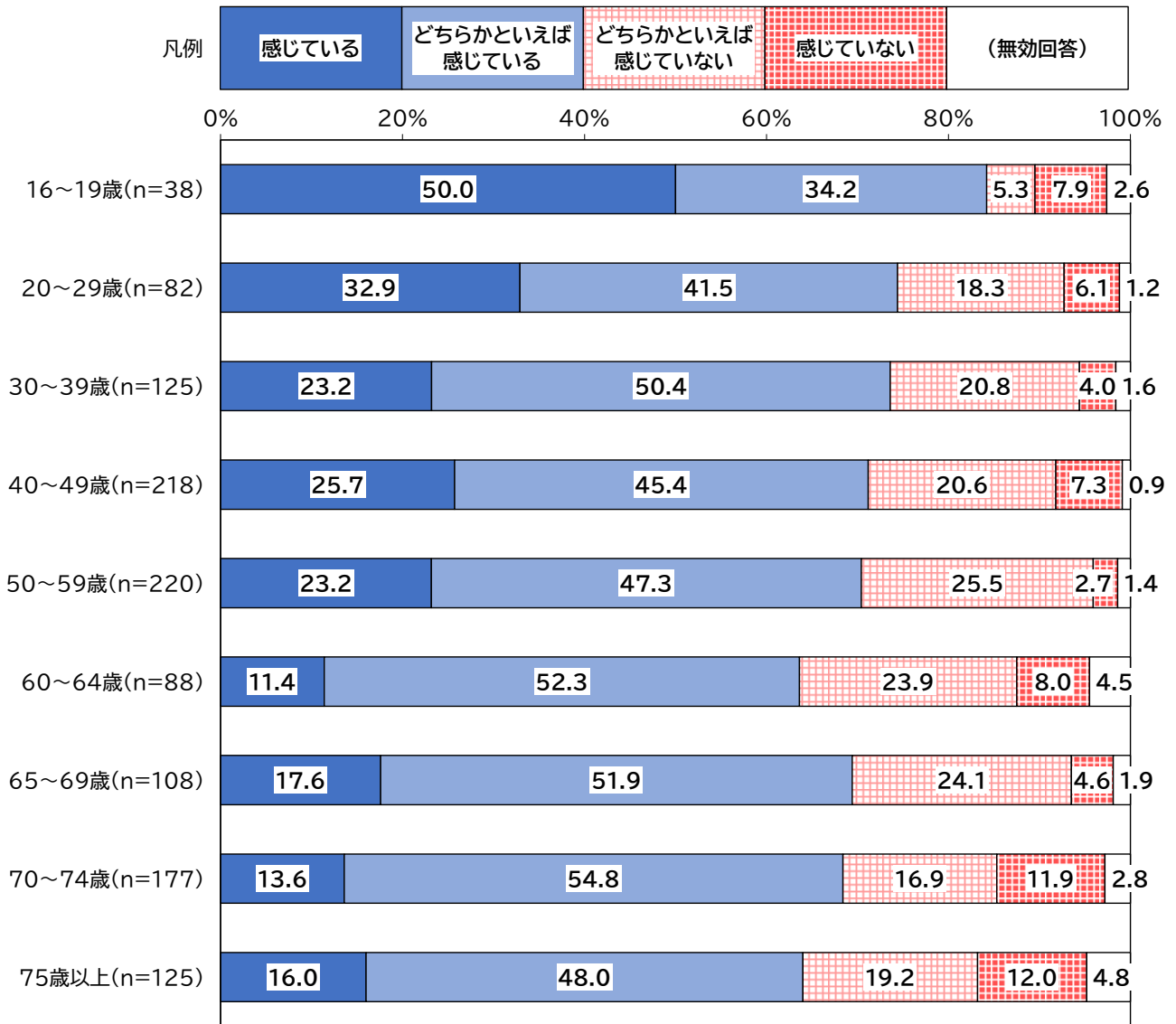
- 「感じている」、「どちらかといえば感じている」の合計 (69.8%) は、令和3年度 (72.4%) に比べ 2.6ポイント減少しています。
- 「感じていない」、「どちらかといえば感じていない」の合計 (27.8%) は、令和3年度 (25.1%) に比べ 2.7ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計は、全ての年齢層で60%を超えていますが、おおむね年齢が上がるにつれて、低下する傾向にあります。



<自由記述>主な意見を抜粋

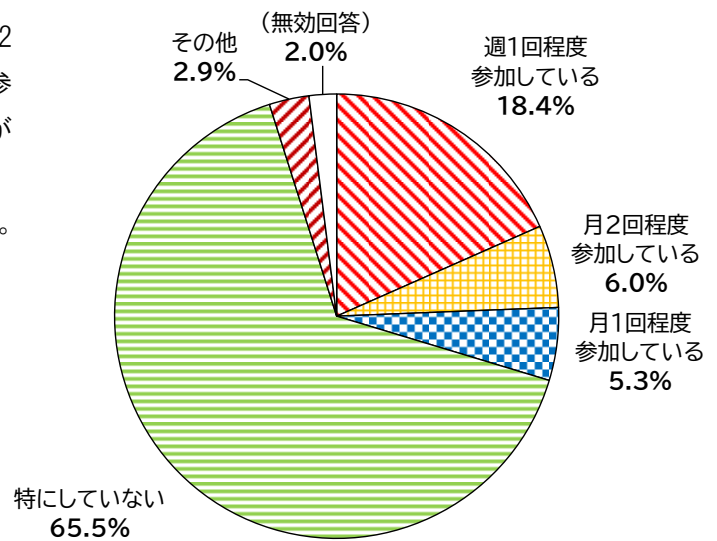
【図表 健康づくりに関する施策についてのご意見・ご提案】(67件)

- ・誰でも参加出来る体操教室（ラジオ体操だけでなく）を定期的を実施。食事，栄養指導の講習など。
- ・専門家の健康講座等を開いて欲しい（病気，減量，健康維持などについて）
- ・身体だけでなく，心の健康維持にも，力を入れてほしい。
- ・市の活動は65歳以上を対象にしているものが多いと思う。50~64歳に対しての活動が少ないと思う。増やしてほしい。
- ・市や公共の取り組み=高齢者のための取り組み，というイメージが持たれてしまっていると思うが，若者も参加しやすい企画をお願いしたい。
- ・仕事休業日（土・日など）に中高年が参加できるスポーツ指導が受けられる場を設けて欲しい（平日が多い）

問27) あなたは、健康ではりのある生活のため、趣味活動や地域活動などに参加していますか。

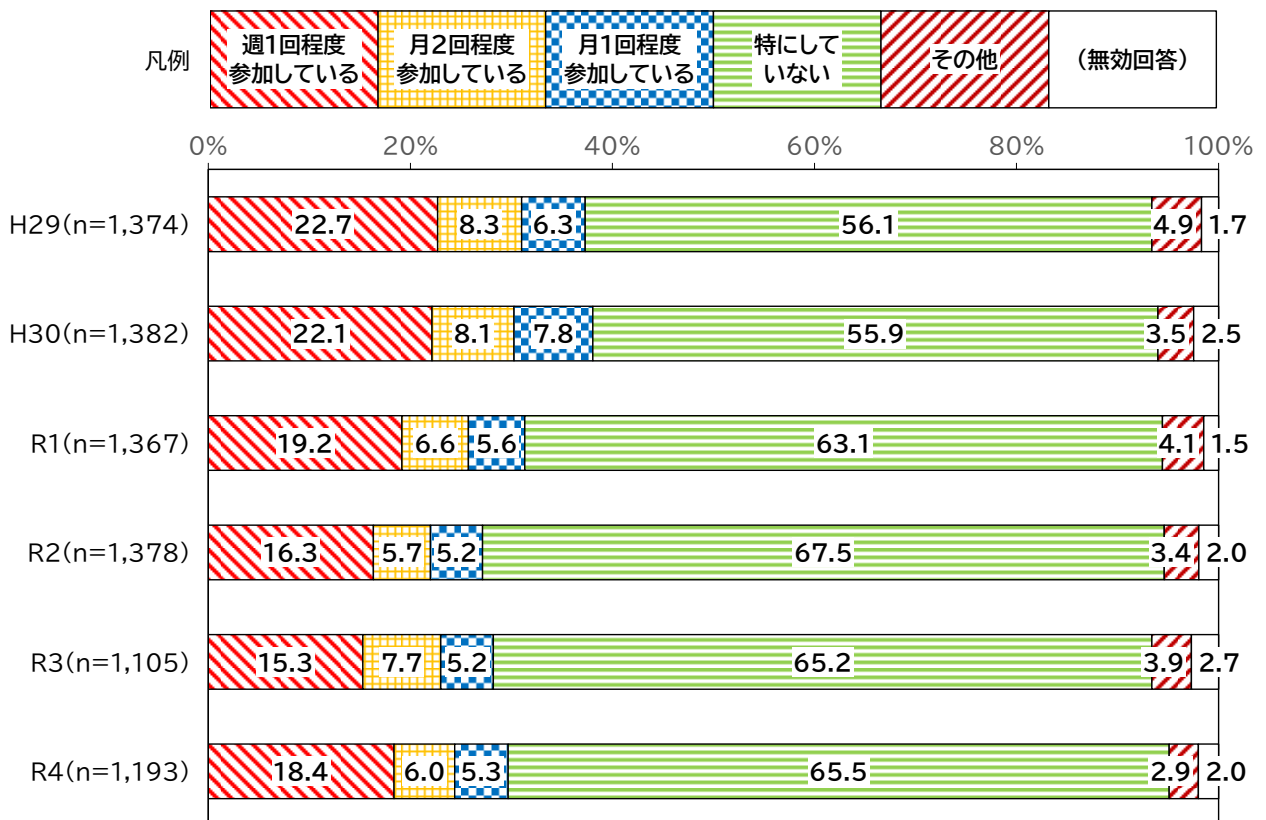
<全体 (n=1,193) >

- 「週1回程度参加している」が18.4%、「月2回程度参加している」が6.0%、「月1回程度参加している」が5.3%であり、これらの合計が29.7%を占めています。
- 「特にしていない」は65.5%となっています。



<経年比較>

- 「参加している」の合計 (29.7%) は、令和3年度 (28.2%) に比べ1.5ポイント増加しています。
- 一方、「特にしていない」(65.5%) は、令和3年度 (65.2%) に比べ0.3ポイント増加しています。

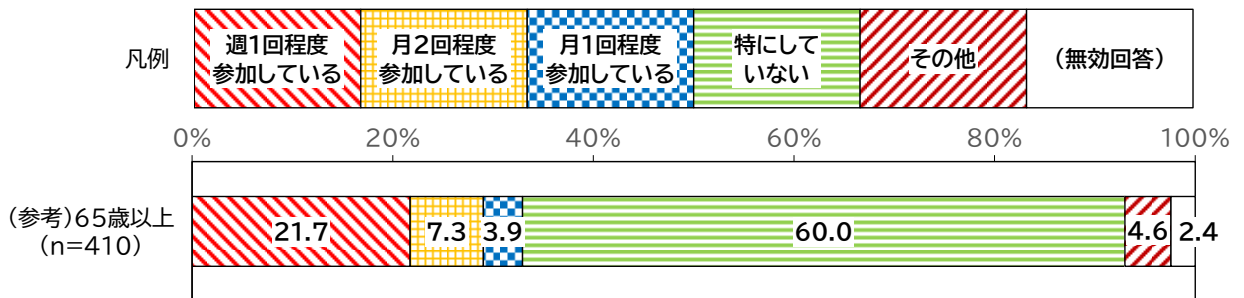
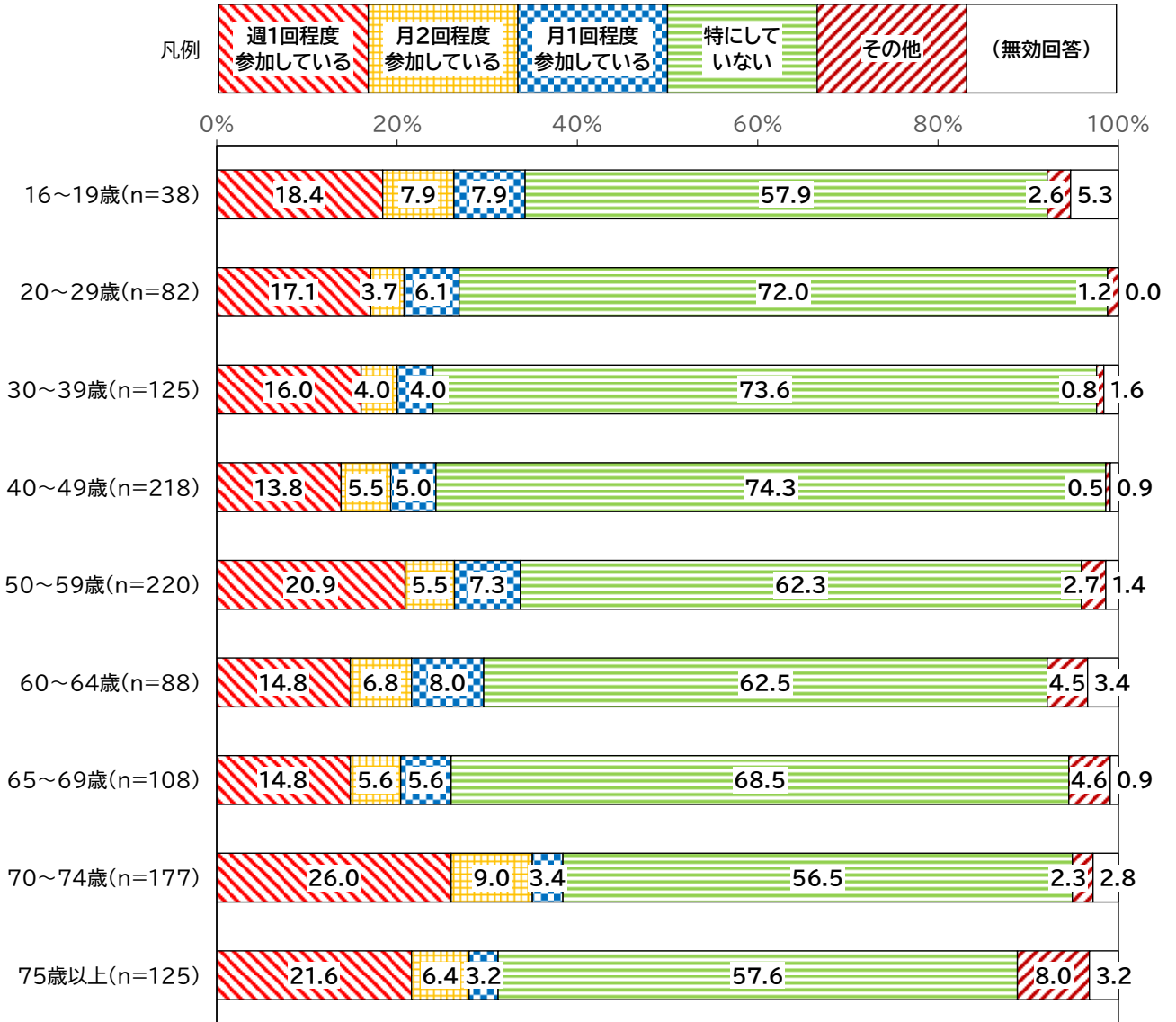


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○「参加している」の合計は、16～19歳、50～59歳及び70歳以上では30%台となっています。

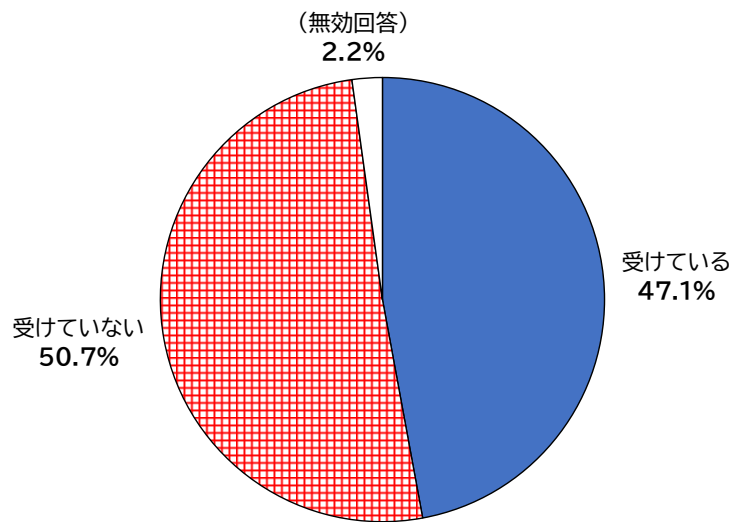
○「特にしていない」は、いずれの年齢層も50%を超えており、特に20～49歳では、70%を上回っています。



問28) あなたは、定期的ながん検診を受けていますか。

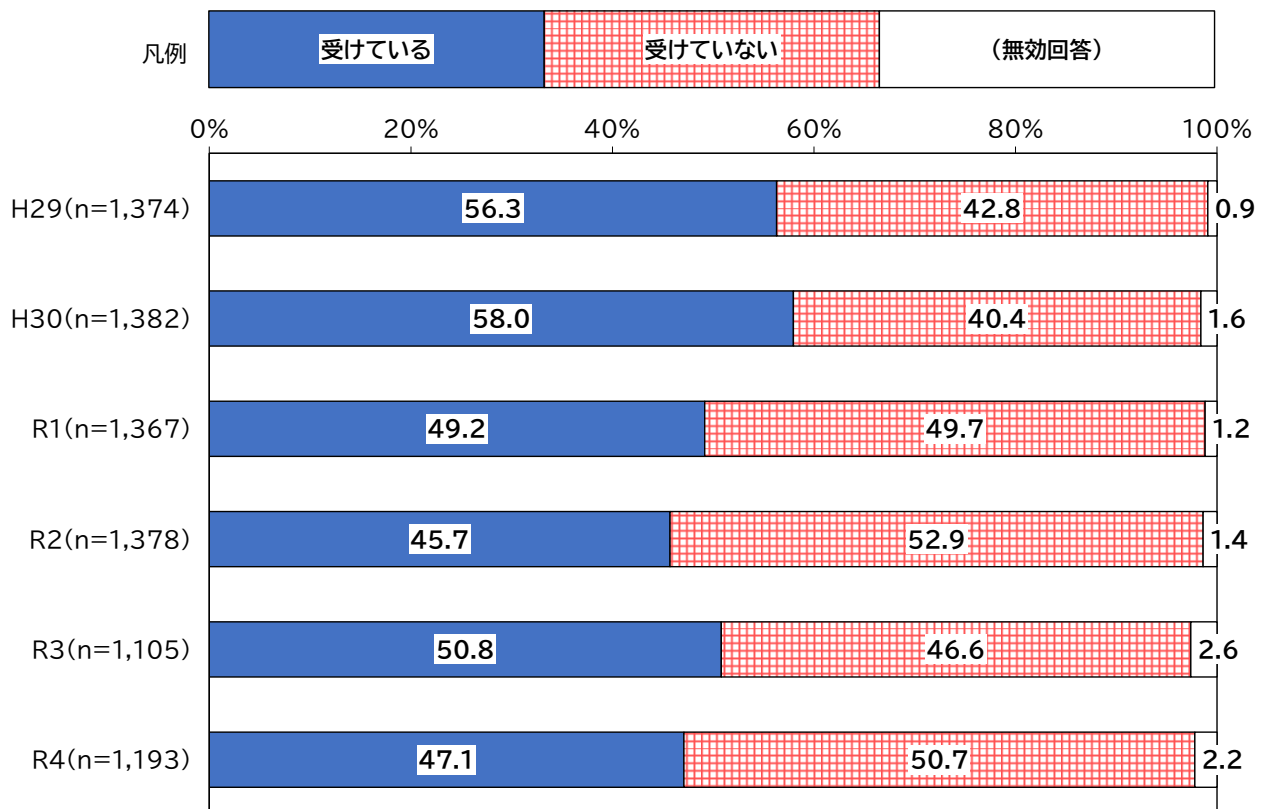
<全体 (n=1,193) >

- 「受けている」は47.1%、「受けていない」は50.7%であり、「受けていない」の割合がやや高くなっています。



<経年比較>

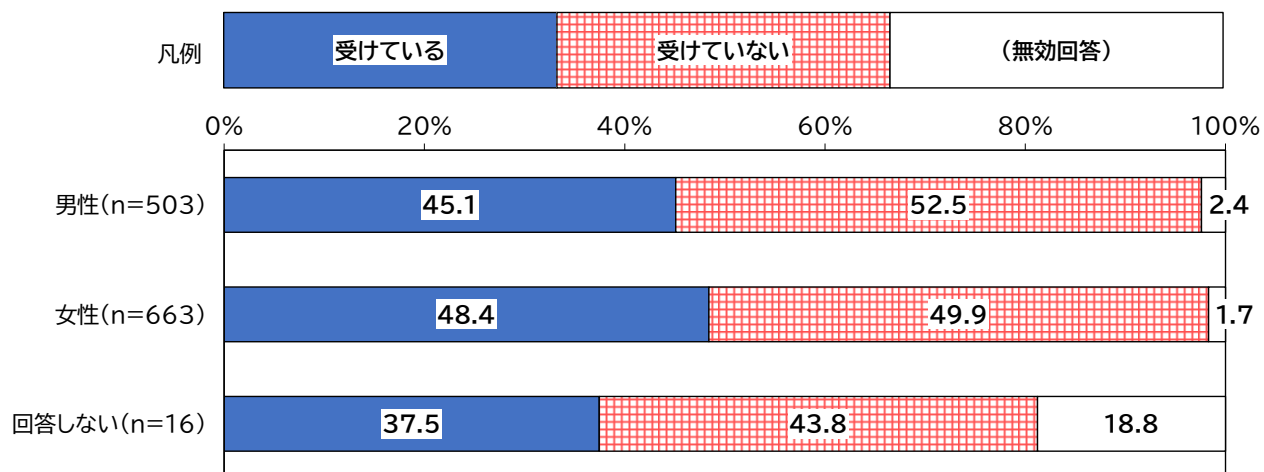
- 「受けている」は、令和3年度(50.8%)は令和2年度(45.7%)に比べて5.1ポイント増加しましたが、令和4年度(47.1%)には、3.7ポイント減少しています。
- 「受けていない」(50.7%)は、令和3年度(46.6%)に比べて4.1ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

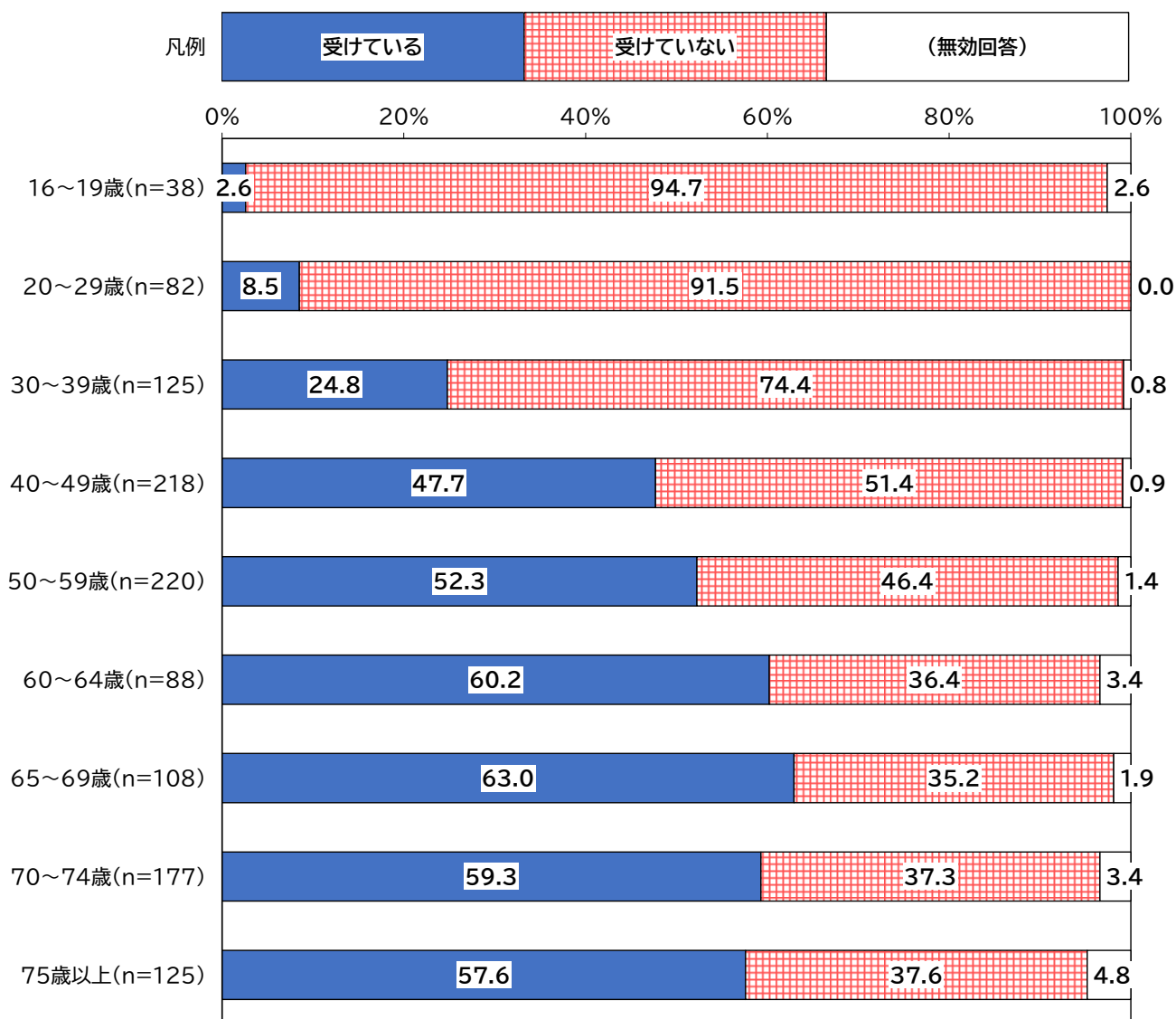
<性別>

○「受けている」は男性が45.1%、女性は48.4%で、女性が男性を若干上回っています。



<年齢層別>

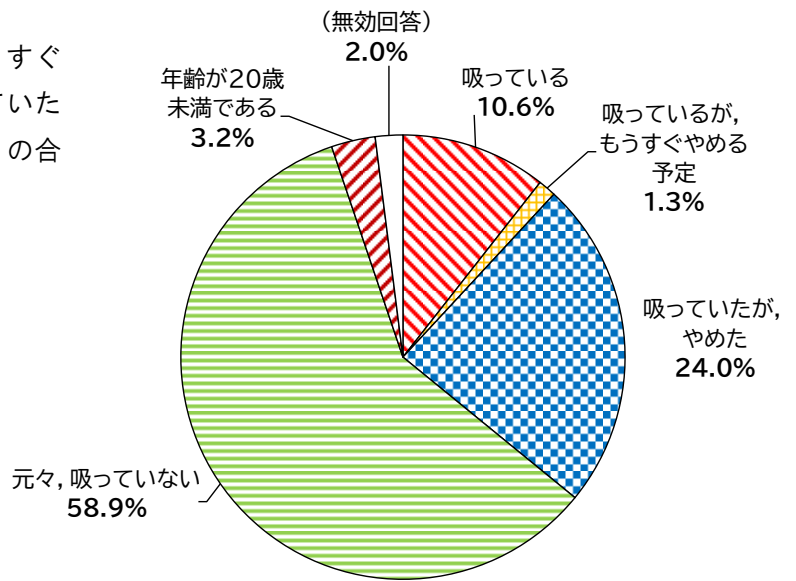
○「受けている」は、おおむね年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、50歳以上ではいずれの年齢層でも50%を超えています。



問29) あなたは普段、たばこ（紙巻きたばこ・加熱式たばこ、葉巻）を吸いますか。（ここでは、受動喫煙（他の方の喫煙によりたばこの煙を吸ってしまうこと）は含みません。）

<全体 (n=1,193) >

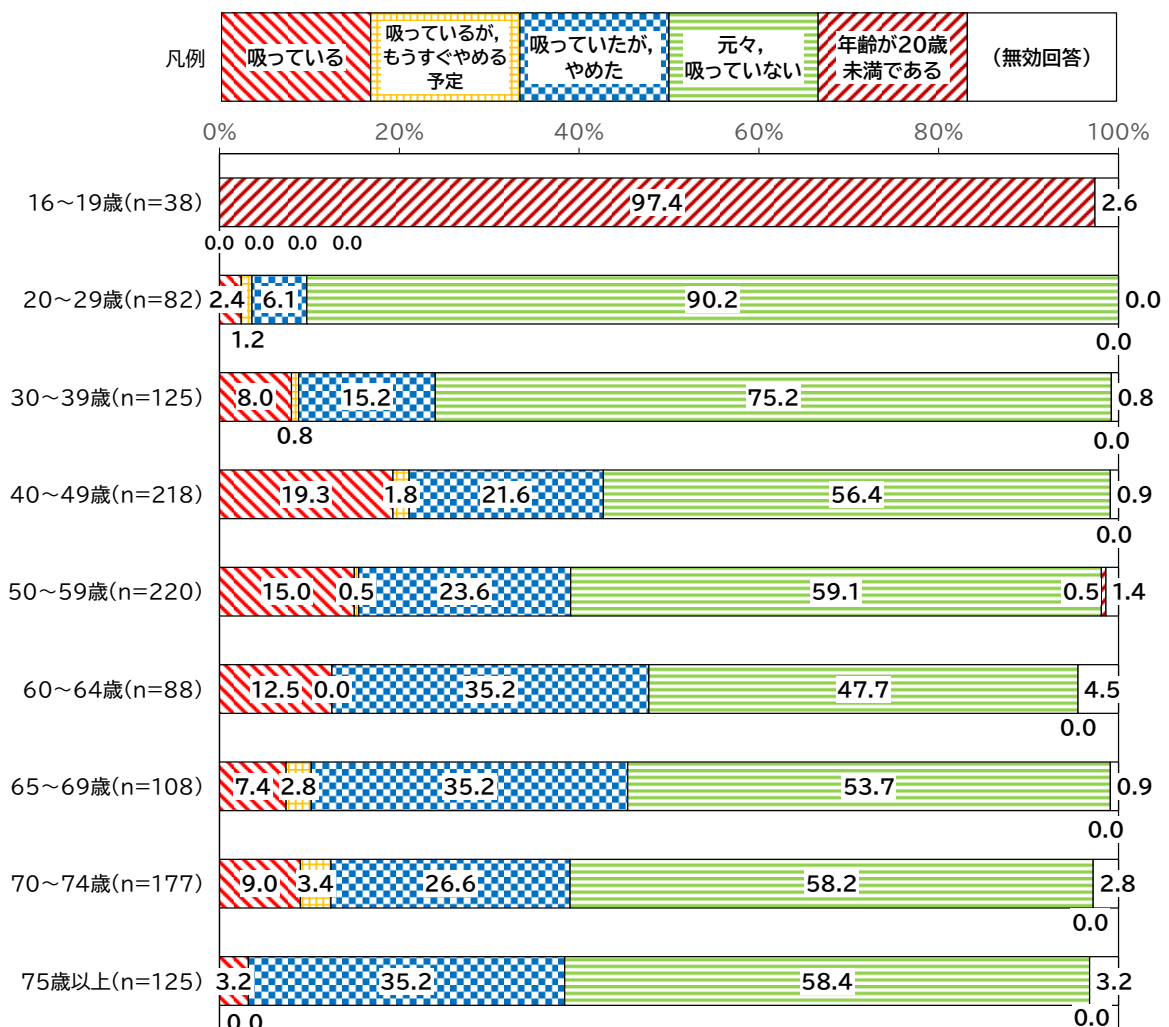
○「吸っている」と「吸っているが、もうすぐやめる予定」の合計が11.9%、「吸っていたが、やめた」と「元々、吸っていない」の合計が82.9%となっています。



<年齢層別>

○「吸っている」と「吸っているが、もうすぐやめる予定」の合計は、40～49歳が21.1%で最も高く、次いで50～59歳の15.5%の順となっています。

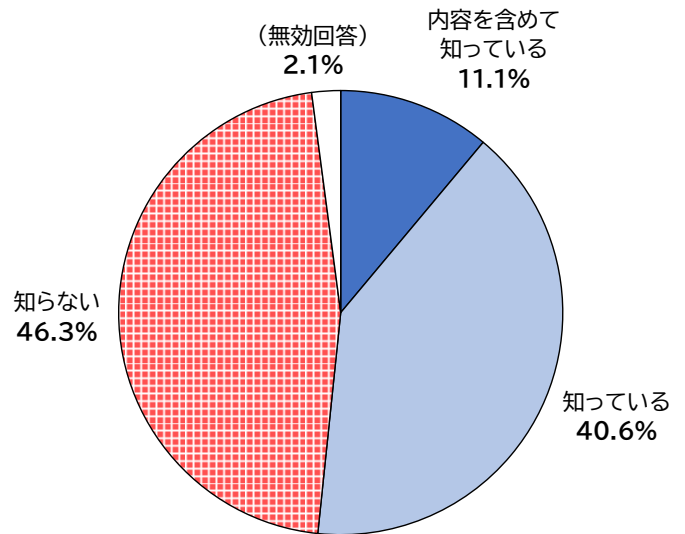
○20～29歳では「元々、吸っていない」が90.2%で、他の年齢層に比べて最も高くなっています。



問30) 調布市受動喫煙防止条例※（平成31年3月公布，令和元年7月施行）を知っていますか。

<全体 (n=1,193) >

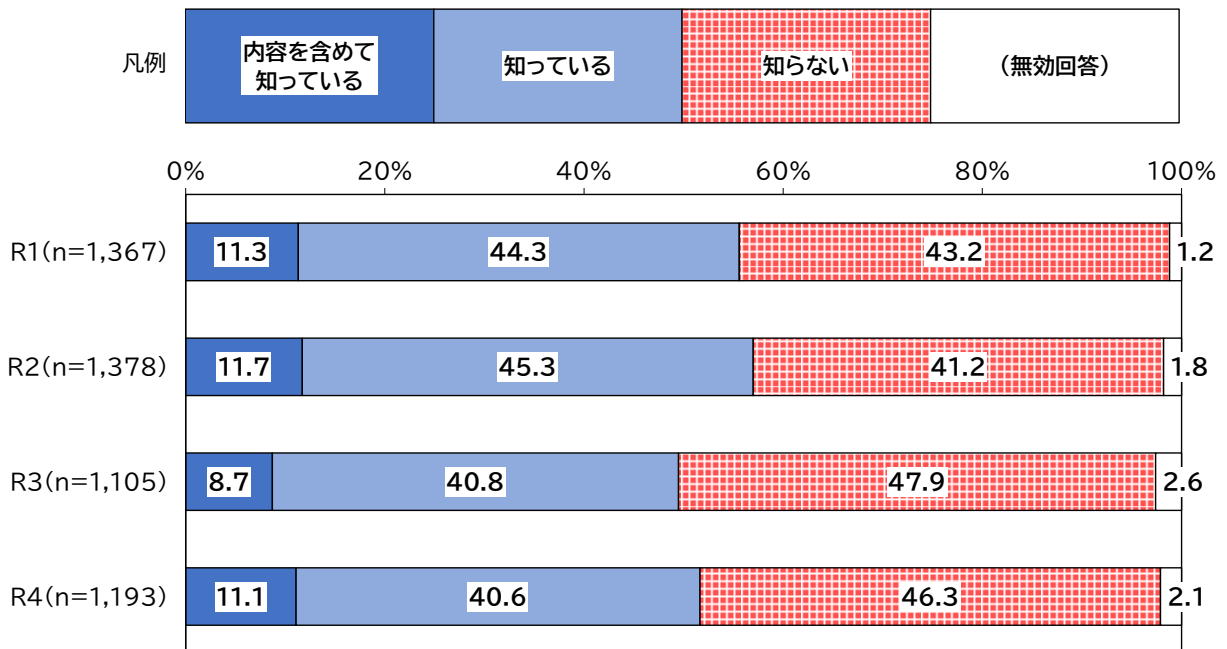
○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計が51.7%となっています。



※市は，受動喫煙による健康への悪影響から市民等を守るとともに受動喫煙及び喫煙による身体への悪影響等に関する啓発及び教育を行うことにより，次代を担う子どもたちをはじめ誰もが健康に暮らせるまち調布の実現に寄与することを目的として「調布市受動喫煙防止条例」を施行しています。

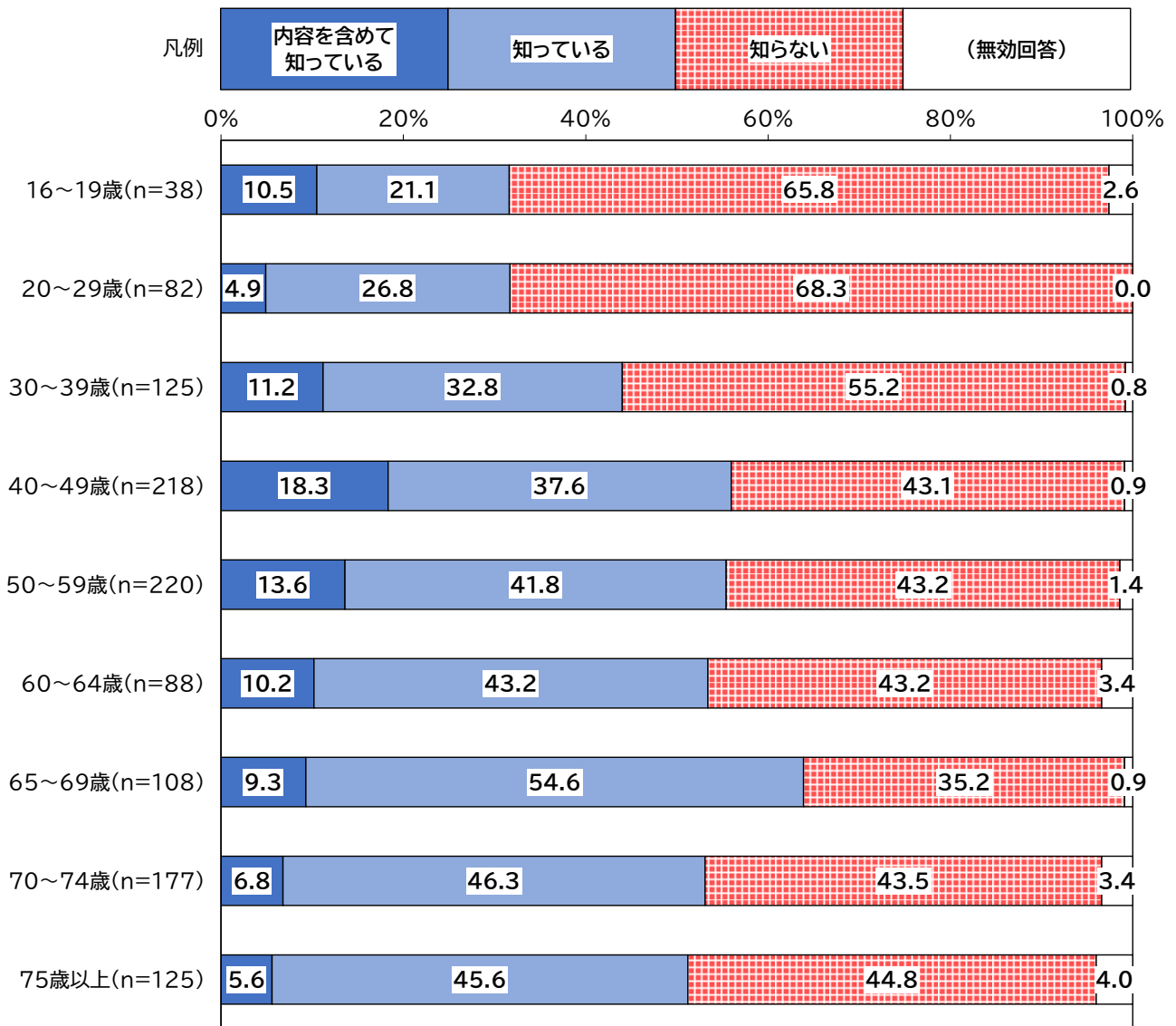
<経年比較>

○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計（51.7%）は，令和3年度（49.5%）に比べ2.2ポイント増加しています。



<年齢層別>

○「内容を含めて知っている」と「知っている」の合計は、65～69歳が63.9%で最も高く、次いで40～49歳の55.9%の順となっています。

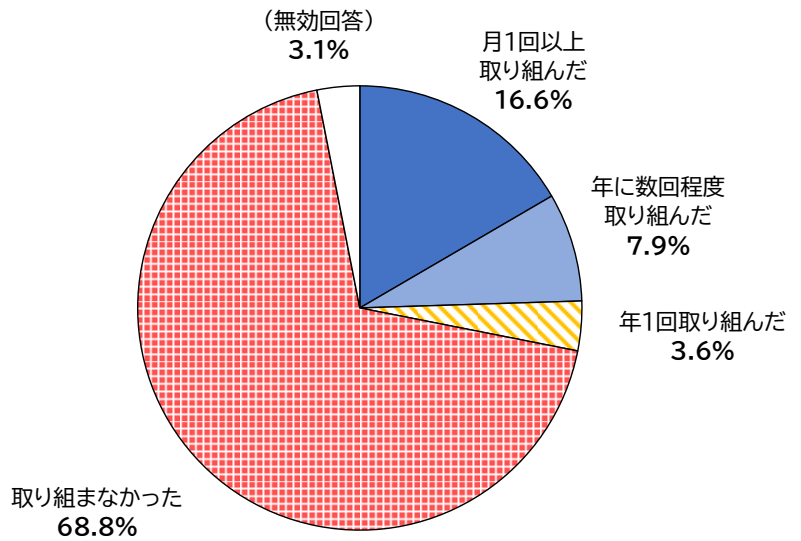


【生涯学習について】

問31) あなたは、この1年の間に、生涯学習※に取り組みましたか。

<全体 (n=1,193) >

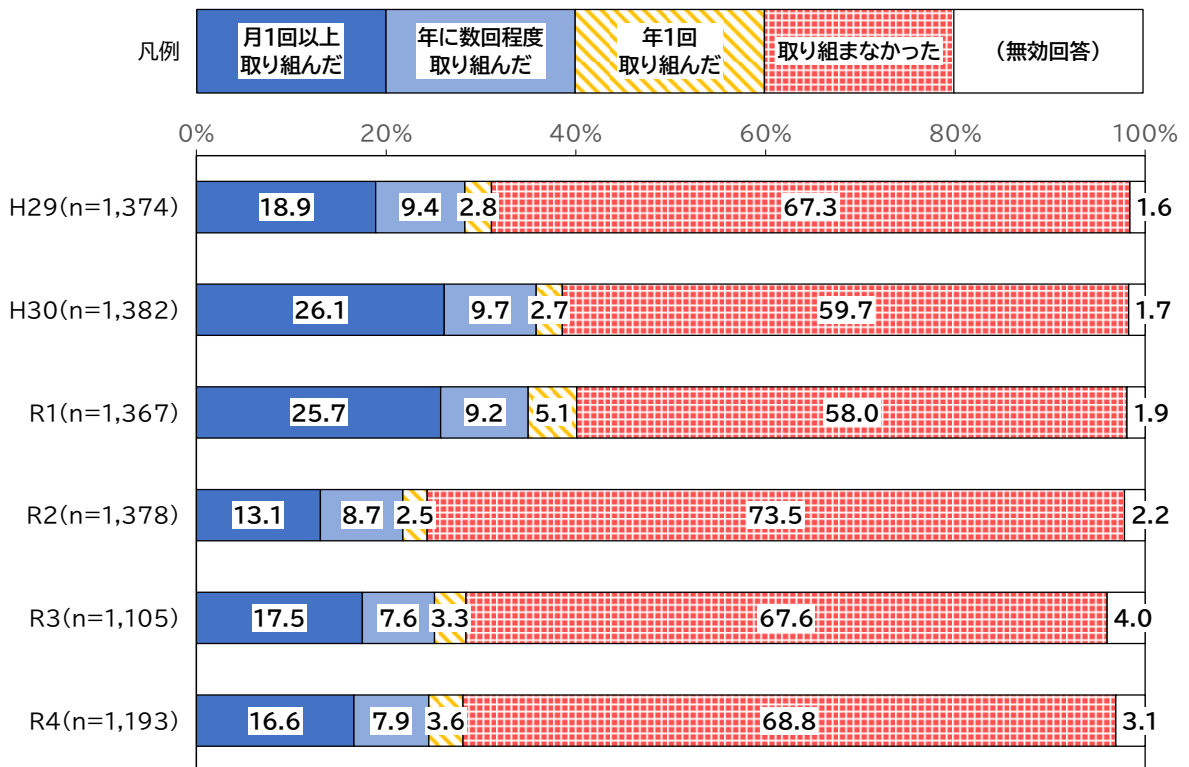
- 「月1回以上取り組んだ」が16.6%、「年に数回程度取り組んだ」が7.9%、「年1回取り組んだ」が3.6%であり、生涯学習に年1回以上取り組んだ人は合計で28.1%となっています。
- 一方、「取り組まなかった」は68.8%となっています。



※「生涯学習」とは、人々が自発的意思に基づいて生涯を通じて行う学習のことで、学校や社会教育施設のほか、家庭・職場・地域などで行われる学習や、文化・スポーツ・レクリエーション・ボランティア・趣味など生活のあらゆる場面でされる学習が含まれます。

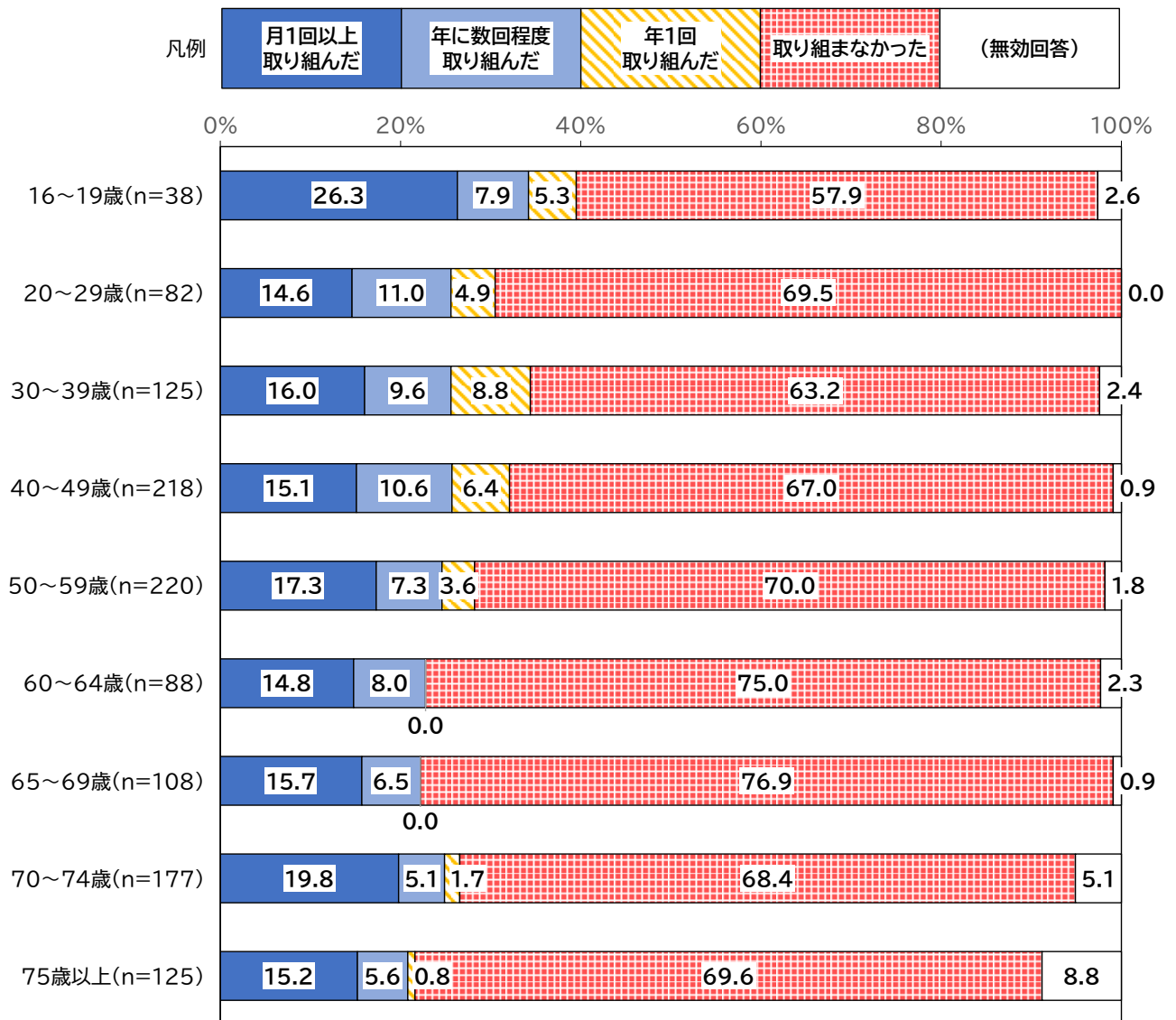
<経年比較>

- 「取り組んだ」の合計 (28.1%) は、令和3年度 (28.4%) に比べて0.3ポイント減少しています。
- 「取り組まなかった」 (68.8%) は、令和3年度 (67.6%) と比較して1.2ポイント増加しています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層でも生涯学習に年1回以上取り組んだ方の割合は40%を下回っており、おおむね年齢が上がるにつれて、低下する傾向にあります。



<自由記述>主な意見を抜粋

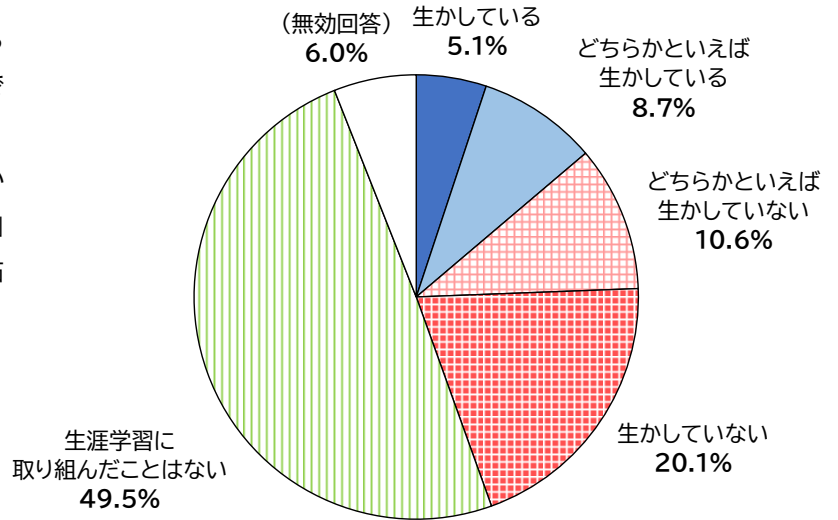
【図表 生涯学習に関する施策についてのご意見・ご提案】(38件)

- ・ 自身で道具を揃える必要がないよう、レンタルシステムを充実させることにより複数種、気軽に参加しやすくなります。
- ・ 年齢層や時間に幅を持った情報が欲しい。
- ・ 市で行っている生涯学習は年齢層が上の方々が長く続けている方が多く、参加しにくい。

問 32) あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、まちづくりや仲間づくり、地域活動など自分以外のために生かしていますか。

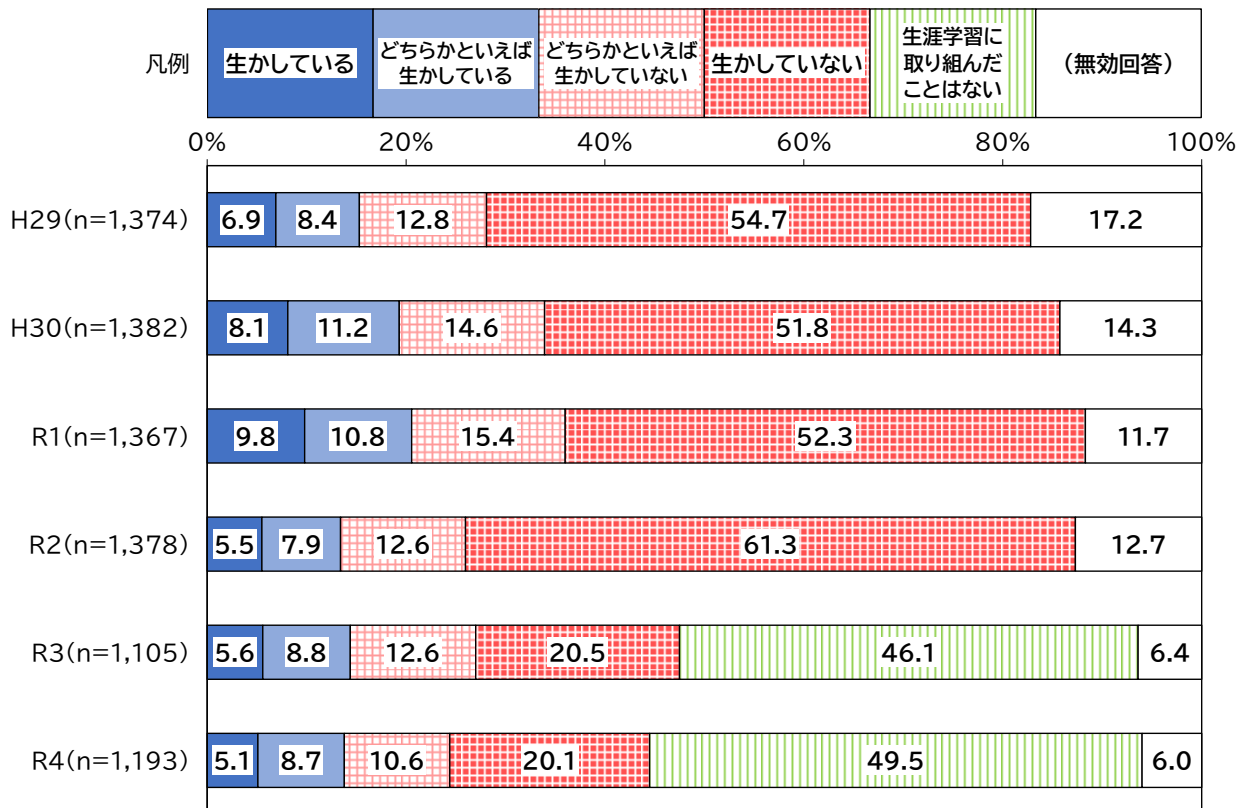
<全体 (n=1,193) >

- 「生かしている」は 5.1%、「どちらかといえば生かしている」は 8.7%であり、合計で 13.8%となっています。
- 一方、「どちらかといえば生かしていない」は 10.6%、「生かしていない」は 20.1%であり、合計で 30.7%を占めています。



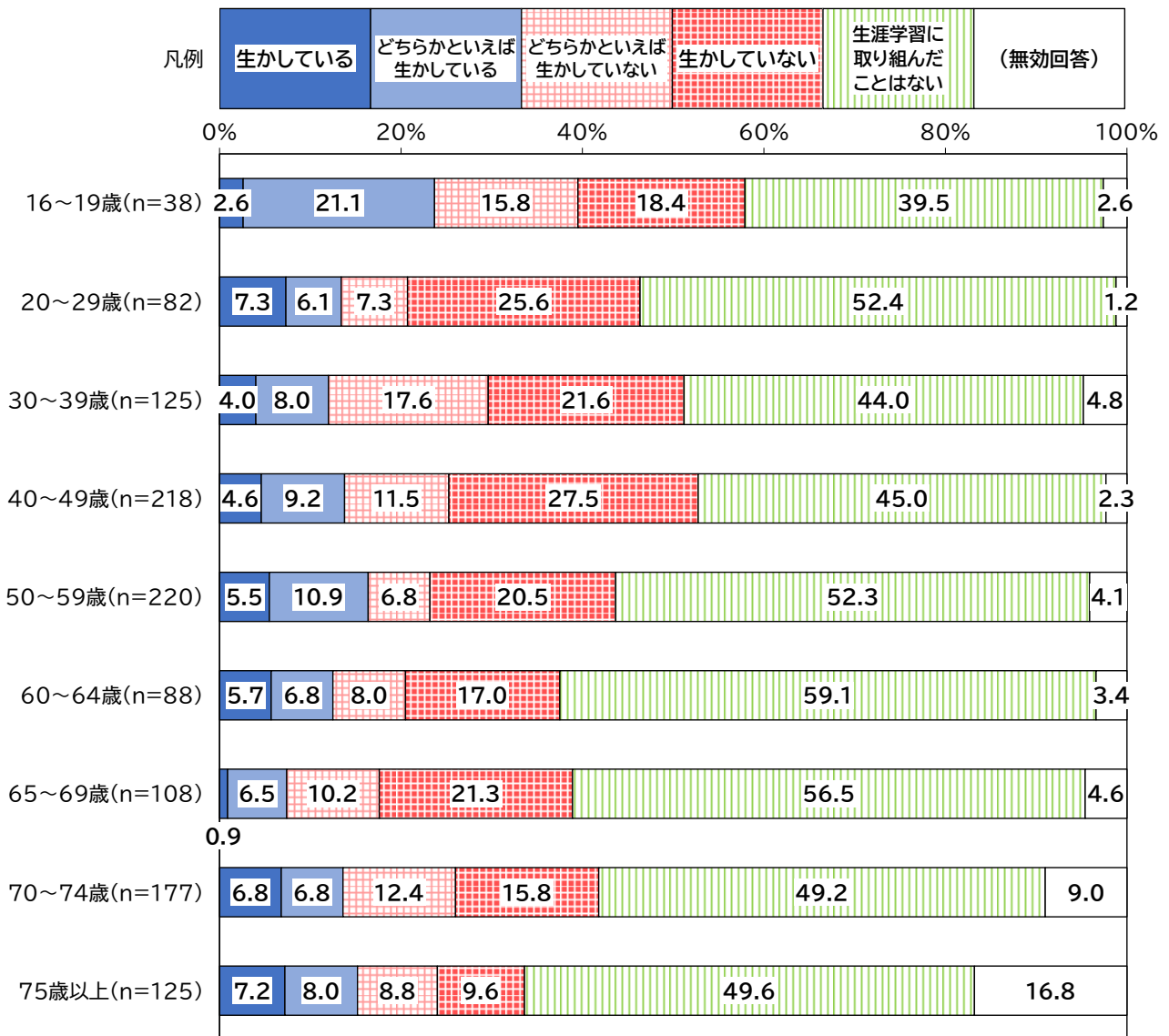
<経年比較>

- 「生かしている」と「どちらかといえば生かしている」の合計 (13.8%) は、令和3年度 (14.4%) に比べて 0.6 ポイント減少しています。



<年齢層別>

○「生かしている」と「どちらかといえば生かしている」の合計は、16～19歳で23.7%と最も高くなっていますが、65～69歳は7.4%で最も低く、他の年齢層も10%台となっています。

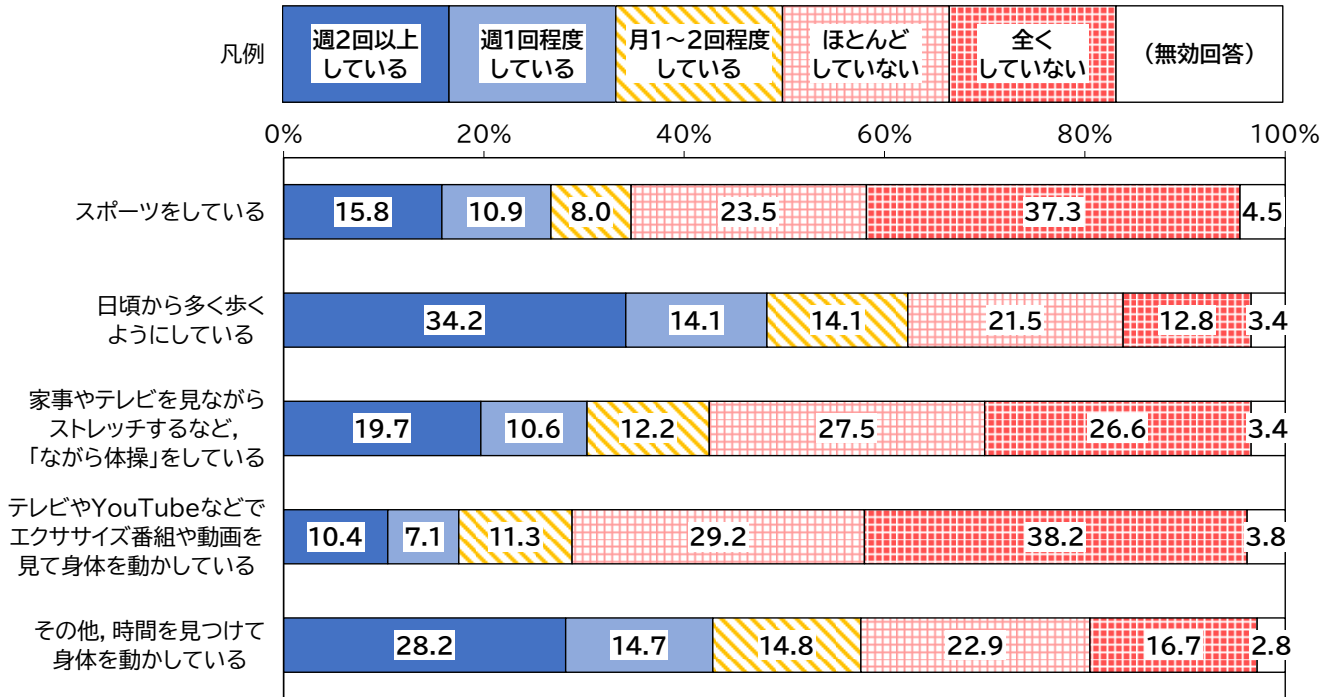


【スポーツ振興について】

問 33) あなたは、健康・体力づくりのために体を動かしていますか。

<全体 (n=1,193) >

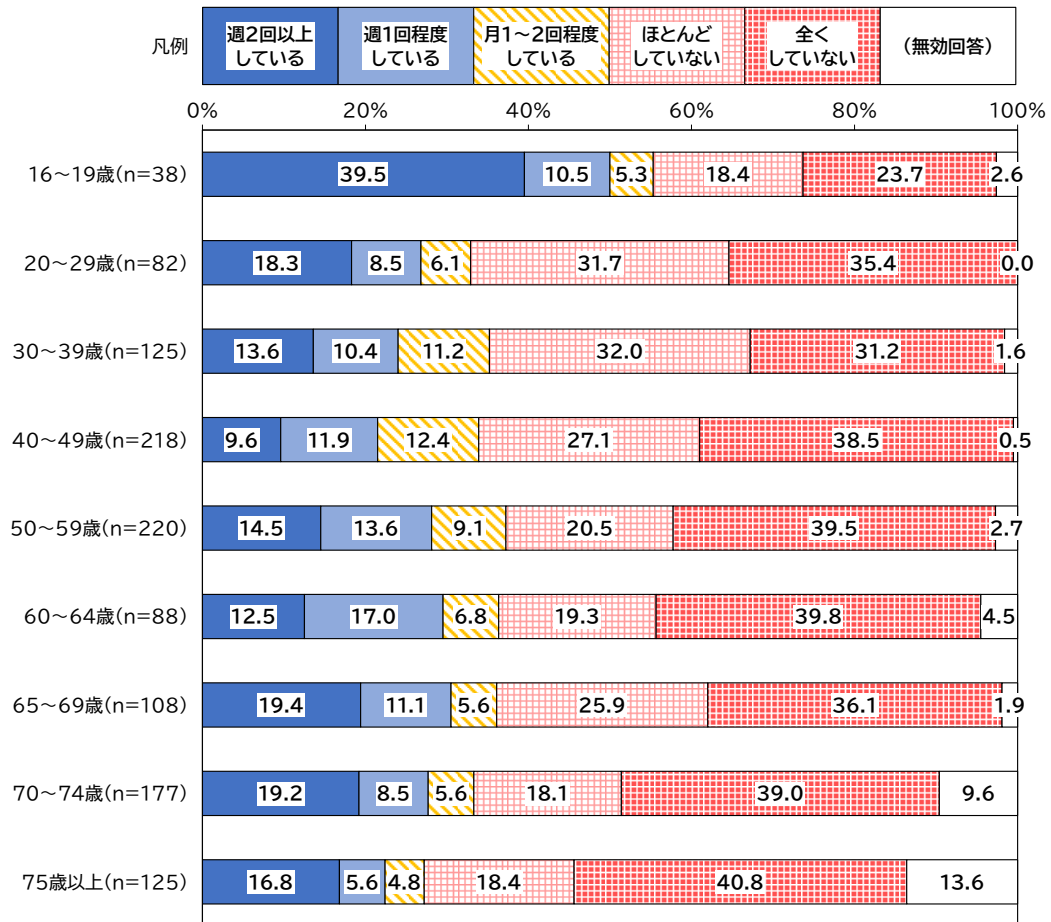
○「週2回以上している」と「週1回程度している」の合計は、「日頃から多く歩くようにしている（電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど）」が48.3%と最も高く、次いで「その他、時間を見つけて身体を動かしている」の42.9%の順となっています。



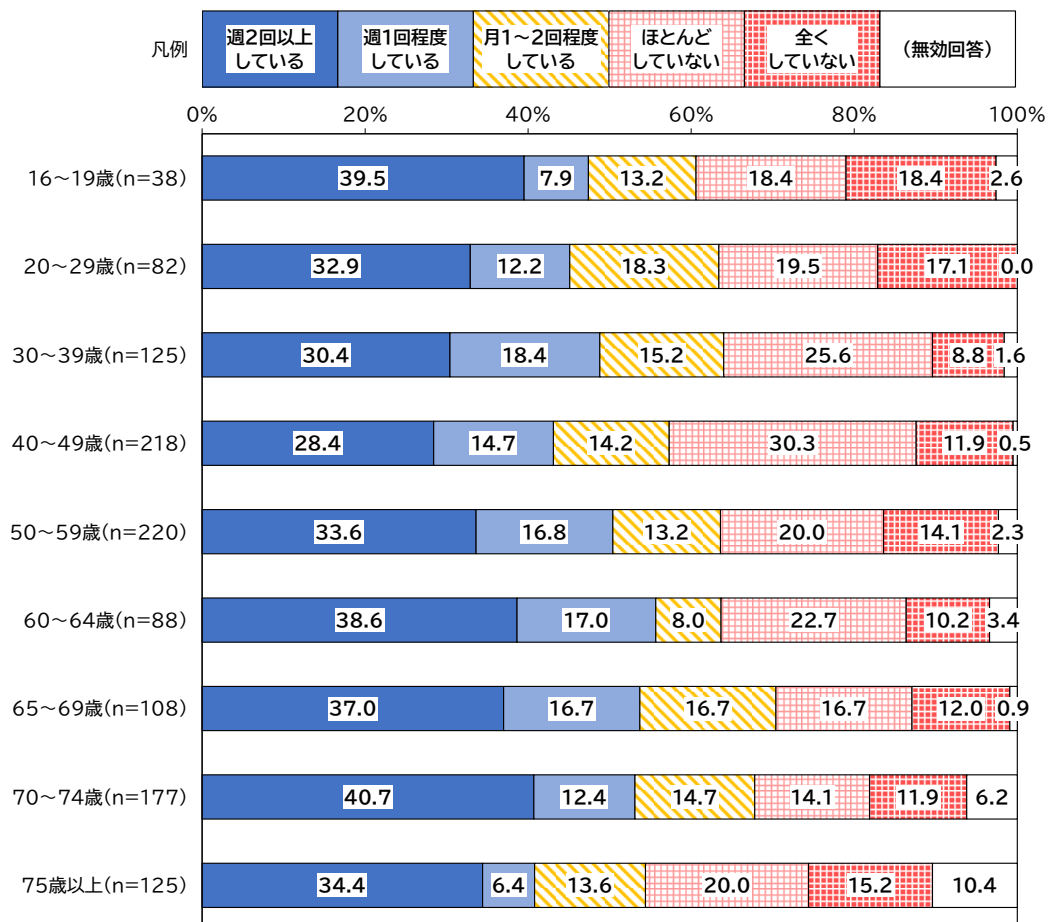
<年齢層別>

○「週2回以上している」と「週1回程度している」の合計は、ほとんどの年齢層で「日頃から多く歩くようにしている（電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど）」が高くなっています。また、「その他、時間を見つけて身体を動かしている」は、おおむね年齢が上がるにつれて、高くなる傾向にあります。

ア スポーツをしている

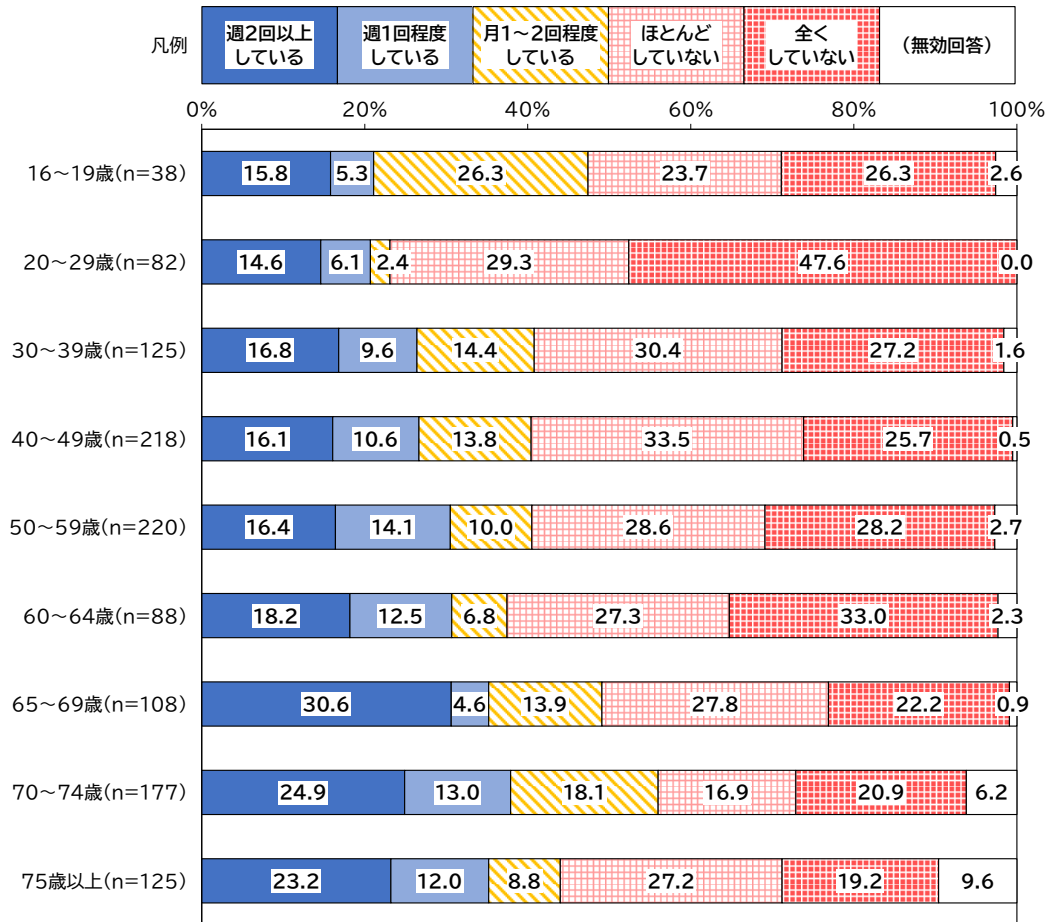


イ 日頃から多く歩くようにしている(電車やバス等の最寄りの駅で降車せず、1駅分多く歩いているなど)

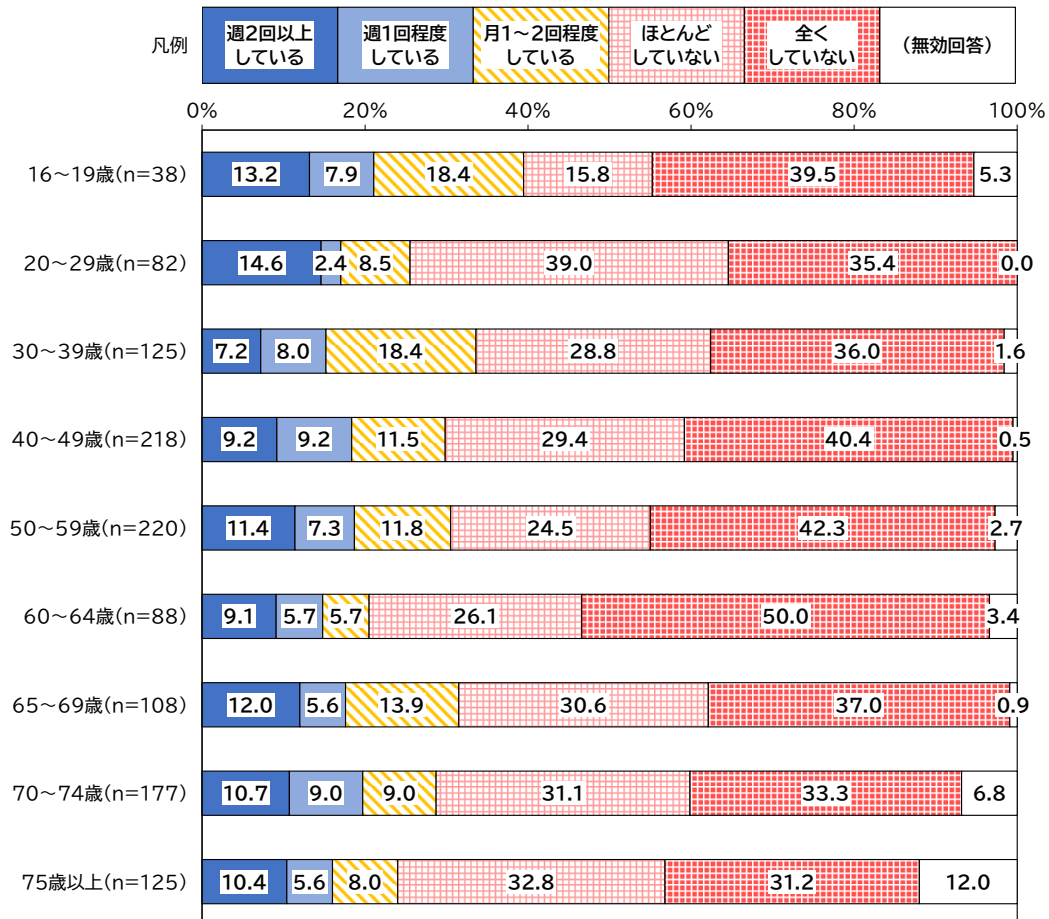


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

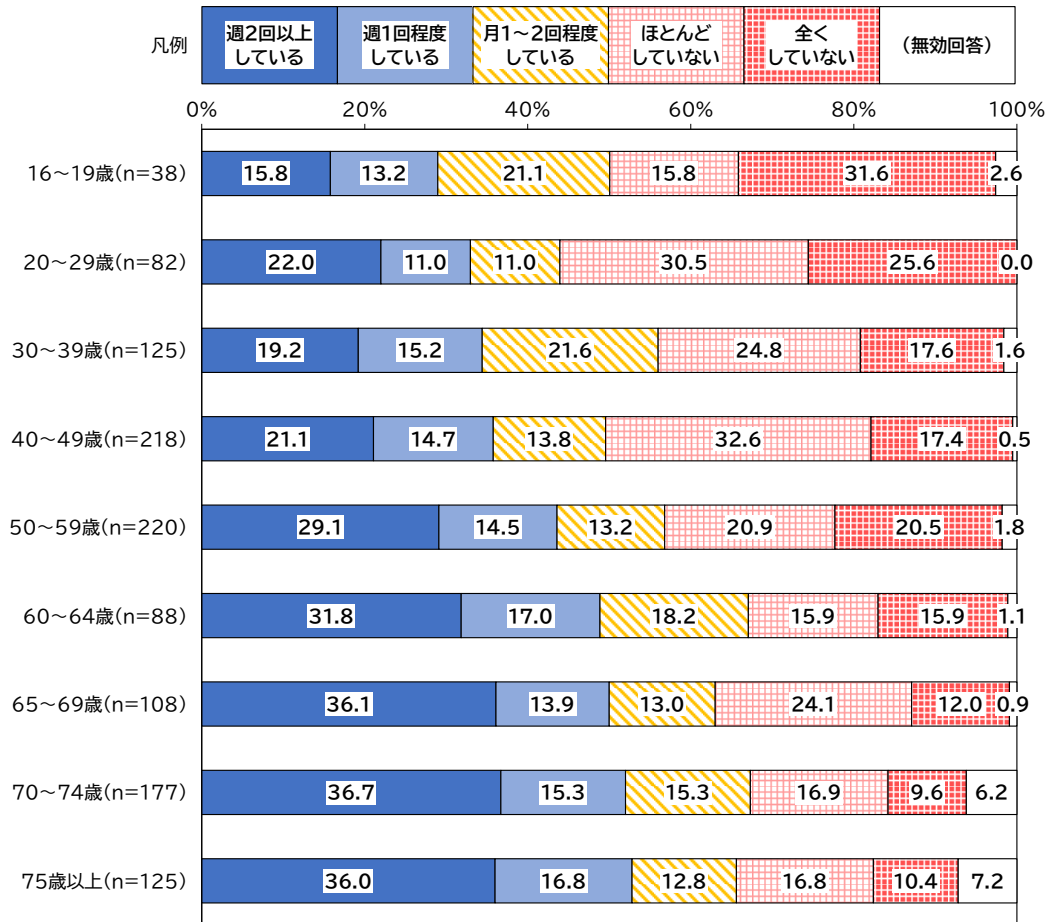
ウ 家事やテレビを見ながらストレッチするなど、「ながら体操」をしている



エ テレビやYouTubeなどでエクササイズ番組や動画を見て身体を動かしている



オ その他、時間を見つけて身体を動かしている

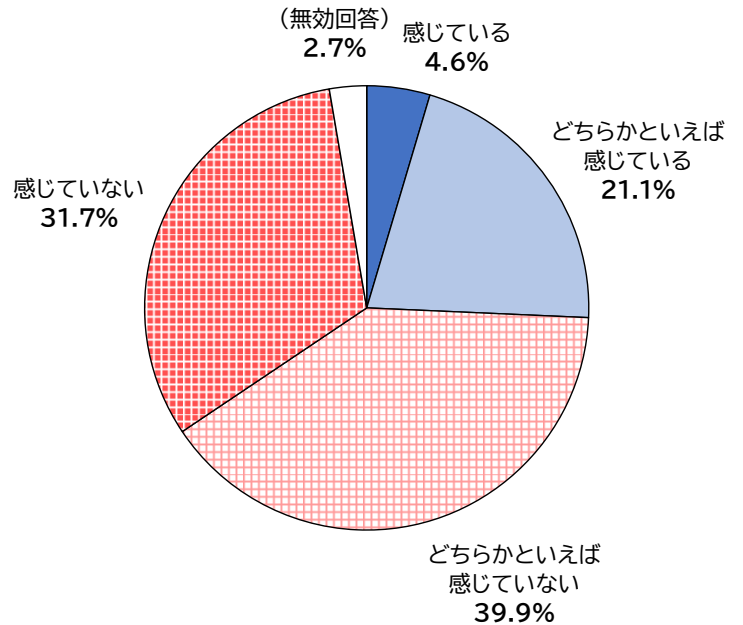


【地域コミュニティについて】

問34) あなたは、地域の一員としての意識や地域の連帯感を感じていますか。

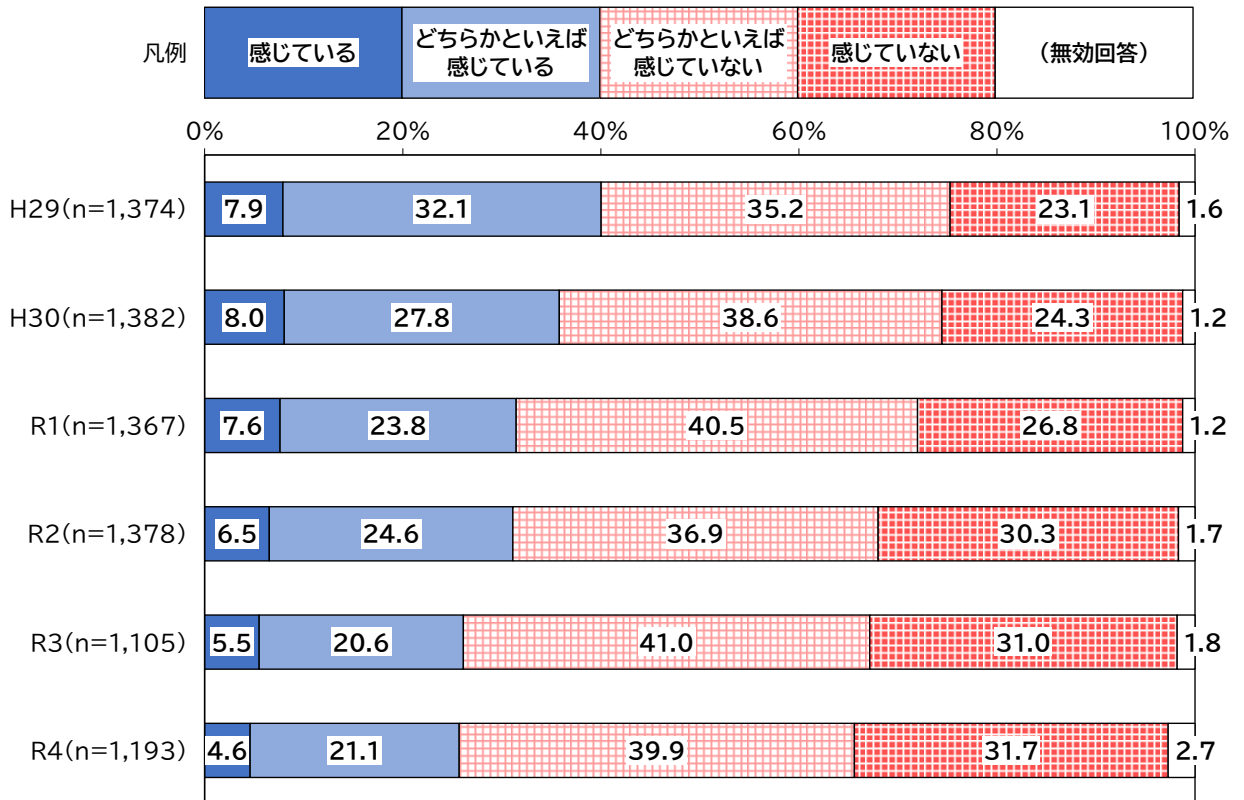
<全体 (n=1,193) >

- 地域の一員としての意識や地域の連帯感を「感じている」は4.6%, 「どちらかといえば感じている」は21.1%であり、合計で25.7%となっています。
- 一方、「どちらかといえば感じていない」は39.9%, 「感じていない」は31.7%であり、合計で71.6%となっています。



<経年比較>

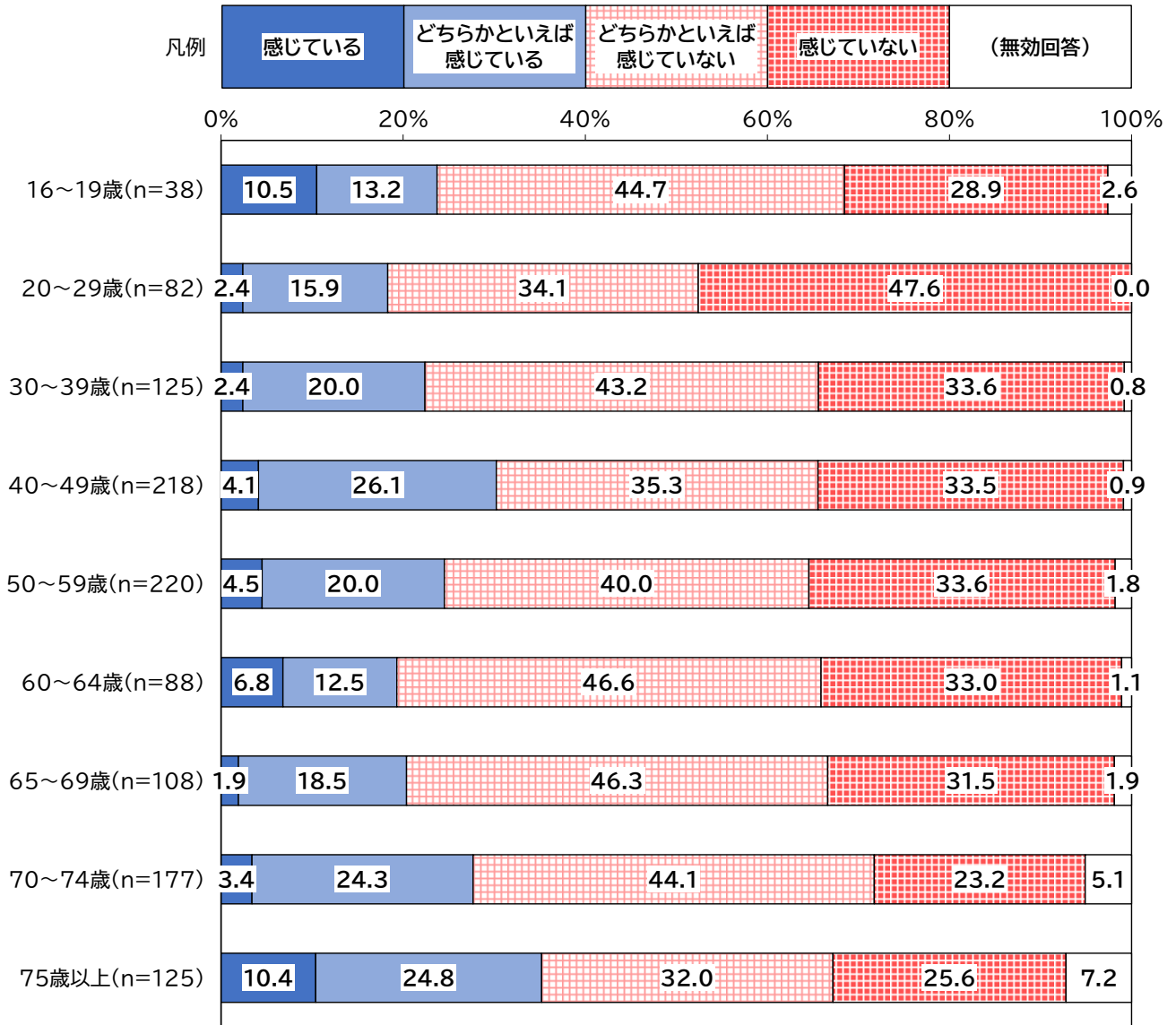
- 地域の一員としての意識や地域の連帯感を「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計(25.7%)は、令和3年度(26.1%)に比べ0.4ポイント減少しています。



<年齢層別>

○「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計は、75歳以上が35.2%で最も高く、次いで40～49歳(30.2%)、70～74歳(27.7%)の順となっています。

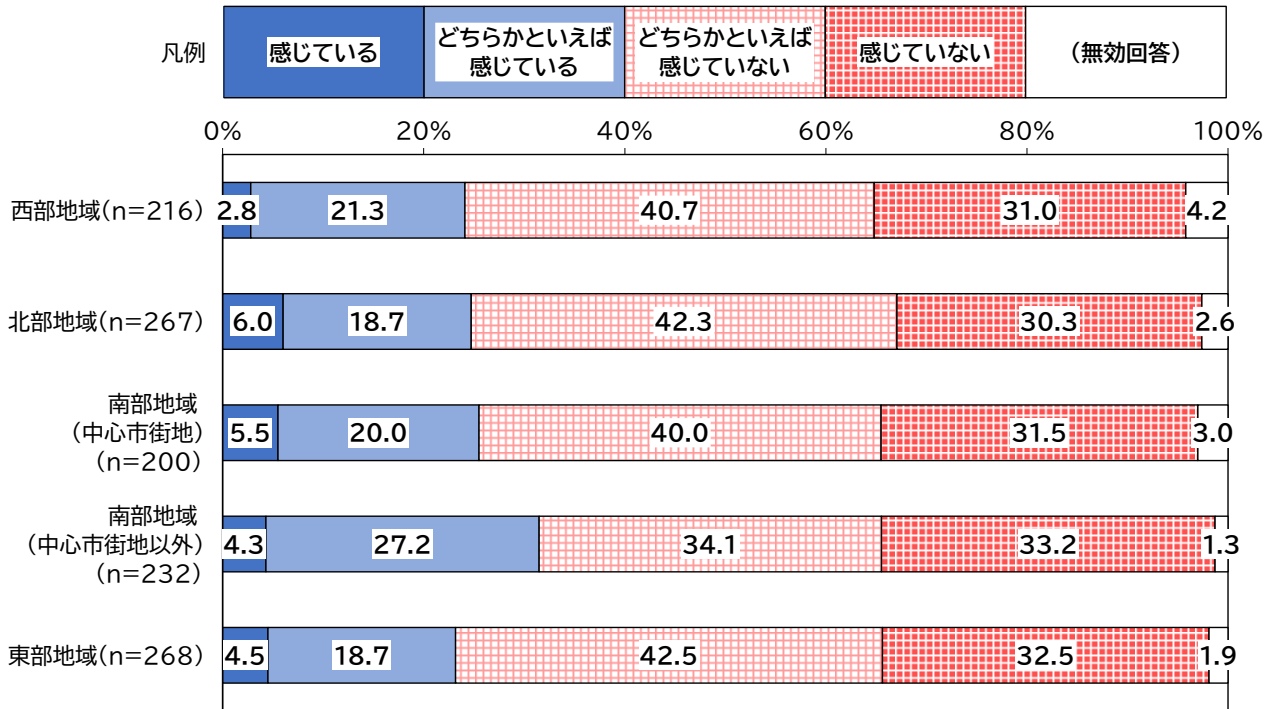
○一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計は、すべての年齢層で50%を上回っており、特に20～29歳では80%を超えています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<地域別>

○いずれの地域でも「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計は、南部地域（中心市街地以外）（67.3%）を除き、70%を超えています。



<自由記述>主な意見を抜粋

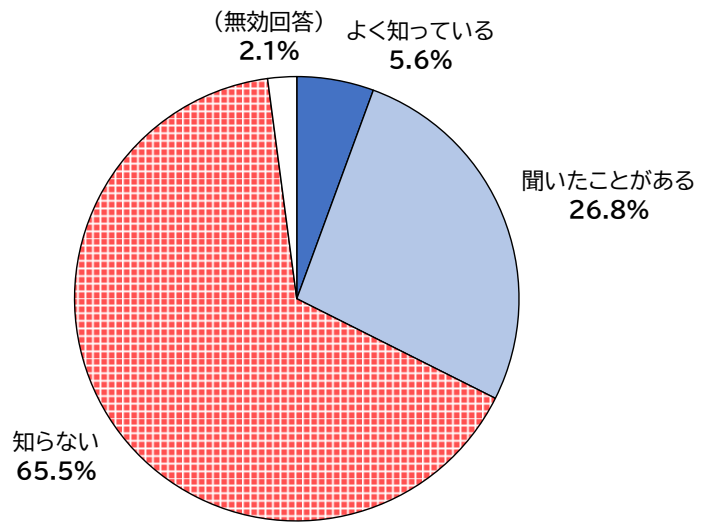
【図表 地域コミュニティに関する施策についてのご意見・ご提案】(41件)

- ・ 定期的な催しを行う。盆踊りはじめ、消防署員立ち会いの消火訓練やAED操作講習，地区清掃等。
- ・ 従来の住民が神社例祭を維持するも高齢化及び世代交代により体制維持が困難。新住民を取り込むべきであるが，古いコミュニティには新住民の融和は難しい。行政参画の新世代交代をする時期ではないか。
- ・ 集合住宅に住んでいる世帯にも自治会の案内や地域の行事についての案内をして欲しい。
- ・ 市内の各地区でのイベント，活動等参加への公報（ネット・ポスター・チラシ・口コミ等）をより工夫して，地区の住民の連携を深め，それを市を中心とした地域活動の活性化につなげる。
- ・ 強制になってしまう自治会は，負担です。有志で行うくらいでよいと思う。

問35) あなたは、「地区協議会※」を知っていますか。

<全体 (n=1,193) >

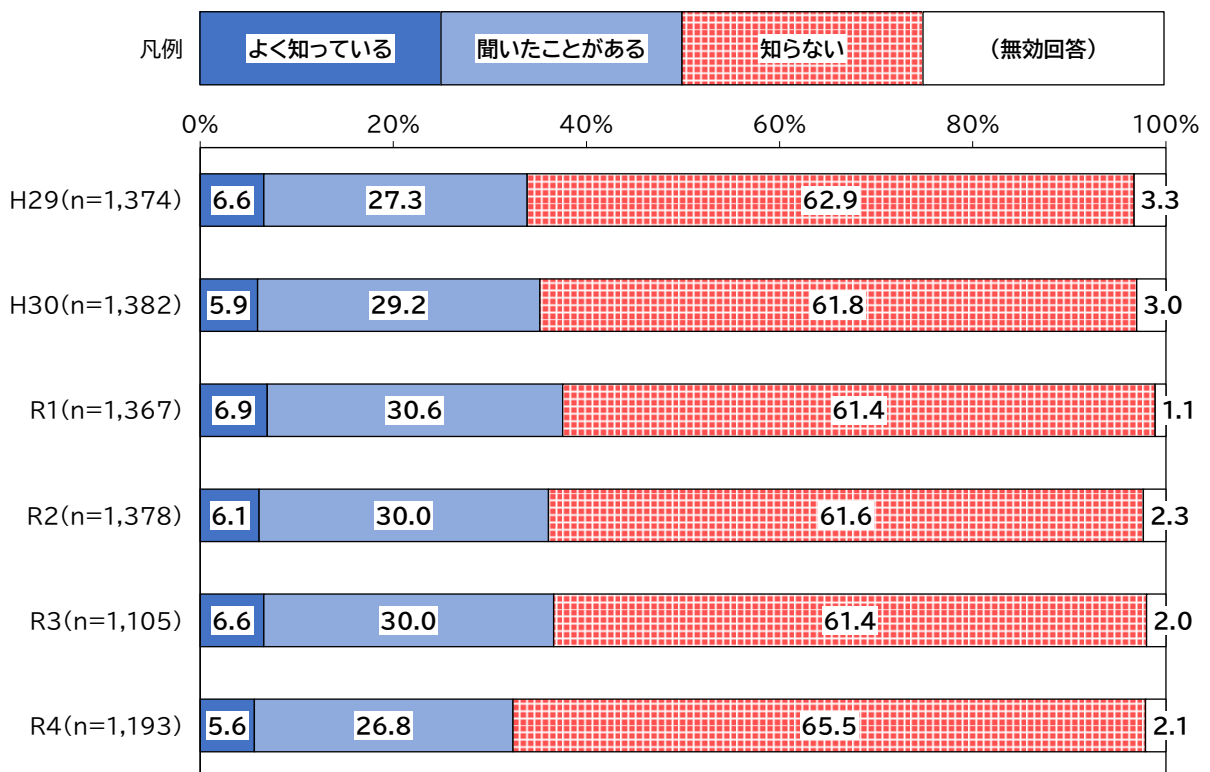
○「よく知っている」が5.6%、「聞いたことがある」が26.8%、合計で32.4%となっています。



※「地区協議会」とは、自治会をはじめ地域で活動する多様な団体や個人を結ぶ地域主体のネットワーク組織で、地域の情報共有や防災訓練等のまちづくり活動における連携・協力などを行っています。市内に20ある小学校区を単位として、現在17地区で設立されています。

<経年比較>

○「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計(32.4%)は、令和3年度(36.6%)に比べ4.2ポイント減少しています。

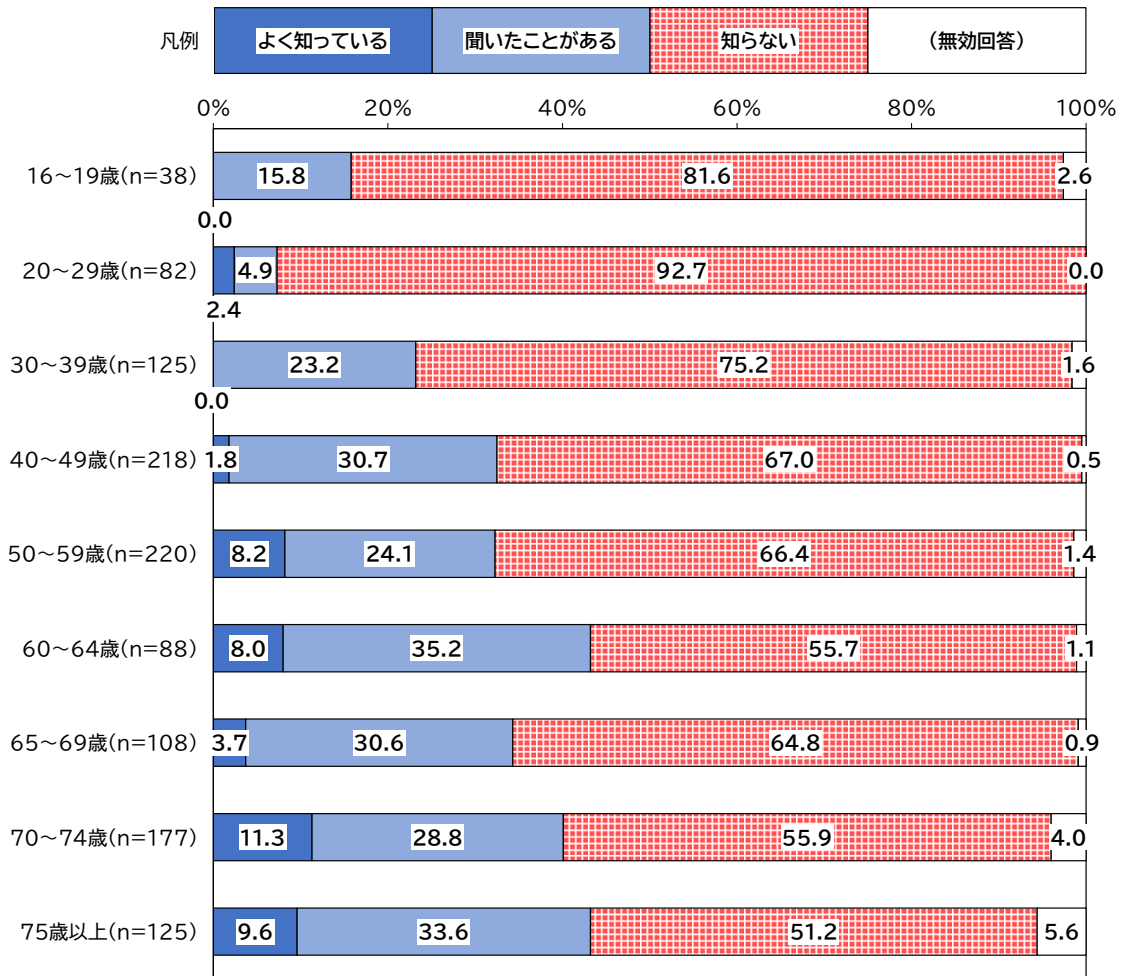


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は、年齢層が上がるにつれておおむね増加傾向にあります。

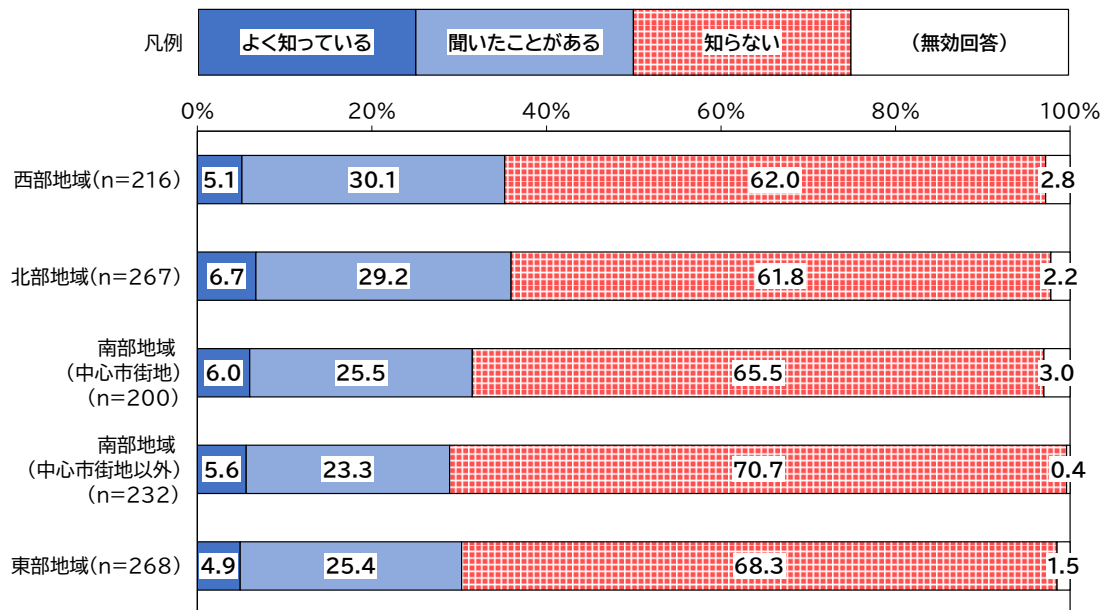
○39歳以下の年齢層では、いずれも「知らない」が70%を超えています。



<地域別>

○「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は、北部地域が35.9%で最も高くなっています。

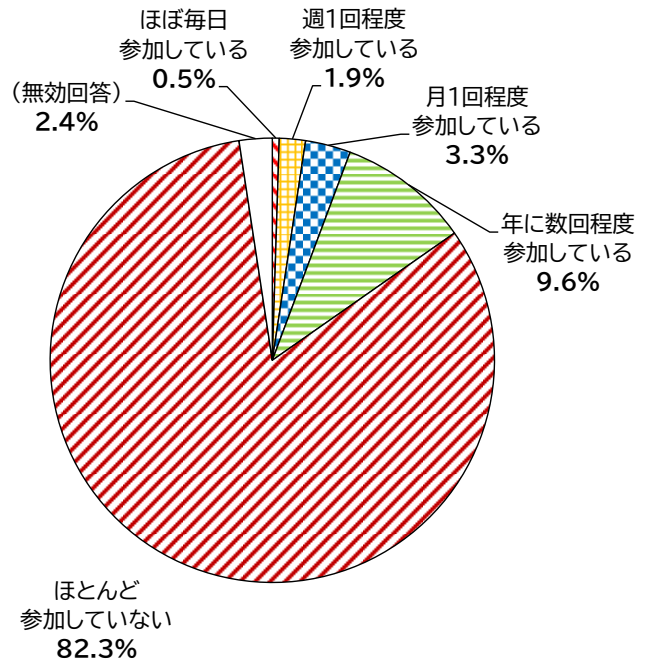
○いずれの地域でも、「知らない」が60%を超えています。



問 36) あなたは、この1年間に、地域の活動やイベントに参加しましたか。

<全体 (n=1,193) >

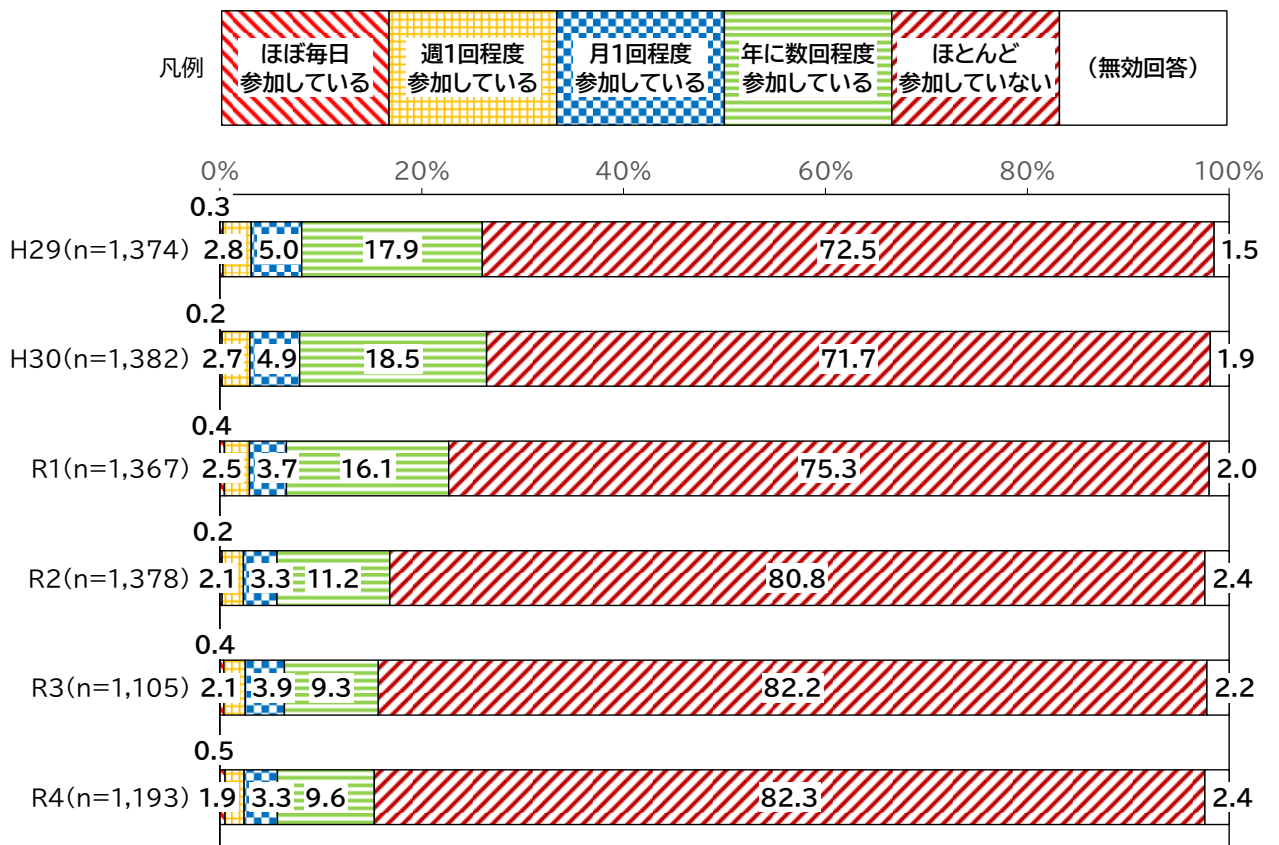
○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計が15.3%となっています。



<経年比較>

○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計は令和元年度以降、減少傾向で推移しています。

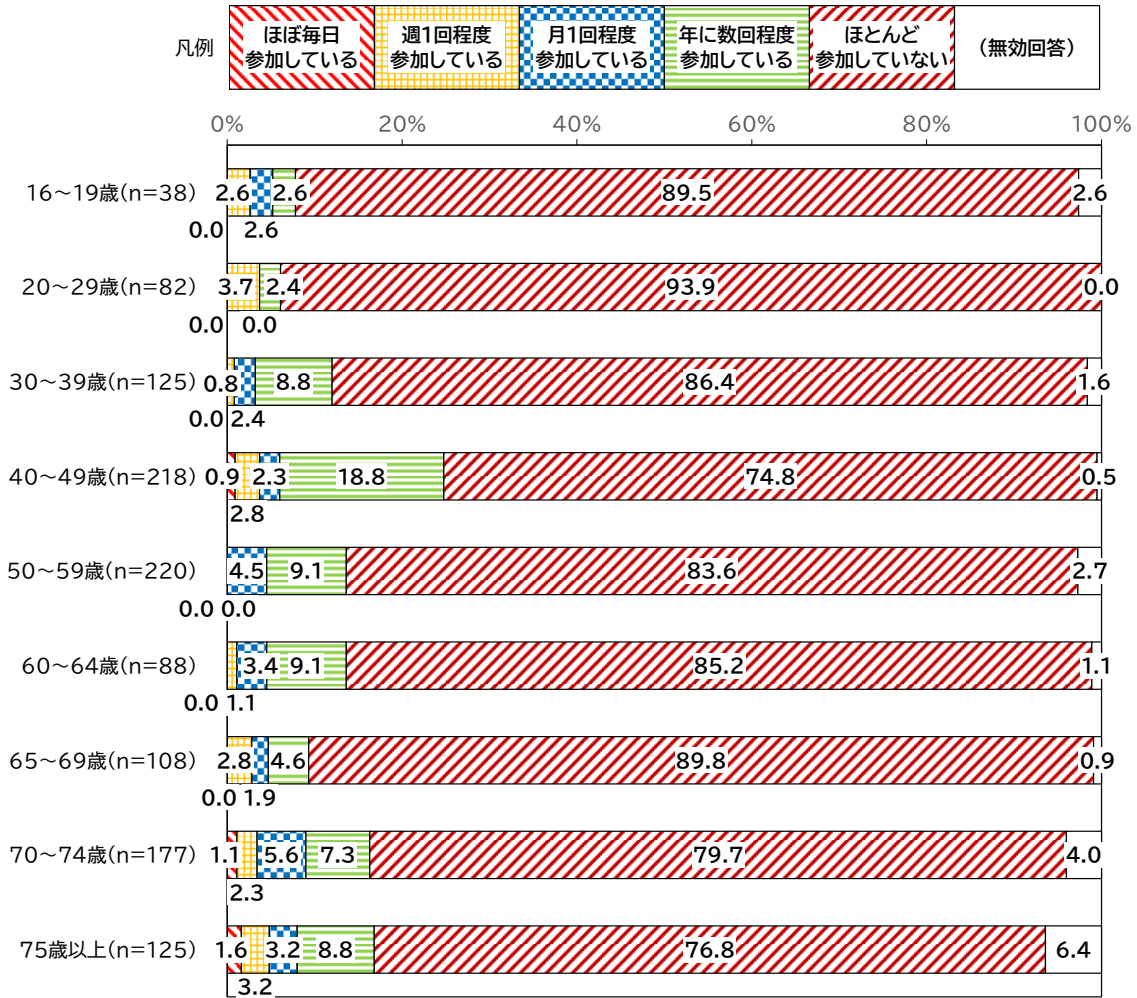
○「ほとんど参加していない」(82.3%)は、平成29年度以降で最も高くなっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

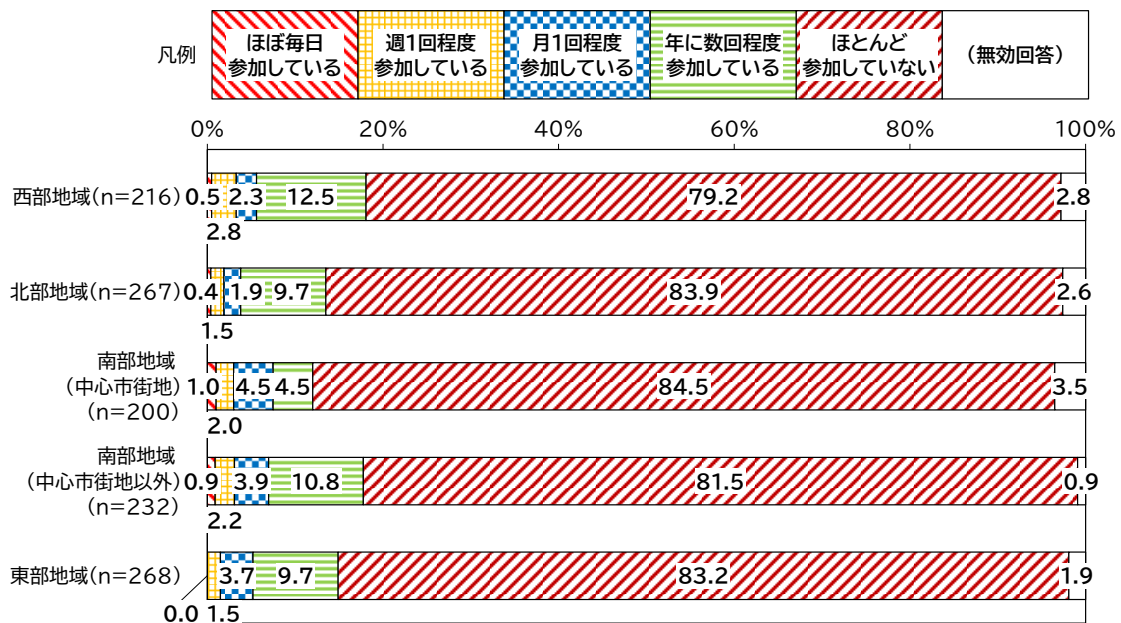
<年齢層別>

○「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計は、40～49歳が24.8%で最も高く、次いで75歳以上の16.8%の順となっています。



<地域別>

○いずれの地域も「ほぼ毎日参加している」、「週1回程度参加している」、「月1回程度参加している」、「年に数回程度参加している」の合計が、10%台となっています。

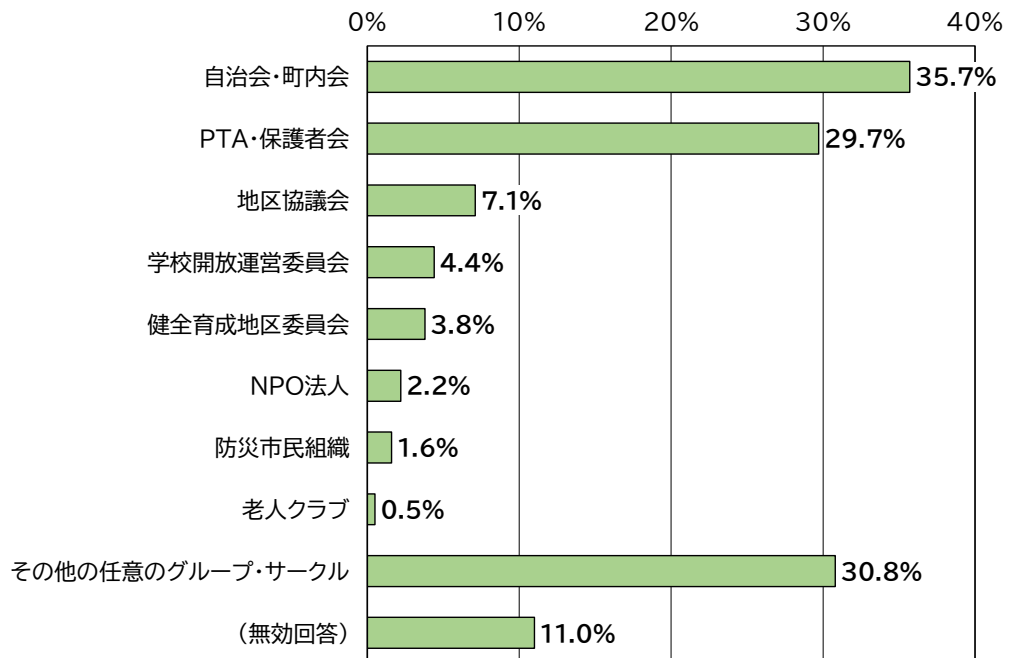


問 36-1) 参加した団体, 活動, 場所について, あてはまるものに○をつけてください。

団体

<全体 (n=182) >

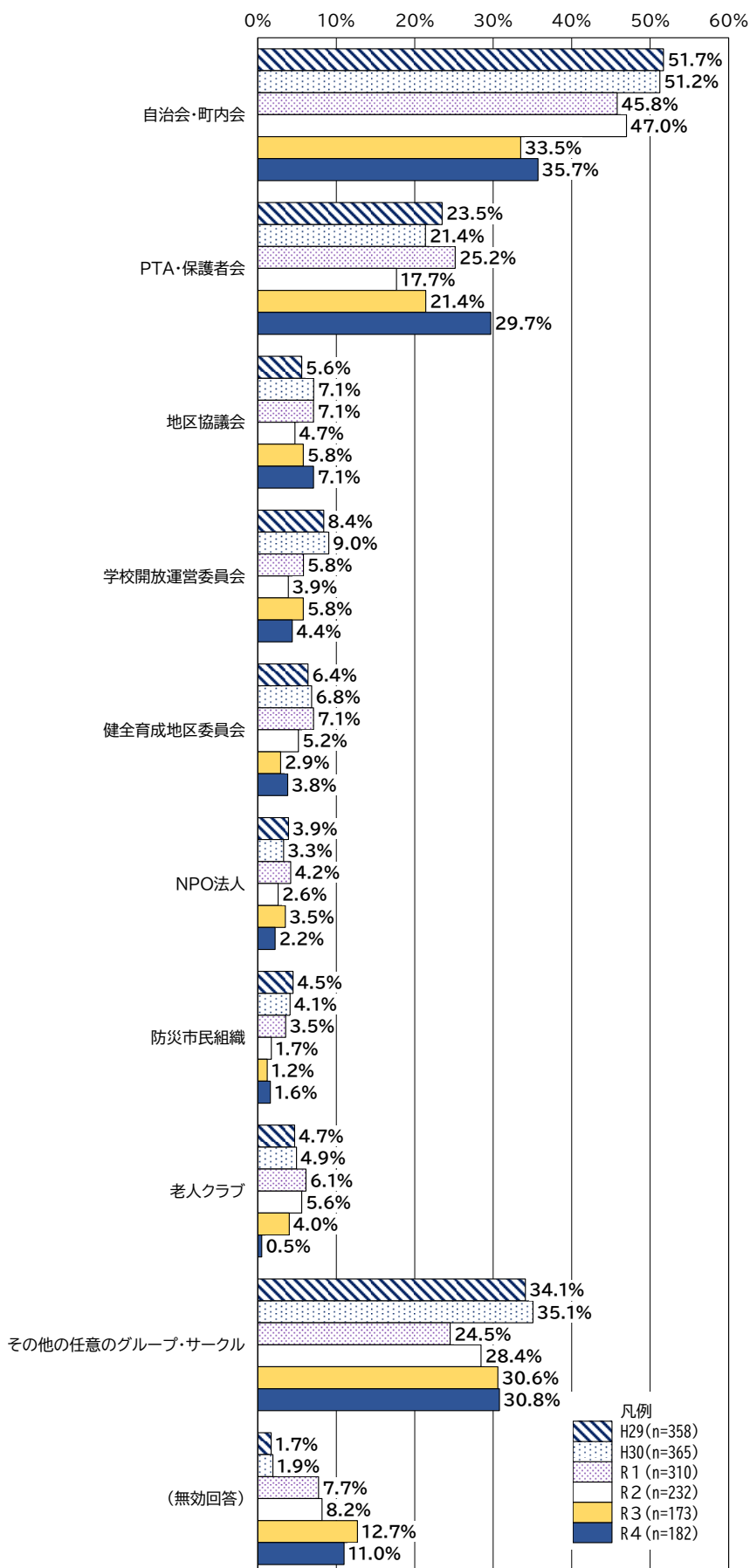
○「自治会・町内会」が 35.7%で最も高く, 次いで「その他の任意のグループ・サークル」の 30.8%の順となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<経年比較>

○「自治会・町内会」は、令和2年度（47.0%）から令和3年度（33.5%）にかけて大きく減少しましたが、令和4年度（35.7%）には2.2ポイント増加しています。また、「PTA・保護者会」（29.7%）は、令和3年度（21.4%）に比べ8.3ポイント増加しています。



<年齢層別>

○50～64歳では「自治会・町内会」、30～49歳では「PTA・保護者会」、その他の年齢層では「その他の任意のグループ・サークル」が最も高くなっています。また、70～74歳では「自治会・町内会」と「その他の任意のグループ・サークル」がともに最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	182	3	5	15	54	30	12	10	29	21
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自治会・町内会	65	1	1	3	14	16	5	2	13	9
	35.7%	33.3%	20.0%	20.0%	25.9%	53.3%	41.7%	20.0%	44.8%	42.9%
PTA・保護者会	54	0	0	5	39	7	2	0	0	0
	29.7%	0.0%	0.0%	33.3%	72.2%	23.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
地区協議会	13	0	0	0	0	3	3	1	4	2
	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	25.0%	10.0%	13.8%	9.5%
学校開放運営委員会	8	0	0	0	4	4	0	0	0	0
	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
健全育成地区委員会	7	0	0	0	5	0	2	0	0	0
	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
NPO法人	4	0	0	0	1	0	0	2	1	0
	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	20.0%	3.4%	0.0%
防災市民組織	3	0	0	0	0	0	2	0	1	0
	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	3.4%	0.0%
老人クラブ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%
その他の任意のグループ・サークル	56	2	3	3	6	10	1	7	13	10
	30.8%	66.7%	60.0%	20.0%	11.1%	33.3%	8.3%	70.0%	44.8%	47.6%
(無効回答)	20	0	2	4	2	2	3	2	2	3
	11.0%	0.0%	40.0%	26.7%	3.7%	6.7%	25.0%	20.0%	6.9%	14.3%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

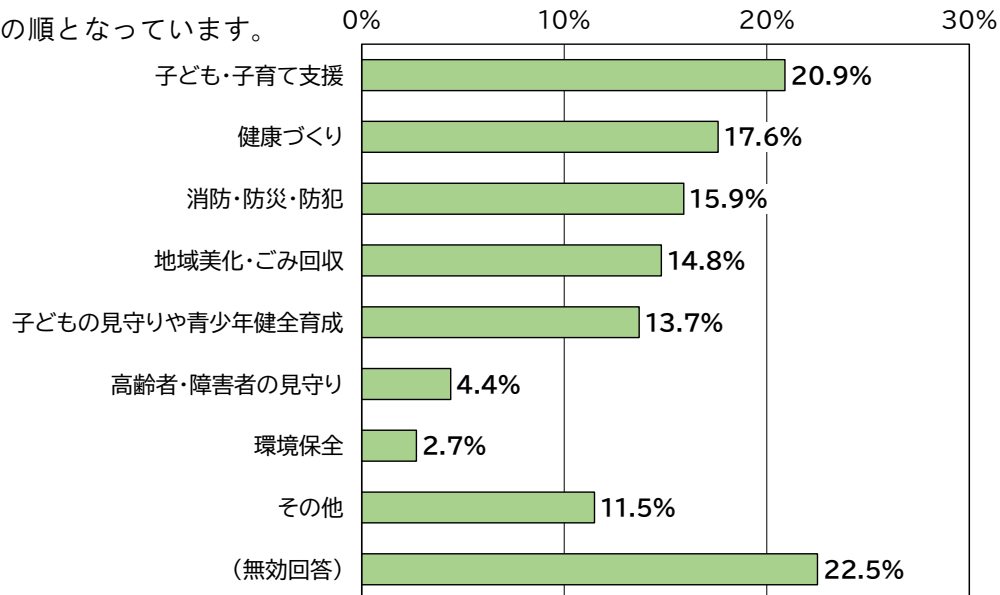
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

活動

<全体 (n=182)>

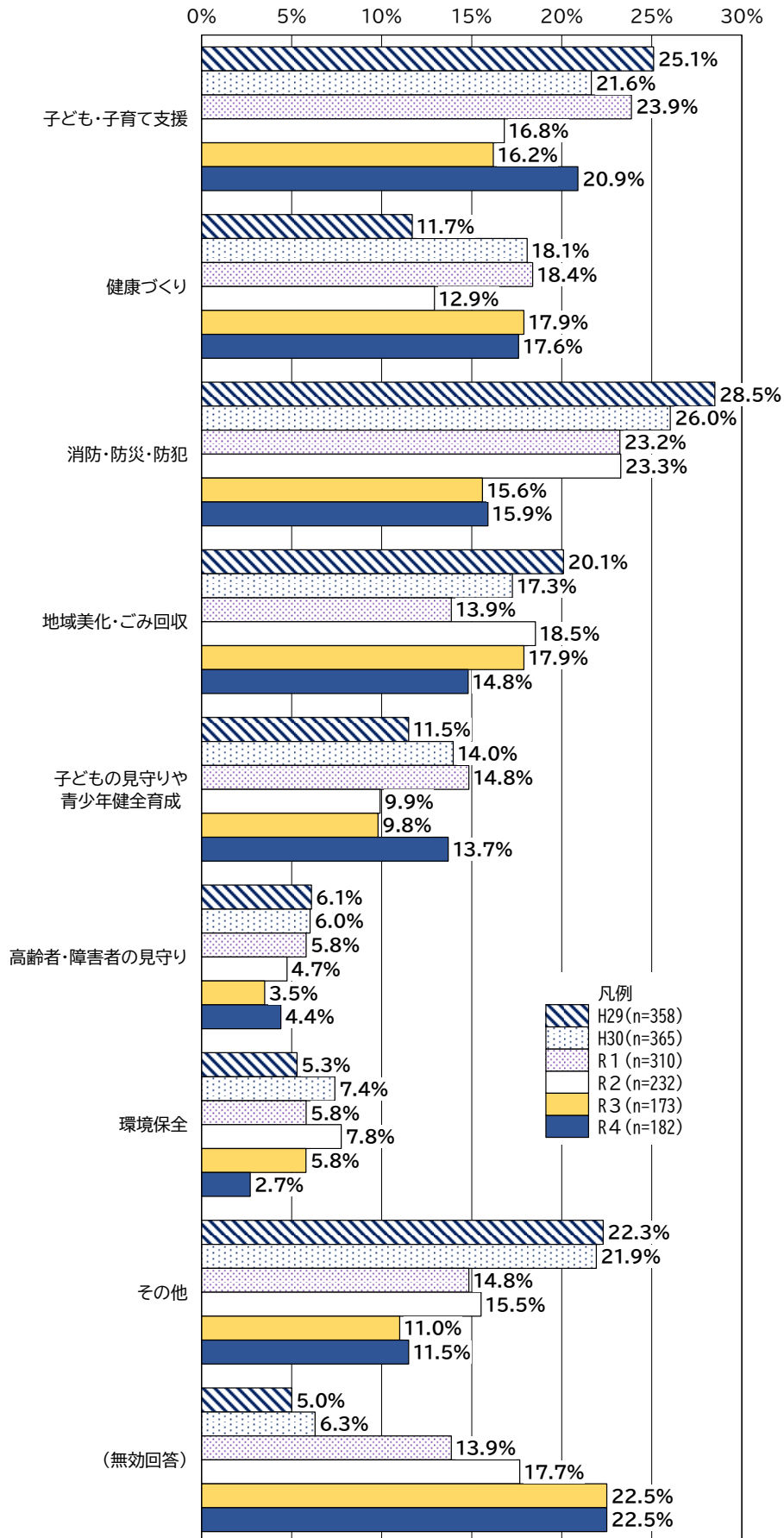
○「子ども・子育て支援」が20.9%で最も高く、次いで「健康づくり」が17.6%、「消防・防災・防犯」の15.9%の順となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<経年比較>

○「子ども・子育て支援」は、令和元年度（23.9%）から令和2年度（16.8%）、令和3年度（16.2%）と減少、16%台で推移しましたが、令和4年度（20.9%）と増加に転じています。また、「消防・防災・防犯」は、平成29年度以降おおむね減少傾向で推移しています。



<年齢層別>

○20～49歳では「子ども・子育て支援」、50～59歳及び65歳以上では「健康づくり」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	182	3	5	15	54	30	12	10	29	21
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子ども・子育て支援	38	0	1	3	25	5	1	1	2	0
	20.9%	0.0%	20.0%	20.0%	46.3%	16.7%	8.3%	10.0%	6.9%	0.0%
健康づくり	32	0	1	2	4	6	0	2	10	7
	17.6%	0.0%	20.0%	13.3%	7.4%	20.0%	0.0%	20.0%	34.5%	33.3%
消防・防災・防犯	29	0	0	1	4	5	6	1	7	5
	15.9%	0.0%	0.0%	6.7%	7.4%	16.7%	50.0%	10.0%	24.1%	23.8%
地域美化・ごみ回収	27	0	0	1	9	6	4	0	3	3
	14.8%	0.0%	0.0%	6.7%	16.7%	20.0%	33.3%	0.0%	10.3%	14.3%
子どもの見守りや青少年健全育成	25	0	0	1	16	3	2	0	1	2
	13.7%	0.0%	0.0%	6.7%	29.6%	10.0%	16.7%	0.0%	3.4%	9.5%
高齢者・障害者の見守り	8	0	0	0	0	0	1	2	2	3
	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	20.0%	6.9%	14.3%
環境保全	5	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.9%	9.5%
その他	21	3	1	2	0	6	1	2	4	2
	11.5%	100.0%	20.0%	13.3%	0.0%	20.0%	8.3%	20.0%	13.8%	9.5%
(無効回答)	41	0	2	7	10	7	3	3	4	4
	22.5%	0.0%	40.0%	46.7%	18.5%	23.3%	25.0%	30.0%	13.8%	19.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

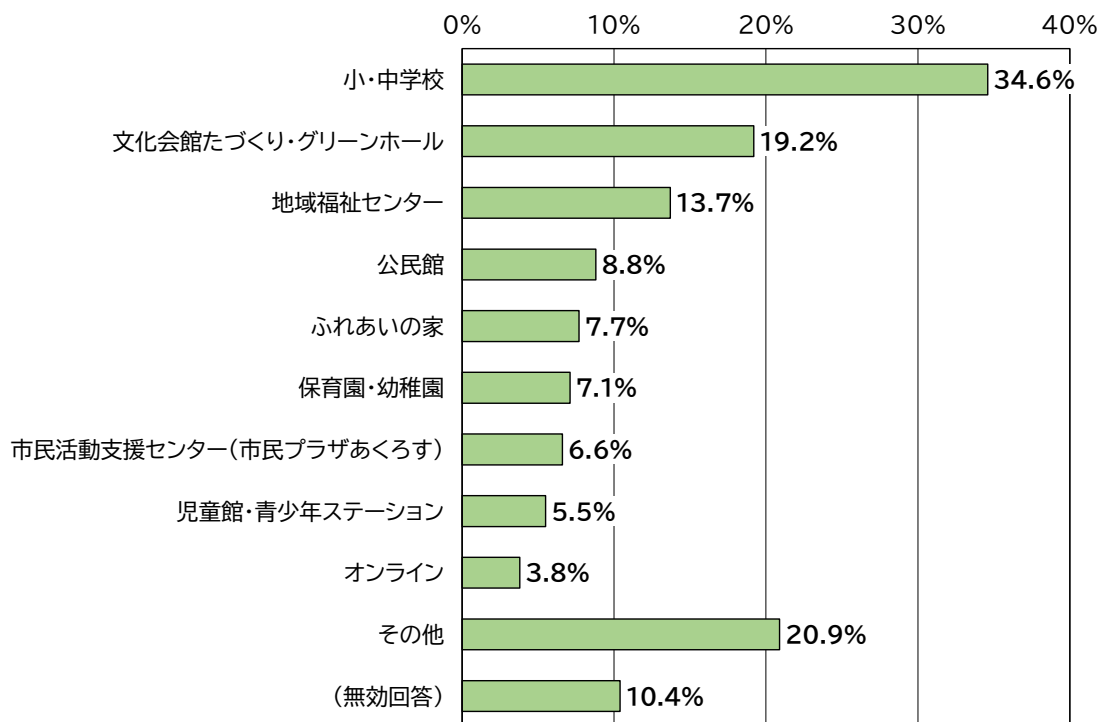
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

場所

<全体 (n=182) >

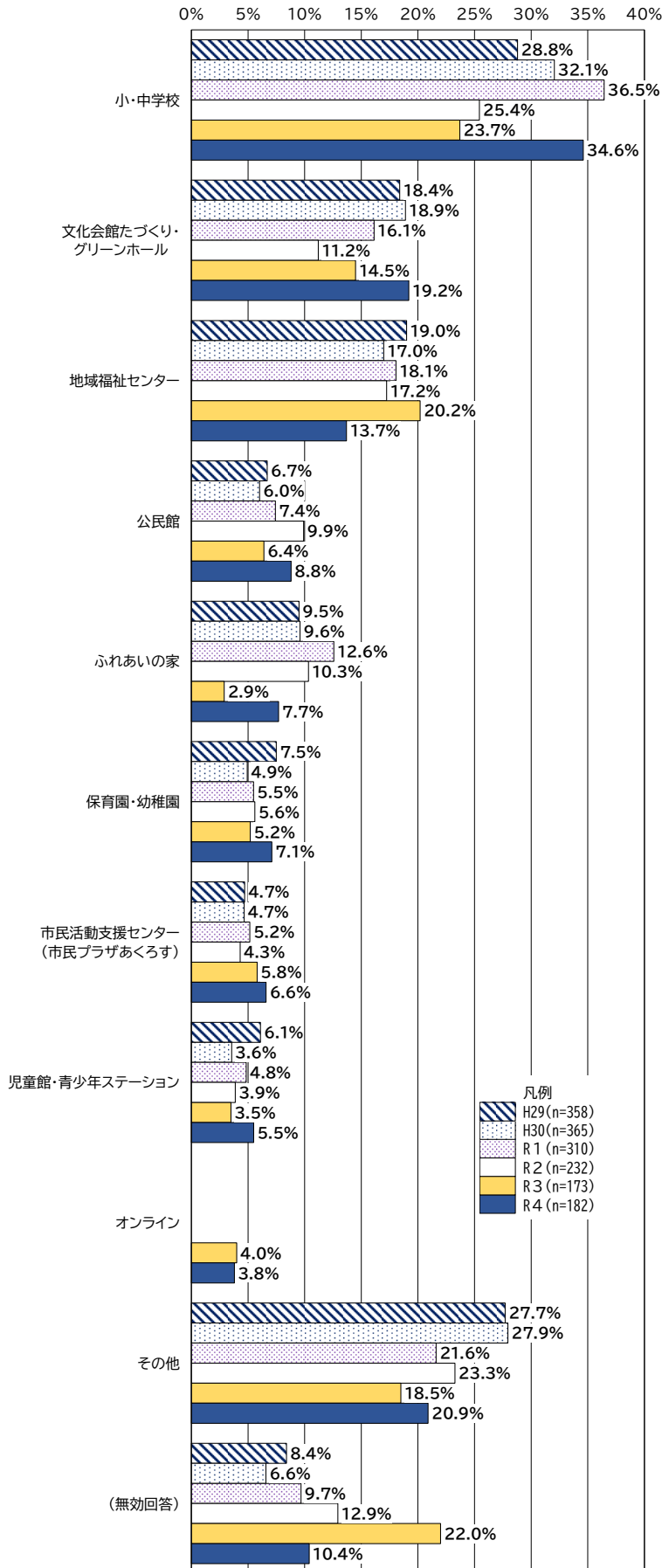
○「小・中学校」が34.6%で最も高く、次いで「文化会館たづくり・グリーンホール」の19.2%、「地域福祉センター」の13.7%の順になっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<経年比較>

○いずれの年度も「小・中学校」が最も高くなっており、令和元年度(36.5%)から令和2年度(25.4%)に大きく減少したものの、令和4年度(34.6%)は令和3年度(23.7%)に比べ10.9ポイント増加し、30%台に戻っています。



※「オンライン」は、令和3年度以降追加された選択肢です。

<年齢層別>

○30～59歳では、「小・中学校」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	182	3	5	15	54	30	12	10	29	21
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
小・中学校	63	0	1	6	37	11	3	1	2	1
	34.6%	0.0%	20.0%	40.0%	68.5%	36.7%	25.0%	10.0%	6.9%	4.8%
文化会館たづくり・グリーンホール	35	0	3	4	2	6	3	4	8	4
	19.2%	0.0%	60.0%	26.7%	3.7%	20.0%	25.0%	40.0%	27.6%	19.0%
地域福祉センター	25	0	1	2	4	4	2	2	5	5
	13.7%	0.0%	20.0%	13.3%	7.4%	13.3%	16.7%	20.0%	17.2%	23.8%
公民館	16	0	0	2	2	3	0	3	4	1
	8.8%	0.0%	0.0%	13.3%	3.7%	10.0%	0.0%	30.0%	13.8%	4.8%
ふれあいの家	14	0	2	0	3	3	0	2	2	2
	7.7%	0.0%	40.0%	0.0%	5.6%	10.0%	0.0%	20.0%	6.9%	9.5%
保育園・幼稚園	13	0	1	5	6	0	0	1	0	0
	7.1%	0.0%	20.0%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%
市民活動支援センター（市民プラザあくろす）	12	0	0	0	2	3	2	2	2	1
	6.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	10.0%	16.7%	20.0%	6.9%	4.8%
児童館・青少年ステーション	10	0	2	1	4	0	1	0	1	0
	5.5%	0.0%	40.0%	6.7%	7.4%	0.0%	8.3%	0.0%	3.4%	0.0%
オンライン	7	1	0	0	1	3	0	0	2	0
	3.8%	33.3%	0.0%	0.0%	1.9%	10.0%	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%
その他	38	2	0	1	6	7	4	1	9	8
	20.9%	66.7%	0.0%	6.7%	11.1%	23.3%	33.3%	10.0%	31.0%	38.1%
(無効回答)	19	0	1	0	4	5	2	1	2	3
	10.4%	0.0%	20.0%	0.0%	7.4%	16.7%	16.7%	10.0%	6.9%	14.3%

(上段：実数（人），下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 活動場所のその他の例】(30件)

・ 自宅周辺	・ 集会所
・ 自治会	

<自由記述> 主な意見を抜粋

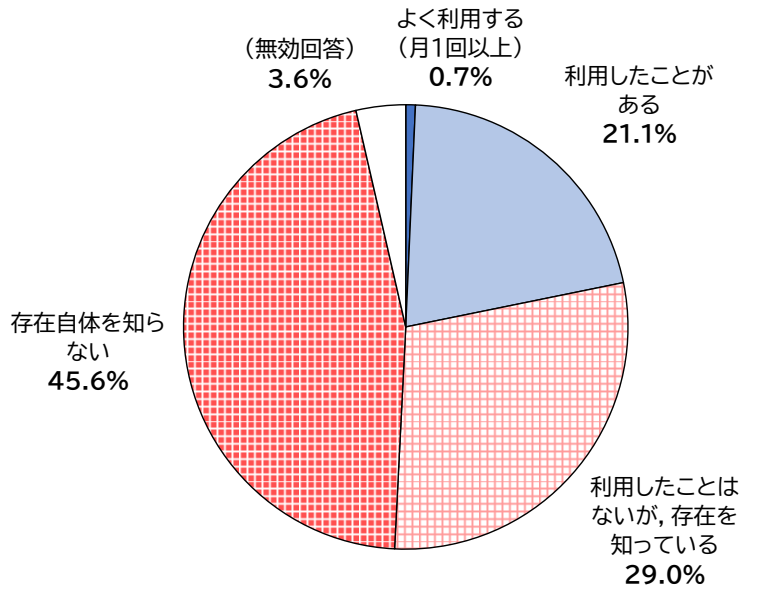
【図表 子育て支援や青少年健全育成に関する施策についてのご意見・ご提案】(23件)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の自治体との差別化を図り，子育てしやすいまちを目指す。子育て世帯が流入してくるため，将来的に調布市自体の活性化につながると考えます。調布市独自の児童手当支給，中学生までの医療費無料など。 ・ 地域の繋がりのイベント（祭り，餅つきなど）の企画，あるいは情報宣伝。
--

問 37) あなたは、調布市市民活動支援センター※（市民プラザあくろす 2 階（国領駅北側コクティーン内））を利用したことがありますか。

<全体 (n=1,193) >

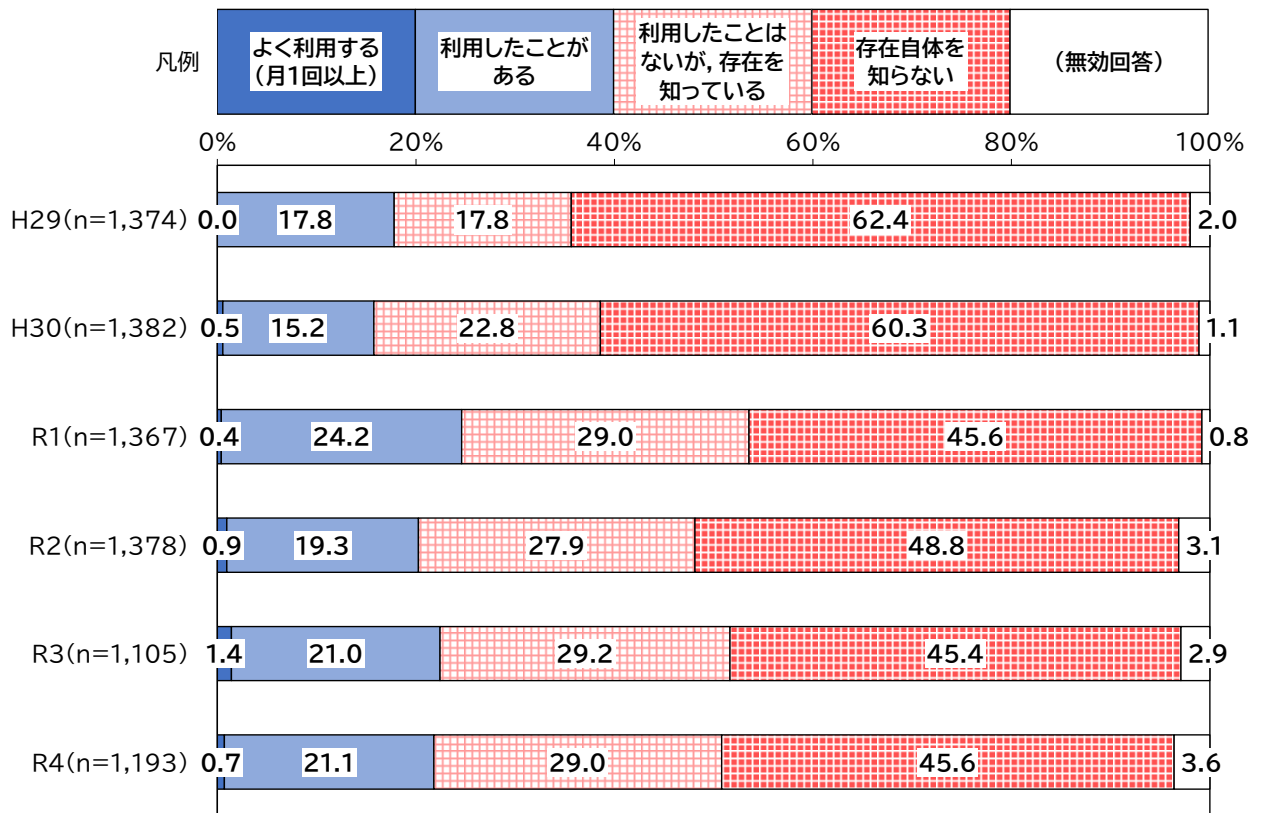
- 「よく利用する（月1回以上）」が0.7%、「利用したことがある」が21.1%で、合計21.8%となっています。
- 一方、「利用したことはないが、存在を知っている」は29.0%、「存在自体を知らない」は45.6%となっており、合計で74.6%を占めています。



※市民活動支援センターは、市内のNPO活動やボランティア活動など幅広い市民活動を支援するための拠点です。

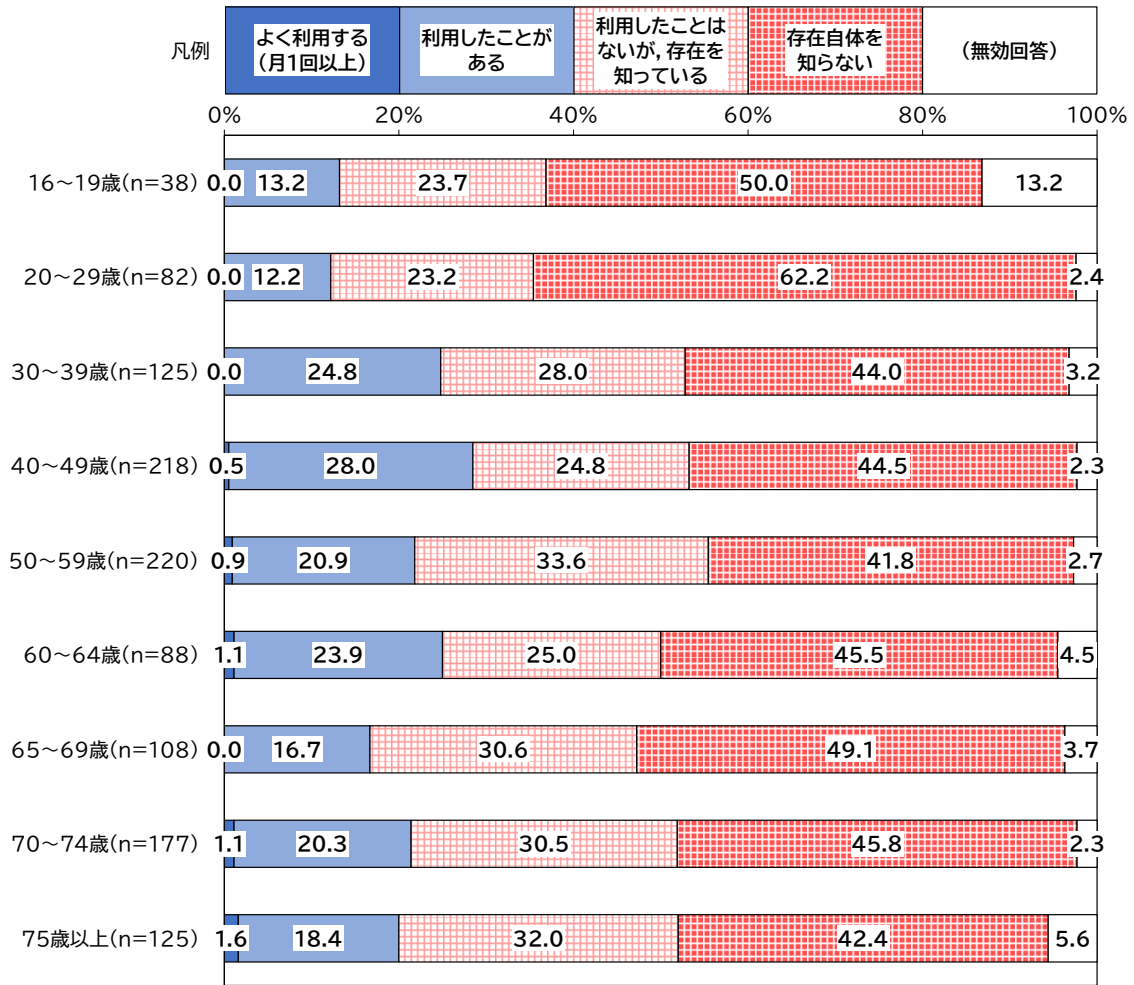
<経年比較>

- 「よく利用する（月1回以上）」と「利用したことがある」の合計（21.8%）は、令和3年度（22.4%）に比べ0.6ポイント減少しています。



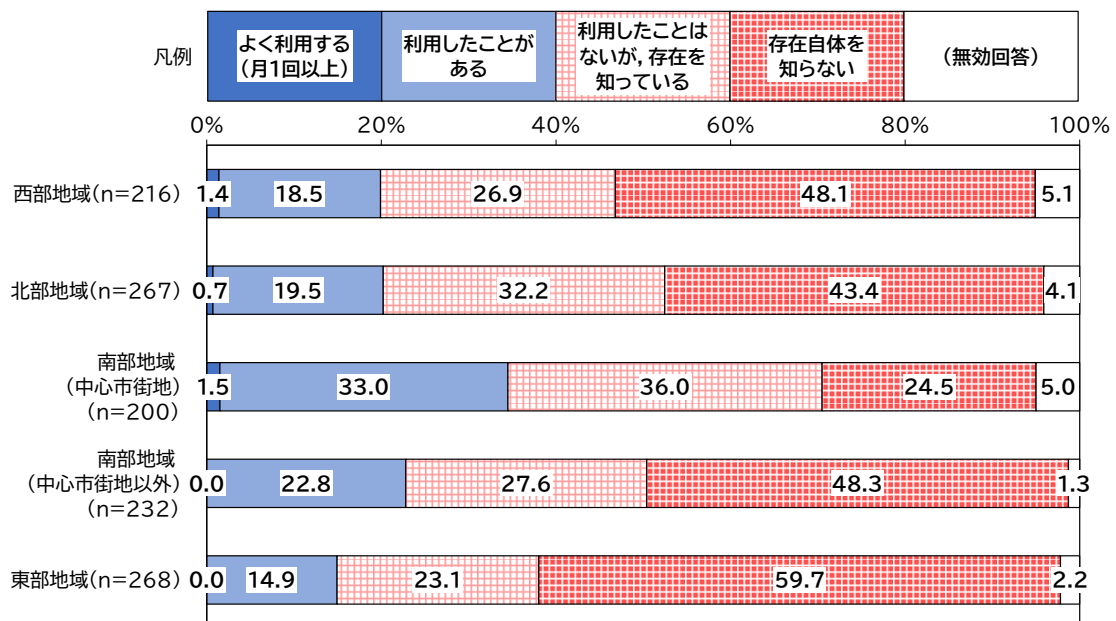
<年齢層別>

○いずれの年齢層でも、「よく利用する（月1回以上）」と「利用したことがある」の合計は30%を下回っており、特に16～29歳，65～69歳では，10%台となっています。



<地域別>

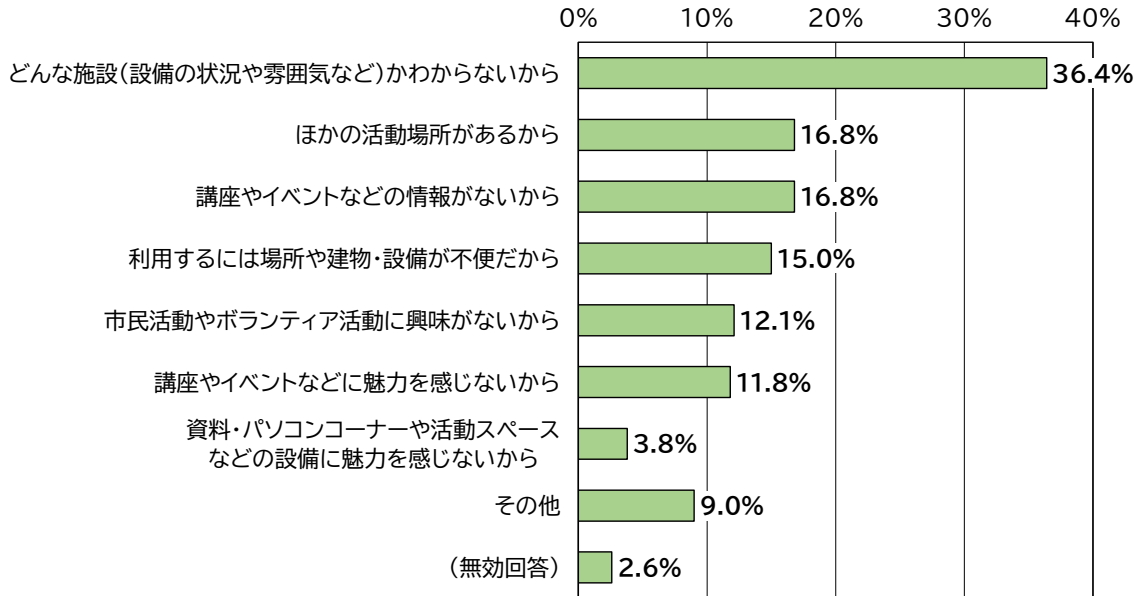
○南部地域（中心市街地）では、「よく利用する（月1回以上）」と「利用したことがある」の合計が30%を超えています。東部地域では，15%を下回っています。



問 37-1) 調布市市民活動支援センターを利用しない理由は何ですか。

<全体 (n=346)>

○「どんな施設（設備の状況や雰囲気など）かわからないから」が36.4%で最も高く、次いで「ほかの活動場所があるから」及び「講座やイベントなどの情報がないから」の16.8%の順となっています。



<年齢層別>

○おおむね全ての年齢層で「どんな施設（設備の状況や雰囲気など）かわからないから」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	346	9	19	35	54	74	22	33	54	40
どんな施設（設備の状況や雰囲気など）かわからないから	126 36.4%	5 55.6%	5 26.3%	14 40.0%	19 35.2%	32 43.2%	7 31.8%	9 27.3%	21 38.9%	13 32.5%
ほかの活動場所があるから	58 16.8%	1 11.1%	2 10.5%	4 11.4%	7 13.0%	12 16.2%	5 22.7%	6 18.2%	10 18.5%	10 25.0%
講座やイベントなどの情報がないから	58 16.8%	4 44.4%	3 15.8%	6 17.1%	7 13.0%	9 12.2%	3 13.6%	7 21.2%	10 18.5%	8 20.0%
利用するには場所や建物・設備が不便だから	52 15.0%	0 0.0%	4 21.1%	3 8.6%	11 20.4%	8 10.8%	5 22.7%	10 30.3%	6 11.1%	4 10.0%
市民活動やボランティア活動に興味がなから	42 12.1%	2 22.2%	5 26.3%	7 20.0%	7 13.0%	6 8.1%	0 0.0%	3 9.1%	7 13.0%	5 12.5%
講座やイベントなどに魅力を感じないから	41 11.8%	1 11.1%	4 21.1%	4 11.4%	5 9.3%	6 8.1%	4 18.2%	4 12.1%	8 14.8%	5 12.5%
資料・パソコンコーナーや活動スペースなどの設備に魅力を感じないから	13 3.8%	0 0.0%	2 10.5%	2 5.7%	2 3.7%	1 1.4%	0 0.0%	1 3.0%	2 3.7%	2 5.0%
その他	31 9.0%	0 0.0%	3 15.8%	3 8.6%	2 3.7%	8 10.8%	2 9.1%	3 9.1%	7 13.0%	3 7.5%
(無効回答)	9 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	4 7.4%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%

(上段：実数（人），下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：

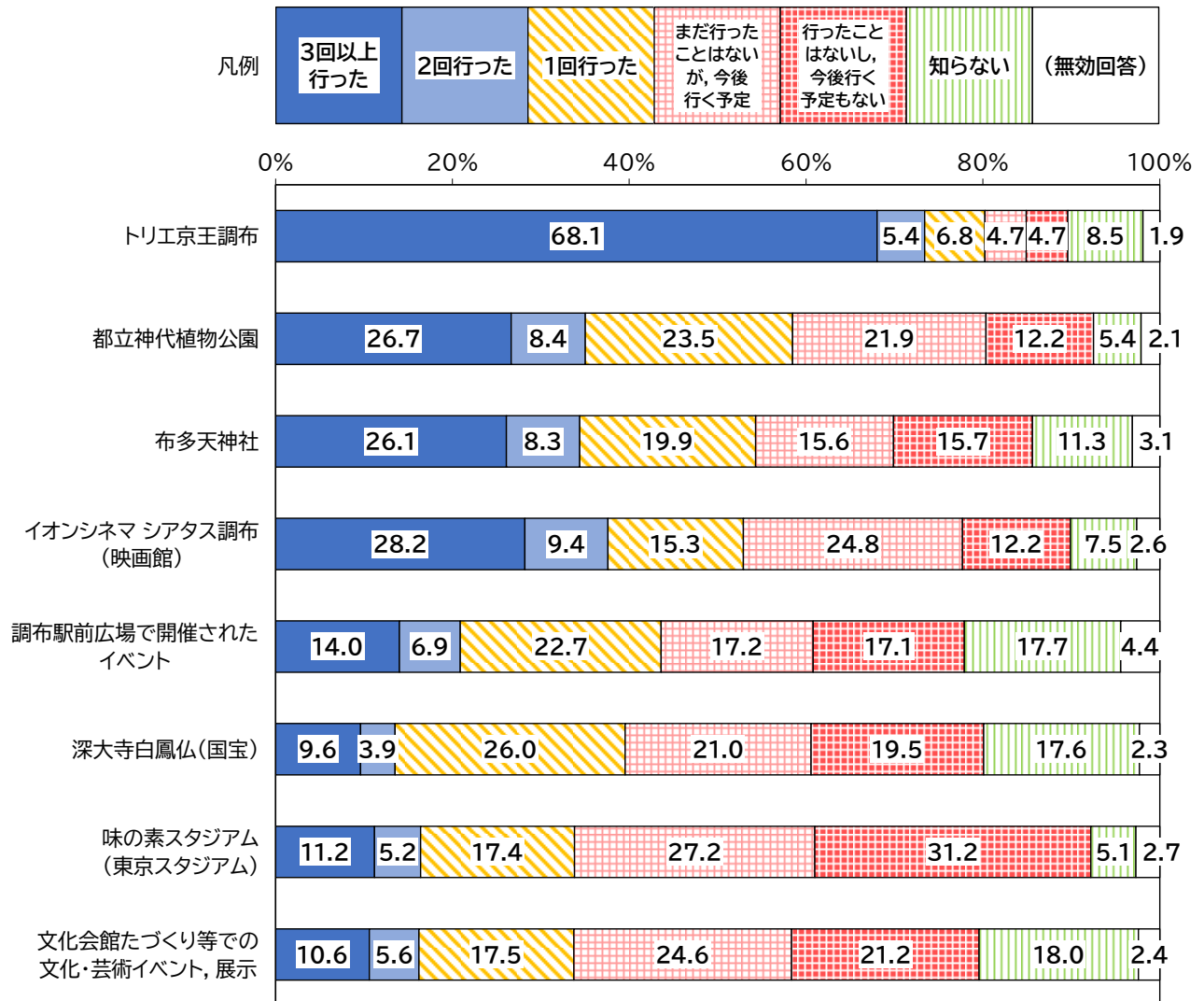


【産業・農業・観光について】

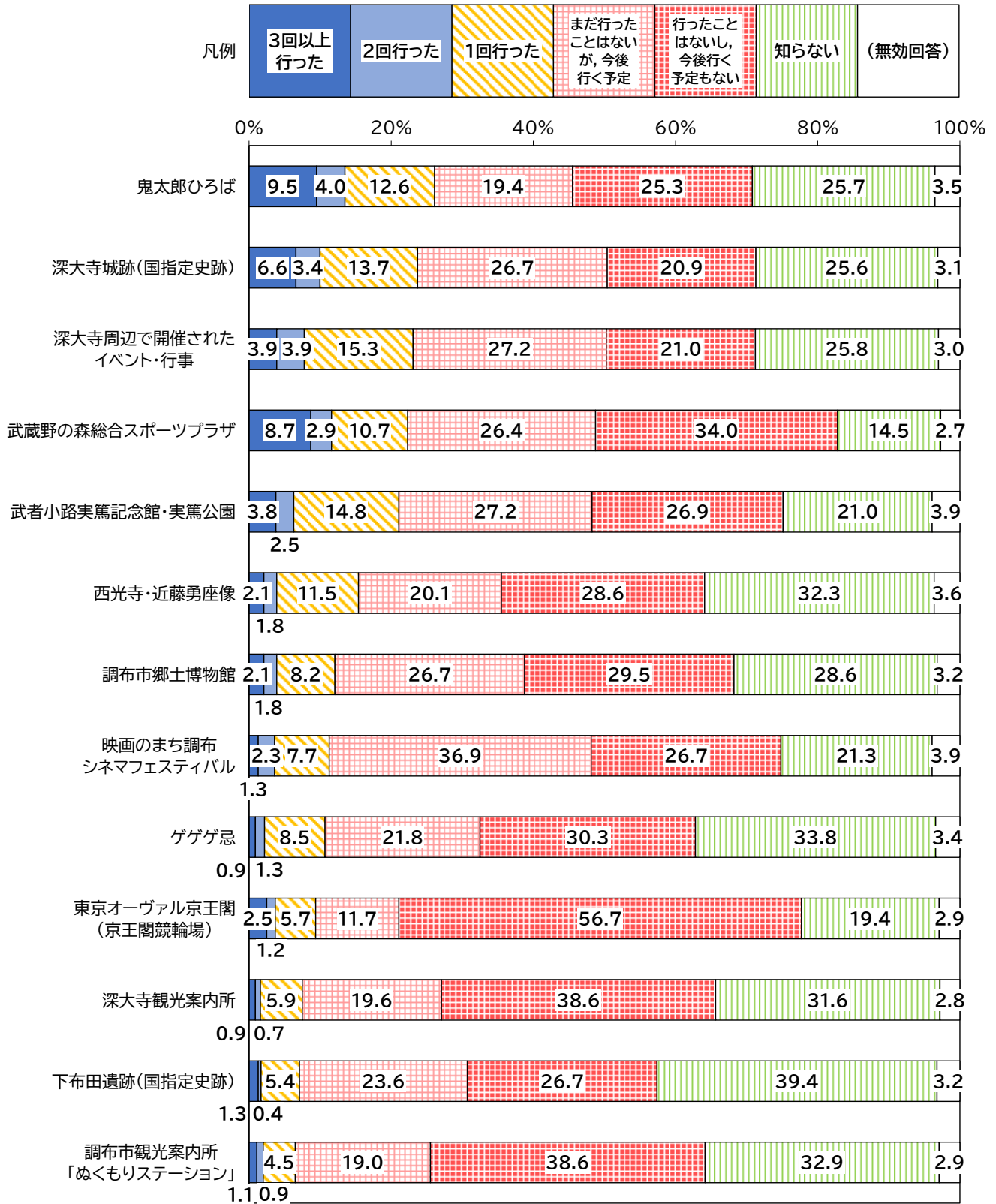
問 38) あなたは、この1年間に次のイベントや施設・場所に行ったことがありますか。

<全体 (n=1,193)>

- 「1回行った」、「2回行った」、「3回以上行った」の合計が50%を超えているのは、「トリエ京王調布」、「都立神代植物公園」、「布多天神社」、「イオンシネマ シアタス調布（映画館）」となっています。
- 「映画のまち調布シネマフェスティバル」は、「まだ行ったことはないが、今後行く予定」が30%を超えています。

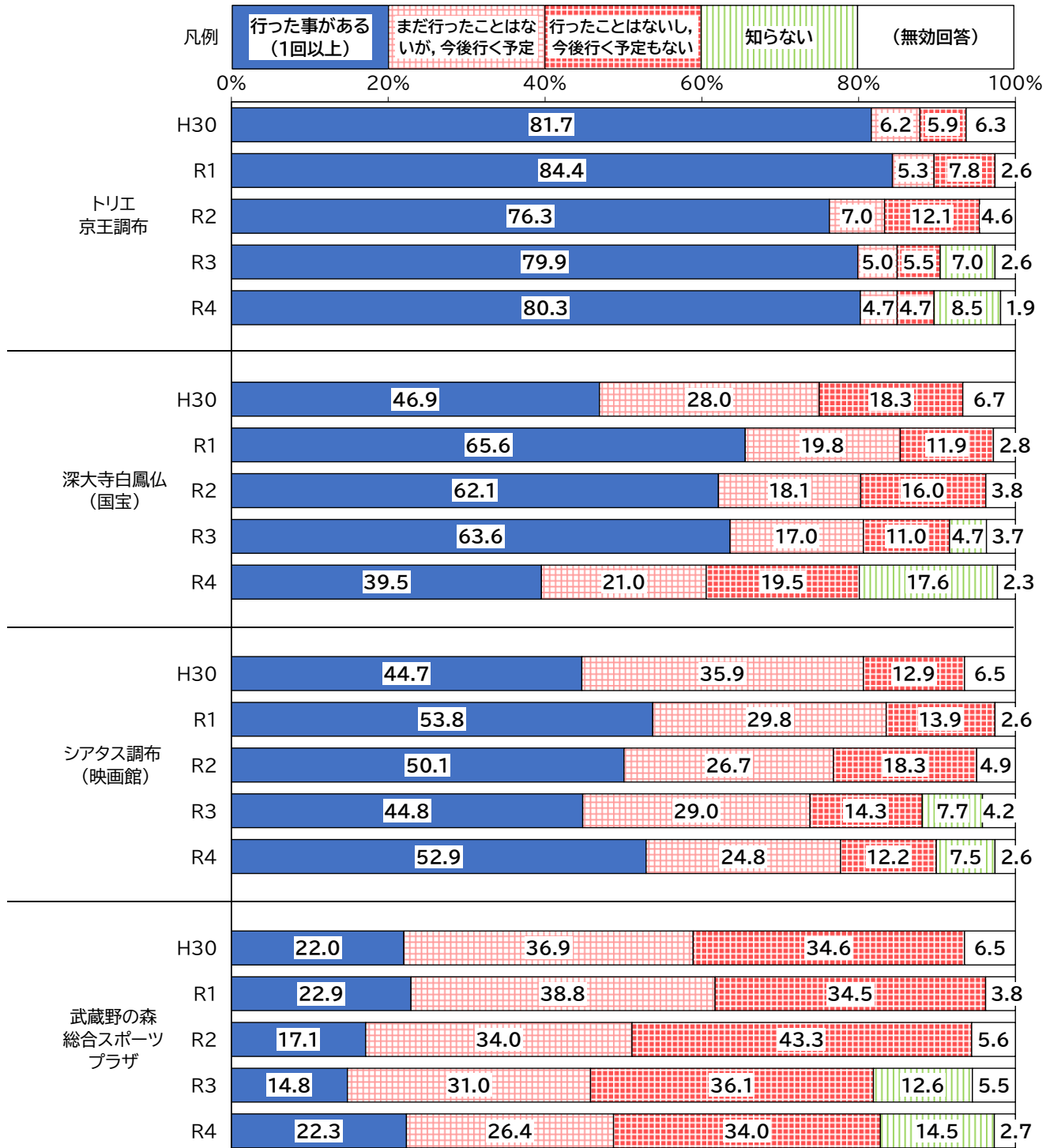


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>



<経年比較>

○平成30年度以降、「トリエ京王調布」、「深大寺白鳳仏（国宝）」、「シアタス調布（映画館）」、「武蔵野の森総合スポーツプラザ」に「行ったことがある（1回以上）」と回答した方の割合は令和元年度をピークに減少傾向でしたが、令和4年度は、「深大寺白鳳仏（国宝）」を除き、「トリエ京王調布」、「シアタス調布（映画館）」、「武蔵野の森総合スポーツプラザ」で増加しました。

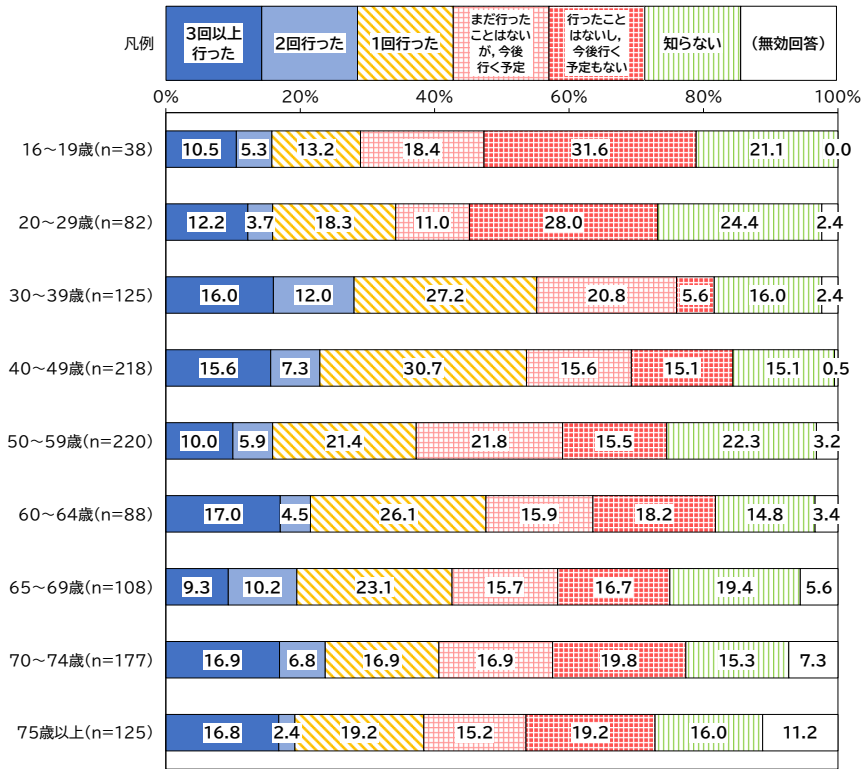


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

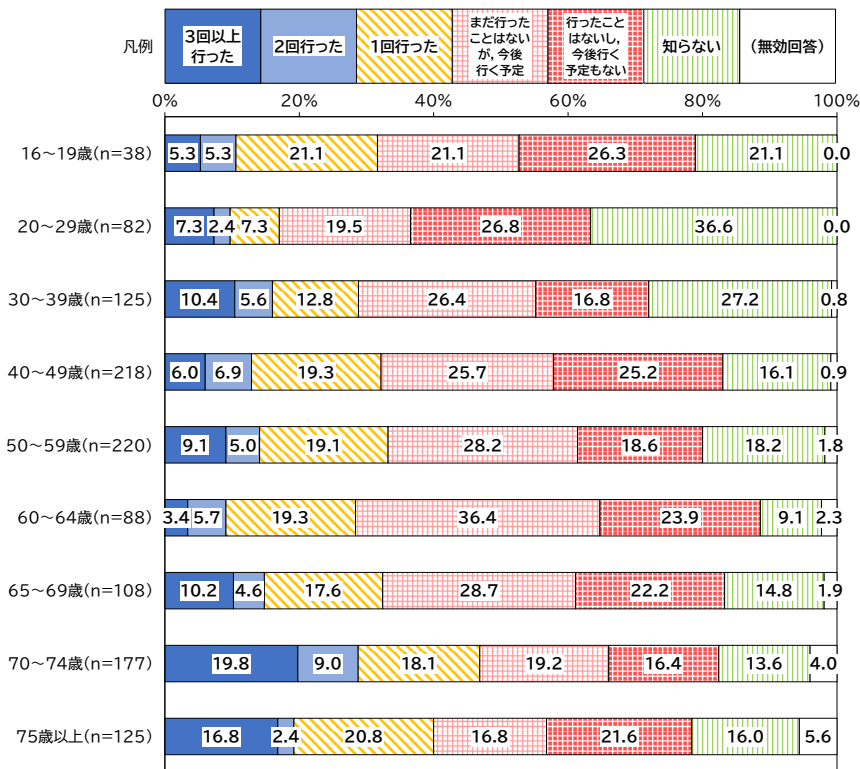
<年齢層別>

○「キトリエ京王調布」や「クイオンシネマシアタス調布（映画館）」は年齢層が下がるほど、「カ武者小路実篤記念館・実篤公園」、「サ深大寺白鳳仏（国宝）」、「シ都立神代植物公園」、「ス深大寺城跡（国指定史跡）」は年代が上がるほど「1回行った」、「2回行った」、「3回以上行った」の合計が高くなる傾向にあります。

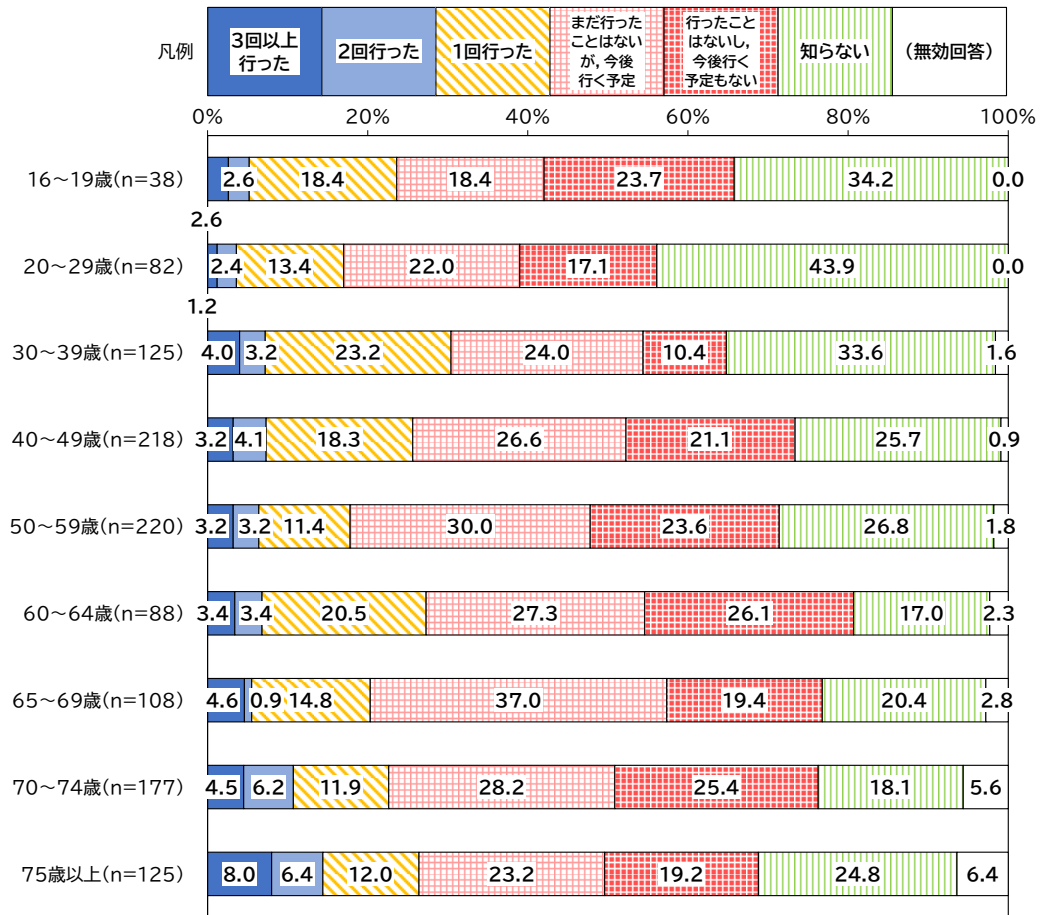
ア 調布駅前広場で開催されたイベント



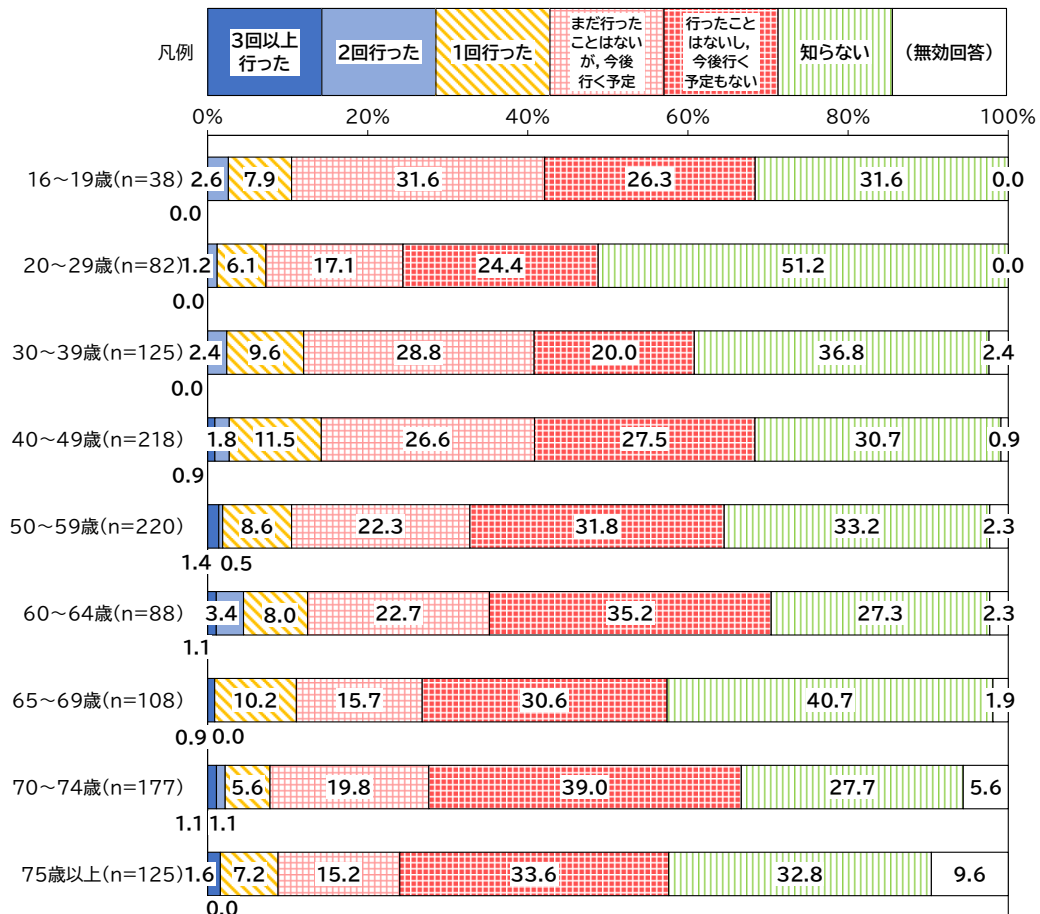
イ 文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場での文化・芸術イベント、展示



ウ 深大寺周辺で開催されたイベント・行事

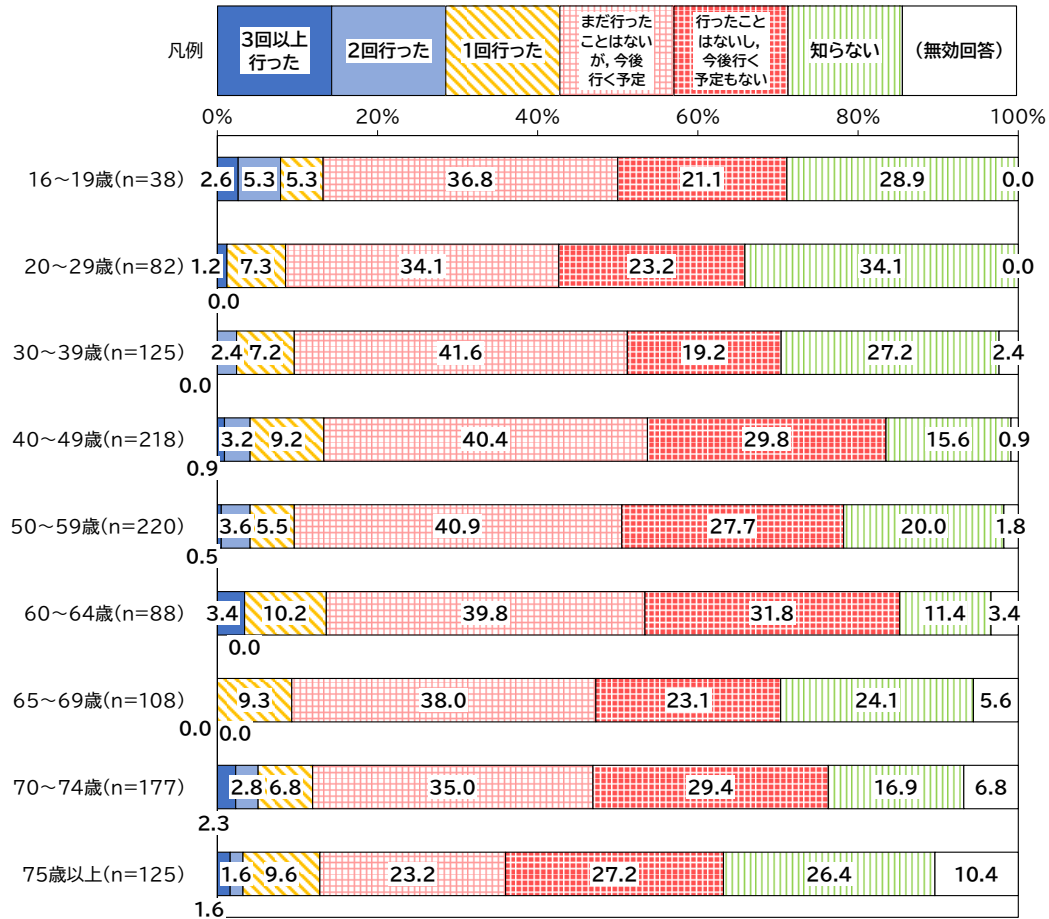


エ ゲゲゲ忌

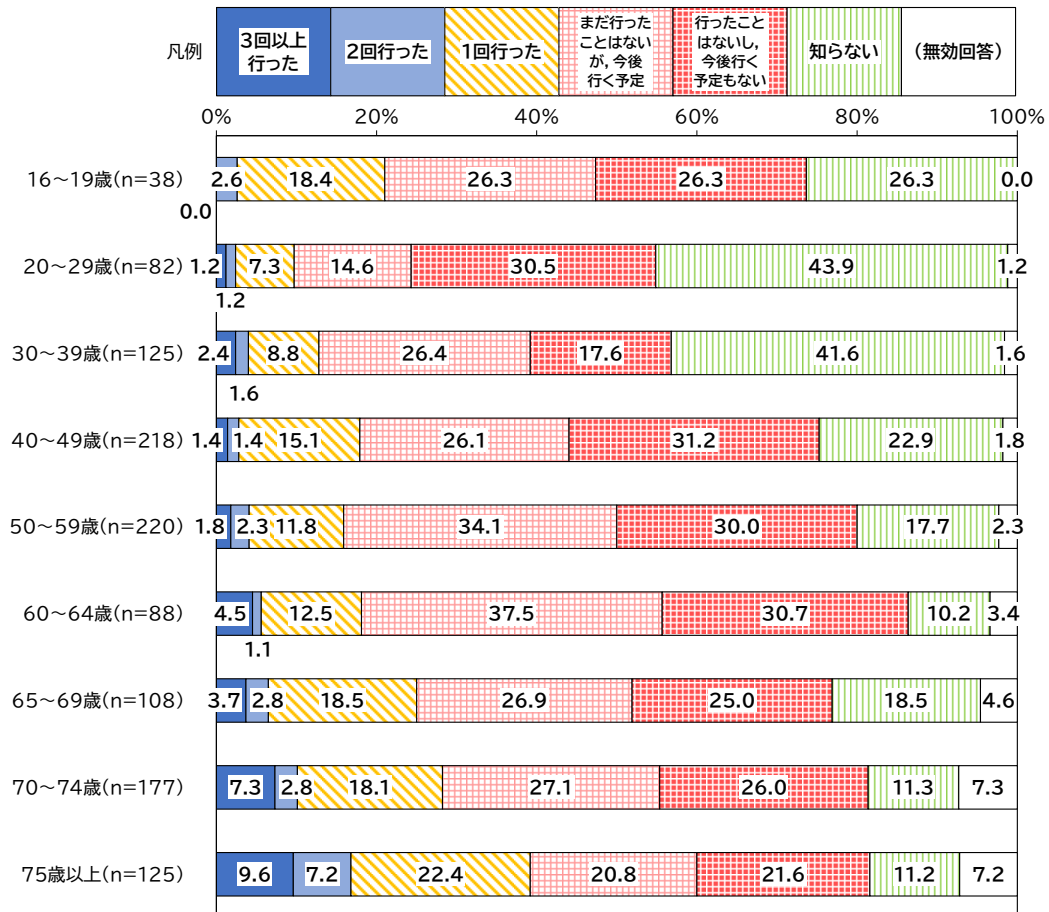


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

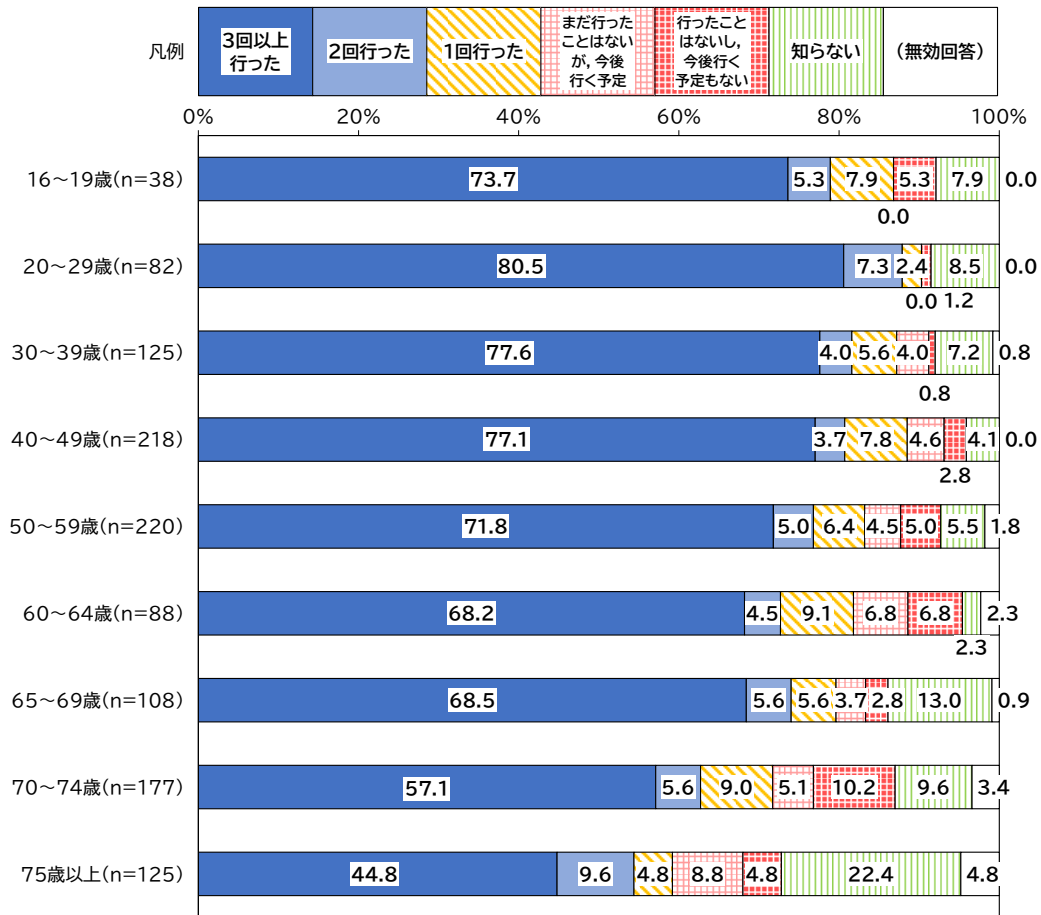
オ 映画のまち調布 シネマフェスティバル



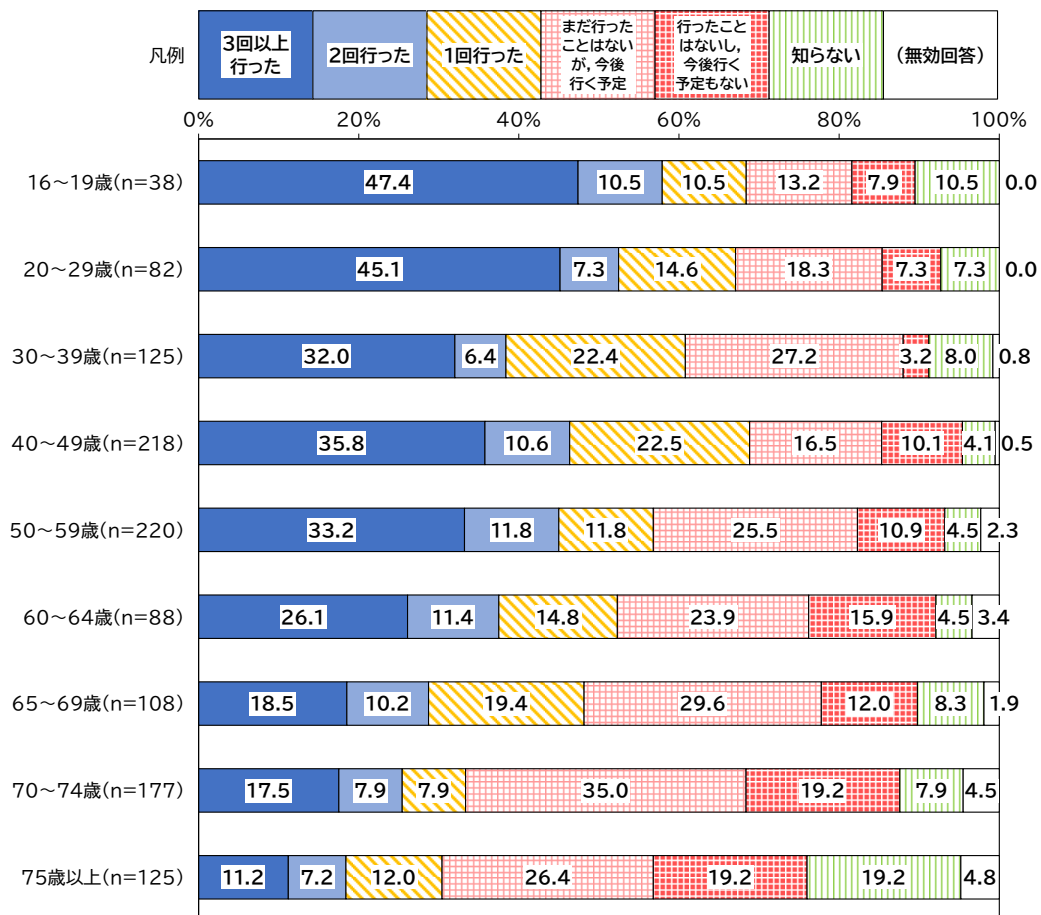
カ 武者小路実篤記念館・実篤公園



キ トリエ京王調布

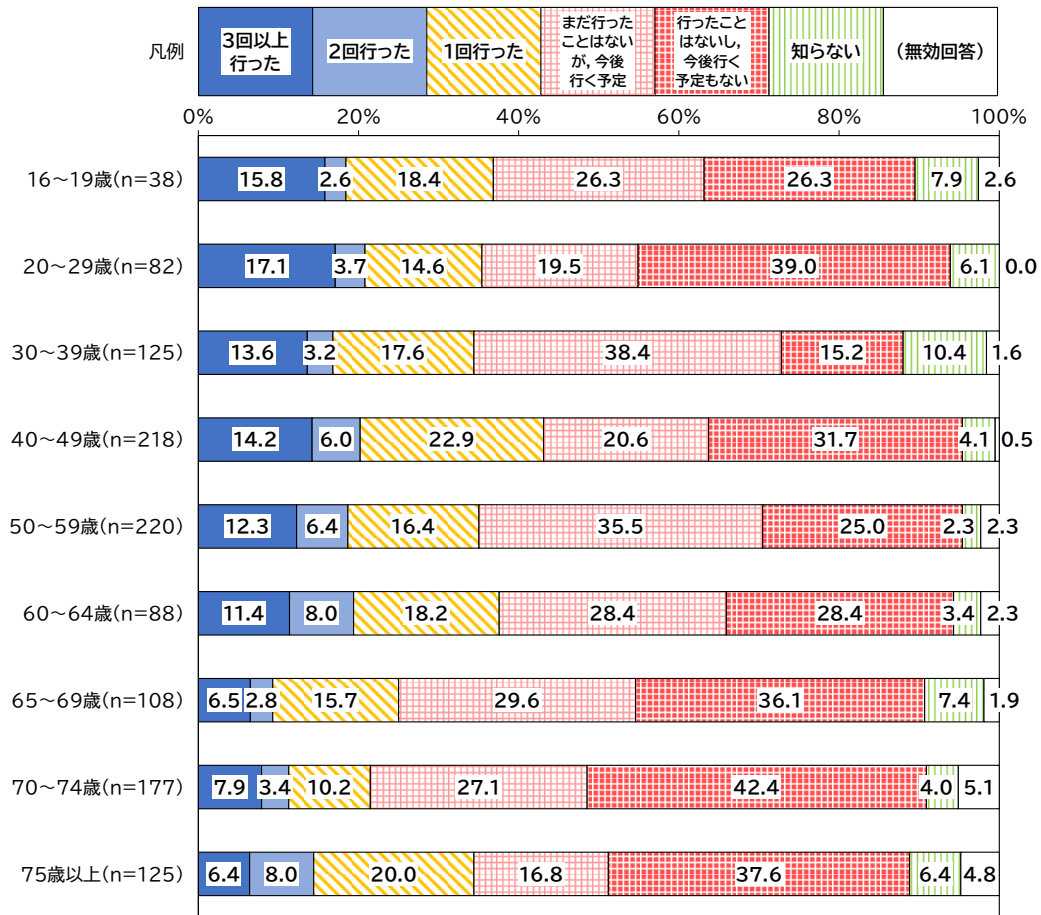


ク イオンシネマ シアタス調布 (映画館)

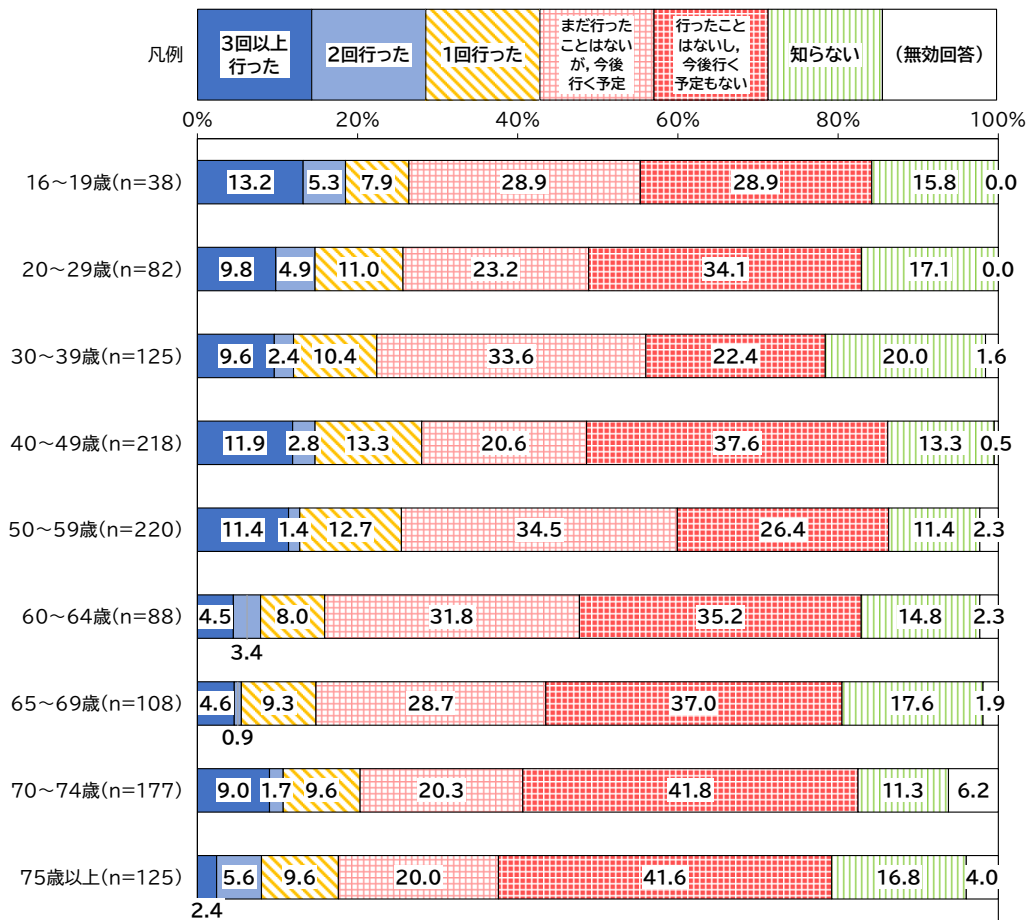


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

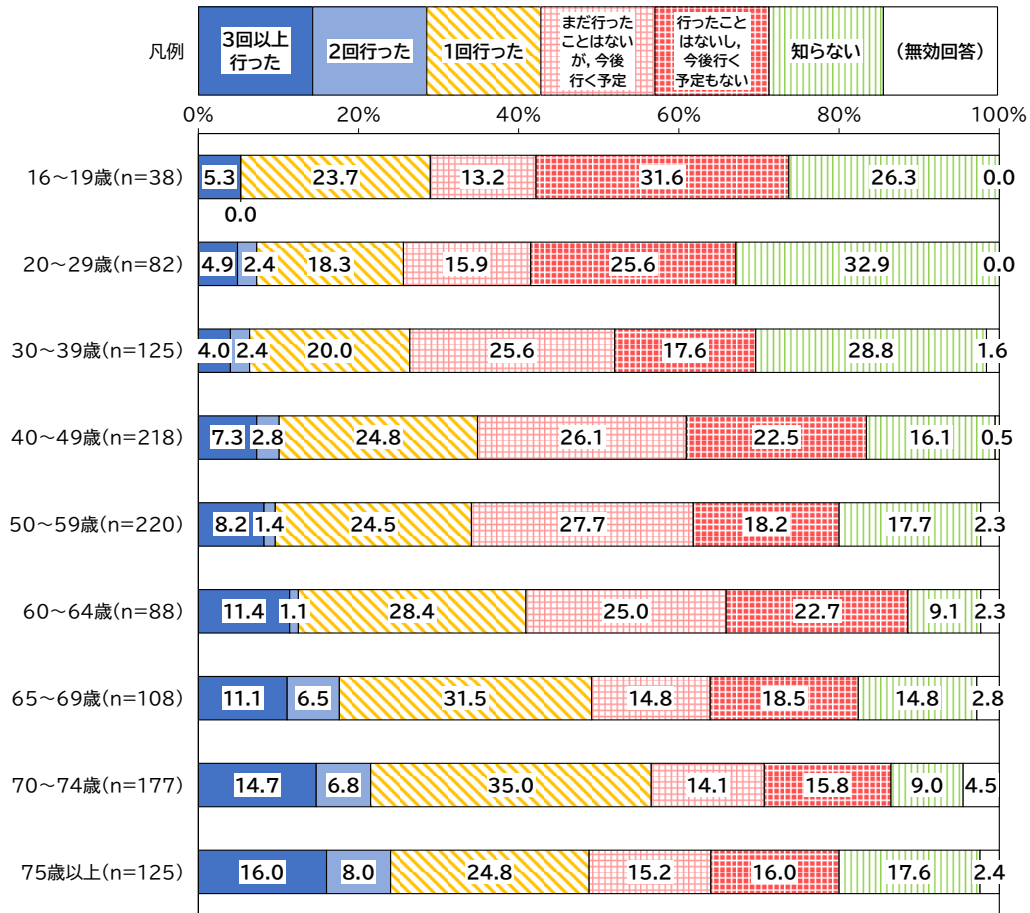
ケ 味の素スタジアム（東京スタジアム）



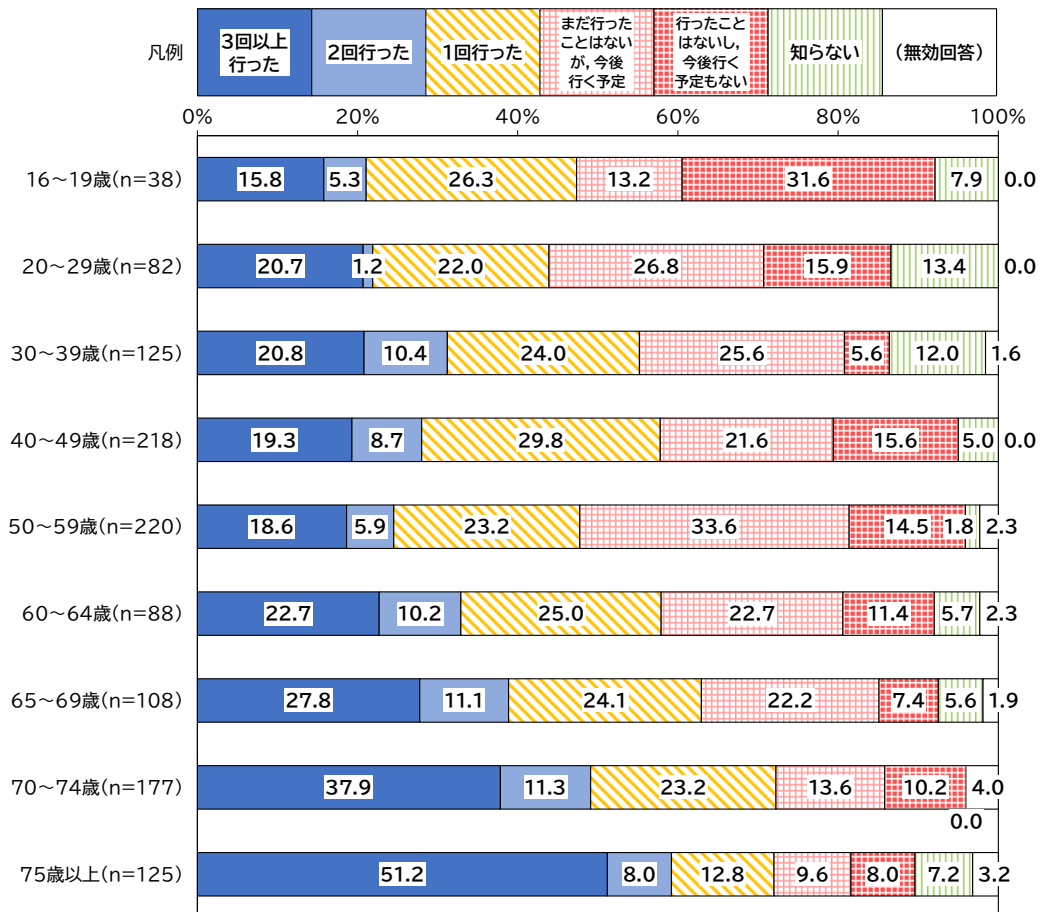
コ 武蔵野の森総合スポーツプラザ



サ 深大寺白鳳仏（国宝）

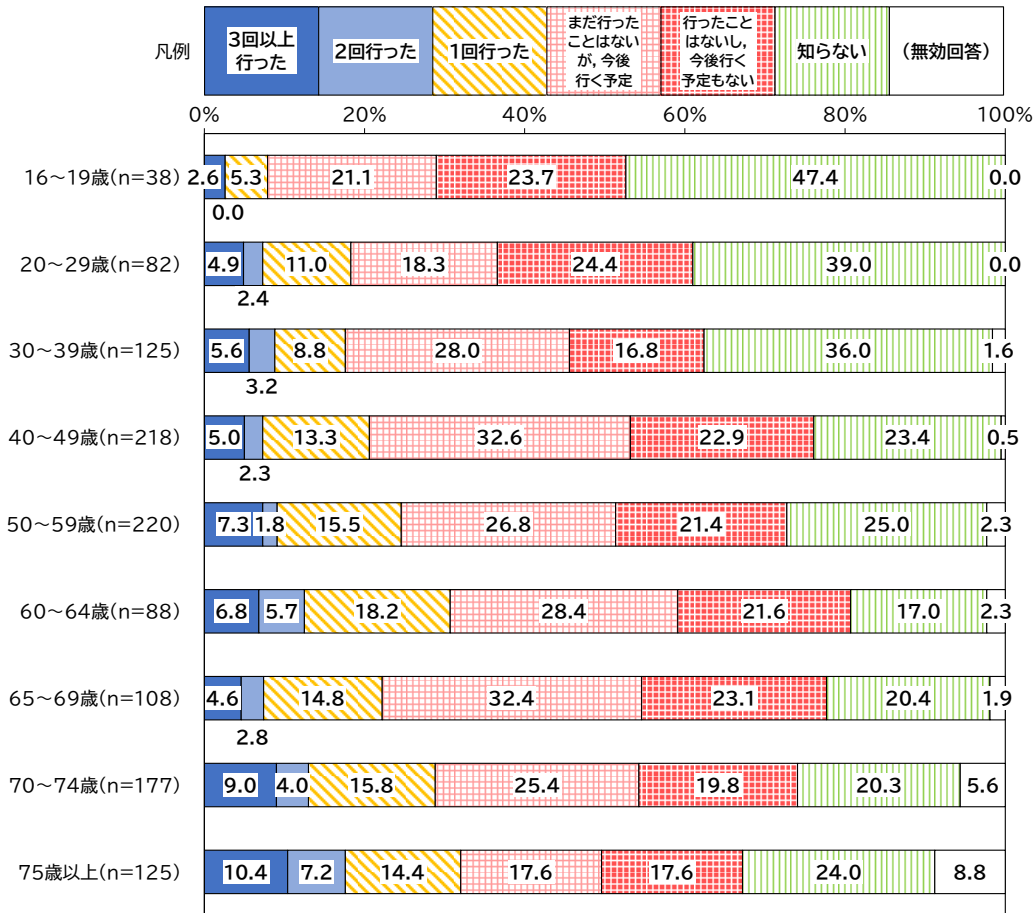


シ 都立神代植物公園

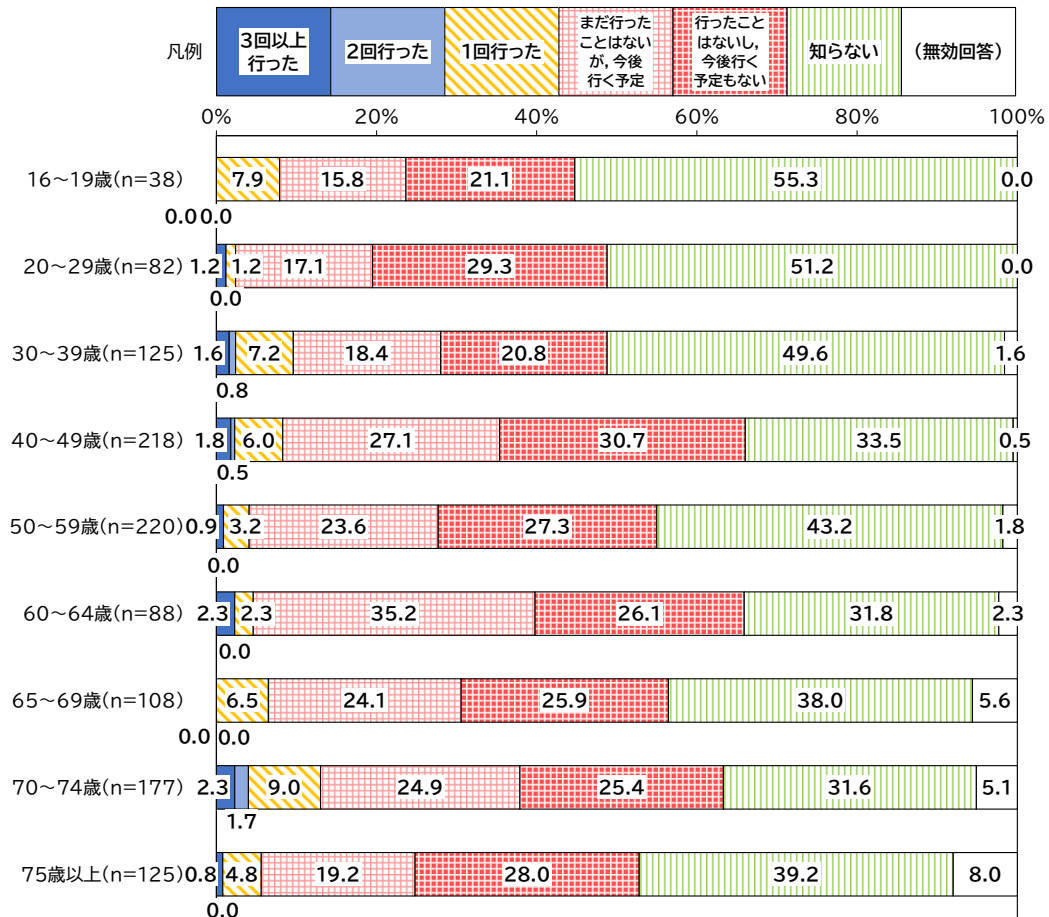


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

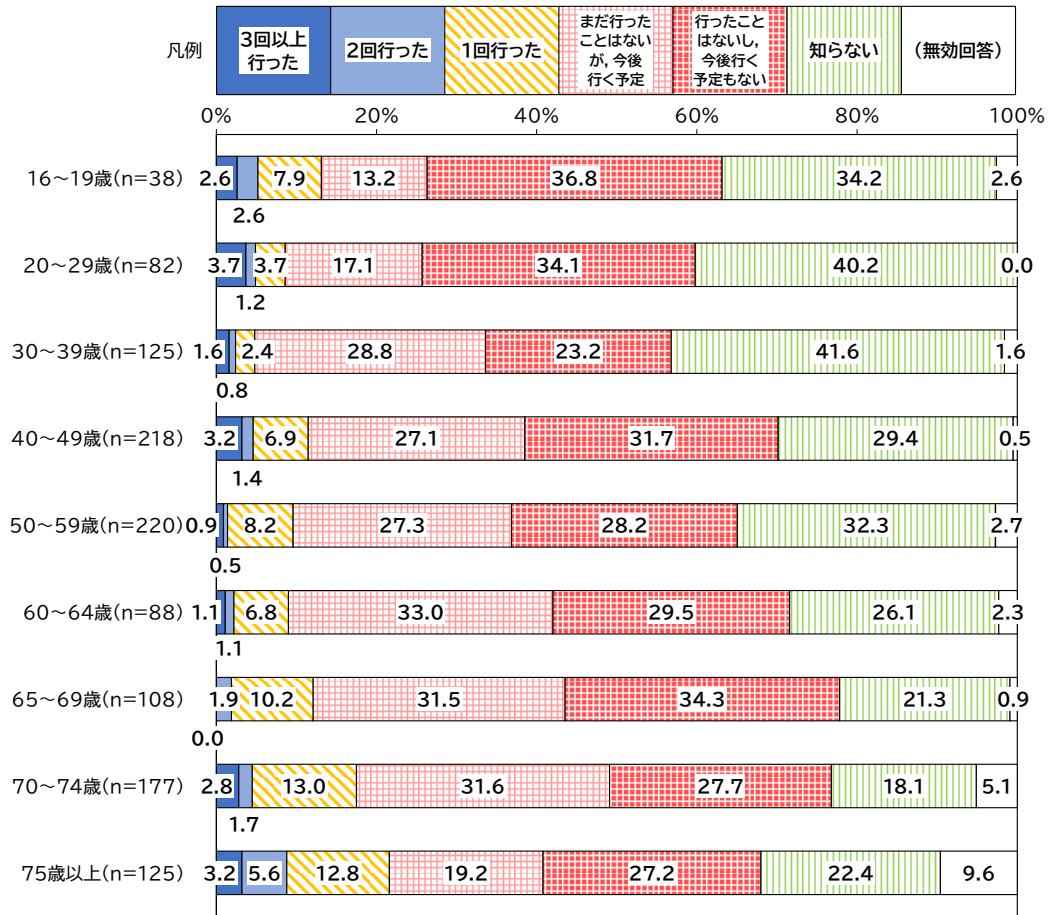
ス 深大寺城跡（国指定史跡）



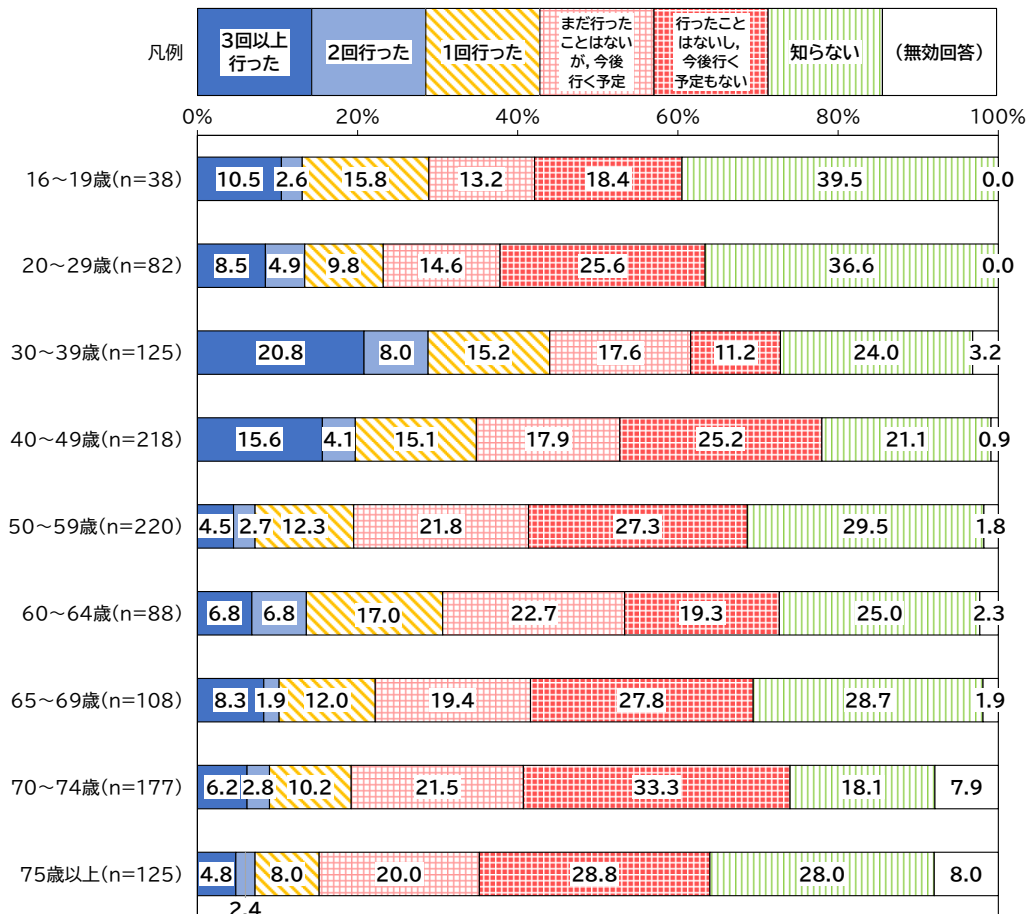
セ 下布田遺跡（国指定史跡）



ソ 調布市郷土博物館

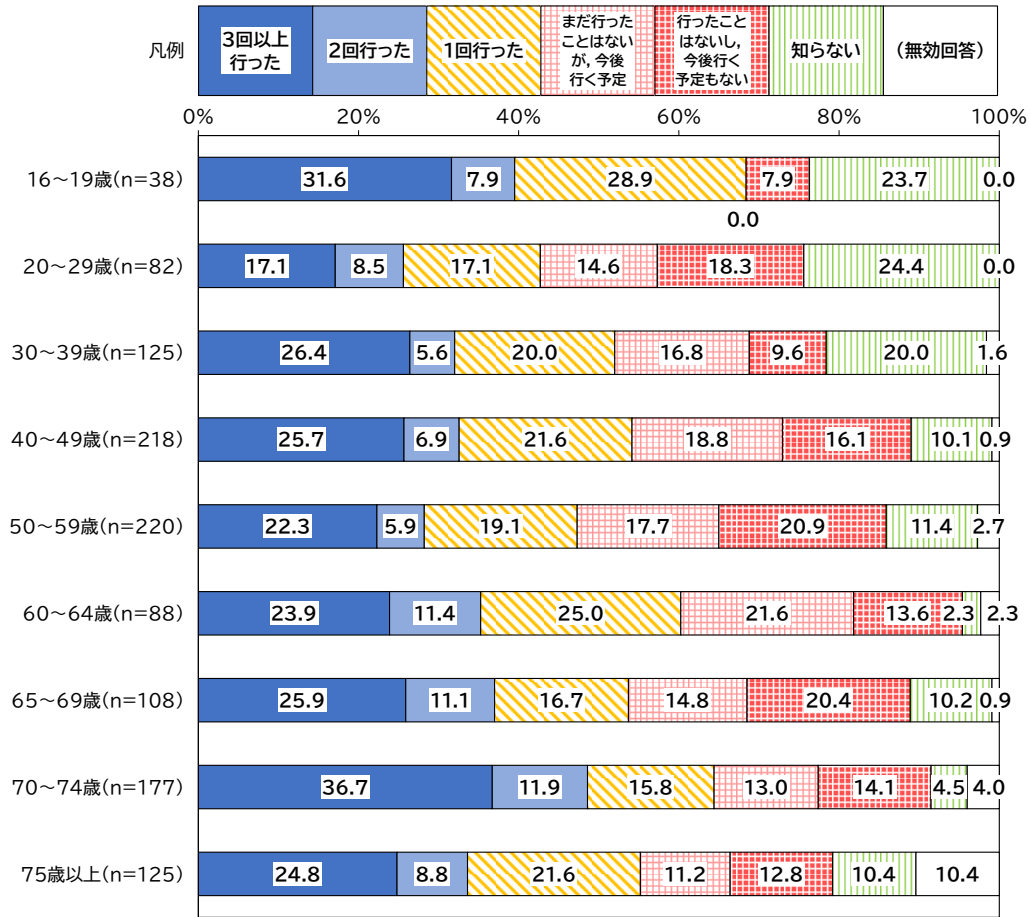


タ 鬼太郎ひろば

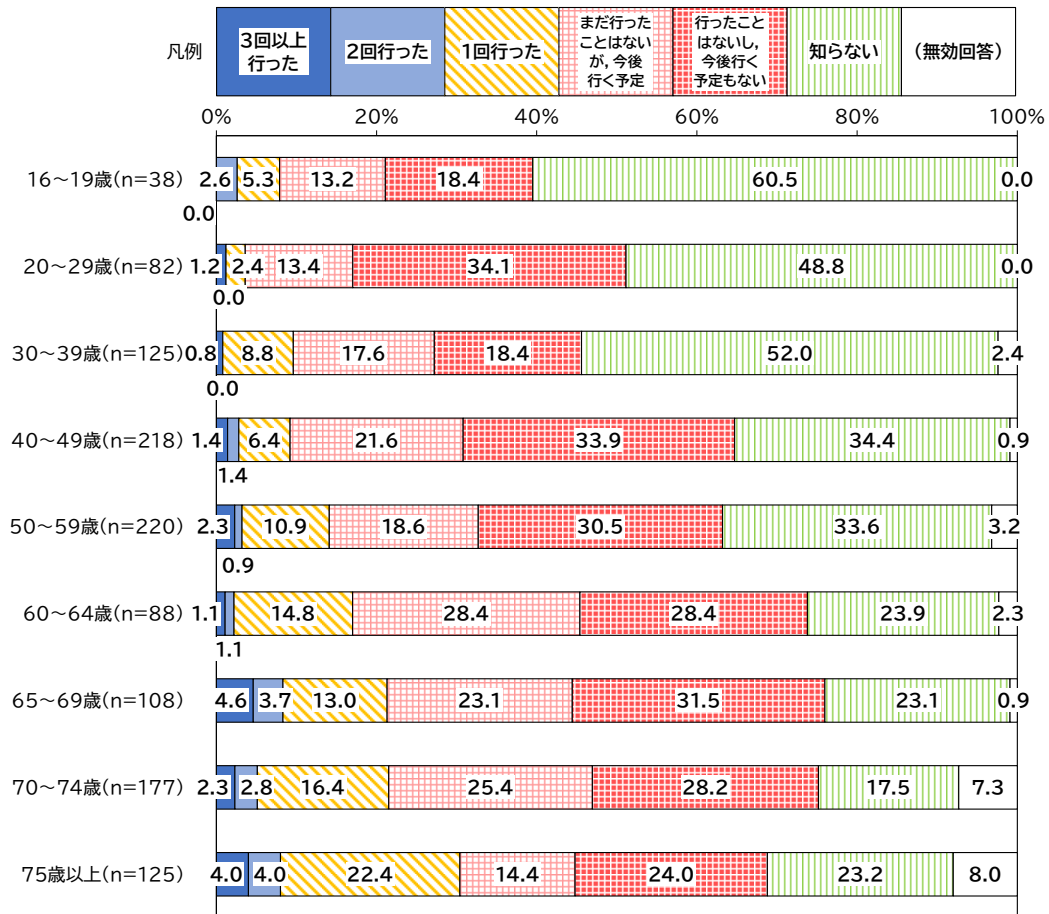


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

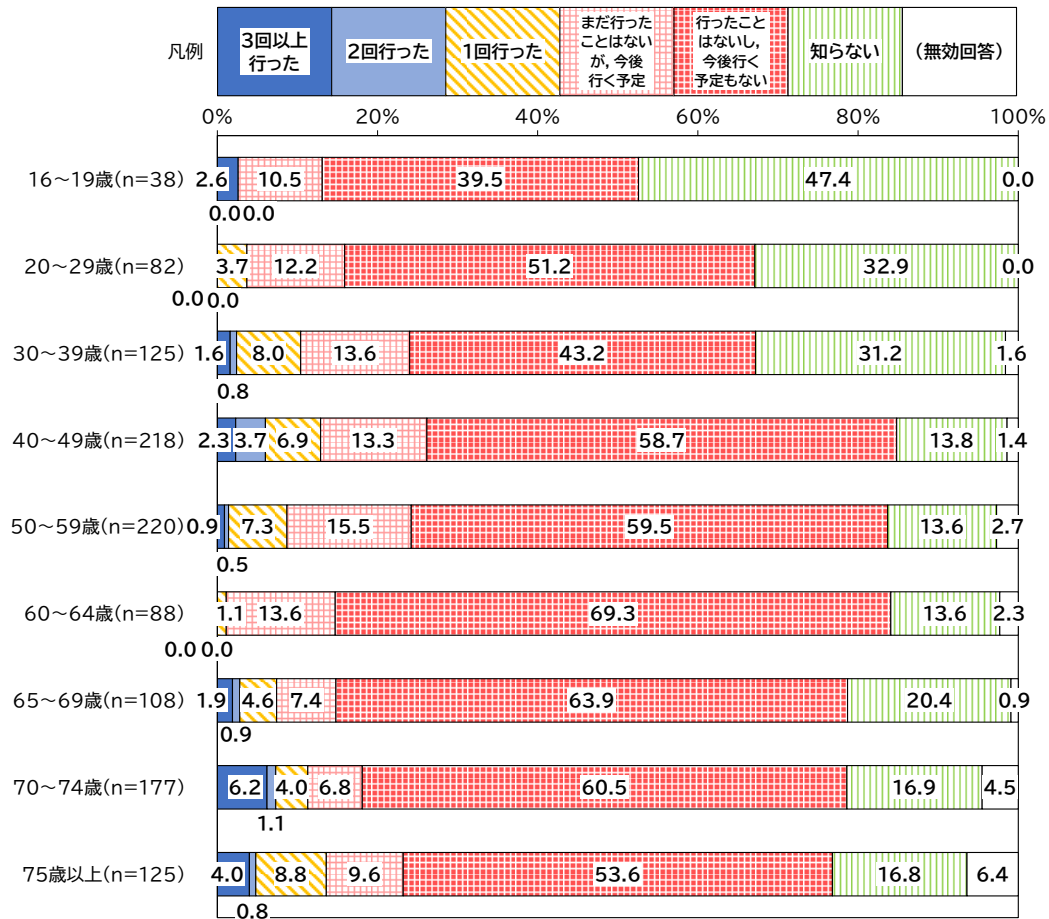
チ 布多天神社



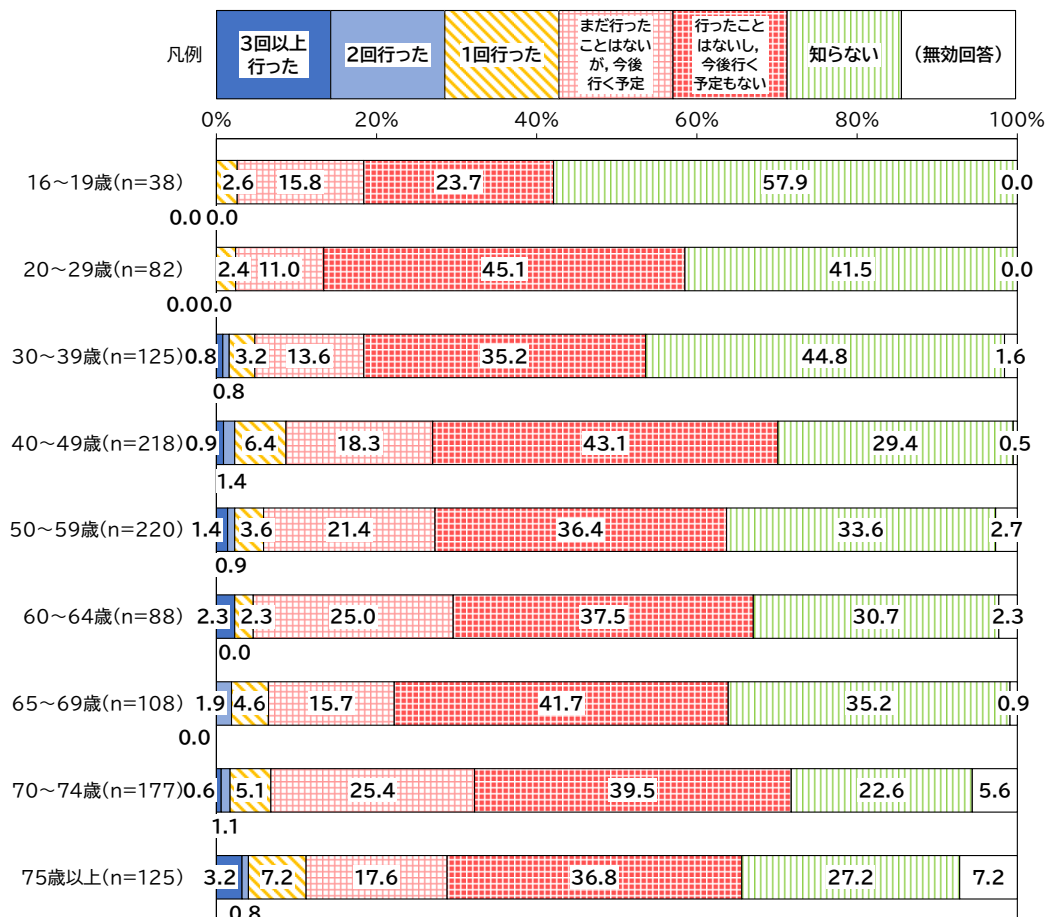
ツ 西光寺・近藤勇座像



テ 東京オーヴァル京王閣（京王閣競輪場）

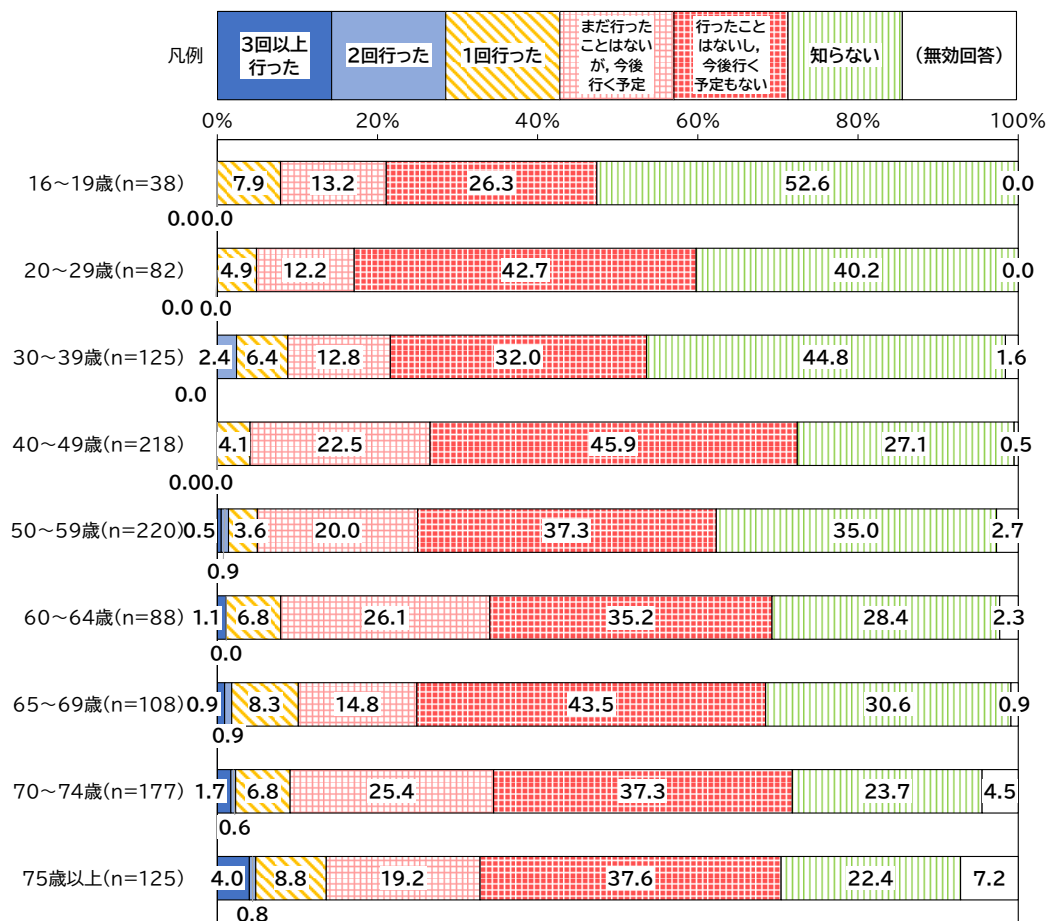


ト 調布市観光案内所「ぬくもりステーション」



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

ナ 深大寺観光案内所



問 39) 買い物や食事など、お店選びで重視していることは何ですか。

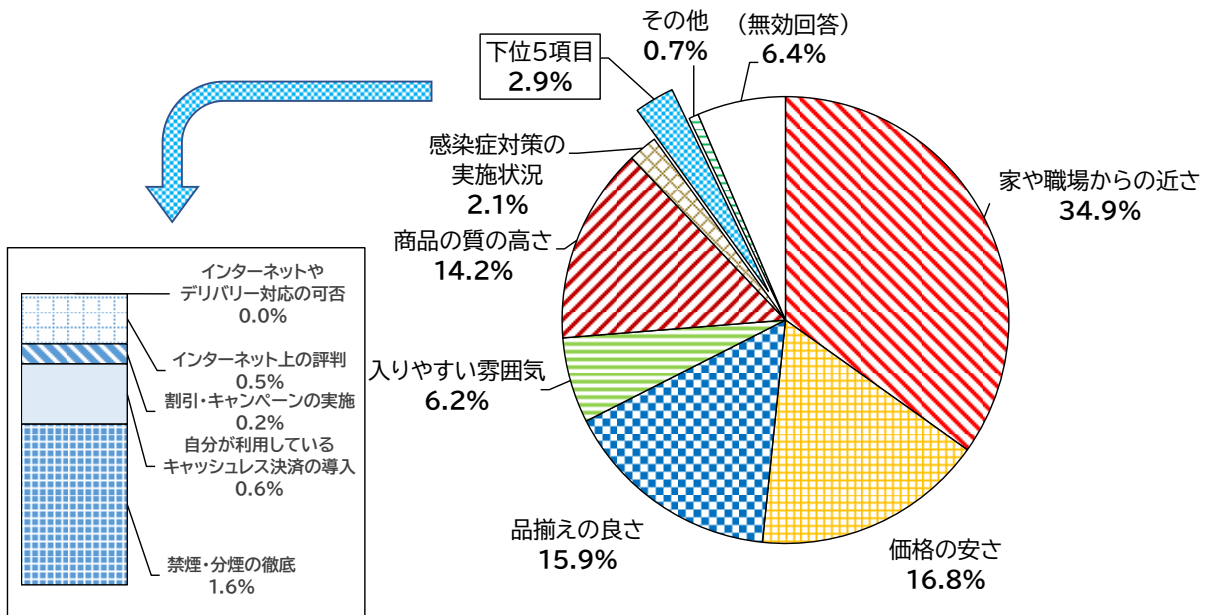
<全体 (n=1,193) >

○1 番目に重視していることは、「家や職場からの近さ」が 34.9%で最も高く、次いで「価格の安さ」の 16.8%、「品揃えの良さ」の 15.9%の順となっています。

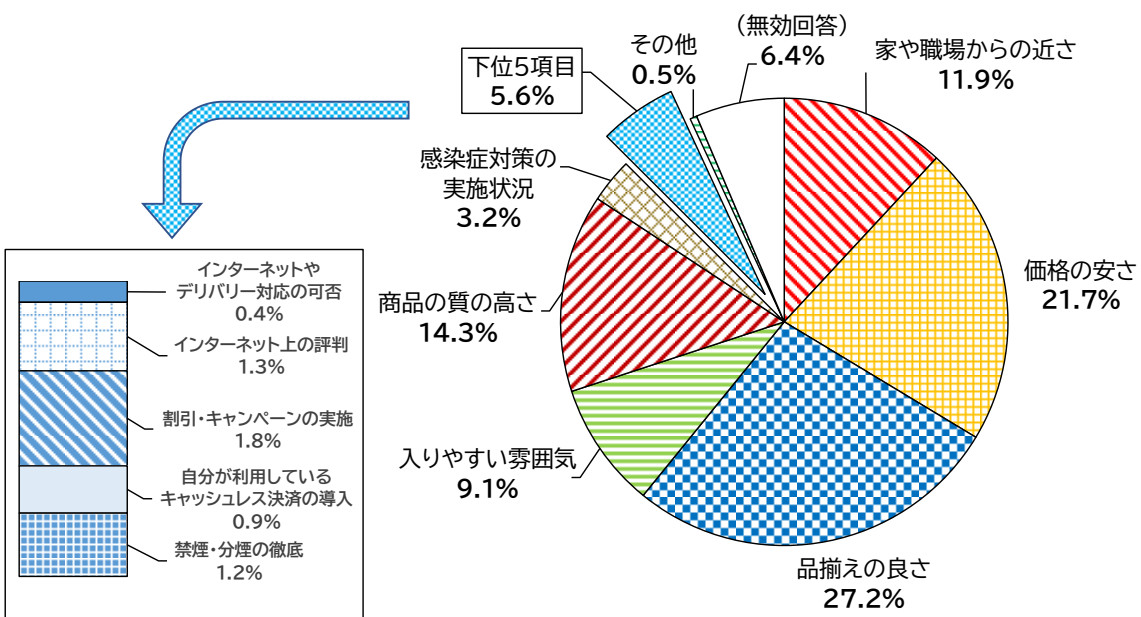
○2 番目に重視していることは、「品揃えの良さ」が 27.2%で最も高く、次いで「価格の安さ」の 21.7%、「商品の質の高さ」の 14.3%の順となっています。

○3 番目に重視していることは、「品揃えの良さ」が 18.9%で最も高く、次いで「商品の質の高さ」の 17.9%、「家や職場からの近さ」の 12.5%の順となっています。

1 番目に重視していること

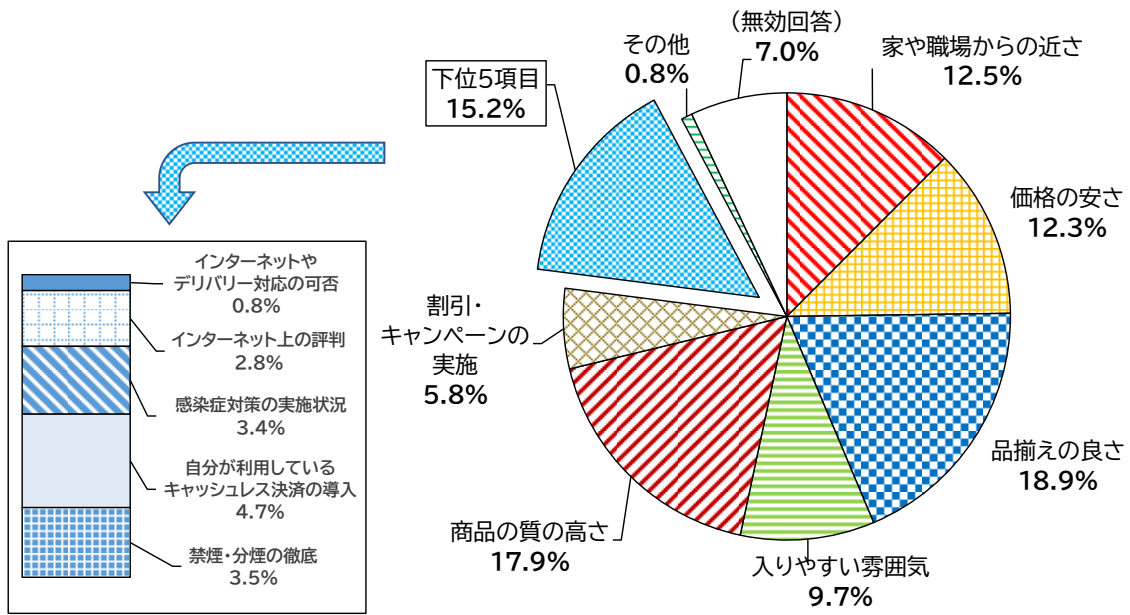


2 番目に重視していること



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

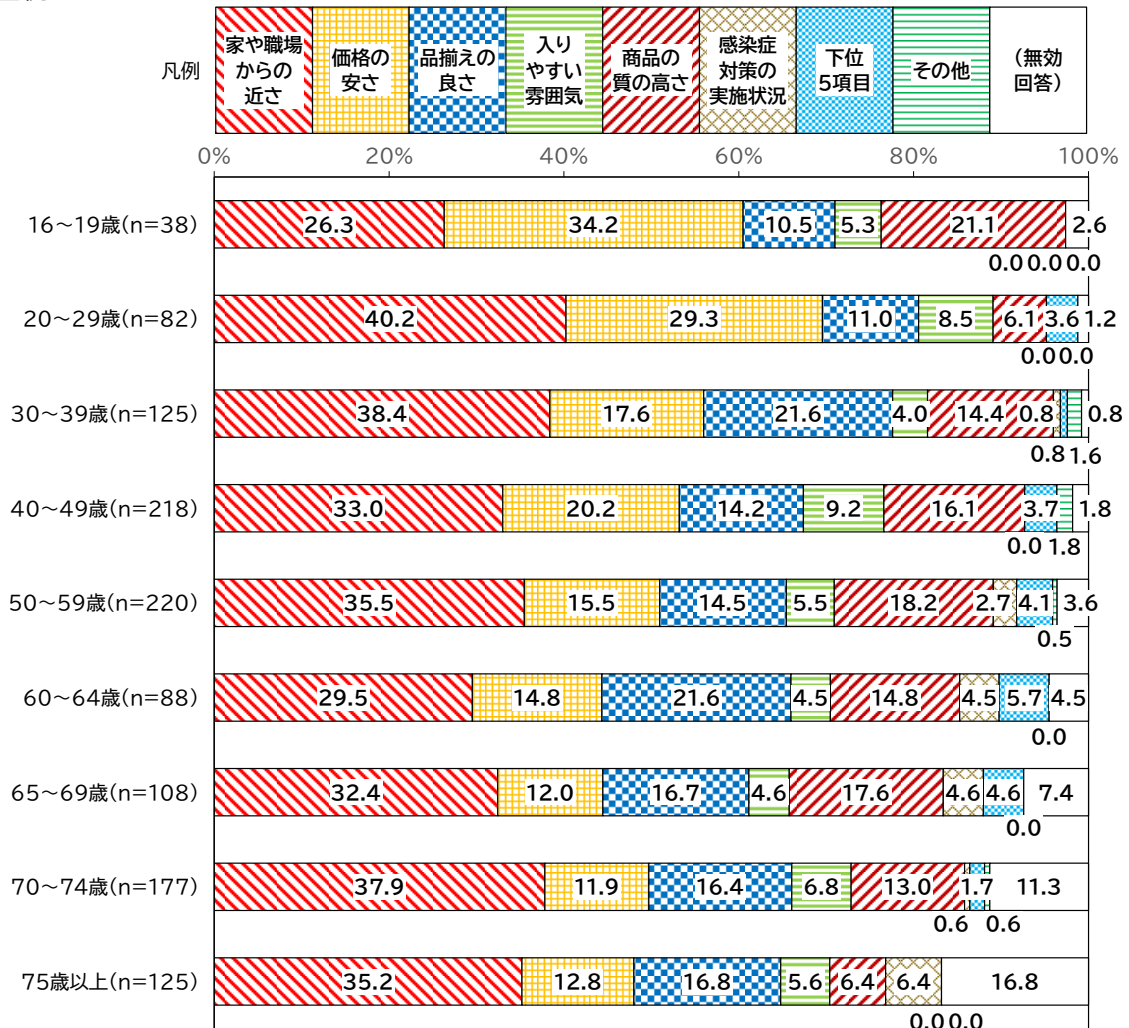
3番目に重視していること



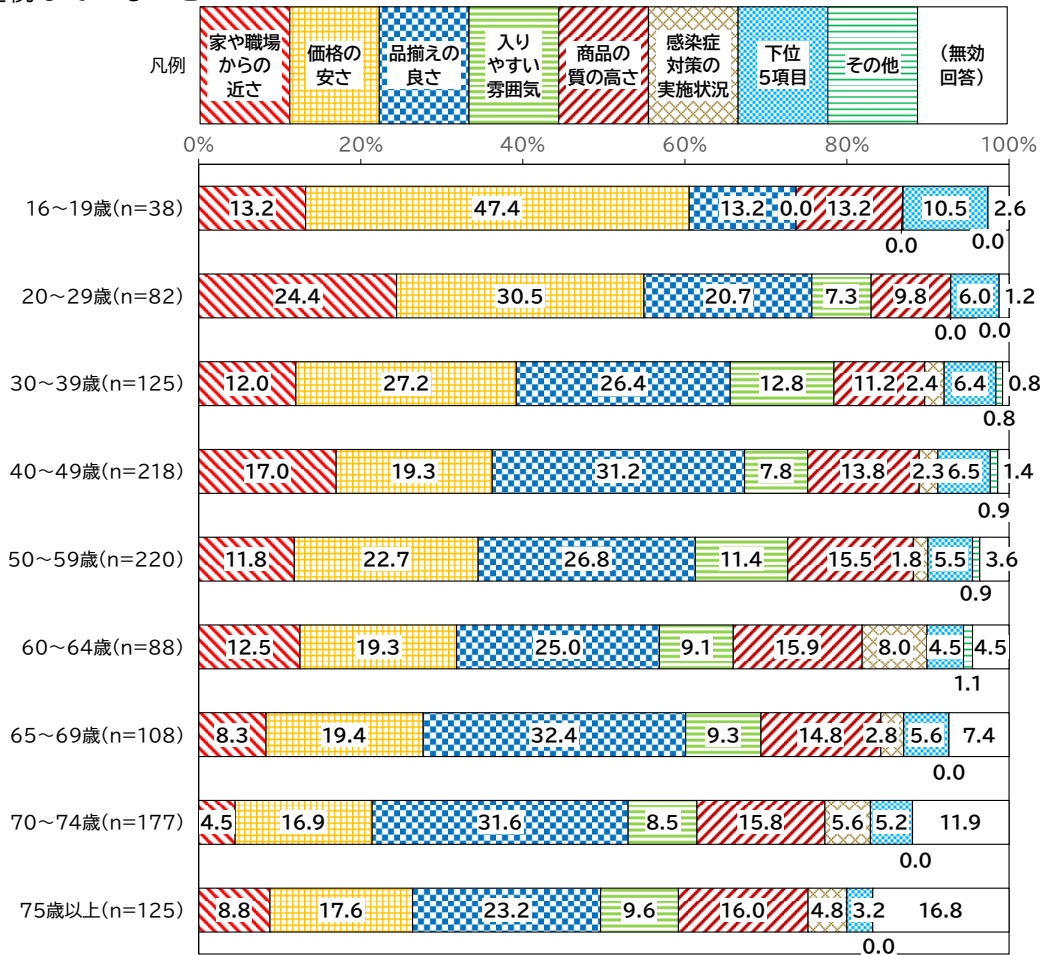
<年齢層別>

○1番目に重視していることは、16～19歳を除く年齢層で「家や職場からの近さ」が最も高く、2番目に重視していることは、おおむね年齢が上がるほど「品揃えの良さ」、年齢が下がるほど「価格の安さ」が高くなる傾向にあります。

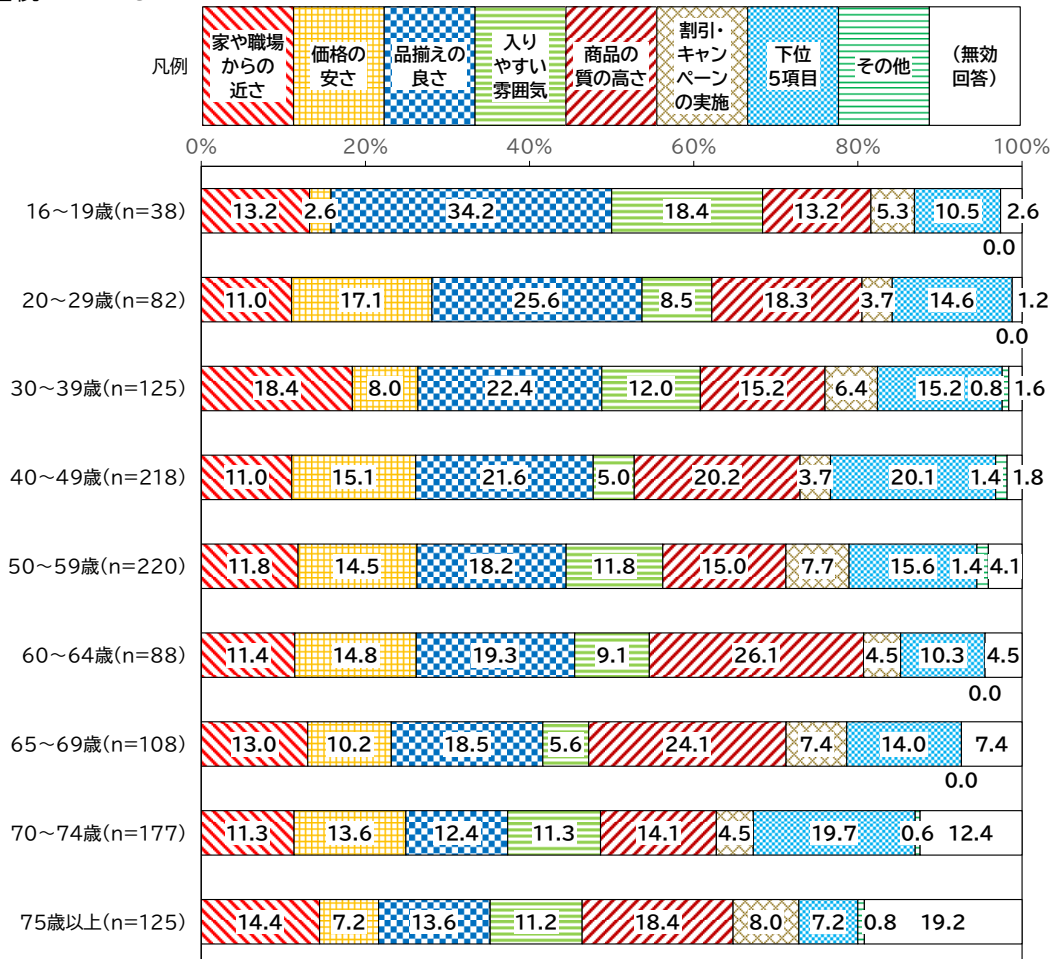
1番目に重視していること



2番目に重視していること



3番目に重視していること



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<自由記述>主な意見を抜粋

【図表 産業振興に関する施策についてのご意見・ご提案】(45件)

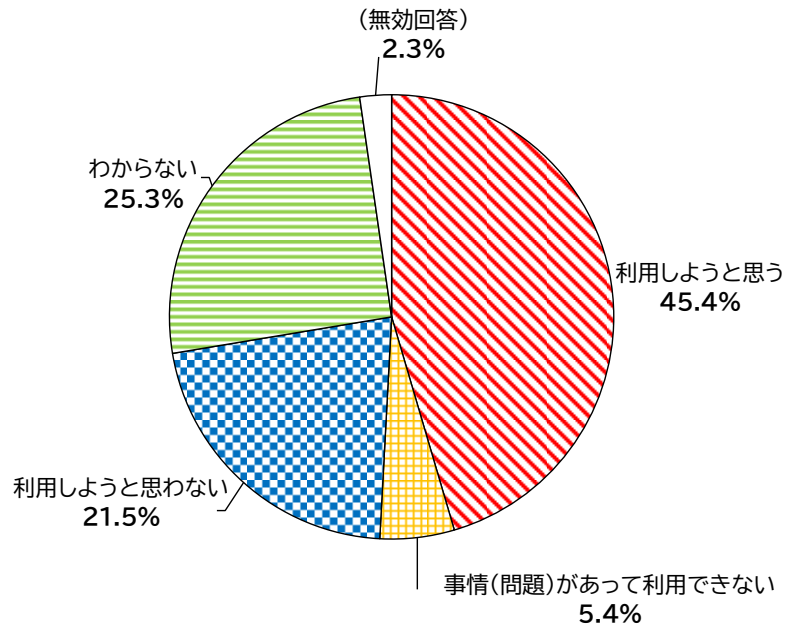
- ・チェーン店ばかりでなく、個人の、そこにしかないようなお店が増えてほしい。
- ・京王多摩川駅周辺にスーパーを誘致してほしい。
- ・深大寺周辺は雰囲気統一感があるけれど駅周辺は統一感がない。よくある都市という感じ。せつかく市役所や市の施設があるのだからもっと調布らしさがあってもいいと思う。

問 40) 令和4年度調布市キャッシュレス決済ポイント還元*事業についてうかがいます。あなたは、この事業を利用しようと思いますか。

<全体 (n=1,193) >

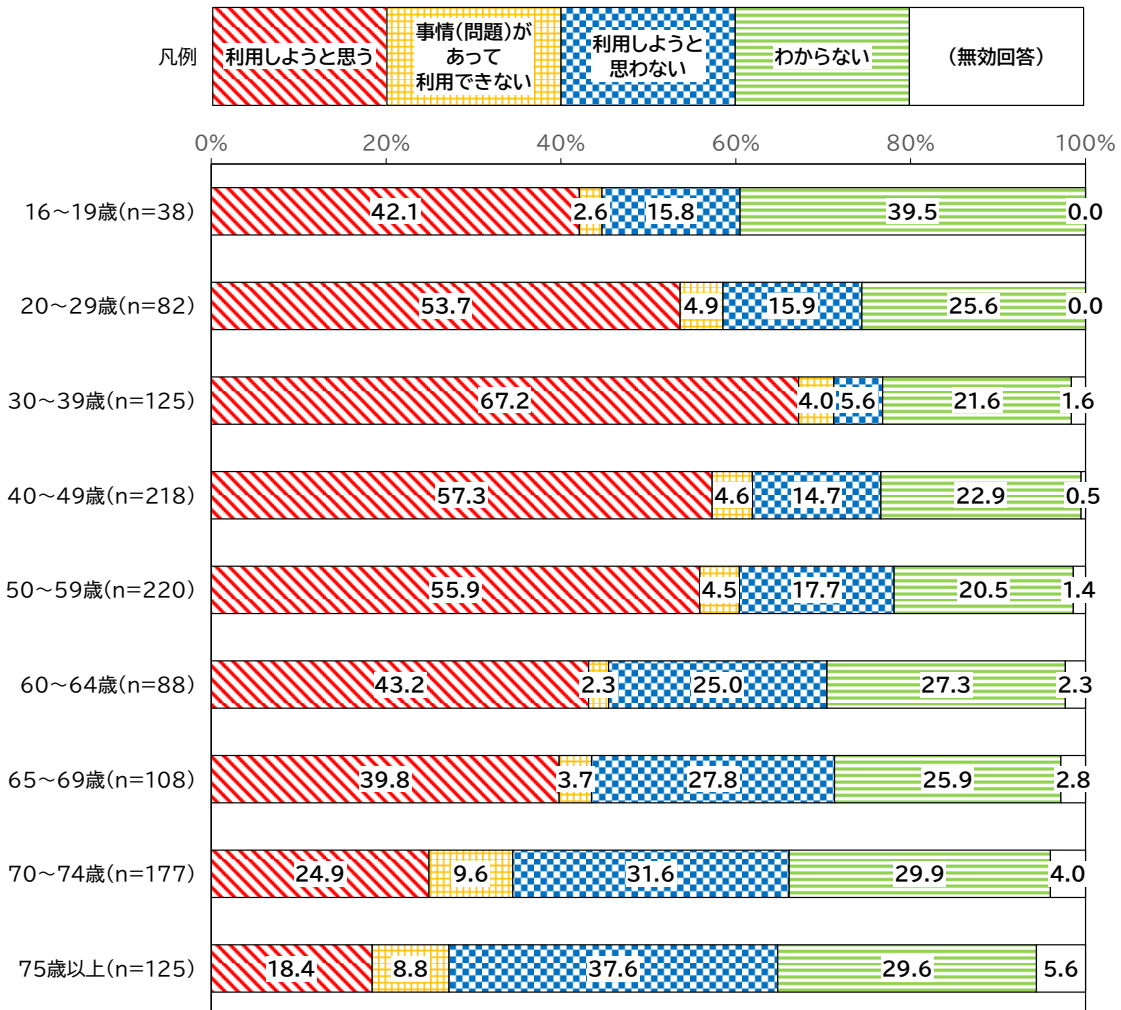
○「利用しようと思う」が45.4%で最も高く、次いで「わからない」の25.3%、「利用しようと思わない」の21.5%の順となっています。

※市内対象店舗で、指定する複数のキャッシュレス決済サービスを利用した場合に、決済額の最大20パーセントのポイントが戻ってくる事業です【事業実施期間：令和4年12月1日～令和5年1月27日】



<年齢層別>

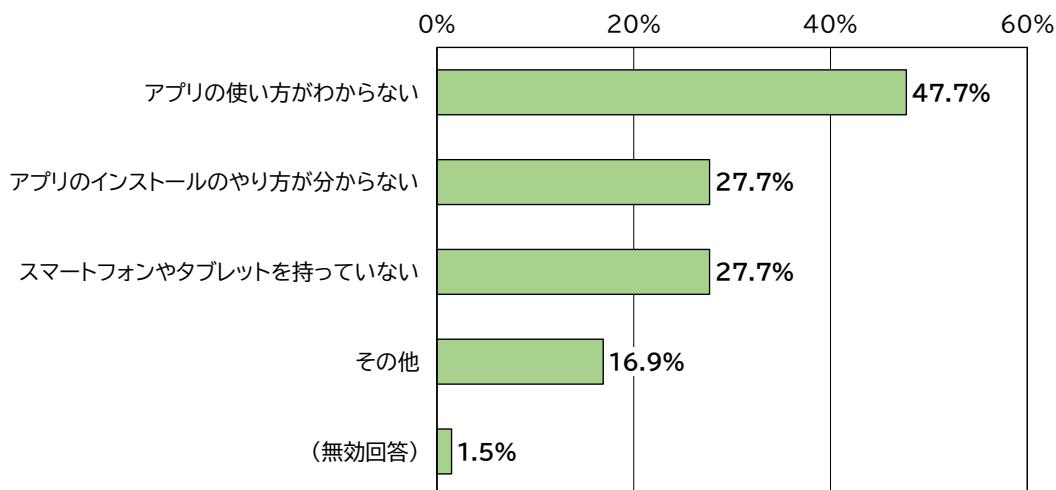
○20～59歳で「利用しようと思う」が半数以上となっている一方、60歳以上で「利用しようと思わない」が20%以上となっており、また年齢層が上がるほど比率が高くなる傾向にあります。



問40-1) 問40で「事情(問題)があって利用できない」と回答した方にうかがいます。問題になっていることは何ですか。

<全体 (n=65) >

○「アプリの使い方がわからない」が47.7%で最も高く、次いで「アプリのインストールのやり方が分からない」及び「スマートフォンやタブレットを持っていない」の27.7%の順となっています。



<年齢層別>

○30歳以上で「アプリの使い方がわからない」、またおおむね60歳以上で「スマートフォンやタブレットを持っていない」が高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	65	1	4	5	10	10	2	4	17	11
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
アプリの使い方がわからない	31	0	0	3	6	5	1	2	10	3
	47.7%	0.0%	0.0%	60.0%	60.0%	50.0%	50.0%	50.0%	58.8%	27.3%
アプリのインストールのやり方が分からない	18	0	1	0	4	4	0	0	3	5
	27.7%	0.0%	25.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	17.6%	45.5%
スマートフォンやタブレットを持っていない	18	0	1	0	0	2	1	2	6	6
	27.7%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	20.0%	50.0%	50.0%	35.3%	54.5%
その他	11	1	2	1	4	2	0	0	0	1
	16.9%	100.0%	50.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
(無効回答)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	1.5%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(上段:実数(人), 下段:構成比)

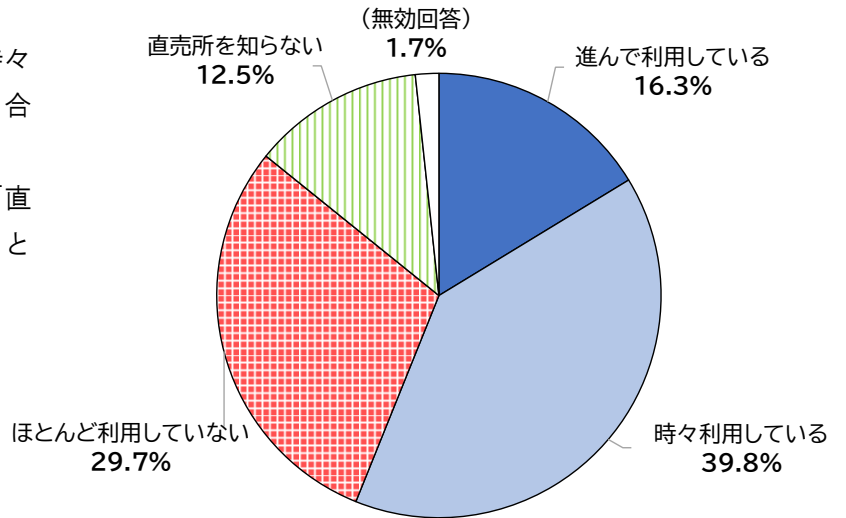
回答割合が最も高い:

回答割合が2番目に高い:

問 41) あなたは、市内農家の農産物直売所（市内スーパーの直売コーナー、農協直売コーナーを含む）を利用していますか。

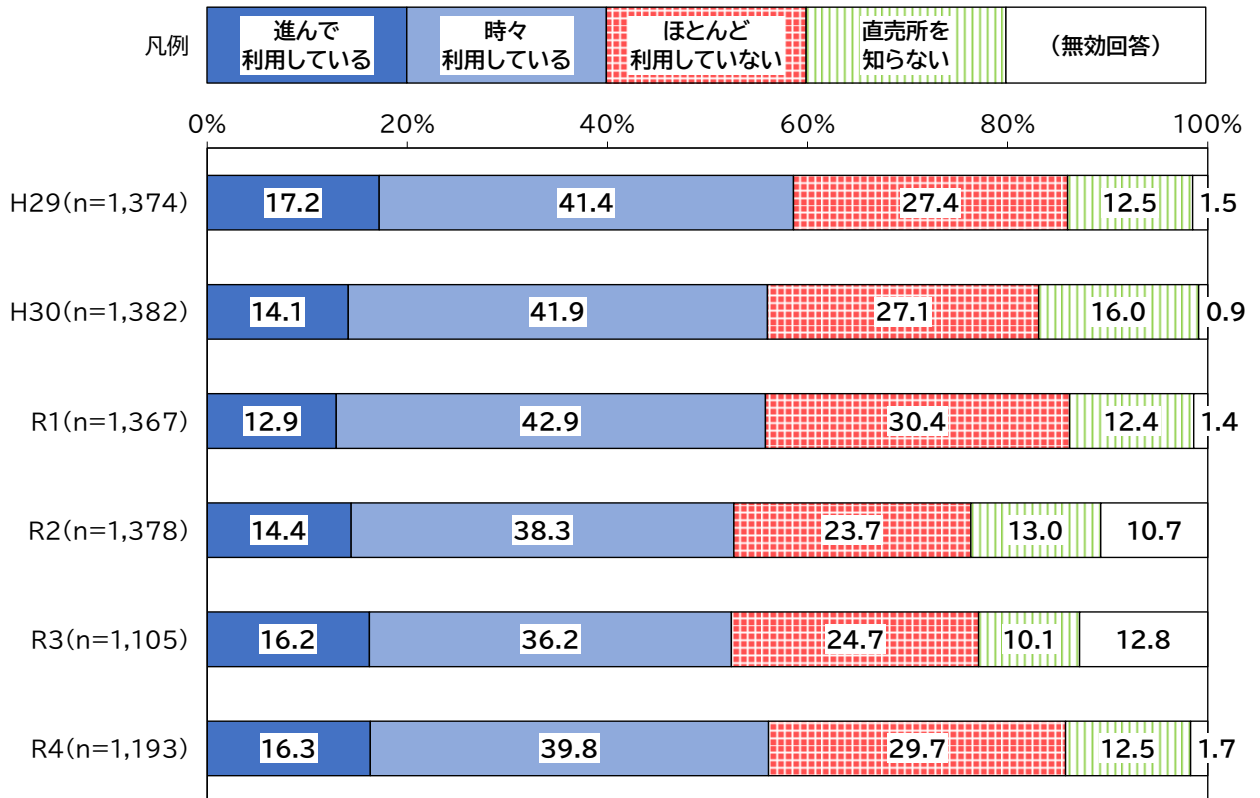
<全体 (n=1,193) >

- 「進んで利用している」は 16.3%、「時々利用している」は 39.8%となっており、合計で 56.1%を占めています。
- 「ほとんど利用していない」が 29.7%、「直売所を知らない」が 12.5%で、合計すると 42.2%となっています。



<経年比較>

- 「進んで利用している」と「時々利用している」の合計は、平成 29 年度以降減少傾向で推移していましたが、令和 4 年度 (56.1%) は、令和 3 年度 (52.4%) に比べて 3.7 ポイント増加しています。

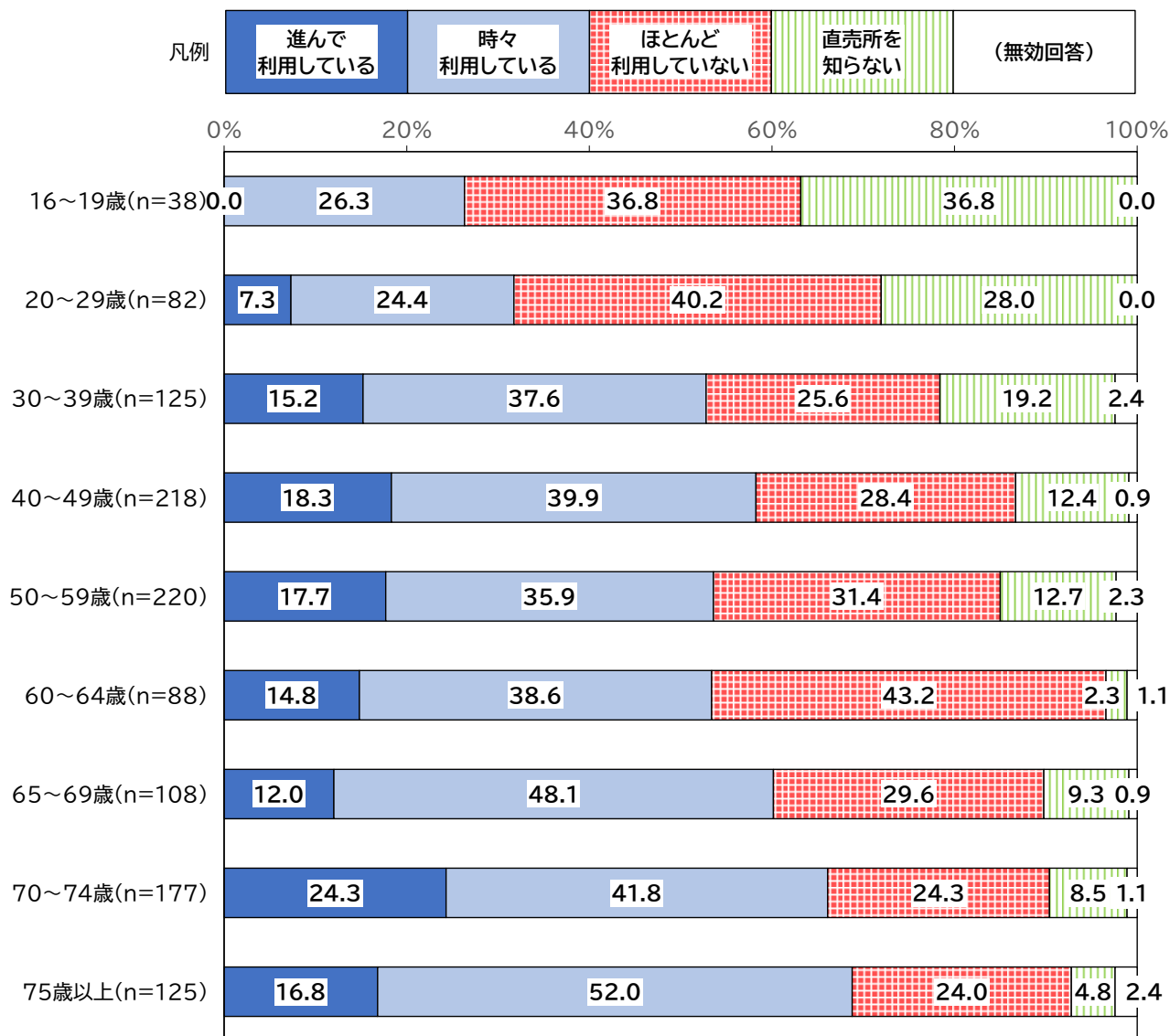


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○おおむね年齢が上がるほど「進んで利用している」と「時々利用している」の合計が高くなっています。

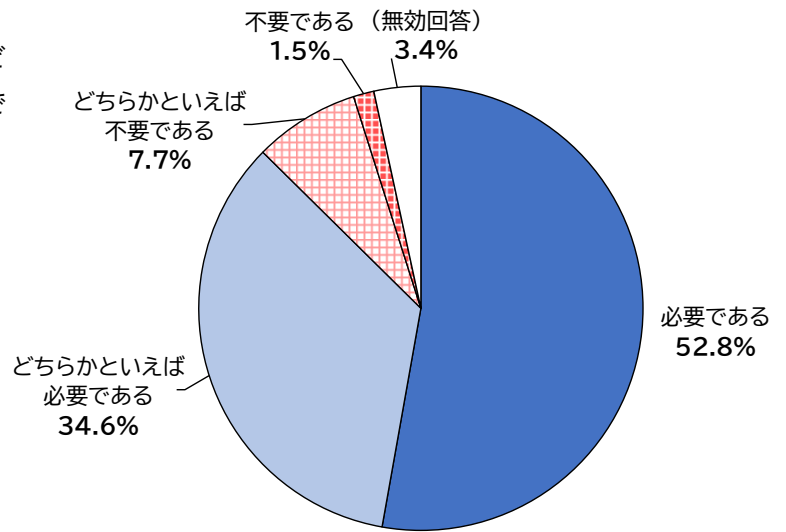
○16～29歳では、「ほとんど利用していない」と「直売所を知らない」の合計が60%を超えています。



問 42) あなたは、市内に農地が必要だと思いますか。

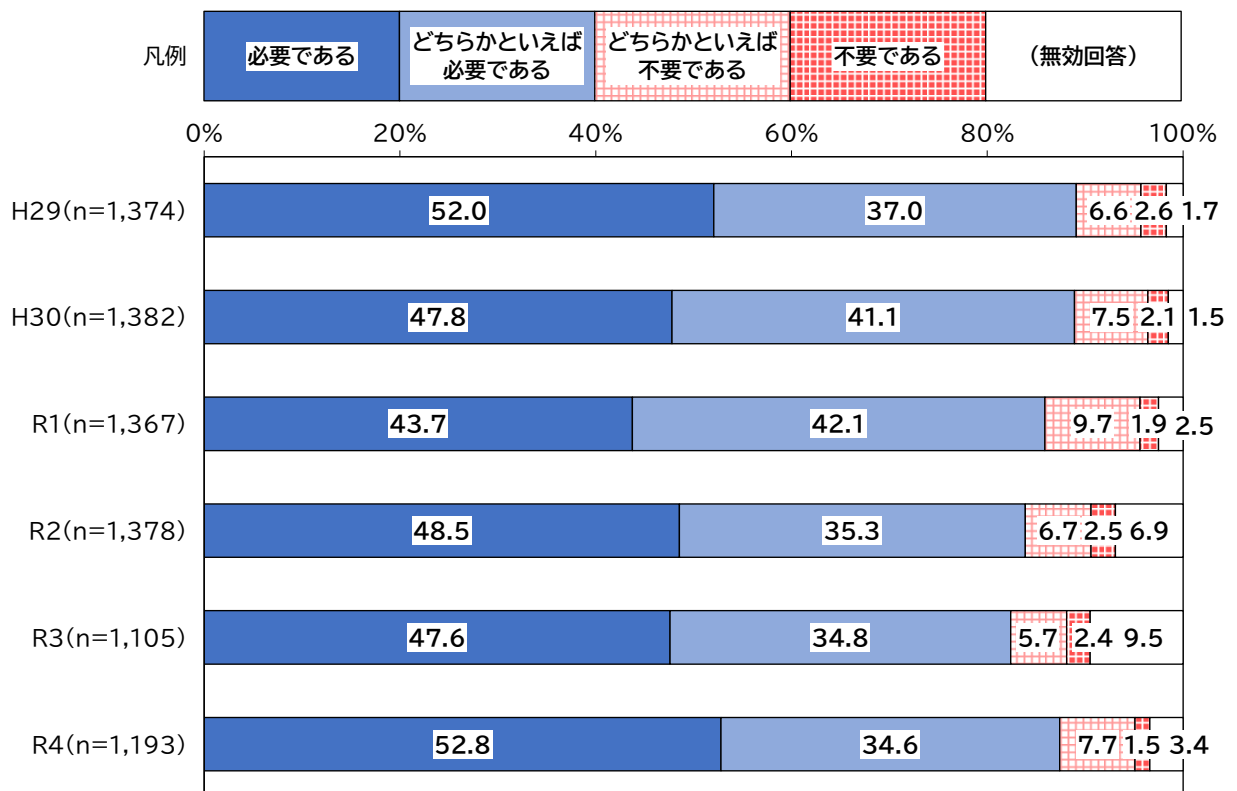
<全体 (n=1,193) >

○市内に農地が「必要である」は 52.8%, 「どちらかといえば必要である」は 34.6% であり、合計で 87.4% を占めています。



<経年比較>

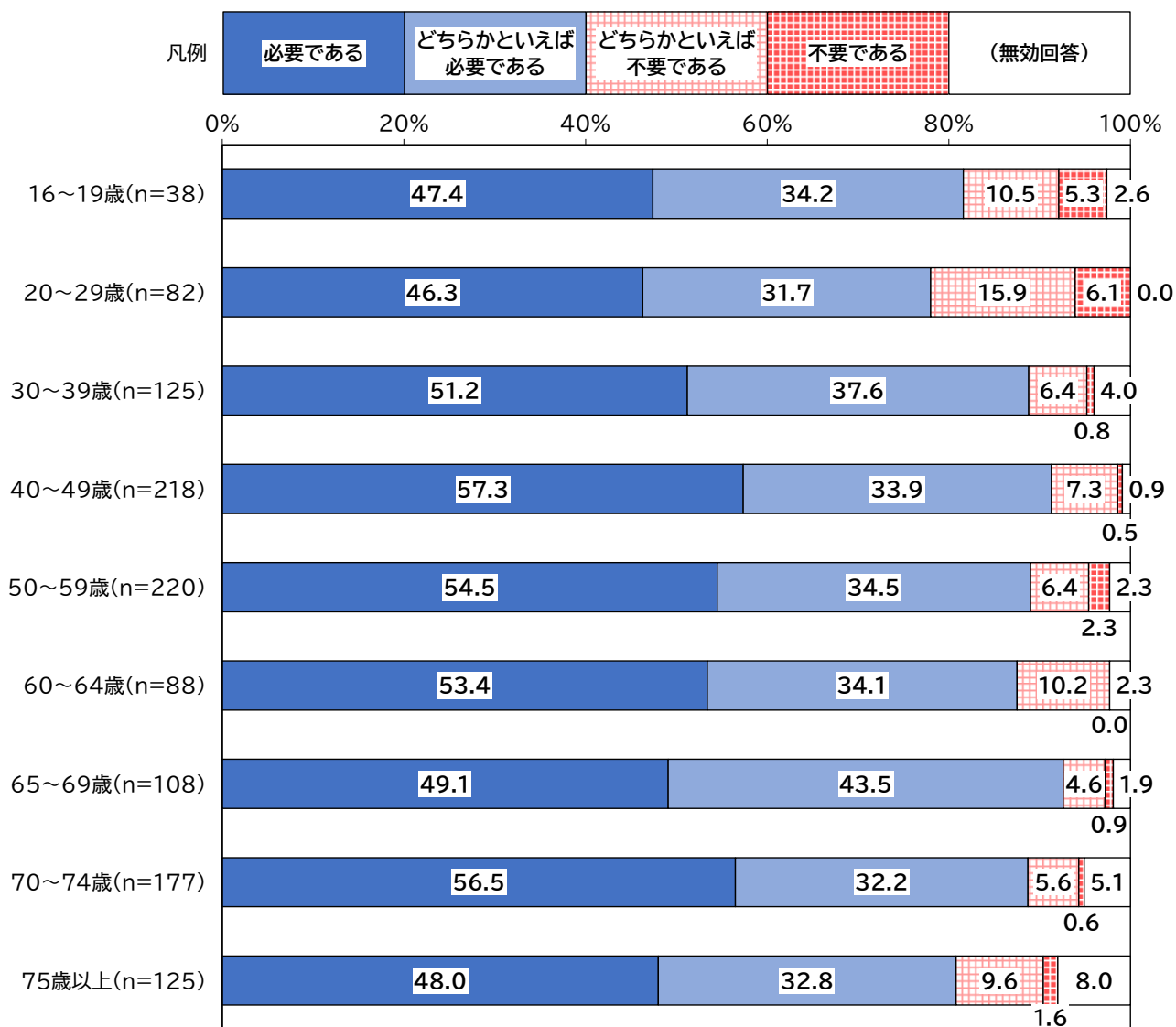
○平成 29 年度以降、「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計は、微減傾向で推移していましたが、令和 4 年度 (87.4%) は、令和 3 年度 (82.4%) に比べて 5.0 ポイント増加しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

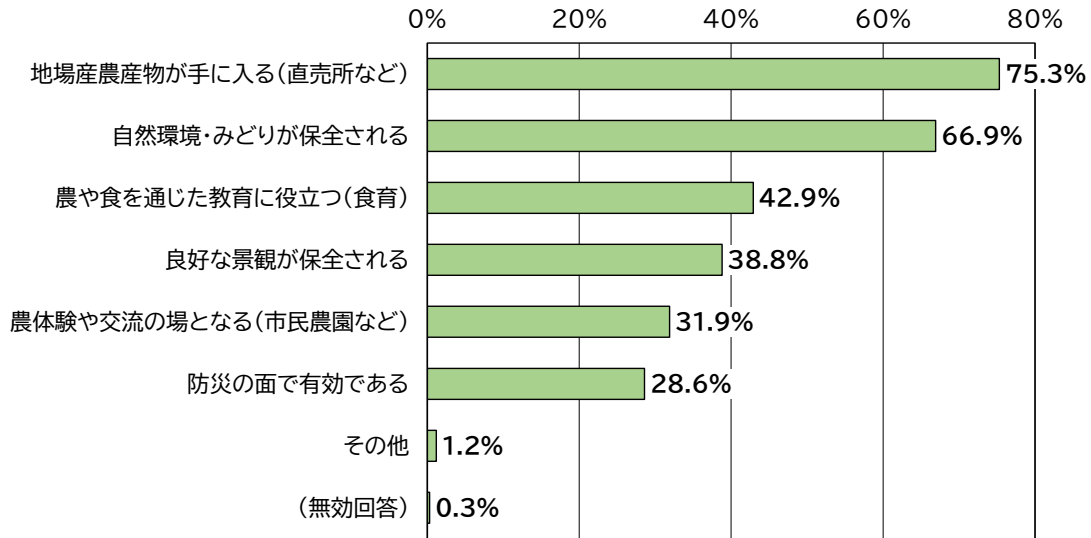
○20～29歳を除く年齢層で、「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計は、80%を超えています。



問 42-1) 問 42 で「必要である」「どちらかといえば必要である」と回答した方にうかがいます。市内に農地が必要だと思う理由は何ですか。

<全体 (n=1,043) >

○「地場産農産物が手に入る(直売所など)」が75.3%で最も高く、次いで「自然環境・みどりが保全される」の66.9%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「地場産農産物が手に入る(直売所など)」、「自然環境・みどりが保全される」が高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,043	31	64	111	199	196	77	100	157	101
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
地場産農産物が手に入る(直売所など)	785	21	45	82	147	142	53	81	128	80
	75.3%	67.7%	70.3%	73.9%	73.9%	72.4%	68.8%	81.0%	81.5%	79.2%
自然環境・みどりが保全される	698	16	37	71	126	138	53	71	111	73
	66.9%	51.6%	57.8%	64.0%	63.3%	70.4%	68.8%	71.0%	70.7%	72.3%
農や食を通じた教育に役立つ(食育)	447	14	32	66	106	85	32	31	50	29
	42.9%	45.2%	50.0%	59.5%	53.3%	43.4%	41.6%	31.0%	31.8%	28.7%
良好な景観が保全される	405	9	28	50	76	75	26	33	62	42
	38.8%	29.0%	43.8%	45.0%	38.2%	38.3%	33.8%	33.0%	39.5%	41.6%
農体験や交流の場となる(市民農園など)	333	12	29	46	78	65	17	26	40	19
	31.9%	38.7%	45.3%	41.4%	39.2%	33.2%	22.1%	26.0%	25.5%	18.8%
防災の面で有効である	298	11	14	24	43	59	27	39	42	37
	28.6%	35.5%	21.9%	21.6%	21.6%	30.1%	35.1%	39.0%	26.8%	36.6%
その他	13	0	1	2	2	2	1	3	0	2
	1.2%	0.0%	1.6%	1.8%	1.0%	1.0%	1.3%	3.0%	0.0%	2.0%
(無効回答)	3	0	0	0	2	0	0	1	0	0
	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 農業に関する施策についてのご意見・ご提案】(49件)

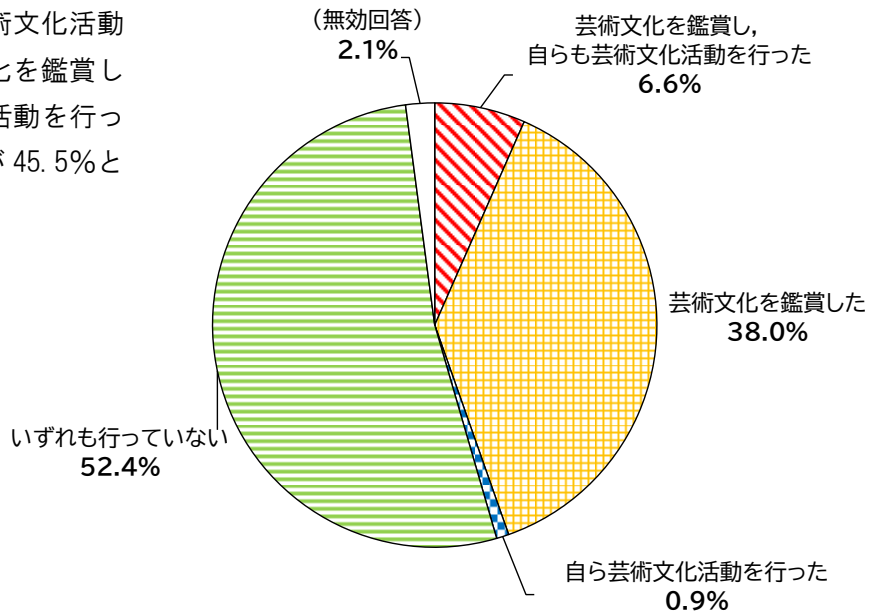
- ・ 有機野菜を扱う農地を増やし、子ども達の健全な成長の助けになる食の安全が必要。
- ・ 農業体験をやりたい若いファミリー世代への貸し出し。
- ・ 民家の間に農地があるとホッとする。規格外の野菜や地野菜等、売れる場所を増やして少しでも現金収入が入る様にできると良いと思う。

【芸術・歴史文化について】

問 43) あなたは、この1年間に、市内・市外を問わず、芸術文化（音楽、演劇、美術、舞踊等伝統芸能、映画など）の鑑賞や、自ら芸術文化活動を行いましたか。

<全体 (n=1,193) >

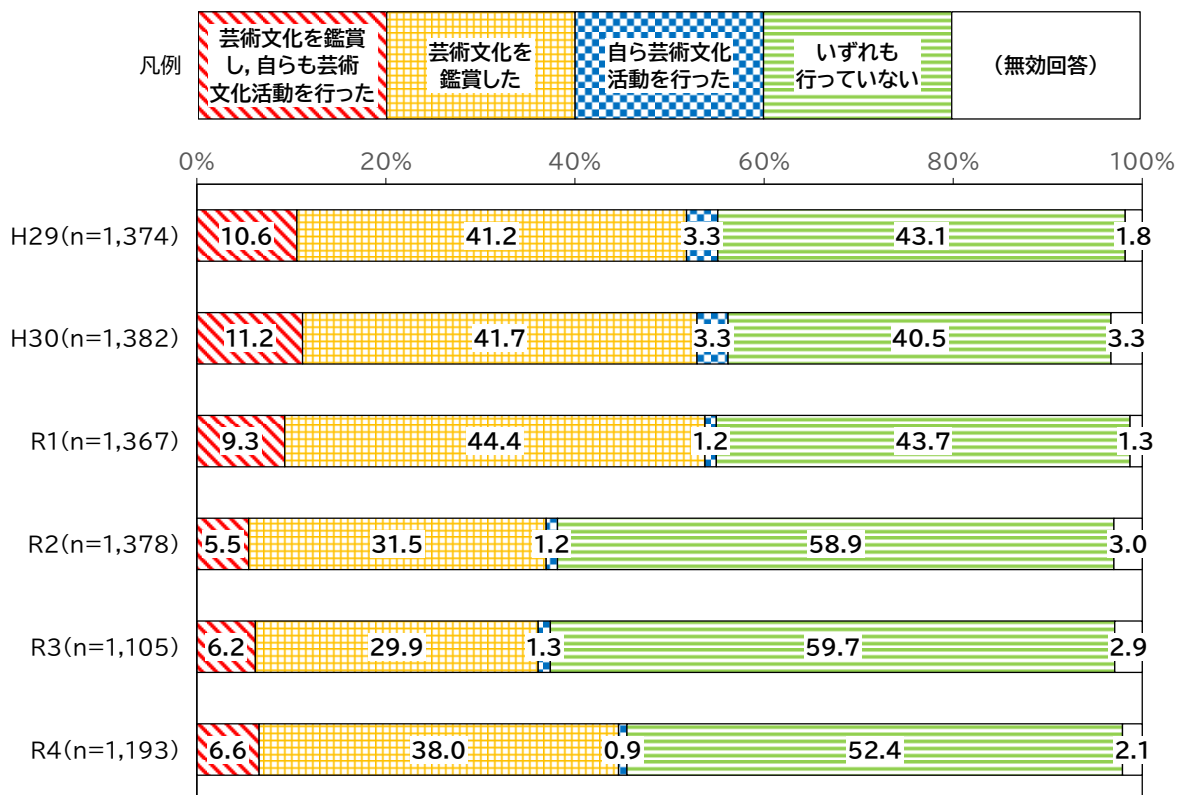
○「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」が 6.6%、「芸術文化を鑑賞した」が 38.0%、「自ら芸術文化活動を行った」が 0.9%で、これらの合計が 45.5%となっています。



<経年比較>

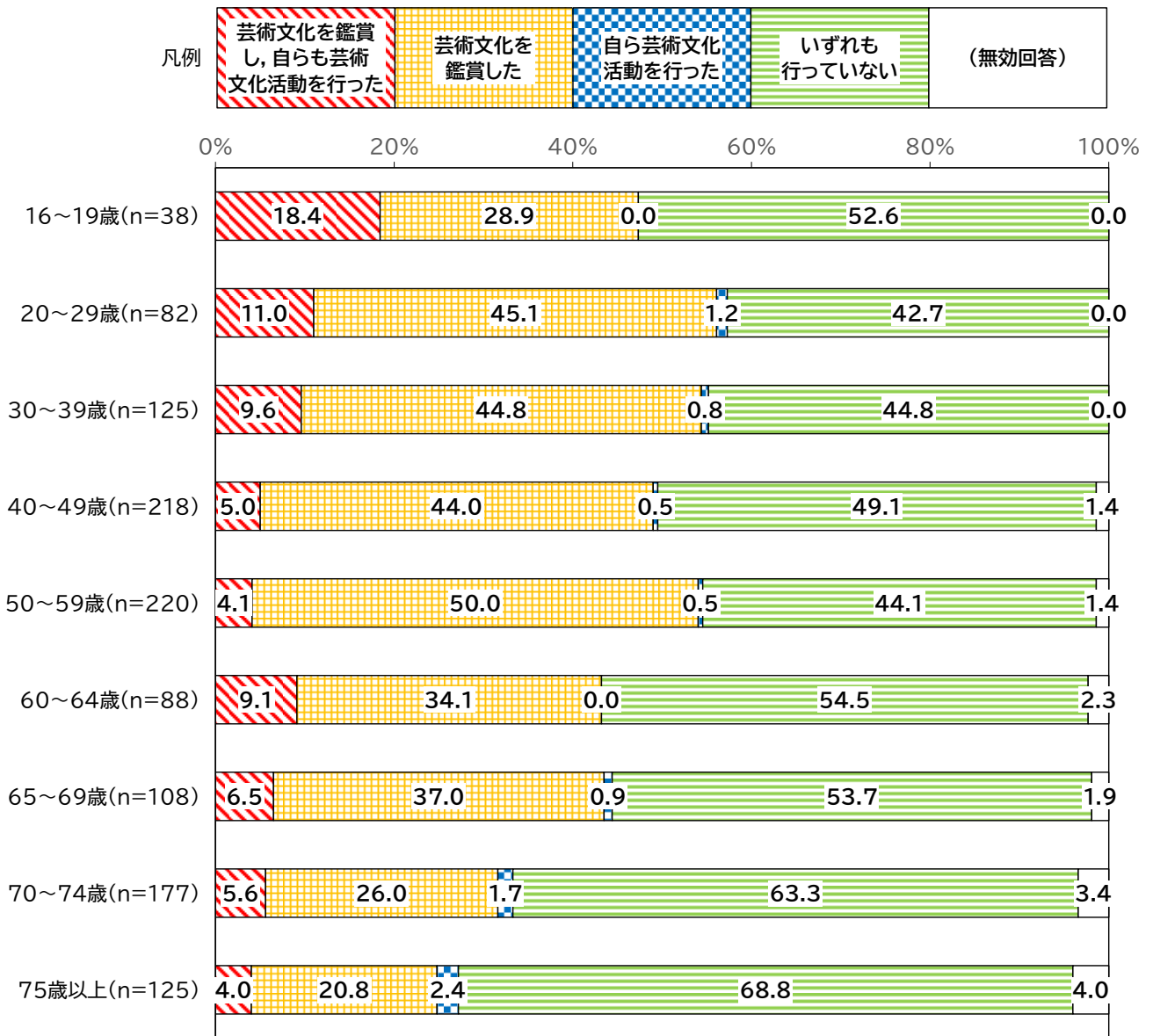
○「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」、「芸術文化を鑑賞した」、「自ら芸術文化活動を行った」の合計は、令和元年度以降減少傾向で推移していましたが、令和4年度（45.5%）は令和3年度（37.4%）から 8.1 ポイント増加しています。

○「いずれも行っていない」は、令和元年度以降おおむね増加傾向にありましたが、令和4年度（52.4%）は令和3年度（59.7%）から 7.3 ポイント減少しています。



<年齢層別>

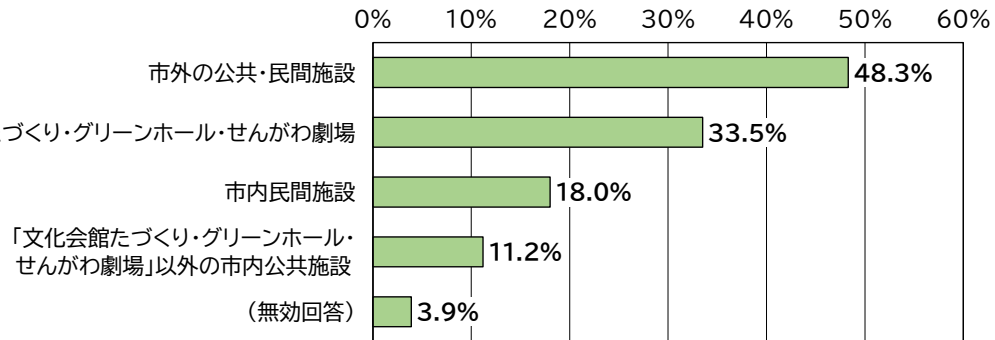
○20～29歳で、「芸術文化を鑑賞した」、「自ら芸術文化活動を行った」、「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」の合計が57.3%で最も高くなっていますが、おおむね年齢が上がるにつれて、低下する傾向にあります。



問 43-1) 問 43 で「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」「芸術文化を鑑賞した」「自ら芸術文化活動を行った」と回答した方にうかがいます。芸術文化を鑑賞した、または芸術文化活動を行った場所はどこですか。

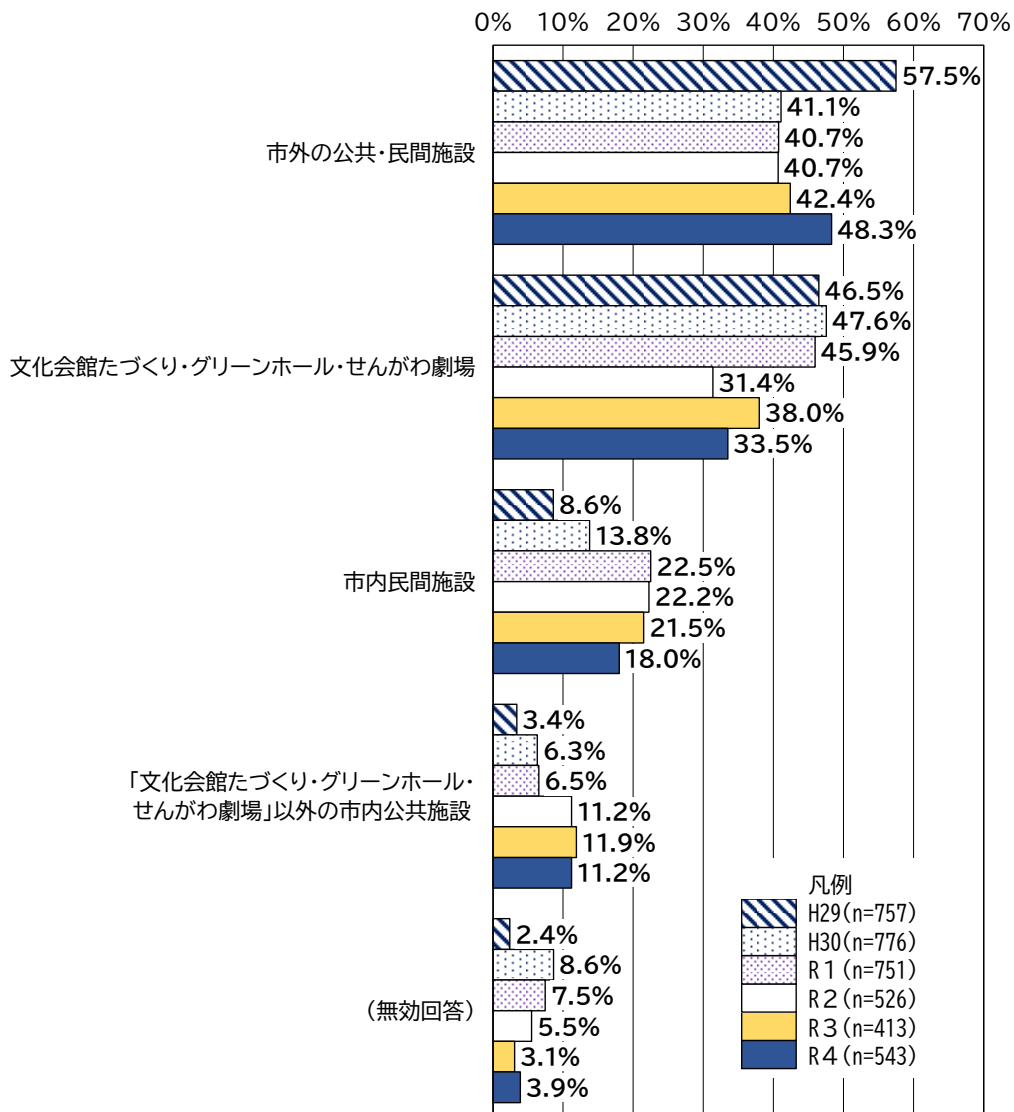
<全体 (n=543) >

○「市外の公共・民間施設」の 48.3% が最も高く、次いで「文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場」の 33.5% の順となっています。



<経年比較>

○文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場は、令和2年度(31.4%)から令和3年度(38.0%)に増加しましたが、令和4年度(33.5%)には4.5ポイント減少しています。一方、市外の公共・民間施設は、令和3年度(42.4%)から令和4年度(48.3%)に5.9ポイント増加しています。



<年齢層別>

○70歳以上では「文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場」が高くなっていますが、16～69歳では「市外の公共・民間施設」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	543	18	47	69	108	120	38	48	59	34
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市外の公共・民間施設	262	9	25	31	50	62	24	27	22	11
	48.3%	50.0%	53.2%	44.9%	46.3%	51.7%	63.2%	56.3%	37.3%	32.4%
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場	182	6	9	23	30	31	8	16	35	22
	33.5%	33.3%	19.1%	33.3%	27.8%	25.8%	21.1%	33.3%	59.3%	64.7%
市内民間施設	98	3	9	9	30	26	8	9	3	1
	18.0%	16.7%	19.1%	13.0%	27.8%	21.7%	21.1%	18.8%	5.1%	2.9%
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場以外の市内公共施設	61	1	5	11	15	16	3	1	5	3
	11.2%	5.6%	10.6%	15.9%	13.9%	13.3%	7.9%	2.1%	8.5%	8.8%
(無効回答)	21	1	3	4	4	4	0	2	1	2
	3.9%	5.6%	6.4%	5.8%	3.7%	3.3%	0.0%	4.2%	1.7%	5.9%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



<自由記述>主な意見を抜粋

【図表 主な市外の施設】(173件)

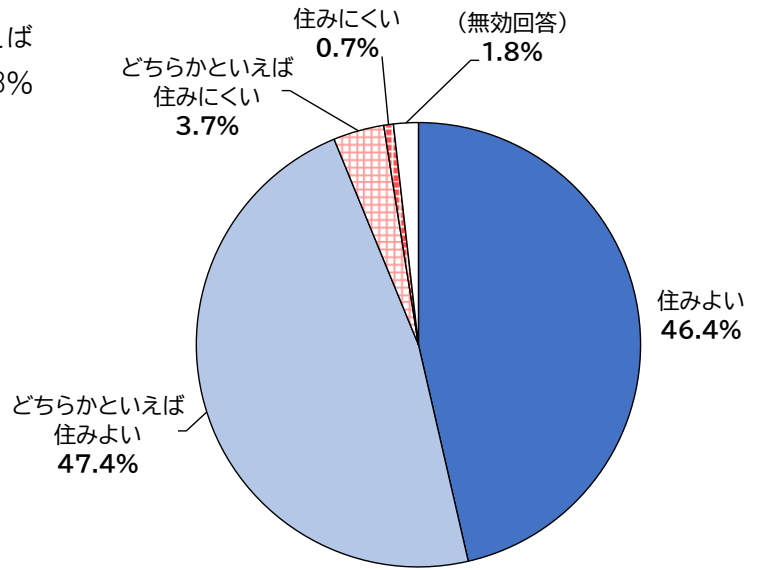
・ Bunkamura オーチャードホール(渋谷区)	・ 帝国劇場(千代田区)
・ サントリーホール(港区)	・ さいたまスーパーアリーナ(さいたま市)
・ 府中の森芸術劇場(府中市)	・ 国立新美術館(港区)

【良好な市街地について】

問 44) あなたは、調布市を住みよいまちだと思えますか。

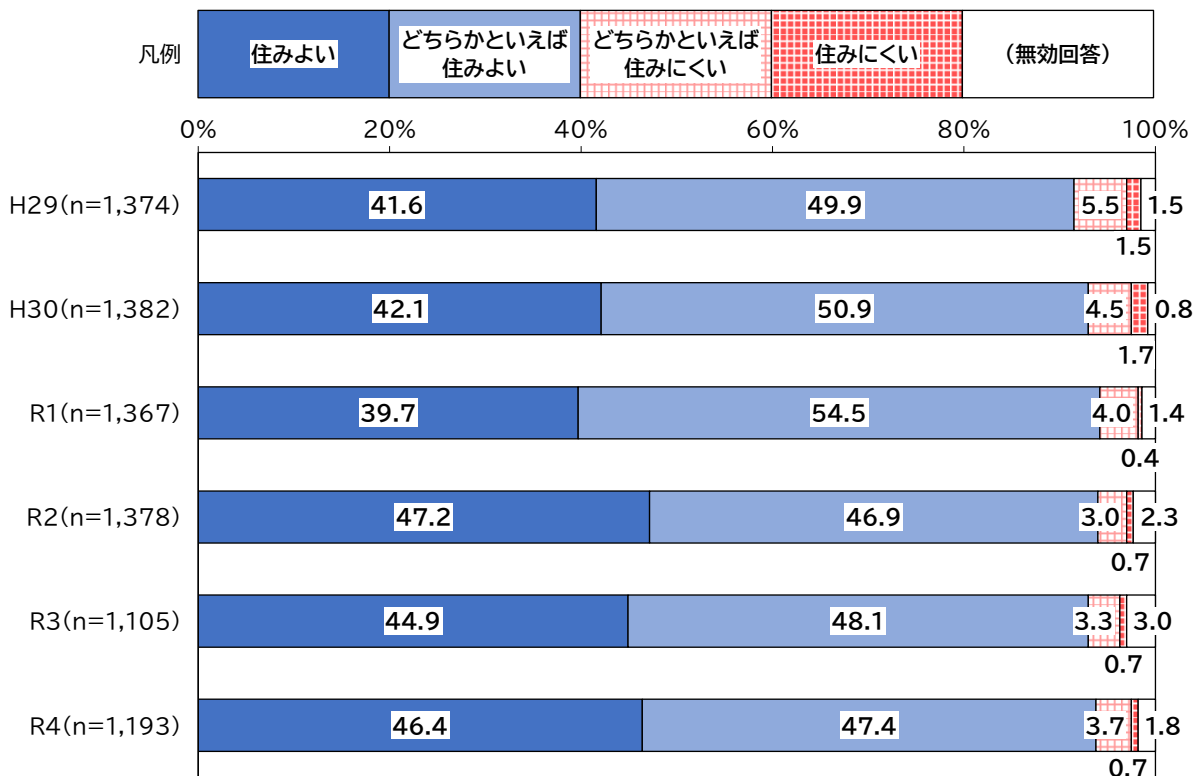
<全体 (n=1,193) >

○「住みよい」は 46.4%、「どちらかといえば住みよい」は 47.4%であり、合計で 93.8%を占めています。



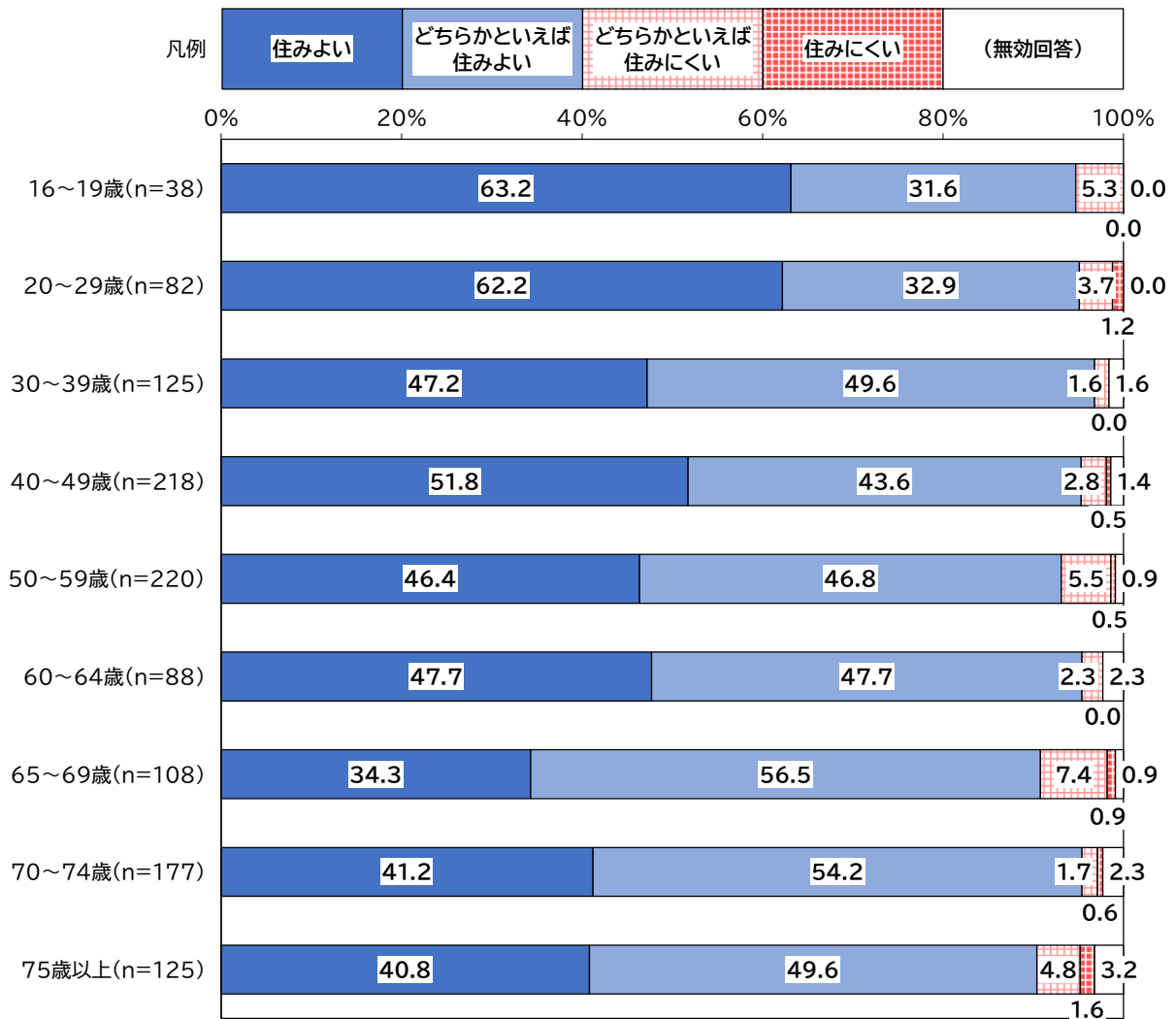
<経年比較>

○「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計は、平成 29 年度以降、いずれも 90%台で推移しています。



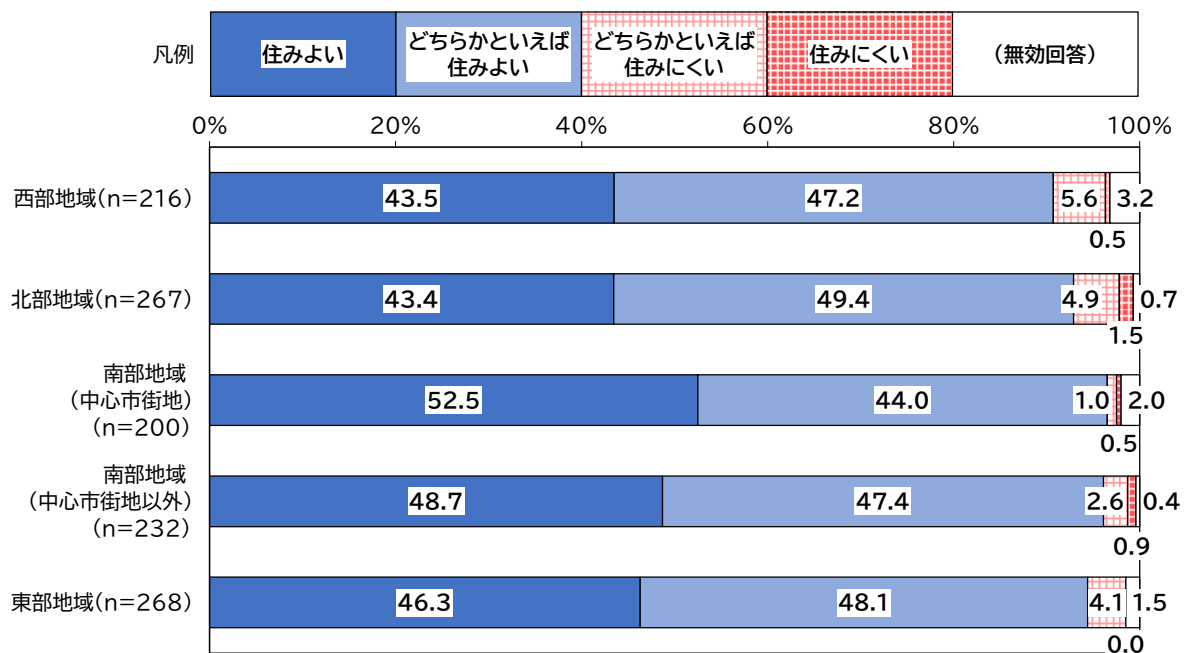
<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計は90%台となっています。



<地域別>

○いずれの地域も、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計が90%以上となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<自由記述>主な意見を抜粋

【図表 住みよい/住みにくいと思う理由】(247件)

「住みよい」「どちらかといえば住みよい」	「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」
<ul style="list-style-type: none">・安心して日常を過ごす事が出来る。・都心へのアクセスが良く、都会すぎず、田舎すぎない。丁度良い。・住んでいる人が温かく、のんびりした空気感があり安心できる所。緑が多く子供を育てる環境に適している。	<ul style="list-style-type: none">・歩道が狭い。暴走自転車が多くてびっくりする。自転車のマナー向上のために講習会等何か対策を考えて下さい。・ベビーカーを扱うファミリー層や、杖や車イスを利用する老人の方が多いのに道が狭過ぎる。自転車に乗る人も多いのに道路も狭い。